

「イスラーム地域研究」第2期 研究実績報告書

(2012 年度)

2013 年 6 月 14 日

早 稲 田 大 学

東 京 大 学

上 智 大 学

京 都 大 学

財団法人東洋文庫

【事業全体の目的】

1. 拠点形成の目的

21 世紀に入ると、アメリカでの同時多発テロ（2001 年 9 月）をかわきりに、米英軍などはアフガニスタンやイラクに侵攻し、いわゆる「テロ国家・テロ組織」の根絶をめざした。これらの事件や戦争の背後には、「イスラームのグローバル化と先鋭化」という事実が存在することも確かである。しかしそれと同時に、私たちは、東南アジアや中東諸国の着実な経済発展とそれに伴う富裕な中間層の形成という、近年の新しい潮流にも目を向けなければならない。21 世紀における世界の動向、各地域・各国の政治・社会変動、石油資源の分配や経済開発、地域紛争の性格などを正しく理解するためには、このような新しい現実をふまえたうえで、イスラームと各地域社会との関係を多様なディシプリン研究を活用して具体的に明らかにすることが不可欠である。第2期研究計画の実行により、第1期（2006-11 年）の研究成果を基礎として、研究テーマや課題を絞り込み、研究を深化・発展させることによって、日本におけるイスラーム研究・教育の特色ある拠点形成をめざす。具体的には、以下の3点を主要な課題として設定する。

1. 現地の研究者、研究機関との国際的な共同研究を実施し、「他者」と「当事者」双方の目を通して「イスラームと地域」の係わりを分析することにより、現代イスラーム世界について実証的な知の体系を築くと同時に、その理解の深化をはかる。
2. 次世代のイスラーム研究を担う若手研究者育成のために、部局の枠を越えた大学院教育の組織構築を検討するとともに、大学間の協力につとめる。各研究拠点の活動が、イスラーム地域研究に関する大学院教育の充実につながるよう配慮するとともに、国内・国外の若手研究者が本イスラーム地域研究へ参加することを積極的に奨励する。
3. 以上の課題を踏まえたうえで、イスラーム地域研究のネットワークを構成する各拠点は、研究・教育環境、現有の研究スタッフ、担当する研究分野、独自予算の充実などを視野にいれながら「特色ある拠点づくり」をさらに推進する。

2. 研究対象

現代のイスラームは、地域を越える共通の問題と同時に、地域の歴史や文化と結びつく地域の個性に関わる問題を抱えている。イスラーム地域研究では、この双方の問題に取り組み、イスラームの知と文明、イスラームの宗教・思想と政治運動、イスラームの社会と文化、イスラーム世界の国際組織、イスラーム地域研究の史資料学などの側面から総合的に研究する。対象となる地域は、中東、北アフリカ、中央アジア、南アジア、東南アジアばかりでなく、必要に応じてアフリカ、ヨーロッパ、中国、さらにはアメリカや日本にも及ぶことになる。

3. 研究方法

対象となる地域の規模は、中東や中央アジアなど従来の地域概念にとらわれることなく、課題に応じて中小の地域を設定し、地域を越える共通の問題と同時に、イスラームと地域の個性との関わり方を追究する。イスラーム地域研究は、宗教学、政治学、経済学、歴史学、社会学、文化人類学などのディシプリン研究を基礎とし、それらの研究成果を総合することをめざす。この総合を実現するために、(1) いくつかの地域をとりあげ、それらを比較する地域間比較の手法と、(2) 現代の問題ではあっても、歴史をさかのぼって解明する歴史的アプローチの手法とを採用する。このような研究手法を活用することによって、国際的な共同研究を実施し、現代イスラーム世界に関する実証的な知の体系を築くことがねらいである。

4. 研究組織・ネットワーク

イスラーム地域研究は、早稲田大学イスラーム地域研究機構を中心拠点とし、東京大学大学院人文社会科学系研究科次世代人文学開発センター、上智大学研究機構、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、財団法人東洋文庫研究部に置かれる 5 拠点を結ぶ「ネットワーク型の研究組織」をつくり、人間文化研究機構との共同研究事業として実施される。各拠点の研究領域・テーマは以下の通りである。

中 心 拠 点：早稲田大学イスラーム地域研究機構・イスラーム地域研究所

〔総括責任者〕：桜井啓子（イスラーム地域研究機構長、早稲田大学国際学術院教授）

〔中心テーマ〕：「イスラームの知と文明」

東京大学拠点：東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門

〔総括責任者〕：大稔哲也（次世代人文学開発センター流動教員、東京大学大学院人文社会系研究科准教授）

〔中心テーマ〕：「イスラームの思想と政治：比較と連関」

上智大学拠点：上智大学研究機構・イスラーム研究センター

〔総括責任者〕：私市正年（イスラーム研究センター長、上智大学外国語学部教授）

〔中心テーマ〕：「イスラーム近代と民衆のネットワーク」

京都大学拠点：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・イスラーム地域研究センター

〔総括責任者〕：小杉 泰（イスラーム地域研究センター長、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

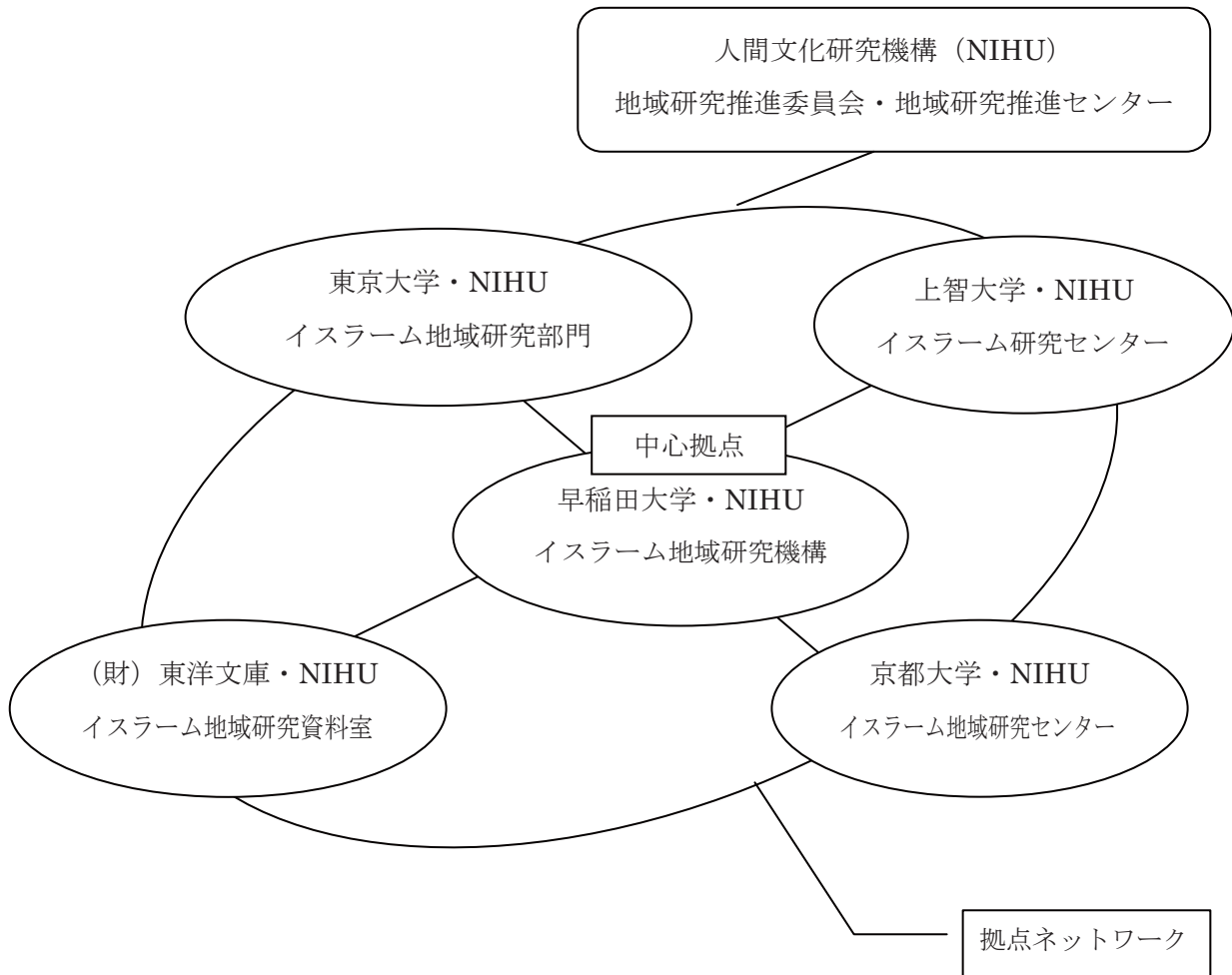
〔中心テーマ〕：「イスラーム世界の国際組織」

東洋文庫拠点：財団法人東洋文庫研究部・イスラーム地域研究資料室

〔総括責任者〕：三浦 徹（イスラーム地域研究資料室長、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授）

〔中心テーマ〕：「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」

【組織図】



【2012 年度事業の目的と活動内容】

1. 地域研究推進センター研究員の派遣

第 2 期イスラーム地域研究推進事業の実施に伴い、人間文化研究機構地域研究推進センターでは、第 1 期に引き続き、本事業の推進に必要な研究者を「地域研究推進センター研究員」として採用し、5 拠点へ各 1 名（早稲田大学拠点のみ 2 名）、計 6 名を派遣している。

事業 2 年次である今年度も、6 名の研究員は、第 1 期に設置した研究拠点の継続的な運営基盤を確立し、また拠点間ネットワークの活動を強化するべく、拠点運営の実務及び共同研究のさらなる推進を担った。（詳細は、各拠点の研究活動の箇所を参照）

また、昨年度に引き続き、3 地域の研究員が一同に会して第 2 回地域研究推進センター研究員研究発表会（幹事：現代インド地域研究京都大学拠点 中溝和弥氏）を、平成 24 年 12 月 1 日（土）～2 日（日）の 2 日間にわたり、京都大学稲盛財団記念館において開催した（プログラム及び発表者等は以下の通り）。発表時間自体は短いものではあったが、各発表後には、専門や地域に関係なく積極的に研究員の間で活発な議論が行われ、大変有意義であった。特に、発表会の最後に行われたディスカッションでは、次年度の研究発表会に係る方針等について検討がなされた他、所属学会を活用し地域を横断する形でのパネルを組む案や、各地域研究推進事業における研究会やシンポジウム等に他の地域の研究員を招いてコメンテーターや発表等を依頼する案など、若い研究者の間で地域をまたぐ連携が動き出そうとしていることは大きな成果であり、今後に期待したい。

○プログラム

日 時：2012 年 12 月 1 日（土）～12 月 2 日（日）

場 所：京都大学稲盛財団記念館 3 階大会議室

出席者：中尾正義、西村淳一、河原弥生、三代川寛子、今松泰、徳原靖浩、鄭成、武上真理子、伊藤亜聖、相原佳之、中溝和弥、石坂晋哉、宇根義己、宮本万里、小西公大、上田知亮（以上、16 名）

欠席者：吉村武典、張望、江藤名保子、福士由紀、和田一哉（以上 5 名）

陪席者：【1 日目】小杉泰（京都大学教授）、石川禎浩（京都大学教授）

【2 日目】金田章裕（機構長）、田辺明生（京都大学教授）

12 月 1 日（土）

13:00 開始

13:00－13:10 中尾センター長挨拶

13:10－13:30 研究員自己紹介

13:30－14:20 相原佳之（「現代中国地域研究」東洋文庫拠点）「清代中国における『山』資源の管理に

関する考察 ―『清嘉慶朝刑科題本社会史料輯刊』の事例」

14:20－15:10 伊藤亜聖（「現代中国地域研究」東京大学拠点）「中国の『世界の工場』時代は終わるのか？―比較優位と産業集積」

15:10－15:20 休憩

15:20－16:10 鄭成（「現代中国地域研究」早稲田大学拠点）「近年の中国学界における中ソ関係研究」

16:10－17:00 小西公大（「現代インド地域研究」東京外国語大学拠点）「〈対話性〉の人類学に向けた試論 ―インド・タール沙漠のトライブ社会における信仰実践の複数性から」

17:00－17:50 宮本万里（「現代インド地域研究」国立民族学博物館拠点）「ブータンの国民国家形成過程と現在 ―「環境にやさしい我々」像をめぐる文化の政治―」

18:00― 懇親会

12月2日（日）

9:30－10:20 石坂晋哉（「現代インド地域研究」京都大学拠点）「インド社会運動論 ―チプコー運動再考」

10:20－11:10 宇根義己（「現代インド地域研究」広島大学拠点）「アジアの産業発展と空間構造」

11:10－11:20 休憩

11:20－12:10 河原弥生（「イスラーム地域研究」東京大学拠点）「18-19世紀中央アジアにおけるイスラームに関する一考察―民間所蔵文書にみるスーフィー一族」

12:10－13:00 全体討論

13:00 終了・解散

また、平成25年3月27日（水）には、機構本部において第4回地域研究推進センター連絡会を開催し、今年度より施行された改正労働契約法に関する機構の対応等の情報提供を行うとともに、研究員から機構への要望等を聴取した。次年度の研究発表会についても、次年度の幹事となった西村淳一氏（イスラーム地域研究早稲田大学拠点）の進行のもとに意見交換を行い、発表者については過去2回の未発表の研究員から選出することとし、開催日程は2日間で、開催場所は東京を第1候補とし、開催予定時期については来年1月頃で後日日程調整を行うこととなった。

拠 点 名 称	氏 名	職 名	派遣期間
早稲田大学 イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所	西村 淳一	地域研究推進センター研究員 早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所研究員	23.4.1 ～26.3.31
早稲田大学 イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所	吉村 武典	地域研究推進センター研究員 早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所研究員	23.4.1 ～26.3.31
東京大学 大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター イスラーム地域研究部門	河原 弥生	地域研究推進センター研究員 東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター イスラーム地域研究部門研究員	23.4.1 ～26.3.31
上智大学研究機構 イスラーム研究センター	三代川寛子	地域研究推進センター研究員 上智大学アジア文化研究所客員研究員	23.4.1 ～26.3.31
京都大学 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 附属イスラーム地域研究センター	今松 泰	地域研究推進センター研究員 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科客員准教授	23.4.1 ～26.3.31
財団法人東洋文庫研究部 イスラーム地域研究資料室	徳原 靖浩	地域研究推進センター研究員 財団法人東洋文庫研究員	23.4.1 ～26.3.31

(中尾正義)

2. 事業全体の活動内容

2-1. 事業全体の研究内容及び研究成果の概要

事業全体としては、イスラーム地域研究の課題である「他者」と「当事者」の双方の目を通して「イスラームとイスラーム文明」に関する実証的な知の体系を築くことを目指してきた。また、研究に際しは、「現代問題への歴史的アプローチ」と「地域間比較の手法」を採用することで、時間軸と地理的な横軸を交差させ、深みのある研究を目指した。

研究成果としては、まず現代的諸問題に関して多くの研究成果を得た。具体的には、パレスチナ問題に関する多様な視点からの考察を実施した。アラブ諸国の民主化については、「穏健イスラーム主義」の倫理と経済発展という独創的なアプローチの適用や「市民社会概念」を用いたイスラーム主義運動の分析、政変が発生しなかったアラブ諸国との比較といった手法が試みられた。経済の分野では、イスラーム金融に関する課題とその解決のための方法に関する検討、教育の分野では、イスラーム系宗教学のグローバル戦略に関する検討などを実施した。また、社会的な問題としては、滞日ムスリムに関する研究、ハラールの認定にかかわる諸問題、ジェンダーなどの視点から研究を実施した。これらの研究を通じて、特定の国や地域の問題であっても、相互比較を通じて、イスラーム地域全体にかかわる共通の現象や課題を発見できることを明らかにするとともに、独自の成果を生み出すための研究手法を工夫の必要性も再認識することができた。

歴史的視点からの研究としては、中央アジアにおけるソ連時代の記憶やソ連解体後の変容、東南アジアのキターブを通じた非中東イスラーム地域における近代の問題に検討が加えられた。

宗教や思想に関する研究としては、「近現代における政治・社会思想の形成と動態」、「広域タリーカ」、「スーフイズム・聖者信仰複合」、「原典研究」、「シャリーアと近代」などのテーマにおいて、研究を実施した。ハサン・バンナーの著作の翻訳が完成に近づくなどの成果を得た。

また、本年度は、海外機関との連携において多くの成果があった。ラホール経営大学、マラヤ大学、バグダード大学、マレーシア国民大学、ブルネイ・ダルUSSアラーム大学などのイスラーム地域の大学、ならびにオックスフォード大学、フランス国立科学研究所、ダラム大学など欧米の大学や研究機関との研究協力、共同ワークショップの開催など、国際的な研究協力体制の構築や研究成果の海外発信の機会が増えた。こうした活動は、若手研究者の育成や日本のイスラーム地域研究の認知度の上昇に大いに貢献している。

史資料の整理と分析においては、「日本における中東研究文献データベース」他、現地語資料の収集とデータベース化に加え、「東南アジア・キターブの収集」や「ウルドゥー語文献の大型コレクション」など、特的地域の文献の充実も図られた。

出版を通じた研究成果の公表としては、原典叢書シリーズより『諸国征服史』第1巻～2巻(岩波書店)、第一期「イスラームを知る」シリーズ(山川出版社)から2冊、ルートリッジ社から New Horizons in Islamic

Studies シリーズの第 3 巻の刊行などを行った。また、各拠点ベースで、資料集、文献目録、国際会議の報告集などを刊行し、多様な形での発信を試みた。詳細については各拠点の報告を参照。

(桜井啓子)

2-2. 事業全体の活動内容

(1) 合同集会

イスラーム地域研究合同集会

日時：2012 年 10 月 20 日(土) 13:30～17:30

場所：東京大学本郷キャンパス浅野地区 武田先端知ビル 5 階ホール

題目：「2011 年政変とアラブ諸国の民主化」

概要：イスラーム地域研究の 2012 年度の合同集会を兼ねて本シンポジウムを開催した。2011 年のいわゆる「アラブの春」によってアラブ諸国の民主化改革がどのように展開しつつあるのか、二人の講演者がそれぞれの専門であるエジプトと GCC 諸国について講演した。一般、研究者合わせて約 160 名が参加し、盛会であった。昨今メディアを賑わしているアラブ諸国の政変について幅広い層の人々に専門的知識を提供することでイスラーム地域研究についても知ってもらおう絶好の機会となった。

(河原弥生)

プログラム

13:00 開場

13:30 開会の辞 桜井啓子（イスラーム地域研究代表／早稲田大学教授）

主催者挨拶 大稔哲也（イスラーム地域研究東京大学拠点代表／東京大学准教授）

問題提起 松本弘（大東文化大学教授）「各国事例の類型化と特質」

13:55 事例報告 I

鈴木恵美（早稲田大学イスラーム地域研究機構主任研究員）「政変後の選挙とイスラーム政党」

コメンテーター 澤江史子（東北大学大学院准教授）

15:00 事例報告 II

石黒大岳（九州大学大学院助教）「王政諸国の政治改革—GCC 諸国の事例—」

コメンテーター 中川恵（羽衣国際大学教授）

16:05 総合ディスカッション

司会 飯塚正人（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）

コメンテーター 坂梨祥（日本エネルギー経済研究所中東研究センター主任研究員）

17:10 閉会の辞 私市正年（イスラーム地域研究上智大学拠点代表／上智大学教授）

(2) 「イスラームを知る」シリーズの刊行

①川島緑『マイノリティと国民国家：フィリピンのムスリム』（イスラームを知る 9）、山川出版社、2012 年

②私市正年『原理主義の終焉か：ポスト・イスラーム主義論』（イスラームを知る 11）、山川出版社、2012 年

(3) 「イスラーム原典叢書」シリーズの刊行

①バラーズリー著、花田宇秋訳『諸国征服史』第 1 巻、岩波書店、2012 年

②バラーズリー著、花田宇秋訳『諸国征服史』第 2 巻、岩波書店、2013 年

(4) 英文論集 New Horizon in Islamic Studies シリーズの刊行

① MORIMOTO, Kazuo ed., *Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: The Living Links to the Prophet*, Routledge, 2012. (シリーズ第 3 冊目)

各拠点別報告

【 本 編 】

早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所

代表：桜井啓子（早稲田大学国際学術院・教授）

中心テーマ 『イスラームの知と文明』

イスラームの規範は、個人のレベルだけでなく、社会のレベルにおいても遵守されなければならない。ムスリムは、こうした教えを実践するために様々な社会活動に従事している。具体的には、イスラーム的な正義や相互扶助精神に基づく社会福祉活動、識字教育・職業訓練・クルアーン読誦などの教育活動、信仰強化のための布教活動、モスク・聖廟・孤児院など公共空間の整備、ムスリム・マイノリティの権利擁護活動などである。そして、これらの活動の多くを支えるワクフ、ザカート、サダカといった制度の背後には、イスラーム固有の理念が存在している。

早稲田大学拠点は第1期（2006-11年）において、二つの研究グループに分かれて研究活動を遂行した。

研究グループ1「イスラームの知と権威：動態的研究」は、イスラームの政治運動や社会生活の実態を理解するために、イスラームに固有な知のありかた、あるいは地域社会における権威やリーダーシップの問題を、歴史と現状に照らして動態的に分析することを課題として研究を進めた。それを通じて、イスラームの理念が社会的にどのように反映されてきたか、あるいは社会的状況が理念の中にどのような影響を与えてきたかを明らかにしてきた。

研究グループ2「アジア・ムスリムのネットワーク」は、ムスリムによる様々な実践活動（マドラサにおける宗教教育活動、イスラーム的 NGO、滞日ムスリムの宗教活動、回族知識人の活動）に関する研究をフィールド・ワークを中心に展開し、社会活動のさまざまな分野に関する新しい知見を獲得した。同時に、イスラームの理念や制度は、現実的な社会的実践と表裏の関係をなしていることが明らかにされてきた。

第2期においては、上記のような研究成果の上に立って、新しく研究課題を設定し直して、ムスリムの社会的実践の諸相をその背後にあるイスラームの理念と関連づけながら明らかにする。これにより現代イスラームの理解を深めていくことを目標とする。

【研究事業名】

①総括班

②研究グループ「イスラームの社会的実践とその理念」

代表：桜井啓子（早稲田大学国際学術院教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

当研究所は、前記の5拠点を結んで行われる共同研究の調整・とりまとめを行うことにより、中心拠点としての役割を果たす。各拠点が特色ある研究の拠点を形成し、これらをネットワークで結ぶことにより、全体としてイスラーム地域研究の重要拠点を形成することがねらいである。

第1期で立ち上げた当研究所の和文・英文のホームページを継続して運用し、5拠点全体の研究計画、研究活動、研究成果、教育カリキュラム、国際交流の企画などについて新情報を提供する。また、現地の大学・研究所と提携することにより、イスラームに関する共同研究の実施、研究・教育に関する情報の収集と発信などを通じて、国際的な共同研究、学術交流における中心拠点を形成する。

早稲田大学における研究では、研究所の研究員を中心に、学内外の研究者の協力を得ながら、「イスラームの知と文明」というテーマに関わる研究を実施する。具体的には「イスラームの社会的実践とその理念」という課題をかかげ、これにより「総合的なイスラーム文明理解」を目的とする研究拠点の構築を目指す。また、これらと並んで、若手研究者育成を目的とする大学院教育の構築を目指す活動を展開する。

【2012 年度事業の目的と活動内容】

①2012 年度事業の目的

総括事業では、5 拠点のネットワークを、WEB、合同集会、研究推進連絡会議を通して拡充することを目指す。和文、英文両出版事業も継続する。また、拠点事業としては、「イスラームの社会的実践とその理念」に関する研究を推進するために、(1) 原典講読を通じた理念研究、(2) 社会的実践に関する調査研究、という二つの研究アプローチを採用する。後者に関しては、ムスリムがマイノリティである社会、ムスリムがマジョリティである社会の双方におけるイスラーム的实践を調査研究の対象とする。

②2012 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

総括事業としては、5 拠点の連携を拡充するために合同集会（東京大学拠点主催）（1 回）、研究推進連絡会議（3 回）を開催するとともに、次年度国際会議の準備に向けたラホール経営大学との交渉に従事。また講演会等への参加の呼び掛けや研究成果の国内外への発信のために、和文・英文による WEB サイトの充実に努めた。その結果、サイトへのアクセスや問い合わせが増加した。また、WEB サイトにおける発信強化のために、アラビア語をはじめとするイスラーム地域の主要言語による多言語化に着手した。

早稲田大学拠点の研究活動としては、(1) 原典講読を通じた理念研究を推進するために、ウマリー原典講読会（11 回）、回儒の著作研究を進めるために研究合宿（2 回）を実施し、訳出・注釈を進めた。(2) イスラームの社会実践に関する調査研究においては、ムスリムがマイノリティである日本社会における事例研究推進のために、「第 5 回全国マスジド（モスク）代表者会議」を開催し、滞日ムスリムが抱える食生活に関する問題を議論し、課題を明らかにした。また、「現代イスラーム経済学」に関する研究会（1 回）を実施し、イスラーム銀行の資金運用におけるイスラームの理念との関わりについて多様な事例を検討した。また、「イスラームとジェンダー」に関する研究会（2 回）を実施し、これまでの研究動向の整理と今後の課題を明らかにした。

イスラーム系宗教大学の国際的展開に関する研究会として「東南アジアにおけるアズハル留学：インドネシアとマレーシアの比較」を開催し、両国とアズハル学院との関係の相違を明確にした。さらに、イスラーム地域研究・若手研究者の会（7 回）を実施し、若手研究者の育成と研究交流を支援した。海外派遣事業として、国際学会への派遣（米国）、海外調査（エジプト、イラン、モロッコ）を実施し、研究成果の海外発信と現地調査を進めた。その他、オックスフォード大学における国際会議 “Center of learning and changes in Muslim societies: Global influence of Al-Azhar, Al-Madinah, and Al-Mustafa”（科学研究費補助金・基盤研究 B「中東・アジアのイスラーム系宗教大学の留学生獲得戦略：知のグローバル化とローカル化」と共催）ならびにマラヤ大学における国際セミナー「Islam and Multiculturalism- Islam, Modern Science, and Technoligy」（日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業と共催）実施し、海外の研究機関との共同研究の推進、成果の社会還元を推進した。

出版事業においては、『イスラーム地域研究ジャーナル』第 5 号、国際セミナー「Islam and Multiculturalism- Islam, Modern Science, and Technoligy」の報告論文集を英語で刊行し、研究成果の公開に努めた。

（桜井啓子）

※活動内容の詳細については、資料編を参照

東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門

代表：大稔哲也（東京大学大学院人文社会系研究科・准教授）

中心テーマ 『イスラームの思想と政治：比較と連関』

中東と中央ユーラシアを主要な研究対象とし、18 世紀以降の近現代における思想と政治の動態にみちた相互関係を比較と連関の視点から実証的に研究することを目的とする。

【研究事業名】

研究グループ「近現代中東・中央ユーラシアの思想と政治」

代表：大稔哲也（東京大学大学院人文社会系研究科准教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

本研究科は、これまでアジア文化研究専攻を中心として西アジア・中央アジア地域の歴史およびイスラームの思想と文化を研究する大学院生を育成し、日本のイスラーム研究を支える多くの若手研究者を送り出してきた。当該分野に関する博士論文も質量ともに確実に向上している。今回の拠点形成は、このような実績をふまえた上で、これまでになかった現代性を意識したイスラーム地域研究を立ち上げることにより、新しい研究領域の開拓をめざすとともに、従来の歴史、思想、文化研究に新たな展望を開くことを目的とする。そのために次世代人文学開発センター内に創設されるイスラーム地域研究部門に研究科の内外から専門研究者を招き、具体的な研究プロジェクトを実践・展開する中で若手研究者の育成をめざしたい。プロジェクト研究の成果を大学院教育に還元することも計画している。また、英語その他の言語による成果の国際的な発信に努めたい。

【2012 年度事業の目的と活動内容】

①2012 年度事業の目的

パレスチナ問題、中東・イスラーム諸国の民主化の研究を第一期より継続する。他方、「近現代における政治・社会思想の形成と動態」に関わるテーマとしては「近現代におけるウイグル人知識人の思想と政治的活動に関する研究」、「カザフスタンにおけるソ連時代の記憶」を主要課題として定め、新たに海外の研究者を迎えて研究ネットワークの強化を図りつつ研究活動を展開する。

②2012 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

第 1 のテーマであるパレスチナ問題研究については、若手研究者による 7 回の定例研究会を開催し、イスラエル・パレスチナ問題に関して、和平プロセスの再考、ナショナリズムの概念の検討、歴史学におけるアイデンティティの扱い、日本人という視点からの貢献など、新しい視点による研究方法の試みがなされた。とりわけ、若手研究者の積極的参加が目立っている。

第 2 の中東・イスラーム諸国の民主化研究に関しては、近年のアラブ革命による各国の政治変動について積極的な検討を行った。トルコ、エジプト、アメリカ合衆国などから専門家を招いて、ワークショップと国際シンポジウムを開催し、「穏健イスラーム主義」の倫理と経済発展と民主化について議論した。イスラーム金融研究と穏健イスラーム主義、アラブの春を結びつけて論じたこのシンポジウムは独創的であり、参加者からも高い評価を得た。さらに、アラブ首長国連邦、イラク、モロッコにおいてアラブ革命の現状に関する現地調査を行った。

第 3 の「近現代における政治・社会思想の形成と動態」の研究のうち、「カザフスタンにおけるソ連時代の記憶」では、2 度にわたるカザフスタン現地調査を行った。今年度は特に旧首都アルマトィ近郊およびカザフスタン東部の農村部でインタビュー調査を実施した。調査によって、カザフスタンにおけるソヴィエト政権の樹立や、集団化時代の一般市民の生活に関して、新情報が得られた。

「ソ連解体後のムスリム社会の変容に関する調査・研究」では、ウズベキスタンにおいてハラール食品の現状について調査を行った。その結果、現在世界各国でハラール表示が強化される傾向にある中、当国ではむしろハラール表示が廃止されつつあるという興味深い事実が明らかになった。

「中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究」に関しては、ウズベキスタンと中国瀋陽の文書館で史料調査が行われたほか、拠点の公募研究として行われたタジキスタン共和国山岳バダフシャーン自治州の現地調査で収集した歴史史料の整理が進められ、その成果として、イスマール派の信仰に関わる貴重な史料の影印版 *Documents from Private Archives in Right-Bank Badakhshan 1849-1944 (Facsimiles)* が刊行されたことを特記したい。

(大稔哲也)

※活動内容の詳細については、資料編を参照

上智大学研究機構 イスラーム研究センター

代表：私市正年（上智大学外国語学部・教授）

中心テーマ 『イスラーム近代と民衆のネットワーク』

近代以降のイスラーム（宗教・思想・文明など）の著しい特徴は、その地域的拡大と社会的深化にある。その原動力は政治的力によるよりも、民衆を主体とした人とモノと情報のネットワークの力による方が大きい。歴史的、地理的な広がりを見つめつつ、民衆のネットワークによって形成されるイスラームの社会・文化・宗教の諸相や運動のダイナミズムを研究する。

【研究事業名】

研究グループ「イスラーム近代と民衆のネットワーク」

代表：私市正年（上智大学外国語学部・教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

当センターは、上智大学研究機構内の常設の研究所であるアジア文化研究所と密接な連携をとりつつ、外国語学部アジア文化研究室、大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻における学部・大学院での教育活動と研究教育活動を軸として、学内外にその活動を展開していくことをめざす。

第1期で立ち上げた当センターは、将来的には上智大学研究機構内の常設のイスラーム研究センターとして改組されることを視野に入れて活動を行う。そのため、学内的には学部、大学院、研究所と連携しつつ、学外および国際的には本学の海外カトリック・ネットワークとも協力しつつ、イスラーム研究の推進と組織化をはかる。

上智大学における研究は、研究センターのスタッフを中心に「イスラーム近代と民衆のネットワーク」というテーマに関わる研究グループを編成する。具体的には、第1期で得られた主要な成果、「政治運動から自立したイスラーム運動の社会的側面」、「民衆的イスラームの拡大と発展」、「東南アジアから、中東、アフリカまでをつなぐイスラーム・ネットワークの実態」の三つを共通研究課題として掲げ、この研究拠点の構築をめざす。

【2012 年度事業の目的と活動内容】

①2012 年度事業の目的

本年度は、「イスラーム近代」「民衆」「ネットワーク」という三つの鍵概念が、歴史と現状のなかで現れる実態の分析をめざす。第一に、2011 年のいわゆる「アラブの春」をへたイスラーム運動がめざす方向、権力および民衆との関わりなどを各国のイスラーム運動組織の分析を通じて明らかにする。第二に、東南アジア・ムスリムと近代に関して、特に教育、出版活動、国際認識、イスラーム運動に焦点を当て、東アジア、南アジアとの比較を視野に入れつつ国際共同研究を実施する。その一環として、東南アジア・キターブ・コレクションを本格的に公開して利用を促進するとともに、キターブ収集と目録改訂作業を継続する。第三に、スーフィズム・聖者信仰複合に関する研究の基礎作業として、研究の国際交流強化を推進し、CNRS の同一分野の研究者との連携による国際ワークショップ開催を今年度より年 1 回として開始する。加えて、これまでの研究蓄積の成果刊行を進める。

②2012 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

昨年度に引き続き、アラブ諸国の政変に関する研究会、シンポジウム、合宿を開催した。市民社会概念を用いて各国のイスラーム主義運動の分析を行うとともに、政変が発生しなかったアラブ諸国の政治・経済状況を比較検討した。モロッコ、レバノン、インドネシアでの海外調査を行い、各国の政治情勢の調査を行った。イスラーム原典叢書シリーズ（岩波書店）の一冊として刊行すべく『ハサン・バンナー論考集』の翻訳作業を行った。加えて、イスラーム運動組織の設立者の著書およびイスラーム政党の綱領の和訳を出版した（SIAS Working Paper Series No. 17, 18）。

また、上智大学拠点では、第 1 期イスラーム地域研究から継続して東南アジア各地のキターブ刊本を収集してきたが、今年度はこれらの収集資料やその他のキターブを用いて、東南アジアのキターブの比較研究を開始した。それにより、研究会での議論を、比較の軸の設定や発展性のあるテーマの発見に結び付けることが急務であるとの見解を得た。インドネシアでキターブ収集を行い、その分類・整理およびカタログ化を行った。インドネシアから研究者を招聘して国際ワークショップを行った。加えて、拠点出版物（SIAS Working Paper Series No.19）では、1930 年代の出版物を通してパキスタン、中国、インドネシアのムスリムが直面した諸問題の比較検討を行い、その同時代性、共時性を明らかにした。

ムスリムが近現代においてどのように伝統との決別と調和を図ったのかという問題について、京都大学拠点との連携により学際的かつ地域横断的な視点から研究した。若手研究者が主体の英語による国際ワークショップを開催し、若手研究者が自らの研究を国際的に発信するための訓練の場を提供した。アジア中東学会連盟(AFMA)で研究発表のため韓国に 1 名派遣した。イランの聖者廟を訪問し、聖者崇拝に関する状況調査を行った。京都大学拠点と連携して、CNRS の研究者を招聘してスーフィズム・聖者信仰に関する国際ワークショップを開催した。

(私市正年)

※活動内容の詳細については、資料編を参照

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

イスラーム地域研究センター

代表：小杉 泰（京都大学イスラーム地域研究センター・センター長、
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）

中心テーマ 『イスラーム世界の国際組織』

中東・南アジアを中心として、イスラーム世界に広がるさまざまな形態の国際組織やグローバル・ネットワークについて、その背景となっているウンマ論やイスラーム連帯論などの研究を進めるとともに、とくに国際関係・情報ネットワーク・広域タリカ・イスラーム経済・イスラーム法に関連する組織やネットワークの理念・実態・動向を研究し、現代イスラーム世界の理解を総合的に深めることをめざす。

【研究事業名】

①研究グループ「イスラーム世界の国際組織とグローバル・ネットワーク」

代表：小杉泰（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）

※研究組織については、資料編を参照

【拠点形成の目的と意義】

当センターは、京都大学、とくに大学院アジア・アフリカ地域研究研究科において、これまで展開されてきた文理融合による総合的地域研究とその研究成果をさらに発展させ、イスラーム地域研究の大学院教育および若手育成を推進する拠点を形成することをねらいとする。

第 1 期において研究科再編を通じて立ち上げたグローバル地域研究専攻、とくにイスラーム世界論講座と連携して、拠点間ネットワークの協力のもとに、大学院教育カリキュラムの開発、専門的教育のための資料収集、若手育成に資する「知のインフラ」整備、大学院レベルでの交流・協力を中心とする国際的ネットワーク作り、大学院での教育・研究に関する情報の収集と発信などを通じて、イスラーム地域研究の大学院教育および若手育成を推進する拠点を形成する。

京都大学における研究は、京都大学のスタッフを中心に「イスラーム世界の国際組織」に関わる研究グループを編成する。具体的には「イスラーム世界の国際組織とグローバル・ネットワーク」という課題をかかげ、国際関係・情報ネットワーク・広域タリカ・イスラーム経済・イスラーム法などをめぐる研究をおこなうと同時に、研究と大学院教育を架橋する拠点の構築を目指す。

【2012 年度事業の目的と活動内容】

①2012 年度事業の目的

「国際関係（国際組織・情報ネットワークを含む）」研究班、「広域タリーカ」研究班、「イスラーム経済とイスラーム法」研究班が、さらなる研究の深化による研究課題の遂行を目指して活動する。同時に研究課題と一体となった大学院教育・若手研究者育成を目指す。具体的には、研究活動、国際ワークショップ、拠点発行物に若手の参加を促していき、また研究活動を大学院教育にフィードバックさせていく。またさらなる国際交流の促進と拠点整備の充実を目指す。

②2012 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

拠点全体の活動は以下の通りである。日本・パキスタン国交樹立 60 周年記念講演会は国際交流促進の一環として、また後述する連携事業を展開していく上でも有益であった。今年度 AFMA のセッションに組み込まれる形で行われた韓国地中海研究所との合同セミナー、バグダード大学を中心とするイラク代表团との国際ワークショップ、今年度から始まったマレーシア国民大学イスラーム経済金融研究センターとの国際ワークショップは若手に発表の場を与えるものとなった。イラク代表团との国際ワークショップではアラビア語による発表もなされた。ブルネイ・ダールッサラム大学スルターン・オマル・サイフッディーン・イスラーム研究センターとの MOU 締結と合同国際セミナーも国際交流を展開するうえで大変意義のあるものとなった。ラホール経営大学の研究者を迎えた講演会は「地域間連携研究の推進事業」の中心テーマ「南アジアとイスラーム」と密接な関係を有するものであり、地域研究と地域間連携研究の成果を互いにフィードバックする貴重な機会となった。また国内ワークショップ（エジプト革命 70 周年）を開催した。今年度は「知の先達たちに聞く」講演会を 3 回開催したが、これは若手研究者にとっても裨益するところが大きかった。昨年同様 3 班合同研究会は、各研究班の問題意識の共有化を図るに有益であった。

以下に、各研究班の活動を述べる。第 1 班はメディア関係、連携事業との共催研究会、パレスチナ関係の 3 回の研究会を行い、それぞれ現状の深い理解が得られた。第 2 班は従来通り、上智大学拠点と連携して、2 回の研究会、1 回の研究合宿、2 回の国際ワークショップおよびフランス国立科学研究所（CNRS）との合同国際セミナーを開催し、各活動において若手に積極的な参加を促した。CNRS との合同国際セミナーは今年度から始まったものであり、国際交流の新たな場を提供した。第 3 班は、研究会を 1 回、国際ワークショップを 3 回（うちマレーシア国民大学イスラーム文明研究所との国際シンポジウム、ダラム大学との国際ワークショップは海外での開催である）、アラブの女性弁護士を迎えた意見交換会を 1 回開催した。イスラーム法関連ではとくに各国の司法の状況が明らかにされ、イスラーム経済関連ではイスラーム金融に関するさまざまな課題とその解決に向けての糸口が明らかにされた。

拠点整備については、ウルドゥー語文献の大型コレクションであるアキールコレクションの購入により、南アジア関連の書籍が充実し、上述した連携事業にも資することになった。

（小杉泰）

※活動内容の詳細については、資料編を参照

財団法人東洋文庫研究部・イスラーム地域研究資料室

代表：三浦 徹（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室・室長、
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・教授）

中心テーマ 『イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓』

イスラーム地域研究の基盤となる、史資料の体系的な収集と整理、研究を組織的に行うための書誌・研究文献情報の編纂と普及、史資料学の開拓の 3 つの事業を進め、史資料の利用にかかわる環境を整備し、研究機関や研究者とのネットワークを構築し、史資料学の拠点をつくる。

【研究事業名】

研究グループ「イスラーム地域研究史資料ネットワークの構築」

代表：三浦 徹（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室・室長）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

当拠点は、イスラーム地域研究の基盤となる書誌情報・文献情報の体系化（史資料学の開拓）と史資料の体系的収集・利用のための環境を構築し、史資料の組織的な利用にむけ、5 つの拠点をはじめ国内外の研究機関のネットワークを構築することを目的とする。

拠点構成員を中心に、史資料に関わる諸機関と連携し、「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」というテーマに関わる事業を推進する。研究課題を「イスラーム地域研究史資料ネットワークの構築」とし、イスラーム地域研究の史資料ネットワークを構築し、その拠点としての役割を果たす。

【2012 年度事業の目的と活動内容】

①2012 年度事業の目的

現地語史資料の所蔵・整理・利用環境に関するアンケート調査の結果を踏まえ、現地語史資料の体系的収集を継続し、共同利用を促進する。調査やアラビア文字資料司書連絡会等で得た情報や要望に基づき、現地語史料の整理・書誌データ作成のための補助ツールや資料の作成と公開、「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」の編集をはじめとする関連データベースの拡充を進める。また、史料研究について、原典講読会および国内研究機関との連携による研究活動を実施し、研究情報の共有と若手研究者の育成をはかる。これらによって、史料および研究文献の収集と整理（情報化）と利用の 3 つの局面を連結したサイクルを築き、国際的な共同利用にむけた環境改善をはかる。

②2012 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

現地及び海外のイスラーム地域研究の動向と、東洋文庫等の国内機関の所蔵状況を踏まえ、現地語史資料の継続的・体系的な収集と整理を行った。「日本における中東研究文献データベース 1868～」は、2013 年 3 月現在で 45,700 件の書誌データを収録し、月平均 1000 人（閲覧数は 3000 回）の利用をえている。学生の情報検索スキルを高め、現地語史料の利用を促進するため、「卒論を書くための情報検索リテラシーセミナー」（第 2 回）を 8 月に開催した。募集開始直後に参加者が定員に達し、セミナーの需要と認知度の高まりが確認され、参加者の評価も良好であった。3 月には「アラビア文字資料司書連絡会」（第 7 回）を開催し、現地語資料の収集と整理に関わる最新のトピック（NII の目録規則の切換えなど）について、主要大学図書館、国立情報学研究所など関係機関の担当者らと情報共有・意見交換を行った。

史資料の研究活動や、研究で得られた知見を広く還元する各種セミナーを継続しており、様々な層の参加者が集まることで、従来の大学内のゼミでは見られなかったような相互作用が顕著になってきた。「シャリーアと近代」研究会は、オスマン民法典アラビア語版の講読・翻訳のための研究会を計 9 回行い、歴史や法学の研究者に加え、弁護士・実務者など幅広いメンバーの精力的な参加によって、全体の約 1/3 にあたる「賃約の書」537 条までの訳稿を作成した。刊行ずみの序篇（1-100 条）につづき、「売買の書」（101-403 条）のウェブ公開と、語彙集の作成を進め、イスラーム法と近代制定法とを架橋する役割が明らかになりつつある。「オスマン帝国史料の総合的研究」研究会は、オスマン帝国史の多様な史料を類型ごとに解説するウェブ資料「オスマン帝国史料解題」を更新増補したほか、オスマン帝国における教育・知識社会史に関わる研究会を 4 回行った。他機関との連携プロジェクトである中央アジア法制度研究会、中央アジア古文書研究セミナー、オスマン文書セミナーは、専門的な史資料を扱うセミナーでありながら、毎年恒例のものとして多くの分野や若手の参加者を得ており、現地語史資料に基づいた地域研究の裾野は着実に広がっている。フランス CNRS のワクフ国際共同研究事業に参画し、国際連携を強化した。

（三浦徹）

※活動内容の詳細については、資料編を参照

各拠点別報告

【 資 料 編 】

早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所

代表：桜井啓子（早稲田大学国際学術院・教授）

中心テーマ 『イスラームの知と文明』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
桜井 啓子	イスラーム地域研究所長、国際学術院教授	研究拠点代表 (比較社会学、地域研究)
西村 淳一	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院准教授	研究グループ研究分担者 (イラン史)
吉村 武典	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構次席研究員	研究グループ研究分担者 (マムルーク朝史)
店田 廣文	イスラーム地域研究所研究員、人間科学学術院教授	研究グループ研究分担者 (社会学、滞日ムスリム)
佐藤健太郎	イスラーム地域研究機構招聘研究員、北海道大学文学部准教授	研究グループ研究分担者 (マグリブ・アンダルス史)
深見奈緒子	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院教授	研究グループ研究協力者 (イスラーム建築)
鈴木 恵美	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院准教授	研究グループ研究協力者 (近現代エジプト)
野田 仁	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院講師	研究グループ研究協力者 (中央アジア、カザフスタン史)
貫井 万里	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究助手	研究グループ研究協力者 (近代イラン経済)
砂井 紫里	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究助手	研究グループ研究協力者 (中国の回族社会)

佐藤 尚平	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域 研究機構研究助手	研究グループ研究協力者 (国際関係、湾岸近現代政治)
小島 宏	イスラーム地域研究所研究員、社会科学総合学 術院教授	研究グループ研究協力者 (人口政策論)
新保 敦子	イスラーム地域研究所研究員、教育・総合科学 学術院教授	研究グループ研究協力者 (中国教育史、中国ムスリム研究)
小松 香織	イスラーム地域研究所研究員、教育・総合科学 学術院教授	研究グループ研究協力者 (オスマン朝史)
中町 信孝	イスラーム地域研究機構招聘研究員、甲南大学 文学部准教授	研究グループ研究協力者 (マムルーク朝史)
日下部達哉	イスラーム地域研究機構招聘研究員、広島大学 教育開発国際協力研究センター准教授	研究グループ研究協力者 (比較教育学)
錦田 愛子	イスラーム地域研究機構招聘研究員、東京外国 語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教	研究グループ研究協力者 (パレスチナ研究)
アブドゥル・ カリーム・ ラーフェク	イスラーム地域研究機構招聘研究員、ウィリア ム&メアリ大学教授	研究グループ研究協力者 (オスマン朝期シリア)
アフマド・ハサ ン・サイード	イスラーム地域研究機構招聘研究員、ベングリ オン大学講師	研究グループ研究協力者 (比較政治)
ムハンマド・ア フィーフィー	イスラーム地域研究機構招聘研究員 カイロ大学文学部歴史学科教授	研究グループ協力者 (オスマン朝期エジプト史)

研究グループ：「イスラームの社会的実践とその理念」

(研究グループメンバー)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
桜井 啓子	イスラーム地域研究所長、国際学術院教授	研究グループ代表 (比較社会学、地域研究)
店田 廣文	イスラーム地域研究所研究員、人間科学学術院教授	研究分担者 (社会学、アジア社会論)
佐藤健太郎	イスラーム地域研究機構招聘研究員、北海道大学大学院文学研究科准教授	研究分担者 (マグリブ・アンダルス史)
オマール・ファルーク	イスラーム地域研究機構招聘研究員、アル＝ブハーリー国際大学副学長、教授	研究分担者 (比較政治学)
ゴルナー・メフラン	アルザフラー大学教育心理学部准教授	研究分担者 (教育心理学)
西村 淳一	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院准教授	研究分担者 (イラン史)
吉村 武典	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構次席研究員	研究分担者 (マムルーク朝史)

(研究グループ海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
ステファン・ハンフリーズ	カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授 (アメリカ合衆国)	イスラーム史
ファリパー・アーデルハーン	国際関係調査研究センター (CERI) 上級研究員 (フランス)	人類学

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
青木 隆	日本大学文理学部教授	中国哲学
阿久津正幸	東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学 開発センター・イスラーム地域研究部門特任研 究員、東洋大学国際地域学部非常勤講師 (東京大学拠点研究協力者)	イスラームの歴史における教育と 社会
大足 恭平	青山学院大学情報科学研究センター助手 (東京大学拠点研究協力者)	イラン近現代史
岡井 宏文	早稲田大学多民族多世代社会研究所客員研究員	日本のイスラーム
五十嵐大介	イスラーム地域研究東京大学拠点特任研究員	中世アラブ史
石川 基樹	早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程	高齢社会論・社会調査論
上山 一	筑波大学北アフリカ研究センター・研究員	イスラーム金融・経済
北爪 秀紀	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了	日本のモスク研究
木村 伸子	早稲田大学大学院文学研究科博士課程	マムルーク朝研究
日下部達哉	イスラーム地域研究所招聘研究員、広島大学教 育開発国際協力研究センター准教授	比較教育学
栗田 禎子	千葉大学文学部教授	アラブ近現代史
黒岩 高	武蔵大学人文学部教授	中国ムスリム社会史
高野 太輔	大東文化大学国際関係学部准教授	初期イスラーム史
小島 宏	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学社会 科学総合学術院教授	人口政策論

後藤 絵美	日本学術振興会特別研究員 PD（東京大学東洋文化研究所）	地域研究、イスラーム文化研究
小林 春夫	東京学芸大学人文社会系教授	イスラーム思想史
小松 香織	イスラーム地域研究所研究員、教育・総合科学学術院教授	オスマン朝史
近藤 真美	龍谷大学文学部准教授	中世シリア史
砂井 紫里	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学イスラーム地域研究機構助手	文化人類学、食文化研究
佐藤 尚平	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究助手	国際関係、湾岸近現代政治
佐藤 実	大妻女子大学比較文化学部助教	中国イスラーム思想
新保 敦子	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授	中国教育史、中国ムスリム研究
杉山 隆一	早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員、慶應義塾大学言語文化研究所特殊講座講師	サファヴィー朝史
鈴木 恵美	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学イスラーム地域研究機構研究院准教授 (東京大学拠点研究協力者)	現代エジプト政治
田島 大輔	立命館大学文学研究科人文学専攻博士後期課程	中国ムスリム近代史
谷口 淳一	京都女子大学文学部教授	中世シリア史
千代崎未央	千葉大学大学院文学研究科博士課程	中東近現代史
太田（塚田） 絵里奈	慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程	中世アラブ社会史
中西 竜也	日本学術振興会特別研究員 PD（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科） (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	中国のイスラーム

中町 信孝	イスラーム地域研究所招聘研究員、甲南大学文学部准教授	マムルーク朝史
中村 妙子	早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員	中世シリア史
貫井 万里	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究助手 (上智大学拠点研究協力者)	近代イラン経済
子島 進	東洋大学国際地域学部准教授	文化人類学、南アジア地域研究
野田 仁	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院講師 (東京大学拠点研究協力者)	中央アジア、カザフスタン史
橋爪 烈	千葉科学大学薬学部専任講師	アッバース朝研究
原山 隆広	財団法人東洋文庫研究部 研究員	アッバース朝研究
平野 淳一	日本学術振興会特別研究員 PD (千葉大学大学院社会文化研究科) (京都大学拠点研究協力者)	近代イスラーム政治思想、中東地域研究
深見奈緒子	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院教授	イスラーム建築
福島 康博	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所特任研究員	イスラーム金融論、マレーシアの社会経済
細田 和江	中央大学政策文化総合研究所準研究員	中東地域研究、イスラエル文学
堀井 聡江	桜美林大学リベラルアーツ学群専任講師 (東洋文庫拠点研究協力者)	イスラーム法、エジプト民法
森山 央朗	日本国際問題研究所研究員 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	初期イスラーム史、10～12 世紀マシュリク地域におけるハディース学者の社会的・文化的活動

矢島 洋一	京都外国語大学非常勤講師 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	スーフィズム史
湯川 武	早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員	ムスリム知識人問題
横内 吾郎	京都大学文学部非常勤講師	ウマイヤ朝史

【2012 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

昨年度に引き続き、2012 年度も NIHU 研究派遣員や早稲田大学の経費による雇用を含むイスラーム地域研究機構専任の研究員を中心に、拠点として充実したメンバーで活動を行った。早稲田大学内に個人研究室、共同研究室、資料室、機構長室、事務室の計 11 部屋を早稲田大学からの研究および事務スペースとして供与された（早稲田大学早稲田キャンパス 120 号館、9 号館）。また、大学経費により雇用された 3 名の事務専従の職員も早稲田大学拠点および 5 拠点全体の研究活動とネットワークを大きく支えている。

中心拠点としてイスラーム地域の 5 拠点全体の情報集約・連絡調整をはかるため、継続してメーリングリスト（ias@islam.waseda.ac.jp）を運営し、イスラーム地域研究全体の周知、広報活動につとめた。本年は研究者以外に学部学生、一般からのメーリングリストへの加入依頼の問い合わせが増加し、メーリングリスト自体の認知度が上がってきていることがうかがえた。また、「NIHU プログラム・イスラーム地域研究」のポータルサイト（<http://www.islam.waseda.ac.jp>）は、5 拠点全体の活動が見渡せるような形で運営するとともに、英文での国際的な情報発信にもつとめた。本年度からはアラビア語ほかイスラーム地域の主要な言語での研究プログラムの発信を目指し、ポータル上での公開にむけ作業を開始した。

早稲田大学拠点独自の研究環境の整備事業としては、昨年度に引き続き『米国国立公文書館所蔵・米国国務省機密文書』の残りの部分を継続購入し、広く研究者に利用できるように機構内マイクロ資料室（早稲田大学早稲田キャンパス 120 号館）に設置し、機構ウェブサイト上に目録を掲載した。

（吉村武典）

2. 研究・教育活動

(1) 拠点全体としての活動（総括事業）

①佐藤次高先生追悼 第三回日本・イラク国際シンポジウム「教科書からみた歴史と社会」

日時：2012 年 5 月 11 日（金） 13:00～18:00

場所：早稲田大学 26 号館（大隈記念タワー）302 教室

主催：早稲田大学イスラーム地域研究機構（共同利用・共同研究拠点／イスラーム地域研究拠点）「人間文化研究機構（NIHU）プログラム・イスラーム地域研究」早稲田大学拠点、東京外国語大学「科研費基盤（A）「現代中東・アジア諸国の体制維持における軍の役割」（代表者 酒井啓子）

後援：Baytal-Hikma、(独) 国際交流基金、バグダード大学文学部歴史学科、日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「イスラームと多元文化主義」

概要：本シンポジウムは、長年、イラクとの学術交流に尽力されてきた故佐藤次高先生（前早稲田大学イスラーム地域研究機構長）のご遺志とご遺産を引き継ぎ、さらに、2003 年以降の米国によるイラク侵攻と占領からの復興、民主的な国民国家形成という課題を担うイラクの人々を応援するために、「教

科書からみた歴史と社会」というテーマで開催された。イラク国民の間では、日本の近代化、第二次世界大戦後の民主主義制度の確立と経済復興の歴史への関心が深い。今回のシンポジウムでは、日本の歴史的経験と、イラクを含む中東各国の歴史教科書の策定と、共同体イメージを構築について活発な議論が展開された。

(貫井万里)

プログラム

桜井啓子（早稲田大学国際学術院教授・イスラーム地域研究機構長）歓迎の挨拶

バイトル・ヒクマ所長シャムラーン・アル・エジュリー博士より挨拶

バグダード大学歴史学科マフムード・アル・カイスィー教授より挨拶

ファラーフ・アル・アサディー教授 (Professor, History Department, College of Arts, Baghdad University)

“Ideology and Militarization of Curricula: A Study of History Curricula in Iraqi Schools before 2003”（*マフムード・アル・カイスィー教授が代読）。

三浦徹（お茶の水大学文教育学部教授）“The Middle East in Studying and Teaching World History in Japan”

松尾昌樹（宇都宮大学国際学部准教授）“National History in Textbooks of the Arab Gulf States”

桜井啓子（早稲田大学国際学術院教授）“Creating an Image of Community through Textbooks in Iran”

総合討論

コメント・総括（日本側）：酒井啓子（東京外国語大学大学院教授）

コメント・総括（イラク側）：マフムード・アリー・ダーウード（バイトル・ヒクマ教授）

②講演会「パキスタンにおけるイスラーム・エスニシティ・政治戦略」

日時：2013年3月18日（月） 14:30～17:30

場所：早稲田大学 26号館 302教室

概要：ラホール国際会議（2013年11月開催予定）に向けた研究交流を企図し、ラホール経営大学所属の研究者2名による、パキスタンの政治と文化に関する講演会を実施した。近現代史を専門とするカスミー氏は、同国におけるアフマディーヤ教団の立場とその変遷について、印パ分離独立の歴史と絡めつつ解説した。一方ハーン氏は、自身の専門とするポストコロニアリズムに基づく文化研究の一例として、パキスタン映画に垣間見える様々な問題について、実際の映像を交えながら説明した。

(西村淳一)

プログラム

講演1：Ali Usman Qasmi (Lahore University of Management Sciences)

“Who is a Muslim? The ‘Ahmadi Question’ and an Islamic Citizenry in Pakistan”

講演2：Furrukh Abbas Khan (Lahore University of Management Sciences)

“Apocalyptic Love Letter: Punjabi Culture, Self-Articulation and Subverting the Dominant Discourse in

Maula Jatt”

③第 1 回フアード・カーシミー氏講演会

日時：2013 年 3 月 15 日(金) 17:15～18:45

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 2-630a 号室

テーマ：「アルジェリアの Rahmaniyya 教団について」

講演言語：アラビア語

概要：本講演は、フランス植民地期アルジェリアにおける最大のスーフィー教団であった Rahmaniyya 教団について、その歴史と組織、教育内容、活動状況、歴史的・文化的役割などを詳しく解説したものであった。

Rahmaniyya 教団の創設とその後の発展について説明をした後、アルジェリア植民地期のザーウィヤやスーフィー教団がアルジェリア人の精神性やナショナリズム形成に重要な役割をはたしたことを、とくに同教団を事例に解説した。

(私市正年)

④第 2 回フアード・カーシミー氏講演会

日時：2013 年 3 月 22 日(金) 17:15～18:45

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 2-630a 号室

テーマ：「アルジェリア・ウラマー協会について」

講演言語：アラビア語

概要：本講演では、アルジェリア・ウラマー協会の歴史と思想的特徴、とくにザーウィヤやスーフィー教団との類似性と差異について詳細な説明がなされた。氏は、ウラマー協会におけるイスラーム教育とアラビア語教育、そしてナショナリズム形成への役割を評価しつつも、al-Hamil のザーウィヤを事例にして、ウラマー協会系とは異なる潮流の中からも、ナショナリズム思想や革命思想が出現してきた事実を説明した。

(私市正年)

⑤イスラーム地域研究若手研究者の会

概要：2012 年度は計 7 回の研究会を行った。本年度は近現代の政治、経済を対象とする発表のほかイスラーム美術史に関する発表も行われた。特に「アラブの春」「中東民主化運動」に関する研究報告では研究者のほかジャーナリスト、一般からも多くの参加があり盛況であった。各回ともコメンテーターを含めた参加者と報告者との間に活発な議論、意見交換が行われた。

(吉村武典)

4月例会

日時：4月22日(日) 14:00～18:00

会場：東京大学（本郷キャンパス）法文1号館317教室

報告者：神田惟（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）

題目：「12-13世紀のシリア、エジプト、イラン、トルコにおける窯業史の再考：三上・フーケコレクションのフスタート採取『ルサーファ陶器』を中心に」

コメンテーター：真道洋子氏（早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員）

5月例会

日時：6月7日(木) 18:30～20:30

会場：早稲田大学（早稲田キャンパス）120-1号館2階201会議室

報告者：川嶋淳司氏（早稲田大学社会科学部研究科博士後期課程）

題目：「『イエメンの春』におけるサーレハ前大統領の語り」

コメンテーター：堀抜功二氏（一般財団法人 日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究員）

6月例会

日時：6月24日(日) 14:00～18:00

会場：東京大学（本郷キャンパス）法文1号館317教室

報告者：佐治奈通子氏（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）

題目：「バルカンの諸鉱山に見るオスマン朝の鉱業政策—メフメト2世・バヤズィト2世期のカーヌー・ンナーメの分析から—」

コメンテーター：澤井一彰氏（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ジュニア・フェロー）

7月例会

日時：7月21日(土) 14:00～18:00

会場：東京大学（本郷キャンパス）法文1号館317教室

報告者：内山明子氏（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻イスラーム世界論講座）

題目：「現代イランにおける宗教実践の多様性—エマームザーデ参詣女性の語りから—」

コメンテーター：後藤絵美氏（東京大学教養学部非常勤講師）

10月例会

日時：10月28日(日) 15:00～18:00

会場：早稲田大学（早稲田キャンパス）120-1号館2階201会議室

報告者：宗野ふもと氏（京都大学大学院博士課程）

題目：「毛織物の流通からみるウズベキスタンの市場経済化：カシュカダリヤ州チロクチ地区の事例から」

コメンテーター：今堀恵美氏（聖心女子大学非常勤講師）

11月例会

日時：11月18日（日） 14:00～18:00

場所：東京大学（本郷キャンパス）法文1号館317教室

報告者：矢久保典良氏（慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程）

題目：「重慶国民政府期の中国ムスリム団体による「教育振興事業」 - 湖北省における初等教育を事例として」

コメンテーター：澤井充生氏（首都大学東京社会人類学分野助教）

3月例会

日時：3月30日（土） 14:00～18:00

場所：東京大学（本郷キャンパス）法文1号館317教室

報告者：今井真士氏（日本学術振興会特別研究員）

題目：『エジプト第二共和政の政党政治：政治勢力の分極化と新たな優位政党の可能性』

コメンテーター：松本弘氏（大東文化大学国際関係学部教授）

(2)研究グループの活動

①ペドラム・ホスローネジャード氏来日講演会

日時：2012年6月25日（月） 18:15～20:20

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 26号館 702教室

概要：ペドラム・ホスローネジャード Pedram Khosronejad（セント・アンドルーズ大学）氏は人類学の観点からイランにおける社会と文化 — 特に死やその過程、土着信仰、遊牧・牧畜、映像文化、物質文化、大衆文化など — に関する幅広い研究を行っているイラン人研究者である。本講演では、イラン・イラク戦争を扱ったイラン映画、特に開戦当初のアーバーダーンやホッラムシャフルで撮影されたドキュメンタリー・フィルムについて、実際の映像を交えつつ、その特徴と意義を解説した。

（西村淳一）

②マスーダ・バノ氏来日講演会

日時：2012 年 7 月 27 日(金) 18:00～20:00

場所：早稲田大学 120-1 号館 2 階 201 会議室

概要：マスーダ・バノ Masooda Bano（オックスフォード大学）氏は、イスラーム地域における NGO、宗教と開発、マドラサ、イスラーム運動などのテーマで精力的に執筆活動を行っている、新進気鋭のパキスタン人研究者である。本講演において氏は、パキスタン、ナイジェリア、シリアの 3 か国で実施した実地調査、インタビュー等をもとに、豊富な写真資料を提示しつつ、それらの国々における女性によるイスラーム運動の登場と拡大について具体的に説明した。

(西村淳一)

③Oxford 会議 “Centres of Learning and Changes in Muslim Societies”

日時：2012 年 8 月 27 日(月)～28 日(火)

場所：オックスフォード大学（英国）

概要：科学研究費補助金（基盤研究 B）「中東・アジアのイスラーム系宗教大学の留学生獲得戦略—知のグローバル化とローカル化」（代表：桜井啓子）およびオックスフォード大学国際開発学部との共催で国際会議を開催した。報告者とコメンテーターとして 12 名の専門家（国籍：イギリス、フランス、アメリカ、パキスタン、日本）の参加を得、「教学教育機関とムスリム社会の変化」という未開拓のテーマについて専門的な議論を積み重ねた。この会議の内容は編集のうえ出版される予定である。

(西村淳一)

プログラム

27th Aug. “History and Strategies of the Universities”

9:30-10:00 Welcome and Introductions

10:00-12:30 Session 1

“Sacred Geography, Scholarships and Global Salafi Mission: The Islamic University of Medina since 1961”

Presenter: Mike Farquhar (London School of Economics)

Chair: Stéphane Lacroix (Sciences Po)

12:30-13:30 Lunch Time

13:30-15:30 Session 2

“Making Qom a Center of Shi’ite Learning: Al-Mustafa International University”

Presenter: Keiko Sakurai (Waseda University)

Chair: Sajjad Rizvi (University of Exeter)

15:30-15:45 Coffee break

15:45-17:45 Session 3

“Understanding Diversity at Al-Azhar through the system of Riwaq”

Presenter: Irfana Hashmi (New York University)

Chair: Hilary Kalmbach (University of Oxford)

28th Aug. “Strategies and Networks of the Returnees”

9:00-11:00 General Discussion

11:00-11:15 Coffee Break

11:15-12:45 Session 4

“Northern Nigeria’s ‘Ahlusunnah’: A Preaching Network from Kano to Medina and Back”

Presenter: Alex Thurston (Northwestern University)

Chair: Stéphane Lacroix (Sciences Po)

12:45-13:45 Lunch Time

13:45-15:15 Session 5

“The Impact of the Relationship between Al-Azhar, the Salafiyya, and the Moroccan Nationalist Movement on Public Education Policy in the Twentieth Century”

Presenter: Ann Witulski (University of Florida)

Chair: Masooda Bano (University of Oxford)

15:15-15:30 Coffee Break

15:30-17:00 Session 6

“Transition of Islamic Learning Centres and Official Fatwas in Southeast Asian Muslim Countries”

Presenter: Yuki Shiozaki (Doshisha University)

Chair: Keiko Sakurai (Waseda University)

17:00-18:00 Concluding Session: Review and Next Steps

④研究会「東南アジアにおけるアズハル留学：インドネシアとマレーシアの比較」

日時：2012年9月29日(土) 14:00～17:30

場所：早稲田大学 120-1 号館 2 階 201 会議室

概要：科学研究費補助金（基盤研究 B）「中東・アジアのイスラーム系宗教大学の留学生獲得戦略—知のグローバル化とローカル化」（代表：桜井啓子）との共催で研究会を実施した。木下氏の報告では、インドネシア人によるアズハル留学の歴史、現代インドネシアにおけるアズハル留学の概要とアズハル出身者の活動状況、「アズハル卒業者世界機構インドネシア支部」の設立などの点が検討された。久志本氏の報告では、マレーシアにおける教育制度（特に宗教学校）の歴史と現状およびアズハルとの関係性、国家によるウラマー養成の管理などの点が論じられた。

(西村淳一)

プログラム

報告 1: 木下博子 (京都大学イスラーム地域研究センター研究員)

「アズハル留学がもたらしたもの——インドネシアにおける留学生ネットワークと社会的役割の諸相」

報告 2: 久志本裕子 (日本学術振興会特別研究員)

「アズハルの名のもとに：マレーシアにおけるウラマー養成の国家管理」

⑤ズルキフリ氏来日講演会「インドネシアにおけるスンナ派とシーア派の諸関係」

日時：2013 年 1 月 30 日(水) 17:00～19:00

場所：早稲田大学 120-1 号館 2 階 201 会議室

概要：ズルキフリ Zulkifli (インドネシア国立イスラーム大学) 氏は、2009 年にライデン大学で博士号を取得した気鋭のインドネシア人研究者で、同国のイスラームの諸相について幅広い見地から研究を行っている。本講演では、これまでほとんど注目されてこなかった同国のシーア派ムスリムに焦点を当て、自身のフィールドワークで得られた情報をもとに、コミュニティの規模やマイノリティとしての生活の概況、スンナ派ムスリムとの関係のあり様などについて報告した。

(西村淳一)

⑥公開講演会「文化としての聖地・参詣——伊勢、地中海、アタバート——」

日時：2013 年 2 月 2 日(土) 13:30～17:30

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 7 号館 219 教室

共催：共同利用・共同研究拠点イスラーム地域研究京都大学拠点・拠点強化研究「イスラームにおける伝統継承に関する研究」、京都大学イスラーム地域研究センター

概要：本公開講演会では、聖地参詣のもつさまざまな文化的意義を考察するため、伊勢参詣、地中海の巡礼、シーア派のアタバート参詣に関する 3 つの講演がおこなわれた。それぞれのアプローチは異なるものであったが、これにより却って、種々の文化現象を考察するための比較の観点が意図され、参詣のもつ多様な側面が明らかになった。またパネルディスカッションでは、講演で触れられなかった話題が取り上げられ、文化としての聖地・巡礼の理解を深めることができた。

(仁子寿晴)

プログラム

講演 1: 榎村寛之 (斎宮歴史博物館)「伊勢参詣の文化史」

講演 2: 篠田知和基 (広島市立大学)「説話にみる地中海巡礼——マグダラの説教をめぐって」

講演 3：守川知子（北海道大学）「イスラーム社会のもうひとつの聖地巡礼——

シーア派の墓廟参詣」

パネルディスカッション

司会：近藤久美子（大阪大学）

パネリスト：榎村寛之、篠田知和基、守川知子、目崎茂和(三重大学)、佐川信子（和光大学）

⑦第 5 回全国マスジド（モスク）代表者会議

日時：2013 年 2 月 10 日（日） 13:30～17:10

場所：早稲田大学 18 号館国際会議場第 3 会議室

概要：「日本のムスリム、食を語る」というテーマのもと、参加者は約 70 名と例年通りで、ムスリムと非ムスリムの比率は、約半々であった。まず「大塚マスジドの活動の中での食事・食材」と「ムスリムの子供達の食環境」の基調報告により、滞日ムスリムの食に関わる現況を概観し、後半のパネル・ディスカッションでは、ムスリムの人々が抱える食の課題について議論が行われ、ハラールフードの意義や子ども教育におけるハラール教育などが取り上げられた。

イスラームを通じて、食を考える議論となり、食えることが、人と人との関係性にも重要な要素になっていることや、人と超越的な存在である多様な神（々）との関係性を考える上で、重要な社会的行為であることが浮き彫りとなった。今後もムスリムと非ムスリムが一堂に会して、日本のムスリムコミュニティの多様な側面を発信することが必要である。

（店田廣文）

プログラム：

13:30-13:40 開会の挨拶 早稲田大学アジア・ムスリム研究所長 小島宏

報告

13:45-14:15 「大塚マスジドからの報告」永井彰氏（大塚マスジド）

14:15-14:45 「ICOJ からの報告」サバー・アーリフ氏（ICOJ 日本人部女性代表）

14:45-15:15 休憩と礼拝 （14:54 サラート（ASR））

15:15-16:15 パネル・ディスカッション

司会：小島宏

パネリスト：マスジド代表者等の方々

16:15-17:00 総合討論

17:00-17:10 閉会の挨拶 早稲田大学多民族・多世代社会研究所長 店田廣文

参考：MAGHRIB 17：17 ISHA 18：29

礼拝室：18 号館 4 階共同研究室 1・2（男女別）

⑧回儒研第1回合宿

日時：2013年2月10日(日)～12日(火)

場所：京都大学本部構内総合研究棟2号館4階第2講義室

概要：17世紀から18世紀にかけて活躍した中国ムスリム学者・劉智の代表的著作『天方性理』の読解・翻訳・注釈・解説の検討を行った。今回の合宿では、身体の生成過程を詳説する巻三のうち、二番目の章に相当する胚胎初化図説を検討した。

(佐藤実)

⑨福岡ハラール見本市、モスク調査

日時：2013年2月25日(月)～26日(火)

場所：福岡市中央区天神（アクロス福岡、福岡市役所）、東区箱崎（福岡モスク）

出張者：店田廣文、岡井宏文、川口卓也

概要：日本で初めて開催されたハラール商品見本市は、アクロス福岡で行われた。午前中はハラールフォーラムが行われ、100人の定員は満員となり、午後の見本市には約20の企業が出店し、来場者数は約600人にのぼった(一般社団法人ハラールビジネス推進協議会調べ)。視察時も非常に盛況であったが、日本発のハラール産業は「これから」という印象を受けた。なお福岡市役所において同見本市に関連するヒアリングも実施した。また福岡市東区において実施した日本人のイスラム認識に関する調査結果および報告会予定等について福岡モスクと話し合った。

(店田廣文)

⑩回儒研第2回合宿

日時：2013年3月10日(日)～12日(火)

場所：旅館千鶴（神奈川県）

概要：17世紀から18世紀にかけて活躍した中国ムスリム学者・劉智の代表的著作『天方性理』の読解・翻訳・注釈の検討を行った。今回の合宿では、身体の生成過程を詳説する巻三のうち、第二章、第三章に相当する胚胎初化図説、四本分著図説を検討した。

(佐藤実)

⑪イブン・ファドル・アッラー・ウマリー原典講読会（全11回）

日時：2012年4月28日(土)、5月26日(土)、6月30日(土)、7月29日(日)、9月15日(土)、10月13日(土)、11月10日(土)、12月16日(日)、2013年1月26日(日)、2月23日(土)、3月23日(土)
13:00～18:00

場所：京都女子大学 J校舎3階 J303-1（谷口研究室）、龍谷大学大宮学舎 南101教室

概要：本年度のイブン・ファドル・アッラー・ウマリー原典講読会は、昨年度に引き続き『高貴なる用語の解説』第2章後半部の訳出を進めた。当該部分はマムルーク朝の様々な任命文書における「指示部分」を任命対象毎に集成しており、マムルーク朝の行財政制度の実態に関わる重要な記述の宝庫である。その読解によって、イクター制関連の文書のあり方や国庫と農政との関係、また財物庫に収められた絹布の管理など従来の研究からは明らかでなかった諸点を指摘することが出来るようになった。さらに『史窓』第70号において第2章冒頭部の公刊を行い、中世イスラーム制度史の進展に寄与した。

(清水和裕)

3. 海外派遣・調査

(1) 拠点全体としての活動（総括事業）

該当なし。

(2) 研究グループ

① 北米中東学会（MESA）参加、アメリカ出張

出張期間：2012年11月16日(金)～2012年11月22日(木)

出張先：アメリカ合衆国、デンバー

出張者：佐藤尚平（早稲田大学イスラーム地域研究機構）

概要：出張の主要な目的は、“Between Water and Oil: An Environmental History of the Buraimi Oasis Dispute, 1952-1955”を発表することであった。研究途上であり資料の読み込みという点では課題が残ったが、外交史研究に環境史の成果を取り入れるという大枠の部分では手ごたえがあった。また副次的な目的として、アングロ・サクソン系の中東研究コミュニティにおける環境に関する研究の隆盛を測ることがあった。さらに、当初から予定していたわけではなかったが、新しい世代の研究者の台頭を肌で感じるようになった。使用する一次資料の豊かさと、分析視覚の深さ、新しさという両面で、中東研究が新しい局面に入っていることを感じさせられた。

(佐藤尚平)

② トルコ、エジプト写本史料調査

出張期間：2013年2月11日(月)～2月27日(水)

出張先(国名)：イスタンブール(トルコ共和国)、カイロ(エジプト・アラブ共和国)

出張者：吉村武典（早稲田大学イスラーム地域研究機構次席研究員）

概要：イスタンブールのトルコ共和国総理府文書館、スレイマニエ・モスク附属図書館とカイロのエジプト国立文書館、エジプト国立図書館、アラブ連盟写本研究所をそれぞれ訪れ、14-15世紀の写本史料、16-17世紀の土地調査台帳を中心に調査を行った。また、在外研究協力者のカイロ大学文学部歴史学科長

ムハンマド・アフィーフィー教授とイスラーム地域研究への研究協力およびエジプトの研究事情について会談した。

(吉村武典)

③イラン出張

期間：2013年2月23日(土)～3月5日(火)

出張先：イラン（テヘラン大学、アルザフラー大学、ゴム、バードルード）

出張者：桜井啓子（早稲田大学国際学術院教授）

概要：出張の目的は、早稲田大学拠点の研究課題「イスラームの社会的実践とその理念」のサブテーマの一つである「イスラームとジェンダー」の研究を遂行する上で必要な現地研究者との協力関係の構築と家族法関係の資料ならびに女性問題に関する書籍の収集だったが、そのいずれも達成することができた。また早稲田大学拠点の研究分担者であるメフラン教授と面談し、11月開催予定のラホール国際会議での発表や今後の研究計画について協議した。

(桜井啓子)

④イラン調査

期間：2013年2月23日(土)～3月6日(水)

出張先：イラン（テヘラン大学世界研究学部、テヘラン大学芸術学部、ゴム、バードルード）

出張者：貫井万里（早稲田大学イスラーム地域研究機構研究助手）

概要：早稲田大学拠点の研究課題「イスラームの社会的実践とその理念」の研究の一貫として、「イスラームとジェンダー研究会」で必要な資料を収集し、イラン人の女性学や教育学の専門家と意見交換を行った。特にイランの地方都市、バードルードの家庭での聞き取り調査は、都市の高学歴女性とは、異なる生活体験、世界観を持っていることが浮き彫りとなり、示唆に富むものであった。また、イランの法律集やエッテラーアート新聞をまとめて入手することができ、短期間の出張ではあったが、極めて有意義であった。

(貫井万里)

⑤モロッコ調査

期間：2013年3月8日(金)～3月17日(日)

出張先：モロッコ王国（ハサン2世大学・ムハンマド5世大学）

出張者：佐藤健太郎（北海道大学大学院文学研究科准教授）

概要：カサブランカではハサン2世大学のルトフィー・ブーシャントゥーフ氏と前近代のモロッコにおける契約文書とイスラーム法との関わりについて、意見交換をおこなった。ラバトではイブン・ハルドゥーン研究の世界的権威であるアブドゥッサラーム・シャッターディー氏と意見交換をおこなった。

イブン・ハルドゥーン自伝研究の遂行に向けて、きわめて有用な情報をえることができた。また、モロッコ国立図書館ではイブン・ハルドゥーン研究関連の文献調査をおこなった。

(佐藤健太郎)

4. 外国人研究者の招聘

(1) 拠点全体としての活動（総括事業）

海外研究者招聘

① 招聘者氏名：フルーフ・アッバース・ハーン氏、アリー・ウスマーン・カスミー氏

所属：Lahore University of Management Sciences（ラホール経営大学）（パキスタン）

日時：2013年3月14日（木）～24日（日）

活動概要：2013年11月に実施予定である「イスラーム地域研究・ラホール国際会議」の事前準備のため、また現代インド地域研究との連携研究の一環として、パキスタンのラホール経営大学に所属するフルーフ・アッバース・ハーン Furrukh Abbas Khan 氏およびアリー・ウスマーン・カスミー Ali Usman Qasmi 氏の2名を招聘し、3回の打合せを実施するとともに、早稲田大学拠点と京都大学拠点にて各1回の講演会を行った。講演の詳細については各拠点の研究活動報告を参照。

(西村淳一)

② 招聘者氏名：フアード・カーシミー氏

所属（国籍）：ダール・アル＝ハリール図書館長（アルジェリア）

期間：2013年3月10日（日）～2013年3月26日（火）

活動概要：3月15日および22日に上智大学にて講演会を行った。講演および質疑応答はアラビア語で行われ、日本側の参加者にとってアラビア語による討論を行う機会となった。講演以外の日の上智大学図書館にて資料収集、講演準備を行ったり（12日～14日および20日～21日）、招聘担当者である私市および上智大学拠点メンバーらとアルジェリアのイスラーム運動やスーフィー教団に関して意見交換を行った（16日～19日、23日～24日）。講演の詳細については研究会活動報告を参照。

(私市正年)

(2) 研究グループ

該当なし。

5. 資料収集

米国国務省機密文書を昨年度に引き続き購入し資料の補完を行った。同資料はこれまで断片的にしか研究に使用されておらず、当時の中東の政治動向とそれに対するアメリカの外交政策を分析することができる重

要資料である。現代イスラーム研究の推進のため収集を行った。本資料は早稲田大学イスラーム地域研究機構マイクロ資料室に保管され研究者一般に広く利用を公開している。資料の概要、目次については機構ウェブサイトに掲載。

(吉村武典)

①資料名：『米国国立公文書館所蔵・米国国務省機密文書』

- ・形態：マイクロフィルム
- ・冊数：56 リール
- ・資料内容：エジプトの国内事情・外交事情（1950－1954）
- ・収集目的：7月革命前後のアメリカ政府からみたエジプト情勢やアメリカの対中東政策の一端を明らかにする資料的にも非常に価値のあるものであるため。
- ・所蔵場所：早稲田大学 120-4 号館 3 階早稲田大学イスラーム地域研究機構マイクロ資料閲覧室
- ・収集方法：極東書店
- ・収集期間：2013 年 2 月 28 日

6. 研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔論文〕計（5）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
小松 香織 (研究協力者)	海運史料にみるオスマン帝国末期の社会変容	イスラーム地域研究ジャーナル	5	2013	43-50
桜井 啓子 (研究代表)	新しい船出―「イスラーム地域研究」のさらなる発展にむけて	早稲田大学イスラーム地域研究機構、イスラーム地域研究ジャーナル	5	2013	1-2
佐藤 尚平 (研究協力者)	Sovereignty and Map-making in the Arabian Peninsula	Islam and Multiculturalism: Islam, Modern Science, and Technology		2013	149-158
フサーム・ムハンマド・アブドゥル = ムウデイー著 / 太田 (塚田) 絵里 奈訳 (研究協力者)	「オスマン朝時代のアレクサンドリア― 923 - 1213 / 1517 - 1798 年」	『ナイル・デルタの環境と文明 II』		2013	117-154

茂木 明石 中村 妙子 (研究協力者) 柳谷 あゆみ (研究協力者) 阿久津 正幸 (研究協力者) 訳・註、 佐藤 健太郎 (研究分担者) 註	「イブン・ハルドゥーン自伝 5」	『イスラーム地域研究 ジャーナル』	5	2013	77-102
---	------------------	----------------------	---	------	--------

〔学会発表〕計（ 6 ）件

発表者名	発表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
砂井 紫里 (研究協力者)	グローバル化するハラールとアジア各地域の取り組み	早稲田大学イスラーム地域研究機構第27回定例研究会	2012.5.30	早稲田大学
桜井 啓子 (研究代表)	“Making Qom as a center of Shi’ite scholarship: al-Mustafa International University”	International Conference “Centres of learning and changes in Muslim societies”	2012.8.27 -28	Institute of Development Studies, University of Oxford、
佐藤 尚平 (研究協力者)	“Sovereignty and Cartography in the Arabian Peninsula”	International Conference on Islam and Multiculturalism	2013.1	マラヤ大学、マレーシア
杉山 隆一 (研究協力者)	イマーム・レザー廟の現在 ― 廟の組織運営と諸活動を中心に ―	早稲田大学イスラーム地域研究機構第31回定例研究会	2012.11.28	早稲田大学 120-1 号 館 201 会議室
鈴木 恵美 (研究協力者)	「政変後の選挙とイスラーム政党」	人間文化研究機構 (NIHU) プロジェクト「イスラーム地域研究」公開シンポジウム『2011 年政変とアラブ諸国の民主化』	2013.10.20	東京大学
野田 仁 (研究協力者)	“China’s Language Policy for Muslims in Xinjiang: the Case of the Kazakhs”	Educating Muslim Minorities in Asia (Third international workshop on “Comparative Research on the Symbiosis of Muslims and non-Muslims in Asia”)	2012.12.15	早稲田大学

〔ジャーナル〕計（ 1 ）件

書 名	出版社	巻	発行年	ページ
『イスラーム地域研究ジャーナル』	早稲田大学イスラーム地域研究機構	5	2013.3	196

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（34）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
阿久津 正幸 (研究協力者)	「非イスラーム世界における hizmet: ムスリム社会の構築とイ スラームの伝統的価値観」	『宗教と社会貢献』	3-1	2013	1-25
上山 一 (研究協力者)	“Operational Efficiency of Islamic Banks in the Middle East and North Africa Region—An Overview and Future Prospects of Islamic Banking in the GCC and Maghreb Countries—”	<i>Proceedings of The 2nd Algeria-Japan Academic Symposium Sustainable Society through Advanced Sciences</i>		2013	1-4
小松 香織 (研究協力者)	「オスマン帝国の経済ナショナ リズムに関する一考察」	『東洋史研究』	71-1	2012	1-35
太田（塚田） 絵里奈 (研究協力者)	“A Popular Preacher in Late Mamlūk Society: A Case Study of a Prominent Wā‘iz, Abū al-‘Abbās al-Qudsī”	<i>Orient</i>	48	2013	21-35
砂井 紫里 (研究協力者)	「清真: イスラームの食文化」	『中国ムスリムを知る 60 章』(中国ムスリム研 究会編著、明石書店)		2012	122-126
藤山 正二郎・ 砂井 紫里 (研究協力者)	「家族と親族のつながり: 人口 政策の変化のなかで」	『中国ムスリムを知る 60 章』(中国ムスリム研 究会編著、明石書店)		2012	112-114
KAWABATA Aruma and <u>SAI</u> <u>Yukari</u> (研究協力者)	“Halal Restaurants and its management in non-Muslim Societies: Preliminary Comparative study of Japan and Taiwan”	<i>Islam and Multiculturalism: Islam, Modern Science, and Technology</i> (Asia Europe Institute and Organization for Islamic Area Studies (eds))		2013	37-43
桜井 啓子 (研究代表)	“Shi‘ite Women's Seminaries (howzeh-ye ‘elmiyyeh-ye khahran) in Iran: Possibilities and Limitations”	<i>Iranian Studies</i>	45/ 6	2012	727-744
	「イランの教育」(事典項目)	『比較教育学事典』日 本比較教育学会編 (東信堂)		2012	42
新保 敦子 (研究協力者)	「中華民族意識の形成に関する 一考察—教科書に描かれた領土 及びエスニック・マイノリティの 分析から—」	『学術研究』	61	2012	31-52
小名 康之、 阿部 尚史、 杉山 隆二、 登利谷 正人 (研究協力者)	「東インド会社に関するシャ ー・シュジャー名の文書(ニシャ ーン) —十七世紀のムガル時代 の文書」	『青山史学』	13	2013.3	19-51

鈴木 恵美 (研究協力者)	共著「体制移行期における宗教政党の躍進—2011-12 年人民議会選挙の考察—」『アラブ動乱 - 1.25 革命の背景』	アジア経済研究所 (JETRP アジ研選書)	32	2012	87-110
	共著「エジプト権威主義体制の再考—ムバーラク政権崩壊の要因—」『中東政治学』酒井啓子編	有斐閣		2012	21-34
店田 廣文 (研究分担者)	「世界と日本のムスリム人口 2011 年」	『人間科学研究 (早稲田大学)』	26-1	2013	27-37
	“Islamic Research Institutes in Wartime Japan: Introductory Investigation of the "Deposited Materials by the Dai-Nippon Kaikyo Kyokai (Greater Japan Muslim League)”	<i>Annals of Japan Association for Middle East Studies</i>	28-2	2013	85-106
	「エジプトの 19 世紀人口推計」	『永遠に生きる 吉村作治先生古稀記念論文集 (吉村作治先生古稀記念論文集編集委員会編)』		2013	331-341
日下部 達也 (研究協力者)	“Impact of Education Expansion on Employment in Bangladesh: Comparing Two Cases of Villages in Remote and Suburban Rural Settings”	<i>Journal of International Cooperation in Education</i>	15-2	2012	53-68
後藤絵美 (研究協力者)	「時とともに変化、模索する女性のあり方。」、「ヴェールのまとい方もさまざま、世界各地のムスリム女性」『Pen BOOKS: イスラムとは何か。』ペン編集部編	阪急コミュニケーションズ		2013	132-41
	第 33 章「肉のある贅沢、肉のない贅沢—多様な食文化を継承するエジプト料理」、第 34 章「ヴェールの流行と宗教言説の変容—現代ファッション事情」、第 36 章「結婚したい」「離婚したい」女性たち—社会通念・宗教・国家制度のはざまで」『現代エジプトを知るための 60 章』鈴木恵美編	明石書店		2012	207-16、 226-31
谷口 淳一 (研究協力者)	「アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注 (4)」	『史窓』	70	2013	31-49
中町 信孝 (研究協力者)	“Life in the Margins: Shihab al-Din Ahmad al-Ayni, a Non-Elite Intellectual in the Mamluk Period”	<i>Orient</i>	48	2013	
子島 進 (研究協力者)	「ムスリムの NGO」	『朝倉世界地理講座 4 南アジア』		2012	402-410
	「書評 Islam and South Asia Vol. 1」	NIHU Research Series of South Asia and Islam	1	2013	67-77

子島 進 ダニシマズ・イ ディリス (研究協力者)	「ムスリム NGO の理念と活動ー パキスタンとトルコの事例から」	『アジア文化研究所研 究年報』	47	2013	116-124
深見 奈緒子 (研究協力者)	「10 世紀、アンダルシアのアー チネットの建築史的考察」	『第 19 回ヘレニズム～ イスラーム考古学研 究』		2012	153-163
	「イフリーキア」	『地中海学会月報』		2013	5
	「イスラムの建築と文化」『pen BOOKS イスラムとは何か。』ペ ン編集部編	阪急コミュニケーショ ンズ	020	2013	47-81
福島 康博 (研究協力者)	「マレーシアのイスラーム銀行 におけるシャリーア・ボードの機 能とメンバーシップ」	『異文化経営研究』	9	2012	17-31
	“Shari’ah Board and Its Membership of Islamic Bank: A Case Study on Malaysia”	Proceedings of The 9th AFMA International Conference		2012	189-202
	「Lesson5. マレーシアの経済『民 族・地域間格差の是正を目指すマ レーシア経済』」	『東南アジアがわかる 教科書 (3)』		2013	14-15
	「Lesson 9. ハラル産業『経済 を牽引するイスラム:ハラル産 業の興隆』」	『東南アジアがわかる 教科書 (3)』		2013	22-23
堀井 聡江 (研究協力者)	「イスラーム法をめぐる用語ー イジュティハード/ファトワー」	床呂郁哉・西井涼子・ 福島康博『東南アジア のイスラーム』(東京外 国語大学出版会)		2012	194-95
	「5. イスラーム: 法学派」	世界宗教百科事典編集 委員会 (編集委員長: 井上順孝) 編『世界宗 教百科事典』(丸善出 版)		2012	178-79
吉村 武典 (研究分担者)	第 56 章「カイロにはすべての職 業があるー隠れた巨大労働市 場」『現代エジプトを知るための 60 章』鈴木恵美編	明石書店		2012	354-358

〔図書〕計 (3) 件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
砂井紫里 (研究協力者)	『食卓から覗く中華世界とイス ラーム:福建のフィールドノート から』	めこん		2013	112
鈴木恵美 (研究協力者)	編著『現代エジプトを知るための 60 章』	明石書店		2012	400

店田廣文 (研究分担者) 石川基樹 (研究協力者) 岡井宏文 (研究協力者)	『外国人に関する意識調査・射水市報告書』	早稲田人間科学学術院 アジア社会論研究室		2012	114
---	----------------------	-------------------------	--	------	-----

〔学会発表〕計（ 39 ） 件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
上山 一 (研究協力者)	“Operational Efficiency of Islamic Banks in the Middle East and North Africa Region—An Overview and Future Prospects of Islamic Banking in the GCC and Maghreb Countries—” (Poster presentation)	The 2nd Algeria-Japan Academic Symposium Sustainable Society through Advanced Sciences	2012.5.17	Oran: University of Sciences and Technology of Oran-MB
	“Research on Islamic Finance: Comparative Analysis on Islamic Banks in the GCC Countries”	The First Workshop on Promotion of Academic Exchange between Jordan University of Science and Technology & University of Tsukuba	2013.3.17	Irbid: Jordan University of Science and Technology
後藤 絵美 (研究協力者)	“Tears and Veils: Representation of “Faith” in the Contemporary Islamic Movements”	International Workshop: Mutual Influences between Economic Development and ‘Moderate Islamism’ in the Non-Oil Producing Middle Eastern Countries, The Japan Institute of International Affairs & NIHU Program: Islamic Area Studies	2013.2.15	Tokyo (The University of Tokyo)
	「イスラーム理解の多様性と可変性——あるエジプト人「イスラーム主義者」の女性観から」	東西調査研究センターセミナー「北アフリカ地域を理解する 文化と歴史からのアプローチ」	2013.3.23	東京（赤坂区民センター）
	「イスラームの言説と性——20世紀のエジプトにおける「女性の役割」をめぐる議論からの考察」	日本オリエント学会 第54回大会	2012.11.24	神奈川（東海大学）
	「二つの裁判のあいだ——エジプトにおける憲法第二条の実践と「シャリーア」」	日本中東学会 第28回年次大会	2012.5.13	東京（東洋大学）
	「「革命」をつくったもの？エジプトにおける女性の結婚難とその表象」	「アラブの春」の社会史研究会	2012.12.8	東京（東京大学）
砂井 紫里 (研究協力者)	「アジア各地域のハラール産業の取り組みにおけるマレーシアの影響」	日本マレーシア学会関東地区研究会	2012.7.12	立教大学
	“The Current Environment for Halal in Japan”	Digitize Halal Economy (Halal Science, Industry and Business International Conference (HASIB) 2012)	2012.10.13-15	Hansa JB Hotel, Hat Yai, Songkhla, Thailand

川畑 亜瑠真・ 砂井 紫里 (研究協力者)	“Social and Cultural Impact of Globalizing Halal in Multicultural Societies: Comparative Study of Taiwan and Japan”	International Conference on Islam and Multiculturalism: Islam, Modern Science, and Technology	2013.1.5-6	University of Malaya, Malaysia
桜井 啓子 (研究代表)	「イラン-イスラーム神学校の現状と海外戦略」	外務省職員を対象とする地域情勢に関する分析研究会	2012.7.20	外務省第四国際情報官室
佐藤 尚平 (研究協力者)	“Politics of Standardization: British Empire and the Evolution of Sovereignty in the Middle East”	北米国際政治学会	2012.4.	サンディエゴ、アメリカ合衆国
	「水と油：『ブライミー陳述書』(1955年)とアラビア半島の主権」	日本中東学会大28回大会	2012.5.	東京、日本
	“Global History for International Relations”	Global History for International Relations	2012.6.	エジンバラ、イギリス
	“Britain and the Secret Agreement: The Week that Made the Emirates, July 1971”	日英歴史家会議	2012.9.	ケンブリッジ、イギリス
	“Between Water and Oil: An Environmental History of the Buraimi Oasis Dispute, 1952-1955”	北米中東学会	2012.11.	デンバー、アメリカ合衆国
	「近代国家の形成：アラブ首長国連邦の場合」	九州史学会大会	2012.12.	九州大学、日本
Laurent Lambert and Shohei Sato (研究協力者)	“Arabian Politics around Water: A History of Abu Dhabi's Qasr al-Hosn”	湾岸研究学会	2012.7.	エクセター、イギリス
新保 敦子 (研究協力者)	「ジェンダーと国際教育開発(寧夏回族自治区における女子教育)」	比較教育学会	2012.6.	九州大学
	「公教育と多文化教育—近現代中国におけるエスニック・マイノリティに焦点を当てて—」	教育史学会	2012.9.	お茶の水女子大学
	“Analysis of the education and social mobility: Based on study of the Hui Muslim family in China”	早稲田大学国際ワークショップ	2012.12.	早稲田大学
杉山 隆一 (研究協力者)	「アフシャール朝の首都マシュハド—ナーデル・シャーの治世を中心に」	慶應義塾大学三田史学会	2012.6.23	慶應義塾大学三田キャンパス
日下部 達哉 (研究協力者)	「バングラデシュ教育発展の軌跡—僻地農村と近郊農村の10年間」	第48回日本比較教育学会	2012.6.16	九州大学
	“Educational Development in Rural Bangladesh: Comparison between Western and Eastern Regions”	Biennial Conference Comparative Education Society of Asia,	2012.7.10	Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand
店田 廣文 (研究分担者)	「日本における「ムスリム・コミュニティ」の発展と地域住民のイスラーム認識」	日本都市学会第59回全国大会	2012.10.28	西日本工業大学
	「日本のムスリム・コミュニティと地域社会—射水市における「外国人に関する意識調査」より—」	日本中東学会第28回年次大会	2012.5.13	東洋大学

深見 奈緒子 (研究協力者)	「10 世紀、アンダルシアのアーチネットの建築史的考察」	第 19 回ヘレニズム～イスラーム研究会	2012.7.7	檀原考古学研究所
	「チュニジア建築史におけるドーム架構とタイル—2012 年度現地調査から」	モノから見た中世イスラームの女性～ガラス器と陶器を中心に研究会	2012.11.10	東洋文庫
	“Historical Mosques in Southeast Asia - Comparative Architectural Study along the Indian Ocean”	東方アジアにおけるイスラーム美術	2013.1.12	早稲田大学
	「建築から見たビザンチンとイスラーム」	早稲田大学比較文明史プロジェクト	2013.1.25	早稲田大学
福島 康博 (研究協力者)	「イスラーム銀行におけるシャリーア・ボードとメンバーシップ：マレーシアの事例を中心に」	日本中東学会第 28 回年次大会	2012.5.13	東洋大学
	「マレーシアにおけるハラール食品の基準：MS1500:2009 の概要」	食のハラール研究会	2012.7.6	早稲田大学
	“Shari’ah Board and Its Membership of Islamic Bank: A Case Study on Malaysia”	The 9th AFMA International Conference	2012.10.6	Busan Exhibition and Convention Center (BEXCO), Busan, Korea
	「マレーシアにおけるハラール認証の現状と課題」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社会編成」研究機関研究員発表会	2013.3.27	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
堀井 聡江 (研究協力者)	「イスラームにおける法概念—中東を中心に」	東洋大学国際哲学センター第 2 ユニット主催公開シンポジウム「〈法〉の時間と空間—〈法〉の多様性とその可能性を探る」	2012.12.15	東洋大学
吉村 武典 (研究分担者)	“Irrigation Practices in the Nile Region. Ancient, Recent Past and Present”	International Symposium on Environmental Water Literacy	2012.10.5	International Conference Room, Dialogue House, International Christian University
	「ナイル治水行政から見るマムルーク朝時代のエジプト社会」	科研基盤研究 (B) 「『モノ』の世界から見た中世イスラームの女性～ガラス器と陶器を中心に」	2013.2.5	(財) 東洋文庫 7 階会議室
	「カフワとハラール：中東におけるコーヒー飲用の歴史から」	2012 年度第 2 回ハラール研究会	2013.1.31	早稲田大学早稲田キャンパス 9 号館 917 会議室

〔講演会〕計（ 10 ）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
後藤 絵美 (研究協力者)	「「アラブ」に生きる女性」	小平市公民館講座	2013.2.7	東京（小平市 公民館）
砂井 紫里 (研究協力者)	「食文化としてのハラール: 地域で作るハラールごはんについて」	京都外国語大学ピカイチプロジェクト「イスラム×和食: ハラール和食の実践」	2012.7.28	京都外国語大学
	「アジアにおけるハラール産業の現在: その拡がりつつなかり」	第3回公開講義「食のハラールと食文化 (1): アジアの食のハラール」(東京工業大学「ぐるなび」食の未来創成寄附講座食文化共同研究会公開講義シリーズ)	2013.3.1	東京工業大学
桜井 啓子 (研究代表)	「ジェンダー問題と中東」	朝日カルチャーセンター横浜	2013.1.26	朝日カルチャーセンター横浜
	パネルディスカッション「アジアと地球規模の課題」	WASEDA 研究院フォーラム 2012	2012.12.13	早稲田大学 大隈記念講堂 小講堂
店田 廣文 (研究分担者)	「人口のなかの中東」	朝日カルチャーセンター講座「世界のグローバル化と中東」	2013.2.23	朝日カルチャーセンター横浜
福島 康博 (研究協力者)	「イスラーム金融の仕組みと各国の取り組み」	日本イスラーム協会公開講演会『イスラーム金融の現状』	2012.4.30	東京大学
堀井 聡江 (研究協力者)	「中東の近現代法とシャリーア」	東京第一弁護士会現代中近東法研究部会講演会	2012.6.26	東京弁護士会館
吉村 武典 (研究協力者)	「イスラーム王朝下のエジプトとナイル川—マムルーク朝時代の治水事業から—」	『ユーラシア乾燥地域における河水利用—水が育む歴史・文化・環境—』公開シンポジウム ユーラシア乾燥地域における河水利用 (東北学院大学アジア流域文化研究所、文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新時代における日中韓周縁域社会の宗教文化構造研究プロジェクト」)	2012.7.21	東北学院大学 土樋キャンパス 6号館2階 621 教室
	「エジプト民主革命とナイルの民: イスラーム史から見るアラブの春」	アジアフォーラム (国際基督教大学アジア文化研究所)	2012.9.18	国際基督教大学東ヶ崎潔記念ダイアログハウス中会議室

東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門

代表：大稔哲也（東京大学大学院人文社会系研究科・准教授）

中心テーマ 『イスラームの思想と政治：比較と連関』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
大稔 哲也	次世代人文学開発センター流動教員、 東京大学大学院人文社会系研究科准教授	研究拠点代表 (研究の総括、近現代における政治・社会思想の形成と動態)
小松 久男	次世代人文学開発センター客員教員、 東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代の記憶)
長沢 栄治	次世代人文学開発センター流動教員、 東京大学東洋文化研究所教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
臼杵 陽	次世代人文学開発センター客員教員、 日本女子大学文学部教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
飯塚 正人	次世代人文学開発センター客員教員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の形成と動態)
新免 康	次世代人文学開発センター客員教員、 中央大学文学部教授	研究分担者 (近現代におけるウイグル人知識人の思想と政治的活動に関する研究)
ティムール・ダダバエフ	次世代人文学開発センター客員教員、 筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代の記憶)
河原 弥生	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、 次世代人文学開発センター研究員	研究分担者 (中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究)

研究グループ：「近現代中東・中央ユーラシアの思想と政治」

(研究グループメンバー)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
大 稔 哲也	次世代人文学開発センター流動教員、 東京大学大学院人文社会系研究科准教授	研究拠点代表 (研究の総括、近現代における政治・社会思想の形成と動態)
小 松 久男	次世代人文学開発センター客員教員、 東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代の記憶)
長 沢 栄治	次世代人文学開発センター流動教員、 東京大学東洋文化研究所教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
飯 塚 正人	次世代人文学開発センター客員教員、東京外国語 大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
新 免 康	次世代人文学開発センター客員教員、 中央大学文学部教授	研究分担者 (近現代におけるウイグル人知識 人の思想と政治的活動に関する研 究)
ステファ ン・A・ドゥ ドワニョン	フランス国立科学研究センター	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
ティム ール・ ダダバエフ	次世代人文学開発センター客員教員、 筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代 の記憶)
臼 杵 陽	次世代人文学開発センター客員教員、 日本女子大学文学部教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
河 原 弥生	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、 次世代人文学開発センター研究員	研究分担者 (中央アジアにおける宗教文化と 政治に関する文献研究)
松 本 弘	大東文化大学国際関係学部教授	研究分担者 (中東・イスラーム諸国の民主化)
池田美佐子	名古屋商科大学コミュニケーション学部教授	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)

間 寧	アジア経済研究所地域研究センター中東研究グループ長	研究分担者 (中東・イスラーム諸国の民主化)
青山 弘之	東京外国語大学外国語学部准教授	研究分担者 (中東・イスラーム諸国の民主化)
菅瀬 晶子	国立民族学博物館助教	研究分担者 (パレスチナ問題)
森 まり子	国立民族学博物館共同研究員	研究分担者 (パレスチナ問題)
錦田 愛子	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 助教	研究分担者 (パレスチナ問題)
濱本 真実	ジョージ・ワシントン大学ヨーロッパ・ロシア・ ユーラシア研究所客員研究員	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
サリー・ ハナフィー	ベイルート・アメリカン大学准教授	研究分担者 (パレスチナ問題)

(研究グループ海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
Bakhtiyar Babadjanov	ウズベキスタン東洋学研究所主任研究員	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
Aftandil Erkinov	ウズベキスタン東洋学研究所研究員	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
İlhan Şahin	キルギス・トルコ・マナス大学教授	カザフスタンにおけるソ連時代の 記憶
Güljanat Kurman- galiyeva	トルコ・ガーズィー大学准教授	カザフスタンにおけるソ連時代の 記憶

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
今堀 恵美	聖心女子大学非常勤講師	ソ連解体後のムスリム社会の変容に関する調査・研究
宇山 智彦	北海道大学スラブ研究センター教授	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶
岡 奈津子	アジア経済研究所研究員	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶
小沼 孝博	東北学院大学文学部講師	中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究
木村 暁	筑波大学人文社会科学研究科特任研究員	近現代における政治・社会思想の形成と動態
坂井 弘紀	和光大学表現学部准教授	近現代における政治・社会思想の形成と動態
澤田 稔	富山大学人文学部教授	中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究
清水由里子	次世代人文学開発センター客員研究員	近現代におけるウイグル人知識人の思想と政治的活動に関する研究
長縄 宣博	北海道大学スラブ研究センター准教授	近現代における政治・社会思想の形成と動態
野田 仁	早稲田大学イスラーム地域研究機構研究院講師 (早稲田大学拠点研究協力者)	近現代における政治・社会思想の形成と動態
吉田世津子	四国学院大学社会学部教授	ソ連解体後のムスリム社会の変容に関する調査・研究
吉村 貴之	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所 ジュニアフェロー	近現代における政治・社会思想の形成と動態
今野 泰三	大阪市立大学院文学研究科都市文化研究センター・ドクター研究員	パレスチナ問題
高岩 伸任	一橋大学非常勤講師	パレスチナ問題
田村 幸恵	津田塾大学国際関係研究所研究員	パレスチナ問題
鶴見 太郎	日本学術振興会海外特別研究員	パレスチナ問題

濱中 新吾	山形大学地域教育文化学部准教授 (上智大学拠点研究協力者)	パレスチナ問題
岩崎えり奈	共立女子大学文芸学部准教授 (上智大学拠点研究協力者)	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
勝沼 聡	東京大学大学院人文社会系研究科附属死生学・ 応用倫理センター特任研究員	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
斉藤 剛	神戸大学大学院国際文化学研究科准教授 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
佐々木 紳	東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学 開発センター・イスラーム地域研究部門特任研 究員	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
福田 義昭	大阪大学非常勤講師	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
阿久津正幸	東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学 開発センター・イスラーム地域研究部門特任研 究員 (早稲田大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
伊賀 司	神戸大学大学院国際協力研究科研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
石黒 大岳	九州大学大学院人文科学研究員助教 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
井上あえか	就実大学人文科学部教授	中東・イスラーム諸国の民主化
大足 恭平	青山学院大学情報科学研究センター助手 (早稲田大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
大川真由子	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 所機関研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
北澤 義之	京都産業大学外国語学部教授 (上智大学拠点構 成員)	中東・イスラーム諸国の民主化
吉川 卓郎	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教 授 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
坂梨 祥	財団法人日本エネルギー経済研究所中近東研究 センター主任研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
澤江 史子	東北大学大学院国際文化研究科准教授 (京都大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
鈴木 恵美	早稲田大学イスラーム地域研究機構客員准教授 (早稲田大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
須田 将	北海道大学大学院文学研究科博士課程	中東・イスラーム諸国の民主化

立花 優	北海道大学大学院文学研究科博士後期課程・日本学術振興会特別研究員 DC	中東・イスラーム諸国の民主化
地田 徹朗	北海道大学スラブ研究センター・GCOE プログラム学術研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
辻上奈美江	高知県立大学文化学部講師	中東・イスラーム諸国の民主化
中川 恵	羽衣国際大学現代社会学部教授	中東・イスラーム諸国の民主化
福富 満久	一橋大学大学院社会学研究科准教授	中東・イスラーム諸国の民主化
堀抜 功二	財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究員（京都大学拠点研究協力者）	中東・イスラーム諸国の民主化
前田 弘毅	首都大学東京都市教養学部准教授	中東・イスラーム諸国の民主化
見市 建	岩手県立大学総合政策学部准教授（上智大学拠点構成員）	中東・イスラーム諸国の民主化
湯浅 剛	防衛省防衛研究所地域研究部主任研究官	中東・イスラーム諸国の民主化
吉岡 明子	財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
渡邊さやか	元在エチオピア日本国大使館専門調査員、スーダン在住	中東・イスラーム諸国の民主化

【2012 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

研究事業の拠点は、事業の始動以来、東京大学文学部アネックス内において 3 室のスペースを確保し、多様な研究資料をそこに集積しつつ、内外の研究者に利用の便を図っている。研究の進捗状況や研究集会などに関する情報は、専用のウェブ上で (<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokyo-ias/>) つねに提供されている。

本拠点は、人間文化研究機構との共同設置によるイスラーム地域研究部門として発足したが、その活動が評価された結果、文部科学省による「特色ある共同研究の整備の推進事業」の支援を受け、拠点整備をさらに進めることができた。とりわけ、2008 年度後半から 2 名の特任研究員を得たことは大きな意義を有しており、これにより拠点の研究機能をさらに充実させることが可能となった。

(大稔哲也)

2. 研究・教育活動

(1) 拠点全体としての活動

①NIHU プログラム・イスラーム地域研究全体集会／公開シンポジウム「2011 年政変とアラブ諸国の民主化」

日時：2012 年 10 月 20 日（土）13:30～17:30

場所：東京大学本郷キャンパス浅野地区武田先端知ビル 5 階ホール

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、NIHU 地域研究早稲田大学中心拠点

共催：文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」

概要：詳細は総括事業の報告を参照。

(2) 研究グループの活動

①震災復興祈念シンポジウム&コンサート「世界に広がる人々のちからのネットワーク：新たな日本社会の再生に向けて」

日時：2012 年 4 月 14 日（土）13:30～17:30

場所：東京大学弥生キャンパス弥生講堂

主催：震災復興祈念シンポジウム&コンサート実行委員会

共催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、日本ハンガリー友好協会、ハンガリー文化センター、北海道大学 GCOE「境界研究の拠点形成」、宗教者災害支援連絡会（宗援連）、世界宗教者平和会議・日本委員会、ありがとう基金

概要：第一部（多様な支援ネットワークの広がり地域社会の再生）では、国内外のムスリム集団が、なぜ震災支援を実施したのか、国内宗教者の場合と比較しつつ、ムスリム・ネットワークの広がりにつ

いて検討した。第二部（危機管理と信頼社会）では、東京大学大学院農学生命科学研究科の協力のもと、食の安全と情報化社会を考える、ポスターセッションを行った。第三部（震災復興祈念コンサート）では、被災者とともにそれを支援する人々に向けた音楽会を実施した。

（阿久津正幸）

②シンポジウム「土地とイデオロギー：大岩川和正の現代イスラエル研究を起点として」第2回準備研究会

日時：2012年4月22日（日）13:00～18:00

場所：東京大学本郷キャンパス東洋文化研究所3階大会議室

概要：シンポジウム「土地とイデオロギー—大岩川和正の現代イスラエル研究を起点として」（6月9日）に向けた準備会として、報告予定者が発表予定内容を報告し、参加者全員による意見交換によって、全体内容を精査した。

（塩塚祐太）

プログラム

発表1：飛奈裕美（日本学術振興会特別研究員PD）エルサレムの政治と法について

発表2：吉年誠（一橋大学）パレスチナ／イスラエルの土地制度について

発表3：役重善洋（京都大学・院）日本のキリスト教シオニズムと植民政策論について

発表4：池田有日子（京都大学）米国のシオニストとユダヤ人の研究について

発表5：今野泰三（大阪市立大学院）宗教シオニズムと入植地について

③『板垣雄三先生インタビュー集第2巻』出版打ち合わせ

日時：2012年4月22日（日）

場所：諏訪市上諏訪

概要：すでに出版されたインタビュー第1集に続けて、第2集の出版のための準備のためのインタビューについて、事前に作成したインタビュー項目と内容について打ち合わせを行い、公開インタビューの円滑な実施のための作業を行った。

（阿久津正幸）

④シンポジウム「土地とイデオロギー：大岩川和正の現代イスラエル研究を起点として」

日時：2012年6月9日（土）12:30～18:30

場所：明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー10階1103番教室

共催：明治大学文学部地理学専攻、京都大学地域研究統合情報センター（CIAS）地域研究方法論プロジェクト（「地域研究における情報資源の共有化とネットワーク形成による分野融合型方法論の構築」）

概要：パレスチナの地におけるイスラエル入植村の現地調査によって、イスラエル国家によって人為的に線引きされ分断されたパレスチナ共同体の実態について、先駆的な研究を発表してきた大岩川氏の先駆的業績が、第一部の二つの基調講演によって紹介された。第二部では、大岩川氏の研究のその後を担うべき、パレスチナ問題・イスラエル研究にかんするさまざまな研究が報告された。

(阿久津正幸)

プログラム

第1部

挨拶・趣旨説明：長沢栄治（東京大学教授）

共催者からの挨拶：長岡顯（明治大学教授）

大岩川氏の業績紹介：鈴木啓之（東京大学・院）

第2部

基調講演 1 板垣雄三（東京大学名誉教授）「イスラエル研究のあり方を問う——大岩川和正さんの立脚点をヒントに」

基調講演 2 児玉昇（龍谷大学名誉教授）

質疑応答

第3部（若手による研究発表、発表各15分）

発表 1 飛奈裕美（日本学術振興会特別研究員 PD）

発表 2 吉年誠（一橋大学）

発表 3 役重善洋（京都大学・院）

発表 4 池田有日子（京都大学）

発表 5 今野泰三（大阪市立大学院）

質疑応答

第4部

総合コメント 1 早尾貴紀（東京経済大学専任講師）

総合コメント 2 臼杵陽（日本女子大学教授）

全体討論・質疑応答

閉会の挨拶 長沢栄治・東京大学教授

⑤パレスチナ／イスラエルに関する基本的な視点について議論するための研究会（2012年度第1回パレスチナ研究班定例研究会）

日時：2012年6月10日（日）13:00～17:30

場所：東京大学本郷キャンパス東洋文化研究所3階大会議室

共催：京都大学地域研究統合情報センター地域研究方法論プロジェクト

概要：イスラエル・パレスチナ問題に関して、和平プロセスの再考、ナショナリズムの概念の検討、歴史学におけるアイデンティティの扱い、日本人という視点からの貢献など、新しい視点による研究方法の試みが報告された。

(阿久津正幸)

プログラム

1. 趣旨説明（鶴見太郎）

2. 議論の題目

「『和平』をどう捉えるかーイスラエル／パレスチナ紛争における言説の錯綜」（論題提供者：錦田愛子・東外大AA研助教、中東現代政治・移民・難民研究）

「ナショナリズムという用語は普遍的か」（論題提供者：鶴見太郎・明治学院大学・東京大学非常勤講師、社会学・ロシア東欧系ユダヤ史・シオニズム史）

「歴史学の語りと近代的自己像はいかに関連するか」（論題提供：武田祥英・千葉大院、歴史学・英国委任統治前史）

「日本で研究する／日本から研究する：その意義と課題、そして発展」（論題提供者：鈴木啓之・東京大学大学院・日本学術振興会特別研究員（DC）、地域研究・パレスチナ抵抗運動史）

⑥北海道中央ユーラシア研究会第99回例会への参加

日時：2012年6月16日（土） 15:00～18:45

場所：北海道大学スラブ研究センター4階小会議室 401

概要：清水報告は、近代新疆におけるウイグル民族の形成プロセス解明という問題関心を念頭に置きつつ、民族名称「ウイグル」が採用されるまでの経緯とその後の展開を明らかにするとともに、ソヴィエト領における事例との比較検討を行い、その意義について考察した。秋山報告では、クルグズ首領層マナプが帯びていた「バートゥル」という称号に焦点が当てられ、彼らの首領としての権威が、クルグズ社会における活動とロシア帝国統治との関わりの中から考察された。

(清水由里子)

プログラム

報告1：清水由里子（中央大学文学部・兼任講師）

報告題目：「テュルクかウイグルか—20世紀前半期の知識人の言説に見る民族名称と歴史認識—」

討論者：桜間瑛（北海道大学大学院文学研究科・博士後期課程）

報告2：秋山徹（日本学術振興会特別研究員・財団法人東洋文庫）

報告題目：「バートゥル考—ロシア帝政期クルグズ人首領層の権威をめぐる一考察—」

討論者：長縄宣博（北海道大学スラブ研究センター・准教授）

⑦イスラーム地域研究東京大学拠点公募研究「近現代の中央アジア山岳高原部における宗教文化と政治に関する基礎研究」平成 24 年度第 1 回研究会

日時：2012 年 6 月 23 日（土）14:00～17:00

場所：東京大学本郷キャンパス法文 1 号館 2 階 217 教室

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点公募研究

共催：中央大学人文科学研究所・研究チーム「イスラーム地域における聖地巡礼・参詣」

概要：講演者の長期の現地調査と生活体験にもとづいて、バフティヤリー遊牧民の移動生活と宗教施設（墓地、廟、ライオン石など）の関わりについての具体的資料の提示と分析がなされた。中央アジア山岳高原部のイスラーム文化という考察視座への示唆もうかがわれた点で意義深いものであった。

（澤田稔）

プログラム

司会：澤田稔（富山大学）

使用言語：英語（通訳なし）

1. 講演

講演者紹介：守川知子（北海道大学）

講演者：Dr. Pedram Khosronejad（Department of Social Anthropology, University of St. Andrews, Scotland）

演題：“Some Reflections on the Diversity and Religious Functions of the Sacred Stones and Holy Places of the Bakhtiyari Nomads from the South-west of Iran”

2. 質疑応答・研究交流

⑧2012 年度第 2 回パレスチナ研究班定例研究会

日時：2012 年 7 月 28 日（土）・29 日（日）各 13:00～17:30

場所：東京大学本郷キャンパス東洋文化研究所 3 階大会議室

共催：京都大学地域研究統合情報センター（CIAS）地域研究における情報資源の共有化とネットワーク形成による異分野融合型方法論の構築研究会（2012 年度第 2 回）

概要：7 月 28 日は、政治・外交的側面からパレスチナ問題が検討された。7 月 29 日は、パレスチナ問題の構造的分析が試みられた。

（吉年誠・今井静）

プログラム

7 月 28 日

報告 1 佐藤寛和「パレスチナ問題の相克と政治的解決」

報告 2 今井静「中東和平プロセスの展開とヨルダンの経済外交」

7 月 29 日

報告 1 鈴木隆洋「貨幣・権力・占領」

報告 2 Esta Tina Ottman, “History’s wound: To what extent does the concept of collective trauma contribute towards understanding of Israeli and Palestinian positions in the Israel/Palestine conflict?”

⑨「板垣雄三先生公開インタビュー」第 2 回：モダニティをめぐって——世界史の書き換え

日時：2012 年 8 月 4 日（土）10:30～17:00

場所：東京大学本郷キャンパス東洋文化研究所 3 階大会議室

概要：2012 年 3 月に刊行されたインタビュー第 1 集では、研究者にとってのアクチュアリティをテーマとして、板垣先生自らが歩んできた実例や逸話を中心に話が進められた。対して今回は、モダニティ（近代）の概念を中心に、歴史（世界史）をみる方法論について、より踏み込んだ意見が交わされたインタビューとなった。

（阿久津正幸）

⑩GCOE Seminar “Religion and Politics in Today's Kazakhstan and Kyrgyzstan”／第 29 回中央ユーラシア研究会・特別セミナー

日時：2012 年 8 月 5 日（日） 14:00～17:00

場所：東京大学本郷キャンパス法文一号館 2 階 217 教室

共催：北海道大学グローバル COE プログラム「境界研究の拠点形成」

概要：ジュマグロフ氏は、クルグズスタンの宗教政策・制度やキリスト教や新興宗教を含む宗教事情に関する概説を述べた後、ウズベキスタン・イスラーム運動、イスラーム解放党、ジャイシュリ・マフディーといったイスラーム「過激主義」運動のクルグズスタンでの活動実態について詳解した。サーヴィン氏は、民族学の立場から世論調査の結果に基づくカザフスタン国民の宗教観や政府による宗教政策・制度の変化について述べた後、カザフスタン南部でのイスラーム「過激主義」浸透の諸要因について分析した。

（地田徹朗）

プログラム

司会：新免康（中央大学）

通訳：地田徹朗（北海道大学スラブ研究センター）

使用言語：ロシア語（日本語逐語通訳つき）

14:00～15:20

Bakytbek Jumagulov (Public Foundation Institute of Peace and Development in Central Asia, Kyrgyzstan) 「クルグズスタンにおけるイスラームと非合法宗教政党の活動」

15:30～16:50

Igor Savin (Shymkent State University, Kazakhstan) 「カザフスタンにおける宗教事情の現状と特質」

⑪東洋文庫特別講演会／第 30 回中央ユーラシア研究会特別講演会

日時：2012 年 9 月 28 日（金）17:00～

場所：（財）東洋文庫 2 階講演室

共催：（財）東洋文庫

講演者：Stephane A. Dudoignon 氏 (Senior Research Fellow at the CNRS, Lecturer at the EHESS and the IISMM, Paris)

題目：(Re-)Making the History of Soviet Islam: Some Emergency Tasks and Perspectives [英語・通訳なし]

概要：ソヴィエト連邦におけるイスラームの実践を二元対立的にとらえて（例えば、‘learned’と‘popular’、‘high’と‘low’、‘traditional’と‘non-traditional’、‘good’と‘bad’など）単純な見方を生みだしている従来の研究志向や現状を指摘した上で、講演者は主としてダゲスタンとタジキスタンのコルホーズやソフホーズにおける事例に微細な歴史的アプローチ（Micro-Historical Approach）を行い、ソ連邦期と 1991 年末のソ連邦解体後におけるイスラームの浸透や復興の具体相を描いた。これまでのソヴィエト・イスラーム研究に新しい視点をもたらしているのみならず、従来のソヴィエト・イスラーム理解を大きく変える可能性を感じさせる講演であった。

（澤田稔）

⑫イスラーム地域研究東京大学拠点公募研究「近現代の中央アジア山岳高原部における宗教文化と政治に関する基礎研究」平成 24 年度第 2 回研究会 International Conference “Basic Research on Religions Culture and Politics in Central Asian Mountain Areas in the Last Three Centuries”

日時：2012 年 9 月 29 日（土）14:00～17:00

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階大会議室

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点公募研究

概要：澤田は、タジキスタン山岳バダフシャー自治州西南部のイスマール派信徒居住地における文書収集作業の過程を紹介した上で、収集文書の特徴について簡便に整理して収集作業の総体を示した。ママドシェールザードシャーエフ氏は、本公募研究により収集されたペルシア語文書群、とりわけイスマール派に関する諸文書と住民の世俗生活にかかわる証書類について、作成の時代背景や教派組織、裁判所制度などに触れつつ解説をした。デュドワニョン氏からは、両報告に対し、裁判制度の変遷、系譜書、地域的歴史叙述など広い視野から多岐にわたるコメントが寄せられた。

（澤田稔）

プログラム

Chairperson: 稲葉穰 Inaba Minoru (Professor at Kyoto University)

Reports and Comment:

澤田稔 Sawada Minoru (Professor at the University of Toyama), “Badakhshan project and its activities”

Umed Sherzadshaev (Lecturer at the University of Central Asia, Khorog, Tajikistan), “Girdovari va tahqiqi asnodi ta'rikhii Pomir” (「パミール史関連文書の収集と研究」) (日本語通訳付き)

Comment by Stephane A. Dudoignon (Senior Research Fellow at the CNRS, Lecturer at the EHESS and the IISMM, Paris)

⑬シンポジウム「アラブの春」とイスラーム復興

日時：2012 年 10 月 8 日（月） 16:30～18:00

場所：明治大学リバティタワー6階 1063 室

共催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社会編成」、科学研究費基盤研究（B）（海外）「イスラーム民主主義」をめぐる思想展開と実現可能性に関する研究、科学研究費基盤研究（B）「イラン人によるネットワーク型社会運動の系譜と、その政治化に際しての諸問題の検討」

概要：革命の推移を現地で取材を続けてきたジャーナリストの視点と同時に、現代イスラームと政治との関係を追求する研究者の視点から、アラブの春がなぜイスラーム復興につながるのか、さらには革命後の選挙で国民の信託を受けて成立した、現イスラーム政権のゆくすえについて、幅広い議論が交わられた。

（阿久津正幸）

プログラム（報告者）

川上泰徳（朝日新聞国際報道部・機動特派員）

飯塚正人（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・教授）

コメント：臼杵陽（日本女子大学文学部 教授）

司会：山岸智子（明治大学政治経済学部 教授）

⑭パレスチナ研究班・研究会「エルサレムの現在とイスラエル／パレスチナの新しい未来像（Contemporary Jerusalem and New Vision for Israel/ Palestine）」（2012 年度第 3 回パレスチナ研究班定例研究会）

日時：2012 年 10 月 31 日（水） 16:00～19:00

場所：東京大学東洋文化研究所第一会議室

講演者：バシール・バシール Dr. Bashir Bashir（エルサレム・ヘブライ大学講師）

題目：エルサレムの現在とイスラエル／パレスチナの新しい未来像（Contemporary Jerusalem and New Vision for Israel/ Palestine）

共催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・基幹研究「中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社会編成」／MEIS「中東イスラーム研究拠点」

概要：言語や宗教など文化的な側面から、過去の歴史において多様性を内包してきた都市エルサレムの象徴性に注目すると、現在進行形のパレスチナ・イスラエル問題による領土分割のロジックには、倫理・道徳的観点に限らず、現在進行形の分割政策が破綻している現実が浮かび上がるという事実が焦点が当てられた。

（錦田愛子）

⑩内陸アジア史学会 2012 年度大会

日時：2012 年 11 月 4 日（日） 13:00～17:10

場所：北海道大学札幌キャンパス・人文社会科学総合研究棟 409 室

主催：内陸アジア史学会

共催：北海道大学スラブ研究センター、NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点

概要：荒川氏の講演は、中央アジアにおける遊牧国家とオアシス国家の共生関係を交易という観点から読み解こうとするものであり、トゥルフアン出土文書をはじめとする各種の史料から、中央アジアにおけるキャラバン交易や、オアシス国家の交易と農業の具体的様相が示された。長峰氏の発表は、17 世紀に著されたテュルク語の史書『集史』について、従来の本史料の名称の見直しも含めて、その史料的価値の再検討を試みるものであった。高本氏の発表では、1942 年に満洲国興安北省で建立された「時輪金剛仏曼荼羅廟」に焦点が当てられた。秋山氏の発表は、ロシア統治下におけるクルグズ首領層の権威の様態を、シャブダンという一人のマナブを軸として明らかにすることを試みるものであった。

（清水由里子）

プログラム

公開講演：荒川正晴（大阪大学・教授）「前近代中央アジアの国家と交易」

研究発表

長峰博之（希望学園 北嶺中・高等学校・教諭）「カーディル・アリー・ベグとその史書について：ジョチ・ウルス「内部史料」の史料的可能性とその歴史認識」

高本康子（北海道大学スラブ研究センター・学術研究員）「大陸における対「喇嘛教」活動」：満洲国興安北省を中心に」

秋山徹（日本学術振興会・特別研究員・（財）東洋文庫）「ロシア統治下におけるクルグズ首領層の権威：遊牧世界とイスラーム世界のあいだで」

⑩研究会「戦時期日本の喇嘛教・回教工作」への参加

日時：2012 年 12 月 1 日(土)

場所：東京理科大学 PORTA 神楽坂 7 階第 3 会議室

主催：新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」第 4 班、科学研究費補助金基盤研究 (B)「1920 年代から 1930 年代中国周縁エスニシティの民族覚醒と教育に関する比較研究」、科学研究費補助金基盤研究 (B)「近代化とグローバル化の文脈における比較帝国史」

概要：セッション 1 の高本報告では、明治以降の日本（人）と「喇嘛教」（チベット仏教）の関係史を整理した後、満洲国の宗教政策の全体像の中で、主にモンゴル人に対する「喇嘛教」（チベット仏教）工作の展開が述べられた。当該分野の先駆的研究者であるナランゴアの報告は、日本の仏教政策（「喇嘛教」を含む）が「満洲国（人）」という枠組みでなく、「モンゴル（人）」という枠組みで展開されていた点を強調し、真宗諸派の取り組みなどを写真・インタビュー等も交えて紹介した。セッション 2 の安藤報告では、回教工作の中心地である華北に焦点をあて、特に「中国回教総聯合会」の形成過程と、そこへの回民の関与・参加について詳細な考察がなされた。小林報告は、インドネシア（ジャワ）における回教工作が、現地イスラーム指導者や団体の組織化に大きく寄与し、独立後のインドネシアに於けるイスラーム指導者の権力拡大へと連なっていく流れが示された。

(小沼孝博)

プログラム

セッション 1「大陸における「喇嘛教」活動」（13：30～15：20）

発表 1：高本康子（北海道大学）

「日本人と「喇嘛教」—満洲国における「喇嘛教」工作を中心に—」

発表 2：リ・ナランゴア（オーストラリア国立大学）

“Japanese Buddhist Activities in Inner Mongolia”

討論者：広川佐保（新潟大学）

司 会：島田美和（慶應義塾大学）

セッション 2「中国・東南アジア地域における回教工作時間」（15：50～17：10）

発表 1：安藤潤一郎（東洋大学）

「日中戦争期の中国大陸における日本の回教工作と回民社会—華北を中心に—」

発表 2：小林寧子（南山大学）

「日本の回教工作の展開と帰結—インドネシアを中心に—」

討論者：松本ますみ（敬和学園大学）

司会：宇山智彦（北海道大学）

全体討論（17：20～18:00）

司会：長縄宣博（北海道大学）

⑩合同シンポジウム「エジプト 7 月革命（1952 年）をめぐって：新たな変革期における『革命』再論」

日時：2012 年 12 月 8 日（土） 12:45～18:40

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階大会議室

共催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究京都大学拠点、科学研究費基盤研究（A）「アラブ革命と中東政治の構造変動に関する基礎研究」プログラム

概要：詳細は京都大学拠点の報告を参照。

⑪基盤研究・民主化班合同研究会「アラブ革命その後の展開：エジプト・チュニジア・シリアの事例から」

日時：2012 年 12 月 16 日（土） 13:30～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所大会議室

共催：文部科学省科学研究費基盤研究（A）「アラブ革命と中東政治の構造変動」

概要：エジプトについては、ムルシー新大統領の言動から、2011 年革命後のエジプト現体制を過去の体制と比較した考察がなされた。チュニジアについては、フィールドワークの結果によって、革命後の状況の分析が行なわれた。内戦が進展するシリアについては、過去の歴史的経緯から、宗派対立、中央集権化も国民意識の醸成も進まなかったことが、現在の混乱の一つの背景であることが示された。

（松本弘）

プログラム

報告 1：長沢栄治（東京大学）「エジプト 2012 年夏」

報告 2：岩崎えり奈（共立女子大学）「フィールドワーク調査報告—チュニジアを中心に」

報告 3：ホッサヌ・ダルウィッシュ（JETRO アジア経済研究所）「シリアとアラブの春」

⑫日本学術会議公開シンポジウム「地域研究の「粋」を味わう—現地から中国、東南アジア、アフリカ、中東を読む」

日時：2012 年 12 月 19 日（水） 13:00～18:00

場所：日本学術会議

主催：日本学術会議地域研究委員会地域研究基盤整備分科会

共催：地域研究コンソーシアム（JCAS）、京都大学地域研究統合情報センター（CIAS）、NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点

概要：本シンポジウムでは、長年にわたって様々なフィールドを舞台に地域研究に携わってきた第一線の専門家たちから、地域研究の魅力や可能性、そして課題が提示された。シンポジウムは基調講演と報告の二部構成で成り立っていた。第一講演者の酒井啓子氏は、地域研究について、日本を含む国際社会の動態が作用する場として見る営みであることを力説した。第二講演者の武内進一氏は、日本人が日本をベースに研究を行なう際に、迅速かつ的確な現状分析力が鍵となる点を説いた。次いで、国分良成

氏、松田素二氏および、長沢英治氏の三名の専門家が、個別の研究に即した報告をおこなった。

(秋山徹)

プログラム

13:00 開催趣旨説明 田中耕司（日本学術会議第一部会員、京都大学特任教授、学術研究支援室長）

13:10-13:40 基調講演

酒井啓子（日本学術会議第一部会員、千葉大学法経学部教授）

武内進一（日本学術会議連携会員、日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センターアフリカ研究グループ長）

13:40 第一報告

国分良成（日本学術会議連携会員、防衛大学校学校長）中国「地域研究としての中国研究—世界と日本のあいだ」

14:25 第二報告

桜井由躬雄（東京大学名誉教授、京都大学客員教授） 東南アジア「ベトナムの小村バックコックを舐める—「私」の地域学の20年—」

15:10 休憩

15:25 第三報告

松田素二（京都大学文学研究科 教授）アフリカ「アフリカから多文化・多民族共生の技法を学ぶ—地域研究の醍醐味」

16:10 第四報告

長沢栄治（東京大学東洋文化研究所 教授）中東「地域研究における私的なものと公的なもの」

16:55 総合討論

国分良成（日本学術会議連携会員、防衛大学校学校長）中国

桜井由躬雄（東京大学名誉教授、京都大学客員教授） 東南アジア

松田素二（京都大学文学研究科 教授）アフリカ

長沢栄治（東京大学東洋文化研究所 教授）中東

酒井啓子（日本学術会議第一部会員、千葉大学法経学部教授）

武内進一（日本学術会議連携会員、日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センターアフリカ研究グループ長）

17:55 閉会の辞

小松久男（日本学術会議第一部会員、東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授）

②TIAS-JSPS International Workshop “Whither Palestine/Israel after “the Arab Spring”? (2012 年度第 4 回パレスチナ研究班定例研究会)

日時： 2013 年 1 月 14 日(月) 13:00～17:30

場所： Main Conference Room, 3rd Floor, Institute for Advanced Studies on Asia, the University of Tokyo

共催： Grants-in-Aid for Scientific Research - Japan Society for the Promotion of Science

概要：サーリム報告は、パレスチナ問題の発端の起源に遡って、現状を打開する方法が模索された。ケラー報告は、「アラブの春」による各国の政治・社会的変化に対するイスラエル社会の反応と、パレスチナ自治政府の今後という二つの視点が示された。ラブキン氏からは、パレスチナ問題をめぐる三つの中核的な国、ロシア、中国、インドのかかわりから報告がなされた。

(鈴木隆洋、今井静香、錦田愛子)

プログラム

13:00-

Report (1) Walid Salem

“The Changes in the Region and their Impact on the Prospects of Comprehensive Middle Eastern Peace”

Comment & Discussion

Report (2) Adam Keller

“Wrestling on a Shaky Ground — Israelis, Palestinians, the Arab Spring and a Declining Superpower”

Comment & Discussion

15:00- Tea Break

15:10-

Report (3) Yakov Rabkin (40 min)

“Three Non-Western Nuclear Powers (China, India, Russia) and the Israel/Palestine Conflict”

Comment & Discussion

16:00- General Discussion

17:30- Concluding Remarks (Akira Usuki)

②基幹研究「中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社会編成」・国際ワークショップ、二国家解決案への新しいアプローチ—パレスチナ国家の国連承認後の動きを受けて— (“New approaches to two states solution after the UN bid”) (2012 年度第 5 回パレスチナ研究班定例研究会)

日時： 2013 年 1 月 16 日(水) 16:00～18:00

場所： 東京外国語大学 AA 研マルチメディア会議室(304)

講演者：ワリド・サーリム (民主主義コミュニティ開発センター (エルサレム)、所長)

題目：二国家解決案への新しいアプローチ—パレスチナ国家の国連承認後の動きを受けて—

主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・基幹研究「中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社会編成」

共催：科研費基盤研究（A）「アラブ革命と中東政治の構造変動」

概要：国際社会においては、正式に承認されたパレスチナだが、その一方で問題の当事者であるイスラエル側の強硬な政策が継続する背景について、現行の和平交渉の具体的問題点から分析・指摘され、事態の進展にあわせた具体的な解決案が示された。

（錦田愛子）

㊤ヤコブ・ラブキン京都講演会報告

日時：2013 年 1 月 17 日（木） 16:00～18:00

場所：京都大学本部機内総合 2 号館 4 階会議室

講演者：ヤコブ・ラブキン

題目：Why Has Israel Become the Darling of the Right-Wingers?

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究京都大学拠点

共催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、科研費基盤研究（A）「アラブ革命と中東政治の構造変動」

概要：詳細は京都大学拠点の報告を参照。

㊤第 31 回中央ユーラシア研究会特別講演会

日時：2013 年 1 月 21 日（月） 13:00～15:00

場所：東京大学本郷キャンパス・法文 1 号館 311 番教室

講演者：シェリンアイ・マソティ（新疆師範大学言語学院・准教授、大阪大学大学院人間科学研究科・外国人招聘研究員）

題目：「新疆ウイグル自治区におけるウイグル語と漢語の言語接触について：2010 年における調査の紹介を中心に」〔中国語：日本語通訳つき〕

共催：中国ムスリム研究会、中央大学政策文化総合研究所「中央ユーラシアと日本」プロジェクト

概要：本講演は、中国・新疆ウイグル自治区におけるウイグル語と漢語の言語接触に関して検討するものであった。近年ウイグル族・漢族の共存状況が顕著に現出しつつある状況を受けて、「中国国家社会科学基金西部項目」の研究課題「新疆維漢語言接触的社會變量分析」により 2010 年に新疆各地で実地調査が実施された。講演者は、その成果をもとに、ウイグル族と漢族の相互の言語と言語学習に関する認識と態度について考察し、これらの点において両民族に大きな差異が認められることを指摘した。また、ウイグル族の使用言語の選択が、話す相手および場所と比較的密接な関係をもつことを明らかにした。

（新免康）

②国際ワークショップ Mutual Influences between Economic Development and ‘Moderate Islamism’ in the Non-Oil-Producing Middle Eastern Countries

日時：2013 年 2 月 15 日(金) 12:55～18:45

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階大会議室

主催：日本国際問題研究所

共催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、NIHU プログラム・イスラーム地域研究
京都大学拠点、文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」東京大学拠点

概要：本ワークショップは、翌 16 日開催の国際シンポジウムに先だって非公開形式で行われた。シン
ポジウムでコメンテーターを務める日本人研究者が研究報告を行い、シンポジウムで報告する海外から
の招聘者がコメンテーターを務めるというように、役回りを変えることにより、二日間にわたる会議の
議論をより深めることを意図したものと思われる。第 1 セッションでは、エジプトとトルコの経済状況
を対外関係との関わりから見た報告がなされ、第 2 セッションではエジプトのヴェール問題、トルコの
ギュレン運動、そしてイスラーム金融全般について報告がなされた。

(五十嵐大介)

プログラム

12:55 Opening Remark 長沢栄治（東京大学教授）

13:00-15:00 First Session: Economic Situations in Egypt and Turkey

Presenters:

土屋一樹（アジア経済研究所研究員）:Foreign Economic Relations of Egypt in 2000s

今井宏平（中央大学大学院）The Roles of Economy and Business Organizations in Turkish Foreign Policy

Commentators:

ハイリー・トゥールク（イリノイ工科大学教授）

ギョクハン・バジュク（ズィルヴェ大学中東戦略研究センター長）

15:00-15:15 Coffee Break

15:15-18:00 Second Session: Islamic Finance and ‘Moderate Islamist’ Movements

Presenters:

後藤絵美（東京大学特任研究員）Tears and Veils: Representation of ‘Faith’ in the Contemporary Islamic
Movement

長岡慎介（京都大学大学院准教授）Islamic Finance in the Second Decade of the 21st Century: Challenge
and Struggle between Aspiration and Reality

トゥラン・カヤオウル（ワシントン大学准教授）Turkish ‘Moderate Islamist’ Movement

Commentators:

シハーブ・マルズバーン（シェクラ・クラウド・ファンディング業務執行パートナー、ザード大

学客員講師)

イブラヒム・オズチュルク (マルマラ大学教授)

18:00-18:40 General Discussion

18:40-18:45 Closing Remarks 長岡慎介

㊤国際シンポジウム『「穏健イスラーム主義」の倫理と経済発展と民主化』

日時：2013年2月16日(土) 9:55～17:30

場所：東京大学武田先端知ビル5階武田ホール

主催：日本国際問題研究所

共催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、NIHU プログラム・イスラーム地域研究
京都大学拠点、文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」東京大学拠点

概要：本シンポジウムでは、トルコとエジプト出身で、欧米でも活動する5人の研究者・実務家が報告した。第1パネルでは、トゥールク氏がエジプトの近代化を日本のそれと比較した報告を、バジユク氏が「アラブの春」以降のトルコ経済に関する報告を行った。第2パネルでは、マルズバーン氏が「アラブの春」以降のエジプトにおけるイスラーム金融について、カヤオウル氏がトルコのギュレン運動について報告した。第3パネルでは、オズチュルク氏がトルコのイスラーム的事業家の活動を引きながら、資本主義に代わる新たな経済発展の倫理と制度を模索する現状の報告を行った。討論では、「穏健イスラーム主義」という枠組みの設定そのものの妥当性や、それと「経済発展」「民主化」を並列して議論することの是非についても踏み込んだ議論がなされた。

(五十嵐大介)

プログラム

開会の辞 野上義二 (日本国際問題研究所理事長)

第1パネル 中東諸国の経済の現状と課題：エジプト、トルコを中心に

ハイリー・トゥールク (イリノイ工科大学教授)「中東(特にエジプト)と東アジアにおける近代化の政治経済：比較史的分析」

ギョクハン・バジユク (ズィルヴェ大学中東戦略研究センター長)「中東の地域的文脈におけるトルコの経済発展」

コメント：土屋一樹 (アジア経済研究所研究員)、今井宏平 (中央大学大学院)

第2パネル 「イスラーム経済」と「穏健イスラーム主義」

シハーブ・マルズバーン (シェクラ・クラウド・ファンディング業務執行パートナー、ザード大学客員講師)「エジプトにおけるイスラーム金融の発展とインパクト：非産油中東諸国の金融市場とイスラーム主義の影響」

ムスタファ・シャーヒン (トルコ共和国開発省開発研究センター長)「トルコの経済開発政策と

アナトリアの中小企業」

トゥラン・カヤオウル（ワシントン大学准教授）「トルコの『穏健イスラーム主義』運動」

コメント：長岡慎介（京都大学大学院准教授）、イディリス・ダニシマズ（同志社大学大学院助教）、後藤絵美（東京大学特任研究員）

第3パネル 「穏健イスラーム主義」の倫理と経済発展と民主化

イブラヒム・オズチュルク（マルマラ大学教授）「経済発展のための新しい倫理と制度を求めて：イスラームの視点から」

総合討論

閉会の辞 大稔哲也（東京大学大学院准教授、イスラーム地域研究東京大学拠点代表）

㊼2012年度第6回パレスチナ研究班定例研究会

日時：日時：2013年2月16日（土） 12:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所3階大会議室

共催：京都大学地域研究統合情報センター（CIAS）「地域研究における情報資源の共有化とネットワーク形成による異分野融合型方法論の構築」研究会（2012年度第2回）

概要：インティファダとして知られる、パレスチナ問題における抵抗者側の状況の変遷から、同問題をとりまく国際的視点と同時に、地域的政治構造について包括的な解明が試みられた。

（阿久津正幸）

プログラム

鈴木啓之「抵抗の軌跡と1987年インティファダ：キャンプ・デーヴィッド合意（1978年）以降を中心に」

錦田愛子「パレスチナ政治指導部の変容と二つのインティファダ」

㊽国際シンポジウム“Central Asia Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Central Asian Regional Sphere”

日時：2013年3月2日（土）～3日（日）

場所：(財)東洋文庫・講演室

主催：(財)東洋文庫

概要：本シンポジウムにおいては、東洋文庫の「総合アジア圏域研究」の枠により、「中央アジアをめぐる多角的な地域関係がアジアの中でどのような位置を占めており、アジアの地域連関にどのように影響しているかにつき内外からの検討を加える」ことが課題とされた。本シンポジウムは3セッションから構成され、全体のオーガナイザは東洋文庫研究部長の濱下武志、各セッションのコーディネータは梅村坦（第1）、小松久男（第3）、そして新免（第2）が担当した。会議言語は、ディカッションを含め、

基本的に英語であった。本シンポジウムにおいては、各セッションにおけるテーマ設定の下、外国から招へいされた 5 名のスピーカーを含め、いずれも興味深い報告が行われた。中央アジアをめぐって様々な領域を専門とする研究者たちが相互に知見を深めることができ、諸時代・分野・テーマにまたがる学術交流の場となった点は特筆に値する。

(新免康)

プログラム

3 月 2 日 (土)

KEYNOTE SPEECH (13:30-13:45)

Organizer: Hamashita Takeshi (Research Department Head, Toyo Bunko)

【第 1 セッション】(13:45-16:45) The Multi-dimensional Character of Central Asian Cultures as Seen from the Variety of the Scripts and Languages of Excavated Texts

Coordinator: Umemura Hiroshi (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Chuo University)

Dohi Yoshikazu (Research Fellow, Toyo Bunko) “The Dynamism Inherent in Han Chinese Personal Names as Shown in Index of Chinese Surnames Appearing in the Dunhuang Chinese Documents Dating from the Late 8th to the Early 11th Century”

Peter Zieme (Professor, Institute of Turcology, Free University, Berlin) “Personal Names of Central Asian Christians: Focusing on Old Uighur Manuscripts”

Takeuchi Tsuguhito (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Kobe City University of Foreign Studies) “Various Ethnic Groups with Tibetan Personal Names in the 9th-12th c. Texts and Inscriptions”

Commentators: Yoshida Yutaka (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Kyoto University)

Matsui Dai (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Hirosaki University)

3 月 3 日 (日)

【第 2 セッション】(9:30-12:30) The Regional Image of Central Asia as Portrayed in 18th-20th Century Historiography: Central Asian, Chinese and Russian Perspectives

Coordinator: Shinmen Yasushi (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Chuo University)

Onuma Takahiro (Associate Professor, Tohoku Gakuin University) “The Qing Dynasty and Its Central Asian Neighbors”

Obiya Chika (Associate Professor, Center for Integrated Area Studies, Kyoto University) “Imperial Russia's Eyes on Central Asia: Turkestanskii Sbornik as a Set of Colonial Knowledge”

Ablet Kamalov (Chief Research Associate, Institute of Oriental Studies named after R.B. Suleimenov under the Ministry of Education and Science of Republic of Kazakhstan, Almaty) “Xinjiang in the Focus of Uyghur Studies in Soviet Central Asia”

Commentator: Nakami Tatsuo (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies)

【第3セッション】(13:30-16:30) The Revival of Islam in Central Asia: Links with West and South Asia

Coordinator: Komatsu Hisao (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Tokyo University of Foreign Studies)

Stephane Dudoignon (Senior Research Fellow, Centre National de la Recherche Scientifique, Paris)

“Interactions between the Near and Middle East, Central and Inner Asia in the Muslim Religious Field”

Bayram Balci (Visiting Scholar at Carnegie Endowment for International Peace, Washington DC) “The

Jama’at al Tabligh in Kirghizstan and Kazakhstan and Its Contribution to the Recreation of Islamic

Relations between Central Asia and Indian Subcontinent”

Yamane So (Professor, Osaka University) “Think Umma, Use the Modern-Networks of Modern Muslim Intellectuals in South Asia, 1900-1930”

Commentator: Uyama Tomohiko (Research Fellow, Toyo Bunko; Professor, Slavic Research Center, Hokkaido University)

㊤第32回中央ユーラシア研究会特別講演会

日時：2013年3月5日(火) 11:00～15:00

場所：東京大学本郷キャンパス・法文1号館217番教室

講演者：Bayram BALCI氏 (Visiting Scholar at Carnegie Endowment for International Peace, Washington DC)

題目：Islam in Azerbaijan between Turkish Sunnism and Iranian Shia Influences [英語・通訳なし]

概要：カフカースにおける近年のイスラーム復興の主要な外部要因である、トルコからのスンニ派、イランからのシーア派、アラブ世界からのサラフィー主義の三つについて検討が加えられた。かつて世俗化されたソ連社会において人々はシーア派とスンニ派の差をほとんど意識せず、宗教的というよりはむしろ文化的なアイデンティティとして自身をムスリムと見做していたが、イスラーム復興におけるイランとトルコの関与はカフカースのシーア派とスンニ派の違いを顕在化させたこと、各国政府はこの多様化への対処を迫られたが、特にアゼルバイジャン政府は国家によって管理可能なイスラームの創出を目指していることなどが指摘された。

(植田暁)

㊤2012年度第7回パレスチナ研究班定例研究会

日時：2013年3月16日(土) 13:00～18:00、3月17日(日) 9:00～12:00

場所：京都大学吉田キャンパス本部構内 総合研究2号館4階第1講義室 (AA401)

共催：京都大学地域研究統合情報センター (CIAS)「地域研究における情報資源の共有化とネットワーク形成による異分野融合型方法論の構築」研究会 (2012年度第3回)

概要：TIAS、CIAS 共同研究会として実施してきた 2 年間の成果を踏まえ、参加者全員で議論する形式をとった。異なる方法論やディシプリンから得られる刺激や、それぞれ方法論の利点・欠点、相互の連携・補完の可能性などについて、具体的な議論を交わした。

(錦田愛子)

⑩ムスリム団体による社会福祉活動の調査

日時：2013 年 3 月 24 日(日)～3 月 25 日(月)

場所：Vefa Suleimanie 日本本部、アフマディア教団日本本部（名古屋市）

概要：トルコ系の社会福祉活動団体 Vefa Suleimanie 日本本部、パキスタンのアフマディア教団日本本部を訪問し、各種の社会福祉活動を実施する状況について聞き取り調査を行い、活動の実態を把握し、そのねらいを調査した。

(阿久津正幸)

3. 海外派遣・調査

(1)研究グループの活動

①UAE 及びイラクにおける民主化に関するインタビュー調査

出張期間：2012 年 5 月 15 日(火)～25 日(金)

出張先：ドバイ (UAE)・エルビル (イラク)

出張者：吉岡明子（財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究員）

概要：ドバイでは、駐在日本人を中心にイラクの金融、経済、及びエネルギー産業についてのインタビューを行った。エルビルでは、クルディスタン地域政府関係者、クルディスタン民主党関係者、学術関係者、ジャーナリスト、企業関係者などへ、連邦政府と KRG との関係や域内政治状況、近隣諸国対外関係について、またクルディスタン地域の投資及び貿易状況などについてヒアリングを行った。エルビルについては、さらに現地の治安や経済状況を直に体験し、復興が進展している状況を確認することができた。

(吉岡明子)

②カザフスタンにおけるインタビュー調査

出張期間：2012 年 7 月 27 日(金)～8 月 26 日(日)

出張先（国名）：アルマトゥ市（カザフスタン共和国）

出張者：Konuralp Ercilasun（トルコ、ガーズィー大学）

概要：「カザフスタンにおけるソ連時代の記憶」研究のため、まず旧首都アルマトゥ市において、教育科学省科学アカデミーおよび国立カザフ大学の関係部局と連絡をとり、調査への協力を求めた。その後、カザフスタ

ン東部の中心都市ウスチ・カメノゴルスクおよびモンゴル、中国国境付近の農村部において、ソ連時代の一般市民の日々の生活に関して 15 人にインタビューを実施した。

(Konuralp Ercilasun)

③ウズベキスタンにおける史料調査

出張期間：2012 年 8 月 13 日(月)～8 月 23 日(木)

出張先：ウズベキスタン中央国立アルヒーフ（ウズベキスタン共和国）

出張者：塩谷哲史（筑波大学人文社会系助教）

概要：ウズベキスタン中央国立アルヒーフには「トルキスタン総督官房」および「トルキスタン総督付外交官房」フォンドに分類された文書群が所蔵されている。同文書群はロシア帝国の中央アジアにおける軍政執行機関であるトルキスタン総督府の政策決定過程や清朝を始めとする隣接国との交渉をめぐる往復書簡、報告書、会議議事録などからなっている。本調査により、トルキスタン総督府と保護国（ブハラ、ヒヴァ）および隣接国との河川の水利利用をめぐる交渉過程から、帝政末期のロシア帝国中央が目指した水資源の統一管理に向けた改革とその限界が明らかになってきた。

(塩谷哲史)

④中国瀋陽における史料調査

出張期間：2012 年 10 月 16 日(火)～10 月 19 日(金)

出張先（国名）：遼寧省博物館（中国）

出張者：小沼孝博（東北学院大学文学部講師）

概要：遼寧省博物館が所蔵する、1788 年（乾隆 53）に清の乾隆帝がコーカンド・ハーン国のナルブタ・ビィに宛てた、満洲語・トド文字モンゴル語（オイラト語）・アラビア文字テュルク語（チャグタイ語）の三言語合璧の勅書を調査した。本勅書は、現存する唯一の清から発送された書簡（「行文」）であり、また、乾隆帝がカシュガル・ホージャ家のサリムサクの捕縛と引き渡しをナルブタに求めるという興味深い内容を持つ。本調査では、テュルク語部分の筆写が許可され、その構文が満洲語の逐語訳であることを明らかにできた。本勅書は、清とコーカンドの外交関係の研究だけでなく、清朝宮廷における多言語文書起草の状況を知る上での一級史料であることは疑いなく、更なる研究が必須である。

(小沼孝博)

⑤ウズベキスタンにおけるムスリム社会の変容に関する調査

出張期間：2013 年 2 月 8 日(金)～16 日(土)

出張先（国名）：タシュケント市、ブハラ市（ウズベキスタン共和国）

出張者：今堀恵美（聖心女子大学非常勤講師）

概要：今回の調査では、2010 年に調査したハラール製品の近況およびブハラ州における刺繍制作の変容について追加聞き取り調査を実施した。特筆すべきは、今回はハラールと表示された肉加工食品がスーパーに多数並んでいたが、今回はハラールと表示された製品は完全に払拭されていた点である。インタビュー調査から、その原因が、「ハラール」表示をめぐる信頼性に関する疑問が広まり、企業側で自粛した結果であることが分かった。現在世界ではハラール表示が強化される傾向にあるなか、ウズベキスタンでは逆にハラール表示を完全に廃止する選択をしたことが明らかになった。

（今堀恵美）

⑥カザフスタンにおけるインタビュー調査

出張期間：2013 年 2 月 22 日（金）～3 月 3 日（日）

出張先（国名）：アルマトゥ市（カザフスタン共和国）

出張者：Konuralp Ercilasun（トルコ、ガーズィー大学）、Guljanat Kurmangaliyevna Ercilasun（トルコ、ガーズィー大学）

概要：「カザフスタンにおけるソ連時代の記憶」研究のため、主に旧首都のアルマトゥおよびその近郊で、ソ連時代の一般市民の生活に関するインタビュー調査を実施した。今回の調査では、カザフスタンにおけるソヴィエト政権の樹立や集団化時代の一般市民の生活に関して、新しい情報が得られた。また、現在の中央アジアにおける社会の変容についても聞き取ることができた。

（Guljanat Kurmangaliyevna Ercilasun）

⑦モロッコ調査

出張期間：2013 年 2 月 22 日（金）～3 月 3 日（日）

出張先（国名）：ラバト（モロッコ）

出張者：中川恵（羽衣国際大学現代社会学部教授）

概要：ラバトのモロッコ外務省、USFP 党党首、その他 NGO 団体などで、アラブ諸国において進展する改革の波とともに、モロッコ国内の改革状況について聞き取り調査を実施し、同時に関連文献の収集を実施した。

（中川恵）

⑧インドネシア調査

出張期間：2013 年 2 月 24 日（日）～3 月 5 日（火）

出張先（国名）：ジャカルタ（インドネシア）

出張者：阿久津正幸（東京大学大学院人文社会系研究科特任研究員）

概要：ジャカルタでは、ナフダトゥル・ウラマー本部、環境相環境問題担当官、初代環境大臣にイン

タビューを行い、環境問題という現代的課題が、イスラーム的価値観による理解によって推進される独自の姿勢を確認することができた。ジョグジャカルタでは、ムハマディア本部、ムハマディア第5高校、環境改善住民グループでインタビューを行い、同様にイスラームが現代的課題を解決する重要な触媒となっている事例を確認することができた。

(阿久津正幸)

4. 研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔図書〕計（1）件

著者名	書名	出版社	巻	発行年	ページ
<u>KAWAHARA</u> Yayoi (研究分担者) and Umed MAMADSHER ZODSHOEV	<i>Documents from Private Archives in Right-Bank Badakhshan 1849-1944 (Facsimiles)</i>	TIAS: Department of Islamic Area Studies Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, the University of Tokyo (TIAS Central Eurasian Research Series)	8	2013	xiv+232

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（110）件

著者名	論文標題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
大稔 哲也 (拠点代表)	「アラブの風---「エジプト1月25日革命」研究の「遠近法」と「複奏化」---	『史学雑誌』	121-9	2012	33-35
小松 久男 (研究分担者)	「汎イスラーム主義再考」	塩川伸明・小松久男・沼野充義編『記憶とユートピア』(ユーラシア世界3) 東京大学出版会	3	2012	19-50
Hisao KOMATSU (研究分担者)	“Japonlar Açısından Âlem-i İslâm”	<i>Türk-Japon İlişkilerinin Dönüm Noktasında Abdürreşid İbrahim</i>		2012	81-95
SHINMEN Yasushi (研究分担者) ONUMA Takahiro (研究協力者)	“First Contact between Ya‘qūb Beg and the Qing: The Diplomatic Correspondence of 1871”	『アジア・アフリカ言語文化研究』	84	2012	5-37
小沼 孝博 (研究協力者) 新免 康 (研究分担者) 河原 弥生 (研究分担者)	「国立故宮博物院所蔵 1848 年両件浩罕来文再考」	『輔仁歴史学報』	26	2011	107-138

新免 康 (研究分担者)	「中央アジアにおけるウイグル人の越境とその背景」	帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『中央アジア』朝倉世界地理講座—大地と人間の物語第5巻、朝倉書店		2012	314-324
濱本 真実 (研究分担者)	「ポーランド＝リトアニア・タタール人のイスラームの記憶」	塩川伸明・小松久男・沼野充義編『記憶とユートピア』(ユーラシア世界3)東京大学出版会		2012	189-216
長沢 栄治 (研究分担者)	「門戸開放期エジプトの国家と社会」	柳沢悠・栗田禎子(共編)『持続可能な福祉社会へ：公共性の視座から(第四巻アジア・中東)』勁草書房		2012	239-68
	「アラブ革命の構想力—グローバル化と社会運動—」	『歴史学研究』	898	2012	12-20
USUKI Akira (研究分担者)	“A Japanese Asianist's View of Islam: A Case Study of Ōkawa Shūmei”	『日本中東学会年報(AJAMES)』	28-2	2012	59-84
臼杵 陽 (研究分担者)	「汎イスラーム主義と汎アラブ主義の新段階——一九三一年エルサレム・汎イスラーム会議からの考察」	松浦正孝編『アジア主義は何を語るのか—記憶・権力・価値』		2013	274-291
	「第二次世界大戦期ドイツにおけるパレスチナ人指導者：ハーッジ・アミン・アル・フサイニーとナチスの関係をめぐる最近の研究動向」	『経済志林』法政大学経済学部学会	79-4	2012	113-140
	「アラブ革命の行方(特集 民衆運動の同時代性)」	『ピープルズ・プラン』ピープルズ・プラン研究所	57	2012	44-51
	「アラブ革命とこれからの世界の行方(特集 日本の未来・世界の未来)」	『学際』構造計画研究所	24	2012	68-75
飯塚 正人 (研究分担者)	「「アラブ革命」再考——2011年市民決起の真相」	『中東研究』	514	2012	14-20
	「民主化とイスラーム——「アラブの春」がもたらした文明の岐路」	国際宗教研究所(編)『現代宗教2012』		2012	191-218
	「イスラームとは何か?—従うべき「知」<神の命令>を求めて—」	床呂郁哉・西井涼子・福島康博(編)『東南アジアのイスラーム』		2012	25-28
松本 弘 (研究分担者)	第4章「イエメンの民主化と部族社会—変化の中の伝統—」	酒井啓子編『中東政治学』有斐閣		2012	67-80

池田 美佐子 (研究分担者)	「2012 年度春期東洋学講座講演 要旨 (第 531 回 6 月 29 日 (金)) エジプトにおける民主主義の系 譜と議会文書)」	『東洋學報』	94-2	2013	104-105
	「受験競争の過熱と教育格差の 現実」	鈴木恵美 (編著)『現代 エジプトを知るための 60 章』明石書店		2012	217-221
	「エジプトにおける反軍事同盟 運動 (1946 年)」	歴史学研究会編『世界 史史料』第 11 卷 (20 世紀の世界 II) 岩波書 店		2012	37-39
Yasushi Hazama (研究分担者)	“Hegemonic Preservation or Horizontal Accountability: Constitutional Review in Turkey”	<i>International Political Science Review</i>	33	2012	421-440
青山 弘之 (研究分担者)	「「蘇生国家」レバノンにおける 紛争再生産のしくみ——「独立イ ンティファダ」の功罪——」	佐藤章編『紛争と国家 形成——アフリカ・中 東からの視覚』JETRO アジア経済研究所		2012	25-59
	「混迷するシリア情勢について (東西南北)」	『青淵』	764	2012	14-16
	「シリア——複雑化する紛争の 絶望的未来—— (世界の潮)」	『世界』	835	2012	20-24
	第 2 章「シリアにおける権威主義 体制のしくみ」	酒井啓子編『中東政治 学』有斐閣		2012	35-47
	「アラブ大変動への西側の躊躇 も要因＝なぜシリアに春が来な い？ 特集：中東の春のいま」	<i>Janet Jiji Press</i>	2012 年 6 月 20 日号	2012	
	「挫折の縁に立つ「シリア革命 2011」」	『世界』	832	2012	295-302
菅瀬 晶子 (研究分担者)	「ムジャッダラ考—とある家庭 料理をめぐる、シャーム地方文化 論」	『季刊民族学』	143	2013	57-74
錦田 愛子 (研究分担者)	「【パレスチナ】終わらない現実 としてのパレスチナ」	『地域研究』	13-2	2013	410-415
	「パレスチナ人のグローバルな 移動とナショナリズム—「中心」 を相対化する「周辺」の日常実践」	三尾裕子、床呂郁哉編 『グローバルイゼーショ ンズ—人類学、歴史 学、地域研究の現場か ら』弘文堂		2012	91-118
	第 10 章「パレスチナにおける抵 抗運動の変容」	酒井啓子編『中東政治 学』有斐閣		2012	155-169

Aiko Nishikida (研究分担者)	“Portrayed Others in Israeli and Palestinian cinemas – Metaphorical power politics of exclusion and identification”	<i>Proceedings of the Papers ‘Making a Difference: Representing/Constructing the Other in Asian/African Media, Cinema and Languages’</i>		2012	51-60
宇山 智彦 (研究協力者)	「総論 〈東〉と〈西〉：特にロシアと東方との関係について」	塩川伸明・小松久男・沼野充義・宇山智彦編『〈東〉と〈西〉』(ユーラシア世界 1) 東京大学出版会		2012	1-16
	「カザフ知識人にとっての〈東〉と〈西〉：階層的国際秩序の認識と文化的精神性の希求」	同上			153-179
	「カザフスタンにおけるジュト(家畜大量死)：文献資料と気象データ(19世紀中葉—1920年代)」	奈良間千之編『環境変動と人間(中央ユーラシア環境史 1)』臨川書店		2012	240-258
宇山 智彦 (研究協力者)	「帝政ロシア支配の実像とロシア・ムスリム知識人たち」	帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『中央アジア』朝倉世界地理講座—大地と人間の物語第5巻、朝倉書店		2012	173-182
	「タジキスタン内戦と和平」	帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『中央アジア』朝倉世界地理講座—大地と人間の物語第5巻、朝倉書店			285-296
	「ロシア帝国論」	ロシア史研究会編『ロシア史研究案内』彩流社		2012	165-179
	「セミパラチンスク州知事トロイツキーとカザフ知識人弾圧：帝国統治における属人的要素」	中嶋毅編『新史料で読むロシア史』山川出版社		2013	74-91
Uyama Tomohiko (研究協力者)	“Mutual Relations and Perceptions of Russians and Central Asians: Preliminary Notes for Comparative Imperial Studies”	Uyama Tomohiko ed., <i>Empire and After: Essays in Comparative Imperial and Decolonization Studies</i> , Sapporo: Slavic Research Center		2012	19-33
OKA, Natsuko (研究協力者)	“A Note on Ethnic Return Migration Policy in Kazakhstan: Changing Priorities and a Growing Dilemma”	<i>IDE Discussion Paper</i>	394	2013	
岡 奈津子 (研究協力者)	「カザフスタンにおける日常的腐敗：フィールドワークに基づく考察」	『アジア研ワールド・トレンド』	209	2013	37-42
岡 奈津子 (研究協力者) 半谷史郎	「中央アジアに強制移住された諸民族：歴史と現在」	帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『中央アジア』朝倉世界地理講座—大地と人間の物語第5巻、朝倉書店		2012	324-334

Onuma Takahiro (研究協力者)	“Promoting Power: The Rise of Emin Khwaja on the Eve of the Qing Conquest of Kashgaria”	『遊牧世界と農耕世界の接点—アジア史研究の新たな史料と視点—』(『学習院大学東洋文化研究所調査研究報告書』57号))		2012	31-60
小沼 孝博 (研究協力者) 新免 康 (研究分担者) 河原 弥生 (研究分担者)	「国立故宮博物院所蔵 1848 年コーカンド文書再考」	『東北学院大学論集 歴史と文化』	49	2013	1-24
坂井 弘紀 (研究協力者)	「中央アジアの英雄叙事詩」	帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『中央アジア』朝倉世界地理講座—大地と人間の物語第5巻、朝倉書店		2012	337-342
坂井 弘紀 (研究協力者)	「英雄叙事詩の伝える記憶」	塩川伸明・小松久男・沼野充義編『記憶とユートピア』(ユーラシア世界3) 東京大学出版会		2012	159-187
	「16 世紀のノガイ・オルダ (1) —オラク、ママイとその時代」	『和光大学表現学部紀要』	12	2012	60-80
	「テュルクの伝承における「罪と罰」」	『罪と贖罪の神話学—シンポジウム論文集: 2011 年 9 月-2012 年 1 月』 樂瑯書院		2012	185-198
	「地下世界で戦う勇士—中央ユーラシアの英雄譚」『エル・トシュトウテュク』	『異界と常世』 樂瑯書院		2013	407-430
	事典項目「ウルゲン」、「アジュダハ」、「アルバストウ」、「アルワク」、「ウブル」、「コルクト」、「ジン・シャイタン」、「デヴ」。「バクス」、「ペリ」、「ユハ」	松村一男、平藤喜久子、山田仁史編『神の文化史事典』 白水社		2013	125、33-34、66-67、119、238-239、273-274、335-336、405-406、478、552-553
澤田 稔 (研究協力者)	第 29 章「マザール—新疆の聖者墓廟」	中国ムスリム研究会 (編)『中国ムスリムを知るための 60 章』 明石書店		2012	183-187
清水 由里子 (研究協力者)	第 4 章「ウイグル族—新疆ウイグル自治区の「主体民族」」、第 42 章「新疆のジャディード—「ウイグル」たちの近代的教育運動」、第 43 章「テュルクかウイグルか—近代ウイグル人のアイデンティティ」	中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための 60 章』		2012	41-45、253-257、258-262
長縄 宣博 (研究協力者)	“Мектеб или Школа? Введение всеобщего обучения в среде мусульман Поволжья и Приуралья”	Научный Татарстан	1	2012	76-99

長縄 宣博 (研究協力者)	「総力戦のなかのムスリム社会と公共圏：20世紀初頭のヴォルガ・ウラル地域を中心に」	塩川伸明・小松久男・沼野充義編『国家と国際関係』(ユーラシア世界 5) 東京大学出版会			71-96
	「ロシア・ムスリムがみた20世紀初頭のオスマン帝国：ファティフ・ケリミー『イスタンブールの手紙』を読む」	中嶋毅編『新史料で読むロシア史』山川出版社		2013	92-110
	「近代帝国の統治とイスラームの相互連関：ロシア帝国の場合」	秋田茂、桃木至朗編『グローバルヒストリーと帝国』大阪大学出版会		2013	158-184
吉田 世津子 (研究協力者)	「『遊牧民』の現在」	帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『中央アジア』朝倉世界地理講座―大地と人間の物語第5巻、朝倉書店		2012	143-154
吉田 世津子 (研究協力者)	「現代中央アジア農村の商売と親族 ―― 北クルグズスタンの事例から」	塩川伸明・小松久男・沼野充義・松井康浩編『公共圏と親密圏』(ユーラシア世界 4) 東京大学出版会		2012	217-240
	「家屋を建てる ―― 旧ソ連領中央アジア・北部クルグズ農村における世帯形成とキョウダイ」	『共在の論理と倫理 ―― 家族・民・まなごしの人類学』		2012	73-95
吉村 貴之 (研究協力者)	「南コーカサスの都市」、「南コーカサスのメディア事情」	帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『中央アジア』朝倉世界地理講座―大地と人間の物語第5巻、朝倉書店		2012	71-74、381
	「連邦崩壊から地域紛争へ―ナゴルノ・カラバフ紛争を事例として―」	月村太郎編『地域紛争の構図』晃洋書房		2013	183-211
	「パンドラの箱～アルメニア人虐殺 50 周年記念追悼集会に関する史料公開」	中嶋毅編『新史料で読むロシア史』山川出版社		2013	277-295
鶴見 太郎 (研究協力者)	「研究ノート「ユダヤ的かつ民主的国家」の起源についての一考察 ―― ロシア・東欧史からの視座」	『日本中東学会年報』	27(2)	2012	103-123
	「同盟と国境：地域大国を規定するもの（シンポジウム報告）」	『比較地域大国論集』	8	2012	7-22
Hamanaka, Shingo (研究協力者)	“A Political Mental Map of the Israelis”	<i>Japan-Israel Symposium Proceedings</i>		2012	8

勝沼 聡 (研究協力者)	「中東・北アフリカの一大中心地：近代におけるカイロの発展」	鈴木恵美（編）『現代エジプトを知るための 60 章』		2012	40-45
	「地中海の花嫁：第二の都市・アレクサンドリア」	鈴木恵美（編）『現代エジプトを知るための 60 章』		2012	46-51
	「「エジプト人のためのエジプトをめざして」：近代エジプトの栄光と苦悩」	鈴木恵美（編）『現代エジプトを知るための 60 章』		2012	78-82
	「議会議事録を通じて見た立憲王制時代のナイル・デルタ：1920-1930 年代の排水事業を中心に」	長谷部史彦編『ナイル・デルタの環境と文明 II』		2013	77-98
齋藤 剛 (研究協力者)	“Reflections on Political Change in North Africa and Its Influence on the European Union”	『異文化研究交流センター 2012 年度 研究報告書』（神戸大学大学院国際文化科学研究科異文化研究交流センター）		2013	81-91
佐々木 紳 (研究協力者)	「オスマン帝国と中央アジア：アリ・スアーヴィーのまなざしから」	『海外事情』	60	2012	49-60
福田 義昭 (研究協力者)	第 45 章「アラビア語にまつわる古くて新しい問題——文語と口語」	鈴木恵美編著『現代エジプトを知るための 60 章』（エリア・スタディーズ 107）明石書店		2012	292-296
	第 47 章「物語に描かれた近現代の社会・宗教・政治——エジプト小説点描」	同上		2012	303-307
	「戦中期における国内ムスリム団体の統制と「回教公認問題」——在神戸ムスリム・コミュニティの視点から」	『アジア文化研究所研究年報』（東洋大学）	47	2013	156 (77) -175 (58)
Masayuki AKUTSU (研究協力者)	“Faith in Personal and Religion in Public: Muslim Society in Action in This World (dunyā)”	<i>Orient</i>	48	2013	113-124
伊賀 司 (研究協力者)	「マレーシアとシンガポールにおける政治変動——ニュー・メディアと新世代の台頭に注目して」	拓殖大学海外事情研究所『海外事情』	60-4	2012	74-92
伊賀 司 (研究協力者)	「2008 年総選挙後のマレーシアにおけるメディアと政治——ナジブ政権のメディアをめぐる言説と統制」	神戸大学国際協力研究科『国際協力論集』	20-1	2012	93-108
石黒 大岳 (研究協力者)	「中東湾岸君主国における議会政治の展開」	『史淵』	150	2013	173-205

井上 あえか (研究協力者)	第7章「アフガニスタンにおける 統合と部族社会」	酒井啓子編『中東政治 学』有斐閣		2012	109-122
	「パキスタンから見た対中国関 係」	『現代インド研究』, NIHU「現代インド地域 研究」京都大学インド 地域家研究センター	3	2013	97-113
	「9.11 後のパキスタンにおける 政治変化の可能性」	『就実大学史学論集』, 就実大学史学会	27	2013	59-66
大川 真由子 (研究協力者) (共著)	「コラム『アラブの春』とソーシ ャルメディア」	羽渕一代・内藤直樹・ 岩佐光広(編)『メディ アのフィールドワーク —アフリカとケータイ の未来』北樹出版		2012	151-152
坂梨 祥 (研究協力者)	「『アラブの春』へのイランの対 応——『域内新秩序』がもたら す機会と挑戦」	『海外事情』	2012 年 12 月号	2012	34-49
澤江 史子 (研究協力者)	「クルド問題をめぐるトルコ外 交—紛争制御から包括的予防へ」	『中東の予防外交』		2012	241-259
	「煮詰まるトルコのクルド問題 解決策—PKK の要求とトルコ政 府の対応」	『海外事情』	60-11	2012	104-121
鈴木 恵美 (研究協力者)	「エジプト社会の二極化にみる 移行プロセスの考察—憲法宣言 を中心に—」	『「アラブの春」の将 来』国際問題研究所		2013	27-40
	「いまだ遠きアラブの春—混迷 エジプトの 5・23 大統領選に注 目」	『月刊 WEDGE』 「WEDGE OPINION」	2012 年 6 月号	2012	
	「大統領選挙を仕切ったエジプ ト軍」	『アラブ』日本アラブ 協会	142	2012	4-5
鈴木 恵美 (研究協力者)	第1章「エジプト権威主義体制の 再考—ムバーラク政権崩壊の要 因—」	酒井啓子編『中東政治 学』有斐閣		2012	21-34
	「体制移行期における宗教政党 の躍進—2011-12 年人民議会選挙 の考察—」	『アラブ動乱 - 1.25 革 命の背景』アジア経済 研究所 (JETRP アジ研 選書)	32	2012	87-110
須田 将 (研究協力者)	「スターリンの大テロルとウズ ベキスタン共産党」	『中央ユーラシア研究 を拓く』スラブ・ユー ラシア研究報告集	5	2012	172-193
地田 徹朗 (研究協力者)	「社会主義体制下での開発政策 とその理念 —「近代化」の視点 から」、(大西健夫との共著)「乾 燥・半乾燥地域の水資源開発と環 境ガバナンス」	窪田順平 監修、渡邊三 津子 編『中央ユーラシ ア環境史 3 激動の近現 代』臨川書店		2012	23-76、 67-297
	「地域環境史研究の可能性—ソ 連時代のバルハシ湖流域での水 利開発と史資料」	中嶋毅編『新史料で読 むロシア史』		2013	298-319

辻上 奈美江 (研究協力者)	「文化に投資するカタール —2030 年を見据えた将来構想」	中東協力センター、『中 東協力センターニュー ス』	2010 年 4/5 月号	2012	65-71
	「運転解禁に向けたサウディア ラビア人女性による抗議行動と 今後の展望」	『中東研究』	513	2012	105-111
	第 3 章「サウディアラビアの体制 内権力」	酒井啓子編『中東政治 学』有斐閣		2012	49-62
	(翻訳) 第 6 章「サウディアラ ビアにおける女性とメディア —レトリック、還元主義そ して現実 (ナオミ・サクル)」、 第 7 章「イラク人女性とジェ ンダー関係—差異の再定 義 (ナーディア・アル＝アリ ー)」	ザヒア・スマイル・ サルヒー編『中東・北 アフリカにおけるジェ ンダー』明石書店		2012	189-260
	(翻訳) 第 4 章 「反体制派 とイスラーム過激主義」、第 5 章「経済・人口爆発・社会的 挑戦」、第 8 章「主な結論— 二一世紀初めにおけるサウジ アラビア」	アンソニー・H・コーデ スマン『21 世紀のサウ ジアラビア』明石書店		2012	201-292、 293-396、 667-679
Kei Nakagawa (研究協力者)	「2011 年モロッコ議会選挙報 告」 “Inside View of the Arab Spring: Report on 2011 Parliamentary Election in Morocco”	札幌学院大学総合研究 所ブックレット『アラ ブの春と民主主義』	5	2013	和文： 37-49、英 文：95-108
中川 恵 (研究協力者)	「自己表現と民主化—アラブ世 界の変革とこれからの日本人の 生き方—」	片岡幸彦・安藤次男編 『わたしたちは二十二 世紀を望めるのか—明 日のないその日のため に—』紀伊國屋書店・ 電子書籍		2013	
堀抜 功二 (研究協力者)	「湾岸の春？—GCC 諸国におけ る政治変動・体制・国民」	『中東政治変動の研究 —「アラブの春」の現 状と課題—』(日本国際 問題研究所)		2012	25-35
Hirotake Maeda (研究協力者)	“Exploitation of the Frontier: The Caucasus Policy of Shah ‘Abbas I”	Willem Floor and Edmund Herzig (eds.) <i>Iran and the World in the Safavid Age</i> , London: I. B. Tauris		2012	471-489
前田 弘毅 (研究協力者)	「ツアーリとシャーに仕えたアル メニア人：「言葉の箱」と呼ば れた一族の活動から」	塩川伸明・小松久男・ 沼野充義・宇山智彦編 『＜東＞と＜西＞』(ユ ーラシア世界 1) 東京大 学出版会		2012	127-152
湯浅 剛 (研究協力者)	「「市民的自由の群島」ロシア： 西側からの価値をめぐる作用と 連携を題材に」	『国際政治』	171	2013	100-113
	「中央アジアにおける国際関係 の誕生」	塩川伸明・小松久男・ 沼野充義編『国家と国 際関係』(ユーラシア世 界 5) 東京大学出版会		2012	119-142

吉岡 明子 (研究協力者)	「イラクの治安状況をどう読むか」	『中東協力センターニュース』	37-3	2012	73-82
	「遅れてきた産油国イラクの挑戦」	『中東動向分析』	11-6	2012	1-12
	「飛躍するイラク・クルディスタン—イラク戦争から 10 年、自治区成立から 20 年の今—」	『中東情勢報告 2013 年版』		2013	90-103

〔図書〕計（13）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
塩川 伸明 小松 久男 (研究分担者) 沼野 充義 宇山 智彦 (研究協力者) (共編)	『＜東＞と＜西＞』（ユーラシア世界 1)	東京大学出版会	1	2012	250
塩川 伸明 小松 久男 (研究分担者) 沼野 充義 (共編)	『ディアスポラ論』（ユーラシア世界 2)	東京大学出版会	2	2012	265
塩川 伸明 小松 久男 (研究分担者) 沼野 充義 (共編)	『記憶とユートピア』（ユーラシア世界 3)	東京大学出版会	3	2012	259
塩川 伸明 小松 久男 (研究分担者) 沼野 充義 松井 康浩 (共編)	『公共圏と親密圏』（ユーラシア世界 4)	東京大学出版会	4	2012	254
塩川 伸明 小松 久男 (研究分担者) 沼野 充義 (共編)	『国家と国際関係』（ユーラシア世界 5)	東京大学出版会	5	2012	269
長沢 栄治 (研究分担者)	『アラブ革命の遺産 エジプトのユダヤ系マルクス主義者とシオニズム』	平凡社		2012	606
臼杵 陽 (研究分担者)	『世界史の中のパレスチナ問題』	講談社現代新書 2189		2013	432
青山 弘之 (研究分担者)	『混迷するシリア——歴史と政治構造から読み解く——』	岩波書店		2012	xv+142

Uyama Tomohiko (研究協力者) ed.	<i>Empire and After: Essays in Comparative Imperial and Decolonization Studies</i>	Sapporo: Slavic Research Center		2012	133
鈴木 恵美 (研究協力者)	『現代エジプトを知るための 60 章』	明石書店		2012	385
須田 将 (研究協力者)	『スターリン期ウズベキスタンのジェンダー:女性の覆いと差異化の政治』(ブックレット〈アジアを学ぼう〉)	風響社		2012	68
Mitsuhisa Fukutomi (研究協力者)	<i>L'autoritarisme dans la structure politico-économique internationale</i>	Dictus Publishing,		2012	150
酒井 啓子 吉岡 明子 (研究協力者) 山尾 大 (編著)	『現代イラクを知るための 60 章』	明石書店		2013	368

〔学会発表〕計 (50) 件

発表者名	発表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
Mami Hamamoto (研究分担者)	“Conversion of Muslim Elites to Orthodox Christianity in 17th-century Russia”	44th Annual Convention of Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies	2012.11.16	New Orleans Marriott (ニューオーリンズ市、米国)
長沢 栄治 (研究分担者)	“Egypt in Revolution: Changing State-Society Relations”	国際シンポジウム「エジプトの水と農業」	2013.3.18	筑波大学、つくば市
飯塚 正人 (研究分担者)	「アラブの春」とイスラーム復興	東京大学大学院人文社会科学系研究科次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門 (NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社会編成」, 科学研究費基盤研究 (B) (海外) 「イスラーム民主主義」をめぐる思想展開と実現可能性に関する研究, 科学研究費基盤研究 (B) 「イラン人によるネットワーク型社会運動の系譜と、その政治化に際しての諸問題の検討」主催シンポジウム『「アラブの春」とイスラーム復興』	2012.10.8	明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー 6 階 1063 室

池田 美佐子 (研究分担者)	「エジプトにおける民主主義の系譜と議会文書」	財団法人・東洋文庫 2012 年度春期東洋学講座「東洋文庫と本の世界」	2012.6.29	財団法人・東洋文庫
Yasushi Hazama (研究分担者)	“Ethnic diversity and tolerance in 30 European democracies”	American Sociological Association	2012.8.17	Denver, Colorado, USA
菅瀬 晶子 (研究分担者)	「聖なるものの共有と占有 —東地中海アラビア語圏における聖者アル・ハディル崇敬の事例より—」	日本文化人類学会	2012.6.23	広島大学東広島キャンパス
Aiko Nishikida (研究分担者)	“The Desire of the Refugees and the future state of Palestine”	IALIIS conference “Between dependence and independence: What future for Palestine?”	2013.3.9	The Ibrahim Abu-Lughod Institute of International Studies, Birzeit University: Ramallah, Palestine
	“Transborder Migration and Citizenship: Palestinian migration and their Identity formation”	Colloque international «Explorations anthropologiques sous les perspectives micro/macro»	2012.11.22	L'Ecole Supérieure d'Art de la Réunion: Réunion, France
Aiko Nishikida (研究分担者) and Hamanaka Shingo (研究協力者)	“Palestinian Migration under the occupation: Comparative study about the residents of the West Bank, Gaza Strip and East Jerusalem”	2th International Conference: “Migration and Democracy”	2012.6.14	Centre de Documentation sur les Migrations Humaines, Dudelange/Luxembourg
Uyama Tomohiko (研究協力者)	“Party Politics and Premier-Presidentialism in Kyrgyzstan after the Second Revolution: Order in Disorder”	International Symposium “From Empire to Regional Power, between State and Non-state”	2012.7.6	Slavic Research Center, Sapporo
宇山 智彦 (研究協力者)	「北海道中央ユーラシア研究会の歩みとこれからの中央ユーラシア研究」	北海道中央ユーラシア研究会第 100 回記念大会	2012.7.14	北海道大学スラブ研究センター
Уяма Томохиико (研究協力者)	Приглашение, адаптация и сопротивление империям: случаи в Центральной Азии	Международная конференция “Мир империй: ученые, знания и «искусство управления» периферией в колониальных и континентальных империях”	2012.11.12	Институт всеобщей истории РАН, Москва

Onuma Takahiro (研究協力者)	“The 1795 Khoqand mission and its negotiation with the Qing: Political and diplomatic space of Qing Kashgaria”	“Kashgar Revisited”: Workshop to Commemorate the 10th Anniversary of the Death of Ambassador Gunnar Jarring	2012.5.10	Nordic Institute of Asian Studies, University of Copenhagen
	“Encounter between the Qing and the Khoqand in 1759–60: Central Asia in the Mid-18th Century”	International Workshop on “Defining the <i>Jecen</i> : The Evolution of the Qing Frontier, 1644-1918”	2012.5.26	The University of Hong Kong and Hong Kong Baptist University
	“The Qing Dynasty and Its Central Asian Neighbors”	Central Asia Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Central Asian Regional Sphere	2013.3.3	東洋文庫
小沼 孝博 (研究協力者)	「天山地域における遊牧民と定住農耕民の相互関係」	2012 年度科研費補助金 (挑戦的萌芽) 「農業・牧畜境界地帯」から構築する新しいユーラシア史像の試み」第 1 回研究集会	2012.6.23	関西大学法文研究室 2 号棟 3 階 世界史専修合同研究室
木村 暁 (研究協力者)	「中央アジアにおける聖地と政治権力: バハーウッディーン廟を例に」	北海道大学東洋史談話会第 260 回例会	2012.8.3	北海道大学
	「ブハラ・アミール国の司法行政: その機構面を中心に」	中央アジアの法制度研究会第 12 回例会	2012.12.15	静岡労政会館
	「近世ブハラ在シーア派コミュニティ研究序説: 近代のケースを参照項として」	科学研究費基盤研究 (B) 「シーア派ネットワークの展開と近世アジア世界の再検討」第 2 回研究会	2013.2.1	京都大学ユーラシア文化研究センター (羽田記念館)
KIMURA Satoru (研究協力者)	University-Based and Inter-University Collaborative Studies on Central Asian History in Japan	International Workshop: Japanese Engagement in Central Asia in International Perspective	2013.3.16	カザフ国立大学
坂井 弘紀 (研究協力者)	「地下世界に降りて敵と戦う勇士ー叙事詩『エル・トスティク』から」	国際比較神話学会シンポジウム	2012.9.2	千葉文化センター
清水 由里子 (研究協力者)	「テュルクかウイグルかー20 世紀前半期の知識人の言説に見る民族名称と歴史認識ー」	北海道中央ユーラシア研究会第 99 回例会	2012.6.16	北海道大学スラブ研究センター小会議室 401

Naganawa Norihiro (研究協力者)	“Drawing Russia as a Muslim Power? The Hajj from Tatarstan and Daghestan in the Post-Soviet Era”	The 2012 Summer International Symposium of the Slavic Research Center, “From Empire to Regional Power, Between State and Non-state”	2012.7.5	北海道大学スラブ研究センター
	“Toward a Seaborne Empire? Bolsheviks in the Arabian Peninsula, 1924-1938”	The 44th Annual Convention of Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies	2012.11.16	New Orleans Marriott
NODA Jin (研究協力者)	“Empires and the Steppe: A comparative study on Qing and Russian empires”	Slavic Research Center, Hokkaido University 2012 Summer International Symposium, “From Empire to Regional Power, between State and Non-state”	2012.7.5	北海道大学スラブ研究センター
今野 泰三 (研究協力者)	「宗教シオニストの多様化とフロンティアへの植民事業の展開—『ユダヤ的な場所』の生産と対国家関係の変容」	日本中東学会第27回年次大会	2012.5.13	東洋大学
鶴見 太郎 (研究協力者)	「書評：藤波伸嘉『オスマン帝国と立憲政』『帝国の時代の想像力』」	東京大学中東地域研究センター第1回定例研究会	2012.5.26	東京大学駒場キャンパス
	「シオニズムとナショナリズム論——いかにパレスチナ問題を論じるか」	国立民族学博物館共同研究「パレスチナ・ナショナリズムとシオニズムの交差点」研究会	2012.7.22	国立民族学博物館大演習室
	「書評：長沢栄治『アラブ革命の遺産』」	東京大学中東地域研究センター第3回定例研究会	2012.10.21	東京大学駒場キャンパス
	「オーストリア・マルクス主義民族理論とユダヤ・ナショナリズム——ロシア・シオニズムを事例に」	第37回社会思想史学会大会「マルクス主義の展開」セッション	2012.10.28	一橋大学国立キャンパス
	“Defending Monarchism for a Plural Society: Daniel Pasmanik, a Russian Jewish Transnationalist”	2012 Summer International Symposium “From Empire to Regional Power, between State and Non-State”	2012.7.5	Hokkaido University
鶴見 太郎 (研究協力者)	“Between Jabotinsky and His Russian Predecessors”	Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies	2012.11.17	New Orleans Marriott
	“Whose Strong State?: Liberal Zionism between Jabotinsky and Pasmanik”	International Conference on “Jewish Secular Utopias and Dystopias in Israel, America, and Eastern Europe”	2013.2.18	Tulane University, New Orleans
Shingo Hamanaka (研究協力者)	“Determinants of the Attitude toward Political Parties in Palestine”	International Political Science Association 22nd World Congress	2012.7.10	スペイン共和国マドリード市

齋藤 剛 (研究協力者)	「＜感情＞を通してみるムスリム聖者信仰—モロッコにおけるフキの診断／治療を事例として」	日本感情心理学会第 20 回大会記念シンポジウム「世界の人びとの感情」	2012.5.26	兵庫：神戸大学
阿久津 正幸 (研究協力者)	「イスラームの伝統的価値観によるムスリム社会構築の革新的試み：非アラブ・非イスラーム世界における hizmet の事例による考察」	「宗教社会貢献」研究会	2012.11.17	國學院大學
伊賀 司 (研究協力者)	「ブルシ運動と 2008 年総選挙以後のマレーシア—活性化する社会運動と市民社会の成長」	日本マレーシア学会第 21 回研究大会	2012.12.15	立教大学
石黒 大岳 (研究協力者)	「中東湾岸君主国における議会の役割」	日本比較政治学会	2012.6.24	日本大学法学部
井上 あえか (研究協力者)	「インド・イスラーム・アイデンティティ：指導者ジンナーとパキスタンの独立」	NIHU「イスラーム地域研究」・「現代インド地域研究」連携事業研究会	2013.2.8	龍谷大学
Inoue Aeka (研究協力者)	“Some Aspects of Political Change in Pakistan after 9.11”	Seminar on Pakistan Studies in Japan	2013.2.21	LUMS (Lahore University for Management Science, ラーホール経営学大学) パキスタン
大川 真由子 (研究協力者)	「フィールドからみえてくる地域的連関—中東・イスラーム地域研究における湾岸と東アフリカ」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「地域民族誌の方法論と人類学的空間構想力の可能性の探究」2012 年度第 3 回研究会	2012.10.21	東京外国語大学本郷サテライト
	「労働市場におけるアフリカ系オマーン人の役割の変遷」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所機関研究員発表会	2013.3.27	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
吉川 卓郎 (研究協力者)	「多様化・多層化するアラブの国際関係：『アメリカ後の世界』を迎えて」	立命館土曜講座「激動の中東政治を読み解く：アラブの春から 1 年」	2012.6.16	立命館大学衣笠キャンパス・末川記念会館
鈴木 恵美 (研究協力者)	「エジプトが模索する第三の道」	人間の安全保障プログラム・シンポジウム『911 からアラブの春をこえて～中東の平和と和解』グローバル地域研究機構	2012.7.14	東京大学
立花 優 (研究協力者)	旧ソ連諸国における支配政党を通じた議会統制	日本比較政治学会	2012.6.24	日本大学
Tsujigami, Namie (研究協力者)	“Seeking for Diversity: Japan-Saudi Shifting Relations”	3rd Gulf Research Meeting	2012.7.14	University of Cambridge, Cambridge

中川 恵 (研究協力者)	「2011 年モロッコ議会選挙報告」	札幌学院大学総合研究所シンポジウム「アラブの春と民主主義」	2012.11.11	札幌学院大学 総合研究所 GSGU ホール
	「中東の民主化―「アラブの春」はどこへ向かうのか―」	羽衣国際大学・国際関係総合研究所・産業経営研究所 2012 年度第 1 回研究会	2012.7.25	羽衣国際大学
湯浅 剛 (研究協力者)	「中央アジア諸国の統治とリーダーシップ」	ロシア・東欧学会	2012.10.7	同志社大学
Yuasa Takeshi (研究協力者)	“Japan’s Public Diplomacy toward Central Asia”	The 5 th Korea-Central Asia International Conference “Public Diplomacy and Korean – Central Asian Relations”	2012.6.15	韓国・漢江大学アジア太平洋研究センター (APRC)

上智大学研究機構 イスラーム研究センター

代表：私市正年（上智大学外国語学部・教授）

中心テーマ 『イスラーム近代と民衆のネットワーク』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
私市 正年	上智大学外国語学部・教授	研究拠点代表 (総括・イスラーム運動)
川島 緑	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (東南アジア・政治運動)
赤堀 雅幸	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (近現代聖者信仰)
新井 和広	慶應義塾大学商学部・准教授	研究分担者 (東南アジア・中東交流史)
北澤 義之	京都産業大学外国語学部・教授	拠点構成員 (アラブ世界・近現代政治史) (東京大学拠点研究協力者)
小林 寧子	南山大学外国語学部・教授	研究分担者 (東南アジア・イスラーム法)
清水 学	帝京大学経済学部・教授	拠点構成員 (中央アジア・経済)
菅原 由美	大阪大学大学院言語文化研究科・准教授	拠点構成員 (東南アジア・宗教運動)
高岡 豊	財団法人中東調査会・研究員	拠点構成員 (アラブ世界・政治運動)
高橋 圭	上智大学イスラーム研究センター・特別研究員	研究分担者 (近現代タリカ)
服部 美奈	名古屋大学大学院教育発達科学研究科・准教授	拠点構成員 (東南アジア・教育)

見市 建	岩手県立大学総合政策学部・准教授	拠点構成員 (東南アジア・イスラーム運動)
三沢 伸生	東洋大学社会学部・教授	拠点構成員 (前近代タリーカ)
三代川寛子	人間文化研究機構地域研究推進センター・研究員、上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	研究分担者 (アラブ世界・近現代政治史)
茂木 明石	上智大学アジア文化研究所・共同研究所員	拠点構成員 (前近代聖者信仰)
森本 一夫	東京大学東洋文化研究所・准教授	拠点構成員 (預言者一族崇敬)
横田 貴之	日本大学国際関係学部・准教授	研究分担者 (アラブ世界・近現代政治思想)
アールス・ズビール	アルジェ大学 CREAD・教授 (アルジェリア)	研究分担者 (アラブ世界・社会運動)
アレクサンドル・パパス	CNRS・研究員 (フランス)	研究分担者 (中央アジア・スーフィズム)
サリ・アガステイン	上智大学神学部・准教授	研究分担者 (南アジア・エスニック紛争)
シリル・ヴェリヤト	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (南アジア・宗教対立)

研究グループ：「イスラーム近代と民衆のネットワーク」

(研究グループ メンバー)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
私市 正年	上智大学外国語学部・教授	研究グループ代表 (総括・イスラーム運動)
川島 緑	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (東南アジア・政治運動)
赤堀 雅幸	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (近現代聖者信仰)
新井 和広	慶應義塾大学商学部・准教授	研究分担者 (東南アジア・中東交流史)

北澤 義之	京都産業大学外国語学部・教授	拠点構成員 (アラブ世界・近現代政治史) (東京大学拠点研究協力者)
小林 寧子	南山大学外国語学部・教授	研究分担者 (東南アジア・イスラーム法)
清水 学	帝京大学経済学部・教授	拠点構成員 (中央アジア・経済)
菅原 由美	大阪大学大学院言語文化研究科・准教授	拠点構成員 (東南アジア・宗教運動)
高岡 豊	財団法人中東調査会・研究員	拠点構成員 (アラブ世界・政治運動)
高橋 圭	上智大学イスラーム研究センター・特別研究員	研究分担者 (近現代タリーカ)
服部 美奈	名古屋大学大学院教育発達科学研究科・准教授	拠点構成員 (東南アジア・教育)
見市 建	岩手県立大学総合政策学部・准教授	拠点構成員 (東南アジア・イスラーム運動)
三沢 伸生	東洋大学社会学部・教授	拠点構成員 (前近代タリーカ)
三代川寛子	人間文化研究機構地域研究推進センター・研究員、上智大学アジア文化研究所・客員研究員	研究分担者 (アラブ世界・近現代政治史)
茂木 明石	上智大学アジア文化研究所・共同研究員	拠点構成員 (前近代聖者信仰)
森本 一夫	東京大学東洋文化研究所・准教授	拠点構成員 (預言者一族崇敬)
横田 貴之	日本大学国際関係学部・准教授	研究分担者 (アラブ世界・近現代政治思想)
アールス・ズビール	アルジェ大学 CREAD・教授 (アルジェリア)	研究分担者 (アラブ世界・社会運動)
アレクサンドル・パパス	CNRS・研究員 (フランス)	研究分担者 (中央アジア・スーフィズム)
サリ・アガステイン	上智大学神学部・准教授	研究分担者 (南アジア・エスニック紛争)
シリル・ヴェリヤト	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (南アジア・宗教対立)

(研究グループ 海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
アールス・ズビール	アルジェ大学 CREAD・教授 (アルジェリア)	研究分担者 (アラブ世界・社会運動)
アレクサンドル・パパス	CNRS・研究員 (フランス)	研究分担者 (中央アジア・スーフィズム)
オマン・ファトゥラフマン	ジャカルタ・イスラーム大学・上級研究員 (インドネシア)	研究協力者 (東南アジア・イスラーム文献学)
エルファン・ヌルタワブ	ジュライ・シウォ国立イスラーム研究大学 ・講師 (インドネシア)	研究協力者 (東南アジア・イスラーム文献学)

(研究グループ 研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
荒井 康一	上智大学アジア文化研究所・共同研究所員	トルコ政治社会学
石黒 大岳	九州大学大学院人文科学研究院・助教 (東京大学拠点研究協力者)	湾岸産油国の政治改革、 イスラーム政党の活動
今井 真士	日本学術振興会・特別研究員 (PD) 上智大学	権威主義体制下の政党政治
岩坂 将充	日本学術振興会・特別研究員 (PD) 東京外国語大学	現代トルコ政治研究
岩崎えり奈	共立女子大学文芸学部・准教授 (東京大学拠点研究協力者)	エジプト・チュニジア社会経済
小山田紀子	新潟国際情報大学情報文化学部・教授	植民地期フランス・アルジェリア 関係とイスラーム
粕谷 元	日本大学文理学部・准教授	トルコ現代史
加藤 恵実	笹川平和財団/笹川中東イスラム基金・研究員	開発学 (イエメン、サウジアラビア、 教育改革、人権)、近代アラブ文学
金谷 美紗	上智大学アジア文化研究所・共同研究所員	エジプト現代政治、民主化、比較 政治学
北川 あゆ	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研 究科・博士前期課程	インドネシアの民主化

吉川 卓郎	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部・准教授 (東京大学拠点研究協力者)	ヨルダンの政治、カタールと GCC 諸国
小村 明子	上智大学アジア文化研究所・共同研究所員	日本におけるイスラーム史
清水 雅子	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	現代パレスチナの政治社会学・ハマース研究
白谷 望	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	モロッコにおける家族法の変遷と現代的適応
鈴木 啓之	東京大学大学院総合文化研究科・博士課程	パレスチナの民族主義運動
関 佳奈子	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	モロッコ近現代史
鷹木 恵子	桜美林大学リベラルアーツ学群人文学系・教授	文化人類学、社会開発
ダルウィッシュ・ホサム	アジア経済研究所地域研究センター 中東研究グループ・研究員	エジプトのムバーラク体制下におけるムスリム同胞団の政治活動と議会選挙
高橋 雅英	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士前期課程	モロッコにおけるイスラーム運動
飛内 悠子	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後課程	人類学・スーダン国内避難民 北部スーダンの教育人類学
登利谷正人	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	アフガニスタン近現代史
中村 遥	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士前期課程	アルジェリア・フランス史
貫井 万里	早稲田大学イスラーム地域研究機構・研究助手 (早稲田大学拠点研究協力者)	イラン地域研究
野中 葉	慶應義塾大学 SFC 研究所・上席所員(訪問) (京都大学拠点研究協力者)	現代インドネシアのイスラーム運動
濱中 新吾	山形大学地域教育文化学部・准教授 (東京大学拠点研究協力者)	比較政治学・中東現代政治
福永 浩一	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	20 世紀エジプトにおける政治運動
フランシクス・ザベリウス・プルハスタント	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	インドネシアにおけるイスラムの組織

堀場 明子	上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	インドネシア地域研究、 紛争分析、平和構築
溝渕 正季	日本学術振興会・特別研究員（PD） 東京外国語大学	シリア・レバノン政治、国際政治
山本 沙希	在アルジェ日本大使館専門調査員	アルジェリアにおける貧困層女性の 内発的発展
ユウ ウェイシ ン	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研 究科・博士前期課程	エジプト現代教育事情・アズハル 機構
吉田 敦	明治大学商学部・兼任講師	北アフリカ（マグリブ）地域研究、 経済問題
若桑 遼	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研 究科・博士後期課程	チュニジア近現代史
渡邊 祥子	アジア経済研究所地域研究センター 中東研究グループ・研究員	アルジェリア近現代史、ウラマー 協会とナショナリズム
青山 亨	東京外国語大学外国語学部・教授	イスラームとジャワ土着文化のイ ンターフェース：土着神話、聖者 信仰、宮廷儀礼
アダム・タイ ブ・アクマド	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研 究科・博士後期課程	フィリピンにおけるムスリム・ヒ ストリオグラフィー
エルファン・ヌ ルタワブ	ジュライ・シウォ国立イスラーム研究大学・ 講師	東南アジア・イスラーム文献学
小河 久志	大阪大学グローバルコラボレーションセンタ ー・特任助教	タイにおけるイスラーム復興
オマン・ファトラ フマン	ジャカルタ・イスラーム大学・上級研究員	東南アジア・イスラーム文献学
木下 博子	京都大学イスラーム地域研究センター ・拠点研究員 (京都大学拠点研究協力者)	東南アジアと中東のネットワーク
塩崎 (久志本) 裕子	日本学術振興会・特別委研究員(PD) 上智大学	文化人類学・マレー世界における イスラーム的知の伝達
塩崎 悠輝	同志社大学神学部・助教	東南アジアのイスラーム法
東海林 充	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研 究科・博士前期課程	インドネシアにおける都市下層民 の生活史
山口 元樹	慶應義塾大学大学院文学研究科・博士課程	近代インドネシア・イスラーム史

石田 友梨	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	イスラーム思想史
内山 明子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	現代イラン女性の社会参加
遠藤 春香	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	シャアラーニーの聖者論
岡戸 真幸	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・特別研究員 (PD) (京都大学拠点研究協力者)	地域研究、文化人類学、社会的ネットワーク論、移動
加藤 瑞絵	国士舘大学・非常勤講師 (京都大学拠点研究協力者)	イスラーム思想史
鎌田 繁	東京大学東洋文化研究所・教授 (京都大学拠点研究協力者)	シーア派イスラーム思想
荻谷 康太	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・助教 (京都大学拠点研究協力者)	西アフリカのイスラーム
川本 正知	奈良産業大学経済学部・教授 (京都大学拠点研究協力者)	中央アジア史
後藤 明	東京大学・名誉教授 (京都大学拠点研究協力者)	前近代聖者信仰
小牧 幸代	高崎経済大学地域政策学部・准教授 (京都大学拠点研究協力者)	社会人類学 (南アジア・ムスリム社会)
斎藤 剛	神戸大学大学院国際文化学研究科・准教授 (東京大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	社会人類学、モロッコ研究、ムスリム聖者信仰、タリーカなど
坂井 信三	南山大学人文学部・教授 (京都大学拠点研究協力者)	西アフリカのイスラーム
澤井 真	東北大学大学院文学研究科・博士後期課程 (京都大学拠点研究協力者)	宗教学・初期スーフィズム、神秘主義方法論
篠田 知暁	京都大学大学院文学研究科・博士後期課程 (京都大学拠点研究協力者)	シャリーフ王朝期モロッコにおける諸社会集団の形成と変容
高尾賢一郎	在リヤド日本大使館・専門調査員 (京都大学拠点研究協力者)	現代シリアにおけるシャイフ・アフマド・クフターローのイスラーム理解、スーフィズム思想)
ダニシマズ・イデ イリス	同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・助教 (京都大学拠点研究協力者)	トルコにおけるスーフィズム、スーフィーによるクルアーン解釈
外川 昌彦	広島大学大学院国際協力研究科・准教授 (京都大学拠点研究協力者)	文化人類学 (南アジアのイスラーム研究)

栃堀木綿子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	アミール・アブドゥルカーディル・ジャザーイリーの思想
中西 竜也	京都大学白眉センター・特定助教 (早稲田大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	中国イスラーム史
西山 愛美	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	現代トルコにおけるタリーカ
二宮 文子	日本学術振興会・特別研究員 (PD) 京都大学 人文科学研究所 (京都大学拠点研究協力者)	中世インド文化史
二ツ山達郎	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	人類学、チュニジア、バラカ、樹木
丸山 大介	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	イスラームの聖者論と聖者信仰
守川 知子	北海道大学大学院文学研究科・准教授 (京都大学拠点研究協力者)	イラン・イスラーム史
森山 央朗	日本国際問題研究所・研究員 (早稲田大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	歴史 (10～12 世紀マシュリク地域におけるハディース学者の社会的・文化的活動)
矢島 洋一	京都外国語大学国際言語平和研究所 ・嘱託研究員 (早稲田大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	スーフィズム史
安田 慎	京都大学イスラーム地域研究センター ・拠点研究員 (京都大学拠点研究協力者)	現代シーア派と聖者廟参詣
吉田 京子	東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻イスラーム学講座・助教 (京都大学拠点研究協力者)	初期シーア派思想
若松 大樹	日本学術振興会・特別研究員 (PD) 日本大学文学部 (京都大学拠点研究協力者)	現代トルコにおけるアレヴィー集団のオジャク (タリーカ)・聖者

【2012 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

2012 年度は以下のような整備を行った。

- ・ 本研究プロジェクトを推進するために設立された上智大学「イスラーム研究センター」を恒常的な研究拠点として整備していくため、2011 年 4 月より引き続き、本学予算でイスラーム研究センター付きの特別研究員 1 名（高橋圭、研究分担者）を配置した。
- ・ 本研究プロジェクトと「上智大学カイロ研究センター」との連携強化のため、研究員（福永浩一、研究協力者）を 1 名常駐させ、さらに 2013 年度以降も継続させることとし、機能の整備改善をはかった。
- ・ 学部・学科・研究所レベルで「イスラーム地域研究」プログラムの研究会案内や出版物案内を積極的に行うなど、活動内容の広報活動を行った。
- ・ 研究活動・事務局運営は、市谷キャンパスの本プロジェクト専用室（2009 年 10 月に四谷キャンパス 2 号館より移転）を拠点として実施した。人間文化研究機構地域研究推進センター研究員および上智大学イスラーム研究センター特別研究員はこの事務局において勤務するほか、個人の研究用のスペースとして、中央図書館内に研究室（共用）の貸与が行われた。
- ・ 人材養成については、PD、RA などの増員、PD 研究員の受け入れ、大学院生のプロジェクトへの参加要請など積極的に行い、また若手研究者自身による研究会の運営を支援した。
- ・ 成果報告については、SIAS Working Paper Series のほか、上智大学アジア文化研究所の刊行物を通して発表した。さらに、大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻における大学院教育との連携を前進することができた。
- ・ 上智大学国際連携室を通して Association of Asian Studies の年次総会（2013 年 3 月 21～24 日、米サンディエゴ）に参加し、拠点出版物である SIAS Working Paper Series をブースで展示した。その際、カリフォルニア大学ロサンゼルス校の中央図書館およびペンシルバニア大学中央図書館から同シリーズに対する問い合わせがあったため、各 1 セットを両図書館に寄贈した。
- ・ イスラーム原典叢書シリーズ（岩波書店）の一冊として刊行すべく、北澤・横田・高岡の三氏が中心となり『ハサン・バンナー論考集』の翻訳作業を進めた（2014 年刊行予定）。
- ・ 海外の研究機関および研究者との交流については、上智大学が進めている、日本学術振興会・国際化拠点整備事業（通称「グローバル 30」）と協力しつつ、イエズス会研究機関のネットワークにも接続させながら、研究活動の国際化を促進した。
- ・ 一次資料の公開体制の整備に関しては、第 1 期に収集した東南アジア・キターブ・コレクション（約 2600 冊）および 2011 年度以降収集したコレクションを上智大学アジア文化研究所図書室に移管し、同研究所と連携し、内外の研究者による同コレクションの積極的利用を推進した。

2. 研究・教育活動

(1)拠点全体としての活動

なし

(2)研究グループの活動

①「東南アジアのイスラームと近代」講演会

日時：2012 年 5 月 19 日(土) 13:00～17:15

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 2-510 号室

概要：フィーナー氏は、現代アチェにおけるイスラーム法実践の主張は、西洋近代の法や倫理、国権力のあり方からも影響を受けていることを指摘した。イスラーム法実践の主張は、一般に「西洋近代の危機」への対応や、国家権力をめぐるエリート間の競合として説明されることが多いが、フィーナー氏は、未来志向の社会変革プロジェクトとして理解できると論じた。

ムジブルラフマン氏、ムタリブ氏は、2004 年津波後のアチェにおいて、インドネシア政府と自由アチェ運動(GAM)との和平成立を受けて、インドネシア政府、および国際社会や NGO の支援が活発化し、それによって教育が急速な復興を遂げ、大きく発展したことを報告した。

(川島緑)

プログラム：

13:00-15:00

Dr. R. Michael Feener (Asia Research Institute, National University of Singapore;

Visiting Research Fellow, Kyoto University Center for Southeast Asian Studies)

“Shari‘a and Social Engineering in Contemporary Aceh”

-Discussant: Kobayashi Yasuko (Nanzan University)

15:15-17:15

Dr. Mujiburrahman (Research Institution, IAIN Ar-Raniry, Banda Aceh)

& Dr. Salman Abdul Muthalib (Faculty of Theology, IAIN Ar-Raniry, Banda Aceh)

“Education in Post-Tsunami Aceh”

② 2nd Workshop on the Comparative Study of Southeast Asian Kitabs

日時：2012 年 5 月 20 日(日) 10:00～18:00

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 2-630a 号室

概要：これまで収集した東南アジアのキターブを用いて、比較研究を開始した。日本とインドネシアの計 6 名の研究者が各自の問題関心に基づいて資料紹介や研究報告を行った。報告者が扱ったキターブは、スーフイズム、クルアーン注釈学、イスラーム法学、終末論のテキストなど多岐にわたり、地域や

時期も多様であった。研究会での議論を、比較の軸の設定や、発展性のあるテーマの発見に結び付けることが今後の重要な課題である。

(川島緑)

プログラム：

Chairperson: Sugahara Yumi (Osaka University)

10:00 Opening Remarks: Kawashima Midori (Sophia University)

10:05 Kushimoto Hiroko (JSPS Research Fellow):

“Structure of Traditional Learning on Tasawuf: Hidayatus Salikin and Some Related Texts”

Coffee Break

11:00 Ervan Nurtawab (Jurai Siwo State Islamic College - Lampung)

“Two Malay Qur'anic Commentaries from Mindanao: A Preliminary Study”

11:45 Kawashima Midori

“Paradise and Hell as Described in Popular Islamic Stories of Lanao, Philippines”

Lunch Break

Chairperson: Aoyama Toru (Tokyo University of Foreign Studies)

13:40 Sugahara Yumi (Osaka University)

“How “Orang Awam” Should Be Educated: Strategy of a Kiyai in the 19th Century Java”

14:25 - 15:10 Pramono (Andalas University, Padang)

“Some Notes on the Kitabs of Minangkabau Scholars in the Early Twentieth Century”

Coffee Break

15:30 Shiozaki Yuki (Doshisha University)

“Ahmad al-Fatani’s Fatwa Collection on Modern Problems: Answers from Makkah for Southeast Asian Muslims”

16:15 Comments: Michael Feener (National University of Singapore & Kyoto University)

Coffee Break

Chairperson: Kawashima Midori

16:50 - 17:50 General Discussion

17:50 - 18:00 Closing

③イスラーム運動と社会運動・民衆運動」第1回研究会

日時：2012年5月27日(日) 13:30～17:35

場所：上智大学四谷キャンパス2号館 2-630a号室

概要：本年度の第1回研究会が行われ、以下の3つの書評報告がなされた。書評報告では発表者が著書

の内容を要約・批評した上で、発表者の質問に対して著者が直接答えるという形式が採用された。ただし最後の報告では著者が欠席だったため、報告者の書評のみが行われた。

(濱中新吾)

プログラム：

13:30-13:40 挨拶

13:40-14:55 書評（１）

書評者：見市建

川島緑『マイノリティと国民国家—フィリピンのムスリム』(山川出版社)

15:00-16:15 書評（２）

書評者：高岡豊

横田貴之『原理主義の潮流—ムスリム同胞団』(山川出版社)

16:20-17:35 書評（３）

書評者：清水学

私市正年『原理主義の終焉—ポスト・イスラーム主義論』(山川出版社)

④スーフィズム・聖者信仰第１回研究会

日時：2012 年 6 月 2 日（土） 12:00～18:00

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 2-630a 号室

共催：科学研究費補助金基盤研究（B）「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」、科学研究費補助金基盤研究（B）「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」

概要：今回の研究発表は 3 本とも、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻一貫制博士課程に提出された中間論文を基にしたものであった。丹念な文献の読み込みや地道な現地調査の結果紡ぎだされたものであり、いずれの研究も今後の博士論文へ向けて、さらなる発展が期待される内容であった。

(岡戸真幸)

プログラム：

12:00-12:15：開会の挨拶

12:15-14:00 二ツ山達朗（京都大学大学院）

「モノから考察する民衆のイスラーム—チュニジアにおけるオリーブとバラカの関係性から」

コメンテーター：赤堀雅幸（上智大学）・斉藤剛（神戸大学）

14:15-16:00 遠藤春香（京都大学大学院）

「統合的な完全なる者—シャリーアの源に着目して」

コメンテーター：鎌田繁（東京大学）

16:15-18:00 内山明子（京都大学大学院）

「現代イランにおける宗教的多様性—エマームザーデ参詣女性の語りから」

コメンテーター：鎌田繁・斉藤剛

⑤1回 KIAS/SIAS 共催国際ワークショップ

日時：2012年7月7日(土)～7月8日(日)

場所：京都大学メインキャンパス研究棟2号館4階会議室（AA447）

共催：科学研究費補助金基盤研究（B）「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」

科学研究費補助金基盤研究（B）「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」

概要：詳細は京都大学拠点の報告を参照。

⑥「イスラーム運動と社会運動・民衆運動」第2回研究会

日時：2012年7月21日(土) 13:00～17:10

場所：上智大学四谷キャンパス2号館 2-630a号室

共催：科学研究費・基盤研究（B）「現代中東におけるムスリム同胞団の総合的研究：各国での政治活動と国際ネットワーク」（代表：横田貴之）

概要：研究発表1

山本英弘氏（山形大学）は、市民社会の理論や先行研究サーベイの紹介をした。本報告の目的は、イスラーム運動と市民社会（運動）との関連性の比較するため、市民社会の理論について共通の理解を得ることであった。Contentious Politics とは、抗議、争議、集団行動の歴史展開を捉える幅広い概念であり、主要な分析概念は政治的機会構造と動員構造、フレームの3点から構成されている。山本氏は今回の「アラブの春」で抗議サイクルがどのように形成されたのか、という点について研究動向を確認した。

（高橋雅英）

概要：研究発表2

溝渕正季氏（日本学術振興会）は、本報告の検討課題をレバノンの「市民社会」の現状、ヒズブッラーの政治戦略の中での「抵抗社会」の位置づけ、レバノンの政治・社会の文脈における「抵抗社会」の持つ意味の3点とし、これらの検討が「市民社会論」あるいは「たたかひの政治（contentious politics）」に対して含意を持つ可能性に言及した。また、分極化した社会／機能不全に陥った国家における「市民社会」の意味とは何かという問題を提起した。

（清水雅子）

プログラム：

13:00-15:00 山本英弘（山形大学）

「市民社会と contentious politics」

15 : 10-17 :10 溝渕正季（日本学術振興会・特別研究員）・高岡豊（中東調査会）

「分裂の元凶か、民主主義への萌芽かーレバノンにおける市民社会の現状とヒズブッラーの『抵抗社会』」

⑦合宿研究会「ハサン・バンナー読書会」

日時：2013年9月15日（土）～9月17日（月）

場所：日本大学国際関係学部（三島校舎）15号館4階1541教室、13号館4階1349A研究室

共催：科学研究費・基盤研究（B）「現代中東におけるムスリム同胞団の総合的研究：各国での政治活動と国際ネットワーク」（代表：横田貴之）

概要：『ムスリム同胞団の思想ーハサン・バンナー』の翻訳・出版に向けた集中合宿を行った。各メンバーが各自の担当分について進捗状況を報告し、今後のスケジュールに関する詳細を決定した。訳出にあたって難解な部分については訳者間で議論を行い、検討した。同書のインドネシア語版と照らし合わせて訳語の確認を行った。

（三代川寛子）

プログラム：

9月15日（土）：12:45 集合

『ハサン・バンナー論考集』翻訳作業に関する進捗状況の報告・難解箇所の照合

13:00-14:30 発表1 横田貴之（日本大学）

『ハサン・バンナー論考集』翻訳に関する全体説明（SIAS・科研費）、出版までのタイム・スケジュール、出版に関する事務連絡、執筆要領の確認・再調整難解箇所に関する調査票の説明、用語の統一、ハディースの扱い

14:45-16:15 発表2 横田貴之（日本大学）

担当章の和訳の要約、読み合わせ、難解箇所の議論、質疑応答

16:30-18:00 発表3 金谷美紗（上智大学）

担当章の和訳の要約、読み合わせ、難解箇所の議論、質疑応答

9月16日（日）：8:45 集合

9:00-10:30 発表4 高岡豊（中東調査会）

担当章の和訳の要約、読み合わせ、難解箇所の議論、質疑応答

10:45-12:15 発表5 北澤義之（京都産業大学）

担当章の和訳の要約、読み合わせ、難解箇所の議論、質疑応答

13:00-14:30 発表6 清水雅子（上智大学）

担当章の和訳の要約、読み合わせ、難解箇所の議論、質疑応答

14:45-16:15 発表7 吉川卓郎（立命館アジア太平洋大学）

担当章の和訳の要約、読み合わせ、難解箇所の議論、質疑応答

16:30-18:00 発表 8 溝渕正季（日本学術振興会）

担当箇所の和訳の要約、読み合わせ、難解箇所の議論、質疑応答

9 月 17 日（月・祝）8:45 集合

9:00-10:30 発表 9 石黒大岳（九州大学）

担当箇所の和訳の要約、読み合わせ、難解箇所の議論、質疑応答

10:45-11:45 発表 10 野中葉（慶應義塾大学）

インドネシア語版『論考集』について、翻訳上の留意点説明、アラビア語版との対訳の検討

11:45-12:15 発表 11 横田貴之（日本大学）

今後の作業（翻訳解題、注付け作業、索引などスケジュール）確認

12:15 閉会

⑧合宿研究会「イスラーム運動と市民社会（運動）」

日時：2012 年 9 月 29 日（土）～9 月 30 日（日）

場所：山喜旅館（伊東）

共催：科学研究費・基盤研究（B）「現代中東におけるムスリム同胞団の総合的研究：各国での政治活動と国際ネットワーク」（代表：横田貴之）

概要：2 件の自由発表と 1 件の出張報告、そして 4 件の「イスラーム運動と市民社会（運動）」というテーマに沿った研究発表が行われた。最後の総合討論では、イスラーム地域における市民社会（運動）を考える上で、市民社会領域の組織に期待される機能は(1)市民性の育成、(2)社会サービスの供給、(3)政策提言(アドボカシー)・政府との関係の 3 点であるという指摘がなされ、それに沿って各発表者に対して質問がなされた。

（高橋雅英、三代川寛子）

プログラム：

2012 年 9 月 29 日（土）13:30 集合

13:30-13:45 開会挨拶：私市正年

13:45-14:05 自己紹介

第 1 部：自由発表

14:10-15:00 自由発表 1 岩坂将充（日本学術振興会）

「トルコにおける司法と民主化：憲法裁判所をめぐる軍の動向を中心に」

15:00-15:10 コメント：荒井康一（上智大学）

15:10-15:30 質疑応答

15:35-16:25 自由発表2 登利谷正人（上智大学）

「「ターリバーン政権期」におけるアフガニスタンの統治について」

16:25-16:35 コメント：清水学（帝京大学）

16:35-16:55 質疑応答

第2部：特集「イスラーム運動と市民社会（運動）」

17:00-17:45 発表1 貫井万里（早稲田大学）

「グローバル化とイラン・イスラーム共和国の若者文化」

17:45-17:55 コメント：高岡豊（中東調査会）

17:55-18:10 質疑応答

18:30-19:20（夕食）

19:20-20:05 発表2 鈴木啓之（東京大学）

「パレスチナ被占領地における「市民社会」と抵抗運動：インティファダ以前の民衆抵抗を事例に」

20:05-20:15 コメント：清水雅子（上智大学）

20:15-20:30 質疑応答

20:30-21:00 石黒大岳（九州大学）「バーレーン調査報告・真珠広場一周年記念デモの観察」

2012年9月30日（日）8:40 集合

7:30-8:30（朝食）

8:40-9:25 発表3 フランシスコ・アント（上智大学）

「インドネシアのイスラーム運動組織と市民社会—三つの代表的研究からの考察」

9:25-9:35 コメント1：野中葉（慶応大学）

9:35-9:45 コメント2：見市建（岩手県立大学）

9:45-10:00 質疑応答

10:05-10:50 発表4 横田貴之（日本大学）

「「1月25日革命」前後のムスリム同胞団の変容—社会運動から政党へ」

10:50-11:00 コメント：金谷美紗（上智大学）

11:00-11:15 質疑応答

総合討論

11:15-11:30 総合コメント：浜中新吾（山形大学）

11:30-12:30 総合討論

12:30 閉会

⑨合宿研究会「スーフィズム・聖者信仰」

日時：2012年9月29日(土)～9月30日(日)

場所：上智大学軽井沢セミナーハウス

共催：科学研究費補助金基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」

科学研究費補助金基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」

概要：2012年9月29日(土)から30日(日)にかけて、スーフィズム・聖者信仰研究会合宿が上智セミナーハウスを会場に行われた。本年度は研究発表3本、文献発表1本、インドネシア・イラン現地調査報告という内容であった。とりわけ、宗教ツーリズムという分析概念をもとにシリア・シーア派参詣を論じた事例研究(安田発表)、聖者伝やマナーキブを題材にしてシャーフィイーの「聖者」イメージ形成に迫った歴史研究(茂木発表)、『威厳の書』という自然学書を禁欲主義やスーフィズムの文脈の中で捉え直そうとする思想研究(加藤発表)というそれぞれ異なる分野・手法による研究発表が参加者の興味関心を促し、2日間を通じて活発な議論が繰り広げられた。

(丸山大介)

プログラム：

2012年9月29日(土)

13:15-15:15 研究発表1 安田慎(京都大学)

「現代シリアにおけるシーア派参詣—イスラームとツーリズムをめぐる伝統と革新」

16:30-17:30 研究発表2 茂木明石(上智大学)

「イマーム・シャーフィイーの「聖者」イメージの形成と変容—ミフナ(審問)の物語の分析を中心に」

17:40-18:20 海外調査報告会(インドネシア・イラン)

報告者：新井和広(慶應義塾大学)、小牧幸代(高崎経済大学)

2012年9月30日(日)

8:40-9:30 文献発表 高橋圭氏(上智大学)

Dina Le Gall, "Recent Thinking on Sufis and Saints in the Lives of Muslim Societies, Past and Present,"

International Journal of Middle East Studies 42 (2010), 673-687.

9:40-11:40 研究発表3 加藤瑞絵(国士舘大学)

「伝承家と禁欲主義・スーフィズム—アブー・シャイフの『威厳の書』をもとに」

⑩シンポジウム「アラブの民主化と法と女性」

日時：2012 年 10 月 21 日(日) 13:30～16:30

場所：上智大学中央図書館 L-911 会議室

主催：国連 NGO 国内夫人委員会、日本女性法律家協会

共催：外務省、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構（NIHU）プログラム「イスラーム地域研究」
上智大学イスラーム研究センター

概要：ネフェルティティ氏は、エジプトにおける女性の政治参加の状況について述べ、人民議会におけるクオータ制の導入と廃止など多くの課題が存在すると指摘した。ヌール氏は、ヨルダンにおいても女性弁護士がまだ少数であり、家庭と仕事の両立などの困難な状況があるため、女性弁護士の間でネットワーク形成が必要であると指摘した。ラミア氏は、チュニジアの家族法について述べ、エジプトと同様に 2011 年の政変以後、女性の権利に関して揺り戻しがあることを指摘した。

（三代川寛子）

プログラム：

講演

-ネフェルティティ・アフマド・トゥースーン・フセイン（エジプト国立司法研究所参事官）

-ヌール・ムハンマド・シャーヒル・アブダッラー・アルイマーム（ヨルダン弁護士協会評議委員・女性委員会委員長）“Women Lawyers in Jordan”

-ラミア・デッバービ・クーカ（チュニジア女性法律家協会会長）

“Women’s rights in the preliminary draft of the new Tunisian Constitution”

コメント

-長澤栄治（東京大学東洋文化研究所教授）

-紙谷雅子（学習院大学法学部教授）

⑪SIAS/KIAS - CNRS 合同セミナー

日時：2012 年 11 月 3 日(土) 14:00～18:45

会場：京都大学メインキャンパス研究棟 2 号館 4 階会議室（AA447）

共催：科学研究費補助金基盤研究（B）「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」、科学研究費補助金基盤研究（B）「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」

概要：詳細は京都大学拠点の報告を参照。

⑫「東南アジア・ムスリムと近代」ワークショップ

日時：2012 年 11 月 11 日(土) 10:00～17:20

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 2-630a 号室

概要：1930 年代東南アジアにおけるムスリムの近代への対応について 4 つの報告が行われた。弘末報告は、インドネシアにおけるヨーロッパ人男性の現地人妻との同棲や混血婚に関するムスリムの見方を同時代の新聞・雑誌などから検討した。服部報告は、インドネシアにおける学校体育とガールスカウト運動の展開について、日本における女子体育の展開史と比較しつつ検討した。久志本報告は、クランタン宗教委員会発行雑誌『ブンガソ』を資料として、中東情勢がマラヤにいかに関えられ、イスラームと近代国家の関係がいかにとらえられていたかを論じた。塩崎報告は、ジョホールのムフティーのファトワーを資料として、東南アジア島嶼部のムスリムが、オスマン朝の終焉、サウジアラビアの建国などの事件をどのように受けとめ、どのように対処しようとしたかを論じた。

(川島緑)

プログラム：

10:00-10:10 趣旨説明：小林寧子（南山大学）

10:10-11:30 弘末雅士（立教大学）

「20 世紀前半期のインドネシアにおけるムスリムのニヤイ（現地人妻妾）観」

コメント：鈴木恒之（東京女子大学）

11:30-13:00 昼食

13:00-14:20 服部美奈（名古屋大学）

「1920～30 年代インドネシアにおける西洋的身体観とイスラーム：女子体操とガールスカウト運動をめぐる議論」

コメント：青山亨（東京外国語大学）

14:30-15:50 久志本裕子（日本学術振興会特別研究員）

「カリフ、王、近代国家—雑誌『ブンガソ』に見る 1920 年代半ばの中東情勢とムスリム社会イメージ」

コメント：左右田直規（東京外国語大学）

16:00-17:20 塩崎悠輝（同志社大学）

「危機の二十年間にマラヤのムスリムが直面したイスラーム世界の諸問題：ジョホールのムフティー、サイイド・アラウィー・アル＝ハッダードのファトワー集から」

コメント：堀井聡江（桜美林大学）

⑬「イスラーム主義と社会運動・民衆運動」第3回研究会

日時：2013年2月2日(土) 13:00～18:00

場所：上智大学四谷キャンパス2号館 2-630a号室

共催：科学研究費・基盤研究(B)「現代中東におけるムスリム同胞団の総合的研究：各国での政治活動と国際ネットワーク」(代表：横田貴之)

概要：第1の報告者の清水雅子氏は、権力共有(power-sharing)の観点から「アラブの春」後の2011年の「パレスチナ国民和解合意」に伴う政治過程を検討した。第2の報告者の松尾昌樹氏は、統計資料を基にクウェートとバーレーンにおける自国民と外国人労働者の労働分割を分析し、湾岸諸国の政治体制への関連性を検証した。第3の報告者のアールス氏は、アラブ諸国での民衆蜂起や現在のアルジェリア政治について報告を行った後、2012年5月のアルジェリア国民議会選挙について、その結果や分析、今後の展望などについて詳細な検討を行った。本研究会では、比較的アラブ政変の波が弱かったパレスチナ、湾岸諸国、そしてアルジェリアの事例を通じて、アラブ政変が生じた背景や原因について議論された。

(高橋雅英)

プログラム：

13:10-14:40 Masako SHIMIZU (Sophia University)

“Is the “Arab Spring” Relevant to Palestine? The Efforts and Impasses of the Unity Government”

Discussant: Darwisheh Housam (Institute of Developing Economies)

Chairperson: Yutaka TAKAOKA (Middle East Institute of Japan)

14:45-16:15 Masaki MATSUO (Utsunomiya University)

“Ethnocracy in the Arab Gulf States: From an Analysis of Labor Markets”

Discussant: Manabu SHIMIZU (Teikyo University)

Chairperson: Ken MIICHI (Iwate Prefectural University)

16:25-17:55 Zoubir AROUS (CREAD, University of Algiers)

“Arab Spring: A Revolution or Revolt- A Case Study of Algeria”

Discussant: Shoko WATANABE (Institute of Developing Economies)

Chairperson: Takayuki YOKOTA (Nihon University)

⑭第2回 KIAS/SIAS 共催国際ワークショップ

“Continuity and Innovation of Ideas, Practices, and Communities in Muslim Societies”

日時：2013年2月23日(土) 13:00～18:30

場所：上智大学四谷キャンパス11号館 11-305号室

共催：科学研究費補助金基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」、科学研究費

補助金基盤研究 (B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」

概要：第一セッションでは、上智大学の高橋氏、京都大学の二ツ山氏が、上智大学の中村氏が、それぞれアルジェリアの経済政策、チュニジアの宗教グッズの事例、アルジェリアの国家教育における Amazight の位置づけについて発表を行った。

第二セッションでは、京都大学の遠藤氏、名古屋大学の Ousmanou 氏、上智大学の三代川氏が、シャアラニーの神学概念、ナイジェリア北部の Izala 同胞団、エジプトにおけるナイルーズ祭の事例を紹介した。

第三セッションでは、京都大学の石田氏がシャーワリーウッラーの靈魂論について、上智大学の若桑氏がチュニジアの国民運動におけるウラマーの役割について発表を行った。

最後に、今回のコメンテーターである Oman Fathurahman 氏 (PPIM UIM/東京大国語大学) から、発表全体に対してのコメントがなされた。本ワークショップでは様々な地域の事象が多岐にわたる方面から分析されていたが、スーフィズムを考えるうえでやはり俯瞰的な視野を持つことは重要であり、その点で非常に有意義だったと氏は述べた。

(内山明子)

プログラム：

13:00-13:20 Opening

13:20-13:50 TAKAHASHI Masahide (Sophia University)

“The Political Contradiction of Algerian Economic Policy: On the Focus of Bouteflika Regime”

13:50-14:20 FUTATSUYAMA Tatsuro (Kyoto University)

“How to Sell and Use ‘Religious Commodities’: Focus on the Display of Shops in Tunisia”

14:20-14:50 NAKAMURA Haruka (Sophia University)

“The Berbers in National Education of Algeria”

14:50-15:00 Coffee Break

15:00-15:30 ENDO Haruka (Kyoto University)

“The Argument over ‘Tanzīh’ and ‘Tashbīh’ according to al-Sha‘rānī”

15:30-16:00 Ousmanou Adama (Nagoya University)

“The Rise of Izala Brotherhood in Northern Nigeria”

16:00-16:50 MIYOKAWA Hiroko (Sophia University)

“The Struggle over Egyptianness: A Case Study of the Egyptian Nayruz Festival”

16:50-17:00 Coffee Break

17:00-17:30 ISHIDA Yuri (Kyoto University)

“The Sufi Psychology of Indian Muslim in Eighteenth Century”

17:30-18:00 WAKAKUWA Ryo (Sophia University)

“Reconsidering the Role of the Ulama in the Tunisian National Movement: Analysis of the Articles Written by the Two Founders of the Journal ‘al-Majalla al-Zaytuniya,’ ‘Al-Shaykh Muhammad al-Mukhtaribn Mahmud’ and ‘Al-Shaykh Muhammad al-Shadhiliibn al-Qadi’”

18:00-18:15 General Comments by Oman Fathurahman

18:15-18:30 Concluding Session

⑮第1回フアード・カーシミー氏講演会

(総括事業)

日時：2013年3月15日(金) 17:15～18:45

場所：上智大学四谷キャンパス2号館 2-630a号室

テーマ：「アルジェリアのRahmaniyya教団について」

プログラムと概要：詳細は早稲田大学拠点の総括事業報告を参照。

⑯第2回フアード・カーシミー氏講演会

(総括事業)

日時：2013年3月22日(金) 17:15～18:45

場所：上智大学四谷キャンパス2号館 2-630a号室

テーマ：「アルジェリア・ウラマー協会について」

プログラムと概要：詳細は早稲田大学拠点の総括事業報告を参照。

⑰スーフィズム・聖者信仰第2回研究会

日時：2013年3月23日(土) 13:30～18:00

場所：上智大学四谷キャンパス2号館 2-630a号室

共催：科学研究費補助金基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」、科学研究費補助金基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」

概要：トルコから帰国したばかりの若松氏は、トルコ東部に多く居住する「アレヴィー」の人びとにとっての聖者や聖地がいかなるものか、現地調査の成果に基づく豊富な事例を紹介した。アレヴィーに関する研究は世界的にみても緒に就いたばかりであり、今後の若松氏の研究の発展が待たれる。

丸山氏の発表は、2012年11月に提出した博士論文に基づくものであり、現代スーダンにおけるスーフィズムとタリーカの役割を考察するものであった。二年に亘る現地調査から、丸山氏は各教団の理念を分析枠組として、「超越性・規範性・共同性」を提唱し、その理念と現実の乖離についても指摘した。丸山氏の提唱する分析枠組がいかに普遍化できるかが今後の課題とされた。

それぞれの発表について予定時間を超える活発な議論が行われ、参加者は互いに知見を深めることができた。

(石田友梨)

プログラム：

13:30-13:45：開会の挨拶

13:45-15:45 若松大樹（日本学術振興会（日本大学））

「東部アナトリア・デルスィム地域の聖者崇敬と宗教的实践」

16:00-18:00 丸山大介（京都大学大学院）

「現代スーダンにおけるスーフィズムとタリーカーその超越性・規範性・共同性をめぐって」

3.海外派遣・調査

(1)拠点全体としての活動

なし

(2)研究グループの活動

①第 11 回シリア学国際学会参加、エジプトでの資料収集

日程：2012 年 7 月 16 日(月)～8 月 13 日(月)

出張先：マルタ（マルタ大学）、エジプト（国立図書館、コプト学研究所など）

出張者：三代川寛子（上智大学アジア文化研究所客員研究所員）

概要：マルタで開催された第 11 回シリア学国際学会（7 月 16 日～18 日）および第 9 回キリスト教アラビア語国際学会（7 月 19 日～21 日）に参加し、中東におけるキリスト教徒マイノリティに関する研究動向を調査するとともに、海外の研究者と意見交換を行った。エジプト（7 月 24 日～8 月 12 日）では、国立図書館およびコプト学研究所で 20 世紀初頭の新聞資料の閲覧、複写を収集した。

(三代川寛子)

②モロッコの政治情勢調査

出張期間：2012 年 9 月 5 日(水)～9 月 18 日(火)

出張先：モロッコ（ムハンマド 5 世大学）

出張者：私市正年（上智大学外国語学部教授）

概要：2011 年の「アラブ政変」後に誕生したイスラーム政党が第一党の地位を占める諸政府のなかで、モロッコは政治的に大きな抵抗や対立がなく、また観光業も含めて経済状況は順調である。これは、ますます混乱状況を深めつつあるチュニジアやエジプトとは対照的である。本調査では、この違いが何に起因するのかという問いについて議論するため、政治学者で新憲法の草案作成にもかかわったアブドゥッラヒーム氏（ムハンマド 5 世大学教授）、イスラーム政権の与党「公正発展党」事務所、モロッコ JICA 事務所などを訪問し、聞き取り調査と意見交換を行った。

(私市正年)

③イラン聖者廟調査

出張期間：2012年9月6日(木)～9月17日(月)

出張先：イラン（テヘラン、ゴム、カーシャーン、マシュハド）

出張者：新井和広（慶応大学商学部准教授）、

安田慎（京都大学イスラーム地域研究センター拠点研究員）

概要：イランにおける聖者信仰の状況についての調査を行った。ゴム（エマーム・レザーの妹、ファーターメの廟）、カーシャーン、マシュハド（エマーム・レザー廟）などの都市を中心に、シーア派エマームとそのゆかりの人物の聖者廟と、そこへの参詣の状況（参詣者、整備の程度など）を調査した。諸宗教・宗派大学を訪問し、聖者信仰に関する意見交換を行った。

（新井和広、安田慎）

④アジア中東学会連盟(AFMA)学会発表

出張期間：2012年10月4日(木)～10月7日(日)

出張先：韓国（釜山大学校）

出張者：遠藤春香（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程）

概要：釜山大学校で行われた第9回 AFMA(アジア中東学会連盟)大会において、“Sha‘rānī’s Reconciliation of Jurists and Sufis: “The Perfect One with Two Eyes”（シャアラニーによる法学者とスーフィーの統合：双眼の完全なる者）というタイトルで発表を行った。発表後はフロアから、現代のアラブ世界とシャアラニー思想はどのように関連付けられるのかなど、有益な質問を頂戴することができた。今回の発表で得たコメントをもとに、今後さらに自身の研究を進めていきたい。

（遠藤春香）

⑤インドネシア文献収集

出張期間：2012年12月8日(土)～12月17日(月)

出張先：インドネシア（ジャカルタ、マカッサル、プカンバル）

出張者：菅原由美（大阪大学大学院言語文化研究科准教授）

概要：南スラウェシ州の州都マカッサル、マトラ島東部リアウ州の州都プカンバルでキターブ資料の収集を行った。多くのキターブ資料を収集することができたが、かつて出版されたものの残部であり、新しく出版されたものはないと説明を受けた。リアウ州では、小学校・中学校でジャウィ文字教育をおこなっており、その教科書とジャウィを用いた郷土文化学習教科書が数多く販売されていたので、それを購入した。

（菅原由美）

⑥レバノン政治情勢調査

出張期間：2013年2月7日(木)～2月16日(土)

出張先：レバノン（サン・ジョセフ大学、バイルート・アメリカ大学）

出張者：高岡豊（中東調査会研究員）

概要：レバノンを訪問し、トリポリ、ベカア高原のシリア人避難民と彼らを取り巻く社会情勢の調査を行った。また、バイルート市内の教育機関、研究機関を往訪し、国政選挙を控えたレバノンの政情について聞き取りを行った。

（高岡豊）

⑦インドネシア政治情勢調査

出張期間：2013年2月19日(火)～3月11日(月)

出張先：インドネシア（シャクアラ大学、北スマトラ大学）

出張者：見市建（岩手県立大学総合政策学部准教授）

概要：インドネシアのナショナルなレベルおよびジャカルタ、北スマトラ、アチェの各地における政治状況とイスラーム運動の関連について、研究者や当事者、ジャーナリストなどからの聞き取り調査および資料収集を行った。

（見市建）

⑧インドネシアのイスラーム教育関連調査

出張期間：2013年2月23日(土)～3月28日(木)

出張先：インドネシア（国家教育省、ディポネゴロ大学）

出張者：服部美奈（名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授）

概要：現代インドネシア・イスラームの動態を把握するため、1)子どもの通過儀礼にみるイスラームと地域文化の融合、2)プサントレン（イスラーム寄宿学校）におけるイスラーム指導者養成の現代的課題、3)インドネシアで展開するトルコ系学校、の3点を中心に資料収集および調査を実施した。これらの調査の他、国立イスラーム大学（ジャカルタ、ジョグジャカルタ）および国立イスラーム専門大学（パダン）、ディポネゴロ大学人文学部、アンダラス大学人文学部を訪問し、研究者との意見交換を行った。

（服部美奈）

⑨エジプトの聖人崇敬調査

出張期間：2013年3月17日(日)～3月26日(火)

出張先：エジプト（聖ジョージ教会、聖ジョージ女子修道院、国立図書館など）

出張者：三代川寛子（上智大学アジア文化研究所客員研究員）

概要：コプトの聖者崇敬の状況を調査した。聖ジョージ教会および聖ジョージ女子修道院には、3世紀後半頃の聖人である聖ジョージが迫害された時に使用されたと伝えられる拷問具が展示して

ある。それを用いた願掛け、とりなしについて状況調査を行った。また、国立図書館で新聞資料の閲覧・複写を行った。

(三代川寛子)

4. 外国人研究者の招聘

(1) 拠点全体としての活動

なし

(2) 研究グループの活動

① エルファン・ヌルタワブ氏招聘

所属（国籍）：ジュライ・シウォ国立イスラーム研究大学・講師（インドネシア）

期間：2012年5月17日（木）～5月24日（木）

活動概要：5月20日に上智大学で開催された国際ワークショップ「東南アジアのキターブの比較研究」に参加して、“Two Malay Qur'anic Commentaries from Mindanao: A Preliminary Study”と題する報告を行うとともに、討論に参加し、内外の研究者と学術交流を行った。5月19日には、上智大学で開催された講演会「インドネシア、アチェにおけるイスラームと社会」に出席し、討論に参加した。さらに、5月18日、21-22日には、上智大学において、共同研究の打ち合わせ、および、アジア文化研究所所蔵東南アジア・イスラーム関係資料を用いた調査研究を行った。

(川島緑)

5. 資料収集

これまでの東南アジア・キターブ研究を継続して、ジャウィ文字で書かれたイスラーム書である「キターブ」の収集を行った。これらの東南アジア全域にわたって流通するキターブを収集し、東南アジアにおけるイスラーム・ネットワークの研究を進めるとともに、上智大学中央図書館にキターブ・コレクションを設け、蔵書をカタログ化することにより、東南アジア・キターブの研究拠点の形成を進めた。

また、2011年以降の一連の政治変動、民主化運動の流れを追うため、チュニジアの政治情勢関連の書籍を収集した。加えて、以前から継続して行っているスーフィズム関連の研究書、学術雑誌の収集も進めた。

主要な資料は次のとおり。

① 資料名 東南アジア・キターブ

- ・形態：刊本
- ・冊数：52冊

- ・資料内容：ジャウィ文字で書かれたイスラーム関連書籍
- ・収集目的：東南アジアにおけるイスラーム・ネットワークの在り方を調査するため
- ・所蔵場所：上智大学アジア文化研究所図書室（中央図書館 6 階 L-612 号室）
- ・収集方法：Toko Buku Pesantren 書店ほか、現地の書店にて直接購入
- ・収集期間：2012 年 12 月 8 日（土）～2012 年 12 月 17 日（月）

②資料名 チュニジア、モロッコの政治情勢関連資料

- ・形態：刊本
- ・冊数：72 冊
- ・資料内容：チュニジア、モロッコの政治情勢分析
- ・収集目的：チュニジア、モロッコの政治情勢を調査するため
- ・所蔵場所：上智大学イスラーム研究センター（市谷キャンパス研究棟 5 階 511 号室）
- ・収集方法：日本の書店（ナガラ図書）を通じて購入
- ・収集期間：2013 年 1 月 10 日（木）～2013 年 1 月 15 日（火）

③資料名 スーフィズム関連研究書、学術雑誌

- ・形態：刊本
- ・冊数：33 冊
- ・資料内容：スーフィズム・聖者信仰・神秘主義関連
- ・収集目的：スーフィズム関連の研究の最新の動向を調査するため
- ・所蔵場所：上智大学イスラーム研究センター（市谷キャンパス研究棟 5 階 511 号室）
- ・収集方法：Book House Network などの日本の書店を通じて購入
- ・収集期間：2012 年 4 月 4 日（水）～2013 年 3 月 7 日（木）

6. 研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔図書〕計（3）件

著者名	書名	出版社	巻	発行年	ページ
福永 浩一 (研究協力者)	『初期ムスリム同胞団関連資料— 「ハサン・バンナー著『ダアワと 教宣者の回想』」を中心に』 (SIAS Working Paper Series No. 17)	上智大学イスラーム研 究センター	17	2013	46
白谷 望 (研究協力者)	『モロッコのイスラーム主義運動 「統一と改革の運動」とその憲章』 (SIAS Working Paper Series No. 18)	上智大学イスラーム研 究センター	18	2013	76
小林 寧子・編 著 (研究分担者) 山根 聡 松本 ますみ (研究協力者)	『アジアのムスリムと近代—1930 年代出版物から考える—』 (SIAS Working Paper Series No. 19)	上智大学イスラーム研 究センター	19	2013	72

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（87）件

著者名	論文標題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
私市 正年 (拠点代表)	「アルジェリア政治の不安定と安定—2012年国民議会選挙結果からの考察」	『中東研究』	515	2012	28-44
KISAICHI Masatoshi (拠点代表)	“A Reconsideration of the Victory of the FIS and the Failure of Algerian Democratization: From the 1988 Uprising to the 1992 Coup d'état”	『上智アジア学』	30	2012	125-147
堀井聡江(訳)、 川島緑(解説) (研究分担者)	『『新しい黎明』—1960年代カイロのフィリピン・ムスリム留学生論文集邦訳・解説(7)』	『上智アジア学』	30	2012	189-208
AKAHORI Masayuki (研究分担者)	“John Renard (ed.): Tales of God's Friends. <i>Islamic Hagiography in Translation</i> . Berkeley, Los Angeles and London 2009: University of California Press, XV +413S. ISBN 978-0-520-25896-9, \$ 24.95.”	<i>Der Islam</i>	98-1/ 2	2012	243-247
赤堀 雅幸 (研究分担者)	「ベドウィンの今—遊牧の暮らしから離れて」	鈴木恵美編『現代エジプトを知るための60章』明石書店		2012	52-57
	「今も昔も祭りは楽しみ—唯一なる神を称え、数多の聖者とともに祝う」	同上		2012	234-239
	「宗教リテラシーⅢ—イスラーム」	孫崎亨・音好宏・渡辺文夫編『総合的戦略論ハンドブック』ナカニシヤ出版		2012	165-171

北澤 義之 (拠点構成員)	「東アラブ地域パレスチナ難民の現状と課題」	『京都産業大学 世界問題研究所紀要』	28	2013	37-56
	「第 10 章 中東の現状とイスラム」	木村雅昭・中谷真憲編 『覇権以後の世界秩序』ミネルヴァ書房		2012	190-199, 210-216
	「第 11 章 アラブ連盟の安全保障分野における機能と改革」	吉川元・中村覚編『中東の予防外交』信山社		2012	263-281
KOBAYASHI Yasuko (研究分担者)	“The Development of Studies on Islam in Indonesia: Towards a Combination of Area Studies and Islamic Studies”	<i>Acta Aiatica</i> (Bulletin of the Institute of Eastern Culture)	104	2013	99-120
小林 寧子 (研究分担者)	「ムスリムの暮らし」(第 13 章)	村井吉敬・佐伯奈津子・間瀬朋子編著『現代インドネシアを知るための 60 章』明石書店		2013	86-90
	「宗教」(第 26 章)	同上		2013	157-161
	「イスラーム」(第 27 章)	同上		2013	162-167
清水 学 (拠点構成員)	「イスラームと現代資本主義—導入的試論—」	『帝京経済学研究』	46-1	2012.12	133-145
	「対外関係 南アジア・西アジア」	『中国年鑑』	2012 年度 版	2012.5	119-121
	「5.7 中央アジア農業の市場化とその課題」	帯谷知可ほか編『朝倉世界地理講座 5』朝倉書店		2012	249-260
高岡豊(拠点構成員)・浜中新 吾 (研究協力者) ・溝渕正季(研究協力者)	「レバノン人の越境移動に関する経験と意識:「新しいフェニキア人」像の再考」	『日本中東学会年報 (AJAMES)』	28-1	2012	35-58
高岡 豊 (拠点構成員)	「2012 年人民議会選挙から見るアサド政権の機能と基盤」	『中東研究』	515	2012.6	101-109
	「「潜入問題」再考 シリアを破壊する外国人戦闘員の起源」	『中東研究』	516	2013.1	83-91
高橋 圭 (研究分担者)	「第 27 章 暮らしに息づくイスラームの信仰—スーフィズムと聖者信仰」	鈴木恵美編『現代エジプトを知るための 60 章』明石書店		2012	172-176
見市 建 (拠点構成員)	「インドネシアにおけるイスラーム主義急進派の位置づけ」	『海外事情』	60-4	2012	61-73
	「映画にみるインドネシアの中間層文化、宗教と政治」	『アジア研ワールド・トレンド』	204	2012.9	20-21
	「インドネシアのイスラーム」	『月刊インドネシア』	2012 年 10 月号	2012.10	4-12
	「出版業にみる福祉正義党の『市場戦略』」	床呂郁哉・西井涼子・福島康博編『東南アジアのイスラーム』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所		2012	217-231

MISAWA Nobuo (拠点構成員)	“The First Japanese who Resided in the Ottoman Empire: The Young Journalist NODA and the Student Merchant YAMADA”	『地中海論集＝ <i>Mediterranean World</i> 』 (一橋大学)	21	2012.6	51-69
	“Abdürreşit İbrahim ve Japon Milliyetçileri”	<i>Türk-Japon İlişkilerinin Dönüm Noktasında Abdürreşit İbrahim</i>		2012.10	277-283
三沢 伸生 (拠点構成員)	「日本におけるアジア主義とイスラーム主義の交錯」	松浦正孝編著『アジア主義は何を語るのかー記憶・権力・価値ー』		2013.2	497-516
MISAWA Nobuo (拠点構成員) & OSAWA Koji	“Japanese Opinions about Islam before and during World War II: Articles Related to Islam in Chûgai Nippô”	『日本中東学会年報』	28-2	2013.1	107-126
石井隆憲・三沢 伸生 (拠点構成員)	「トルコ・イスタンブールにおける合気道の伝播と現状ーその覚書ー」	『アジア文化研究所研究年報』(東洋大学)	47	2013.2	261-268
三沢伸生(拠点 構成員)・大澤 広嗣	「『中外日報』所収イスラーム関係記事目録(1937-45年)ーデータベース化事業を通してー」	同上	47	2013.2	269-290
三代川 寛子 (研究分担者)	「第30章 コプト・キリスト教徒ー国民かズインミーか」	鈴木恵美編『現代エジプトを知るための60章』明石書店		2012	187-191
	「コラム5 コプト社会のかじ取りを担った総主教ーシェヌダⅢ世」	同上		2012	192-193
	「編者より」	三代川寛子編『東方キリスト教諸教会：基礎データと研究案内(増補版)』上智大学イスラーム地域研究機構	9	2013	viii-xi
	「コプト正教会・基礎データ」	同上	9	2013	3-6
	「エジプト・ナショナリズムとコプト」	同上	9	2013	35-40
MOTEKI Akashi (拠点構成員)	“The Mihna of Imām al-Shāfi‘ī” (Special Issue: The Intellectual’s Role and Muslim Society from a Historical Perspective)	<i>Orient</i>	48	2013.3	3-19
MORIMOTO Kazuo (拠点構成員)	“Introduction”	MORIMOTO Kazuo (ed.), <i>Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: The Living Links to the Prophet</i> , Routledge: London and New York		2012	1-12
	“How to Behave toward Sayyids and Sharifs: A Trans-sectarian Tradition of Dream Accounts”	同上		2012	15-36
中西 竜也 (研究協力者) 森本 一夫 (拠点構成員) 黒岩 高	「17・18世紀交替期の中国古行派イスラーム：開封・朱仙鎮のアラビア語碑文の検討から」	『東洋文化研究所紀要』	162	2012	120(223)-55(288)

森本 一夫 (拠点構成員)	「イスラームを知る」という隘路」	福井憲彦、田尻信壹編『歴史的思考力を伸ばす世界史授業デザイン：思考力・判断力・表現力の育て方』明治図書出版		2012	37-42
横田貴之 (研究分担者) ダルウィッシ ユ・ホサム (研究協力者)	「エジプト政治の民主化と社会運動—「1月25日革命」とムバーラク政権の崩壊」	酒井啓子編著『中東政治学』有斐閣		2012	141-154
今井 真士 (研究協力者)	「権威主義体制下の単一政党優位と名目的合意形成：エジプトの憲法修正過程（2007）とイエメンの選挙法審議過程（2007-2010）をめぐる政治力学」	『日本中東学会年報』	28-1	2012	99-123
	「第二共和政前夜のエジプト：新憲法をめぐるイデオロギー対決と大統領選挙後の展望」	『中東研究』	515-2	2012	76-86
	「権威主義体制下の単一政党優位と選挙前連合の形成：政党間の競合性と選挙制度の効果」	『国際政治』	172	2013	44-57
岩坂 将充 (研究協力者)	「ニコラ・モンソー著「トルコのEU加盟プロセスに見るトルコのエリートと世論の対EU意識」	中村雅治・イーヴ・シユメイユ編著『EUと東アジアの地域共同体：理論・歴史・展望』上智大学出版		2012. 12	238-262
IWASAKA Masamichi (研究協力者)	“A Reexamination of the Civil-Military Relations in Turkey” (学位論文要旨)	『日本中東学会年報』	28-1	2012.7	153-157
金谷 美紗 (研究協力者)	「2000年代後半における抗議運動と「1月25日革命」—労働運動と民主化運動の発展過程に注目して—」	伊能武次・土屋一樹編『エジプト動乱—1.25革命の背景—』アジア経済研究所		2012	63-85
	「革命に至る抗議運動の火付け役：マハッラ・クブラーの労働運動（19章）」	鈴木恵美編『現代エジプトを知るための60章』明石書店		2012	124-128
	「民主化運動：キファーヤ運動、4月6日運動、そして革命へ」	同上		2012	135-139
鷹木 恵子 (研究協力者)	「チュニジアの伝統的ナツメヤシ文化—その変容と保存と新たな創造」	『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明』	3	2012.4	3-34
	「チュニジア・ジェリド地方のレンガ建築とエコレンガ・プロジェクト」	『イスラーム圏アフリカ論集』	5	2012. 10	3-40
	“Ecumenism and Transnational Movement in Islam: A Peace-building Activities of the Sufi Tariq al-Alawiyya”	<i>The Journal of Sophia Asian Studies</i>	30	March 2013	89-104
	第3章「オアシスの伝統的生活から学ぶ未来」	石山俊・縄田浩志編『ポスト石油時代の人づくり・モノづくり』昭和堂		2013.3	105-135

貫井 万里 (研究協力者)	“Protest Events in the Tehran Bazaar During the Oil Nationalization Movement of Iran”	『日本中東学会年報』	28-1	2012.7	1-34
	「アバダーン」「テヘラン」「フーゼスターン州」等 20 項目	竹内啓一他編『地名事典』朝倉書店	3	2012.12	
小河 久志 (研究協力者)	「ダッワの伸展とその諸相—タイ南部におけるムスリム社会とタブリーガー」	床呂郁哉、西井涼子、福島康博編『東南アジアのイスラーム』東京外国語大学出版会		2012	313-333
木下 博子 (研究協力者)	「書評：床呂郁哉・西井涼子・福島康博編 2012. 「東南アジアのイスラーム」東京外国語大学出版, 412p.」	『東南アジア研究』	50-2	2013	317-318
	「エジプト・アズハル大学 インドネシア人留学生のいま」	『Asahi 中東マガジン』朝日新聞社		2012.5.1	
	「アズハルのインドネシア人留学生(1) 留学に向かうまでの 2 つの物語」	『Asahi 中東マガジン』朝日新聞社		2013.3.18	
KUSHIMOTO Hiroko (研究協力者)	“Islam and Modern School Education in the Journal <i>Pengasuh</i> : Review of the <i>Kaum Muda - Kaum Tua Dichotomy</i> ”	<i>Studia Islamika</i>	19 (2)	2012	207-249
塩崎 悠輝 (研究協力者)	「書評『William R. Roff, <i>Studies on Islam and Society in Southeast Asia</i> 』」	『東南アジア—歴史と文化—』	41	2012.5	167-170
	「カラダーウィーによる欧米のマイノリティ・ムスリムのためのファトワー」	塩崎悠輝編『マイノリティ・ムスリムのイスラーム法学』日本サウディアラビア協会		2012.6	5-16
山口 元樹 (研究協力者)	「教育メディアから見るインドネシアのアラブ系住民による教育活動の変容—20 世紀前半におけるイルシャードの学校の教科書とカリキュラムを事例として—」	山本正身編『アジアにおける「知の伝達」の伝統と系譜』慶應義塾大学言語文化研究所		2012	141-167
	「インドネシア独立後のアラブ人協会イルシャードの変容—国民国家形成期におけるアラブ人による同化・統合の動き—」	『史学』	81-4	2013	67-92
YAMAGUCHI Motoki (研究協力者)	“Debate on the Status of <i>Sayyid-Sharīfs</i> in the Modern Era: The ‘ <i>Alawī-Irshādī</i> ’ Dispute and Islamic Reformists in the Middle East”	MORIMOTO Kazuo (ed.), <i>Sayyid-Sharīfs in Muslim Societies: The Living Links to the Prophet</i> , Routledge: London and New York.		2012	49-72

鎌田 繁 (研究協力者)	「(読書案内) シーア派と神秘主義」	『歴史と地理』	654	2012. 5.20	37-40
	『『存在認識の道』—井筒東洋哲学を支えるもの—	坂本勉・松原秀一編『井筒俊彦とイスラーム』 慶應義塾大学出版会		2012. 10.30	379-388
	「イスラーム概説」	世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版		2012. 12.31	162-165
	「シーア派」	世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版		2012. 12.31	182 -185
	「イスラーム文化圏」	同上		2012. 12.31	629
	「マハディーとマイトレーヤ(弥勒仏) —イスラームと仏教における救済者—」	『一神教学際研究』	8	2013.3	
	「他者との共生とイスラーム」	『国際哲学研究』別冊 (共生の哲学に向けて—イスラームとの対話—) 東洋大学国際哲学研究センター		2013.3	
	「スーフィズムにおける身心変容技法」	『身心変容技法研究』	2	2013.3	97-105
	「聖典解釈と哲学 イスラーム神秘思想の営み」	『比較思想研究』	39	2012	
KAMADA Shigeru (研究協力者)	“Mahdi and Maitreya (Miroku) – Saviors in Islam and Buddhism –”	<i>Journal of Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions</i>	8	2013.3	
小牧 幸代 (研究協力者)	「南アジアのイスラーム：聖者廟と宗教学校が織りなす信仰の風景」	立川武蔵・杉本良男・海津正倫編『新世界地理：大地と人間の物語・第4巻 アジアIV 南アジア』朝倉書店		2012	359-368
	「インドのイスラーム」	井上順孝編『世界宗教百科事典』丸善出版		2012	
	「ムスリムとカースト<ウッタルプラデーシュ州>：預言者の子孫を頂点としたヒエラルキー」	金基淑編『カーストから現代インドを知るための30章』明石書店		2012	248-258
	「コンタクト・ゾーンとしての聖遺物信仰：南アジア・ムスリム社会の事例から」	田中雅一・小池郁子編『コンタクト・ゾーンの人文学 第Ⅲ巻 宗教実践』晃洋書房		2012	155-175
	「聖なる複製・商品の信仰空間：イスラームの聖遺物信仰とフェティシズム」	田中雅一編『フェティシズム研究2 越境するモノ』京都大学学術出版会		2013	

SAITO Tsuyoshi (研究協力者)	“Toward an Understanding of the Significance of <i>Baraka</i> in Everyday Life Contexts: With Reference to Anthropological Studies on Maraboutism in Morocco”	<i>The Journal of Sophia Asian Studies</i> (『上智アジア学』)	30	2013	71-88
高尾賢一郎 (研究協力者)	「コラム：サウジアラビア王国百科事典」	『京都ユダヤ思想』	3	2012	104-106
	「サウジアラビアの観光政策と地方の魅力」	『日本サウディアラビア協会報』	228	2013	21-22
	「メッカ―聖地を擁するということ」	星野英紀、山中弘 岡本亮輔編『聖地巡礼ツーリズム』弘文堂		2012	60-68
	「イスラームとソーシャル・キャピタル」	櫻井義秀、濱田陽編『アジアの宗教とソーシャル・キャピタル』明石書店		2012	220-238
若松 大樹 (研究協力者)	「アレヴィー派」	世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版		2013	188-189

〔図書〕計（ 11 ）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
私市 正年 (拠点代表)	『原理主義の終焉か―ポスト・イスラーム主義論―』	山川出版社		2012	118
川島 緑 (研究分担者)	『マイノリティと国民国家―フィリピンのムスリム』	山川出版社		2012	106
KAWASHIMA Midori (ed.) (研究分担者)	<i>The Qur'an and Islamic Manuscripts of Mindanao</i>	Institute of Asian Cultures, Sophia University		2012	106
菅原 由美 (拠点構成員)	『オランダ植民地体制下ジャワにおける宗教運動―写本に見る 19 世紀インドネシアのイスラーム潮流―』	大阪大学出版会		2013	352
MIICHI Ken (拠点構成員) and Omar FAROUK (eds.)	<i>Dynamics of Southeast Asian Muslims in the Era of Globalization</i>	JICA-RI		2013	
三代川寛子編 (研究分担者)	『東方キリスト教諸教会：基礎データと研究案内（増補版）』	上智大学イスラーム研究機構	9	2013	xii + 286
MORIMOTO Kazuo (ed.) (拠点構成員)	<i>Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: The Living Links to the Prophet</i>	Routledge		2012	xii + 276

石黒 大岳 (研究協力者)	『中東湾岸諸国の民主化と政党システム』	明石書店		2013	272
粕谷元(研究協力者)、多和田裕司編	『イスラーム社会における世俗化、世俗主義、政教関係』	上智大学イスラーム研究機構	10	2013	ii + 93
小河 久志 (研究協力者)	『自然災害と社会・文化ータイのインド洋津波被災地をフィールドワークー』	風響社		2013	50
世界宗教百科事典編集委員会編 鎌田繁 (共編) (研究協力者)	『世界宗教百科事典』	丸善出版		2012.12.31	891

〔学会発表〕計 (45) 件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
KAWASHIMA Midori (研究分担者)	“The Concept of the State of an Islamic Intellectual in the Philippines during the 1950-60s: <i>History of Islam in the Philippines</i> by Ahmad Bashir”	The Ninth International Conference on the Philippines	2012.10.30	The Kellogg Center at Michigan State University, East Lansing, Michigan, USA.
	“Transmission of Islamic Knowledge in the Philippines: Ulama, Society and the State”	早稲田大学アジア・ムスリム研究所第3回国際ワークショップ Educating Muslim Minorities in Asia	2012.12.15	早稲田大学 早稲田キャンパス 26 号館地下多目的講義室
赤堀 雅幸 (研究分担者)	「見捨てられ、捨てられ、ずらされたフィールドとしての中東」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究「地域民族誌の方法論と人類学的空間構想力の可能性の探求」2012 年度第2 回研究会	2012.6.16	東京外国語大学本郷サテライト
北澤 義之 (拠点構成員)	「アラブの春を考える」	日本国際政治学会関西支部例会	2012.4.21	関西大学
	“Challenge of the Protection of Palestine Refugees”	International Conference on Conflict Prevention in the Middle East (同志社大学)	2012.11.9	Istanbul, TURKEY
小林 寧子 (研究分担者)	「日本の回教工作の展開と帰結：インドネシアを中心に」	新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」第4 班研究会“戦時期日本の喇嘛・回教工作”	2012.12.1	東京理科大学

高岡豊 (拠点構成員) 溝渕正季 (研究協力者)	“The Myth of Lebanese Diaspora Verification by Opinion Polls, 2010 and 2012”	The 21st KAMES & The 9th AFMA International Conference	2012.10.8	釜山、韓国
高橋 圭 (研究分担者)	「近代エジプトにおける知的交流の場—東洋連盟の事例から」	日本中東学会 第 28 回年次大会	2012.5.13	東洋大学
	「スーフィズムの知と実践の変容—エジプトの事例から」	研究会「近代・イスラームの比較教育社会史」(人間文化研究機構(NIHU)プログラム「イスラーム地域研究」東洋文庫拠点・科学研究費補助金基盤研究(C)「オスマン帝国における教育の連続性と変化(19世紀~20世紀初頭)」(代表者:秋葉淳(千葉大学))	2012.12.9	東洋文庫
MIICHI Ken (研究分担者)	“How religions (not) work on Jakarta’s Gubernatorial Election in 2012: Contemporary Social Changes and Cultural Plurality within Muslim Politics”	Socio Political and Economic Reform in Southeast Asia, LIPI-CSEAS Kyoto University	2013.3.9	Jakarta, INDONESIA
MISAWA Nobuo (拠点構成員)	“Abdürreşit İbrahim ve Japon Milliyetçileri”	Uluslararası Abdürreşit İbrahim ve Türk-Japon İlişkileri Bilgi Şöreni	2012.5.23	Konya, TURKEY
	“Tahrir Defterlerinde Osmanlı İdari Genişlemesinin İzleri: XVI. yüzyılda Malatya’daki Toprak Düzeni”	Osmanlı Coğrafyası Kültürel Arşivi Mirasının Yönetimi ve Tapu Arşivlerinin Rolü Uluslararası Kongresi	2012.11.22	İstanbul, TURKEY
MIYOKAWA Hiroko (研究分担者)	“The Revival of the Nayruz Festival in Modern Egypt”	The Tenth International Congress of Coptic Studies	2012. 9.19	Rome, ITALY
MORIMOTO Kazuo (拠点構成員)	“A Thirsty Market in the East: Ibn ‘Inaba and His Sayyid Genealogies”	The Ninth International Conference on Iranian Studies	2012.8.4	Conrad Hotel, Istanbul, TURKEY
荒井 康一 (研究協力者)	「10%阻止条項つき比例代表制下の政党と有権者の合理的選択〜トルコにおける親クルド政党を中心に」	日本選挙学会	2012.5.20	筑波大学
今井 真士 (研究協力者)	「憲法起草と『移行』: ポスト・ムバーラク期のエジプトにおける政党間の合従連衡」	日本比較政治学会	2012.6.23	日本大学三崎町キャンパス
岩坂 将充 (研究協力者)	「トルコにおける司法と軍: 憲法裁判所と「体制」維持の観点から」	日本中東学会 第 28 回年次大会	2012.5.13	東洋大学白山キャンパス
IWASAKA Masamichi (研究協力者)	“Recent Political Developments in Turkey: From the Perspective of the Civil-Military (and Judicial) Relations”	The 9 th International Conference of Asian Federation of Middle Eastern Studies Associations	2012.10.6	Busan University of Foreign Studies, Busan, KOREA

金谷 美紗 (研究協力者)	「エジプトにおける移行モードと民主化移行への影響：革命後エジプトの上下院選挙をめぐる政治過程に注目して」	日本選挙学会	2012.5.20	筑波大学
吉川 卓郎 (研究協力者)	「中東・マグレブ諸国における異議申し立てのネットワーク：ヨルダンの事例を中心に」	立命館大学国際地域研究所・途上国研究会	2012.7.11	立命館大学 衣笠キャンパス
飛内 悠子 (研究協力者)	「「スーダン」に生きる：移住者地区における人々の「移住」と「帰還」、そしてその後」	JCAS 次世代研究者ワークショップ	2012. 12	東京外国語大学
	「彼らは何者になるのか？：南スーダン独立に伴う人々の「移動」からみる市民性の変遷」	AA 研共同研究会	2013.1	静岡県立大学
貫井 万里 (研究協力者)	「アメリカの対イラン政策と 1953 年 8 月クーデター事件」	日本アメリカ史学会	2012.9	一橋大学
NUKII Mari (研究協力者)	“The History of the Arab Community Center for Economic and Social Services: Living as “Arab Americans” in America before and after 9/11”	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催ベイルート若手研究者報告会「日本における中東・イスラーム研究の最前線」 Middle Eastern and Islamic Studies in Japan: The State of the Art	2012.12	Beirut, LEBANON
山尾大 浜中新吾 (研究協力者)	「イラクにおける政党支持構造と その変容」	日本政治学会	2012.10.6	九州大学
Fransisco Anto (研究協力者)	“Islam and Christianity in Indonesia”	上智大学イスラーム地域研究機構 拠点強化事業「イスラームをめぐる諸宗教間の関係の歴史と現状」 2012 年度講演会	2012.11.11	上智大学市 ヶ谷キャンパス
	“Democratization and Civil Society in Indonesia”	National Seminar IKAHA	2013.2.28	IKAHA Institute, Jombang INDONESIA
小河 久志 (研究協力者)	「宗教実践にみる自然災害：タイ南部ムスリム村落におけるインド洋津波災害とグローバル化の一断面」	白山人類学研究会	2012.11.19	東洋大学
木下 博子 (研究協力者)	「アズハル留学がもたらしたもの——インドネシアにおける留学生ネットワークと社会的役割の諸相」	WIAS「中東・アジアのイスラーム系宗教大学の留学生獲得戦略：知のグローバル化とローカル化」研究会「東南アジアにおけるアズハル留学：インドネシアとマレーシアの比較」	2012.9.29	早稲田大学

KINOSHITA Hiroko (研究協力者)	“The Networks and Activities of al-Azhar Graduates in Contemporary Indonesia”	Kyoto-Cornell Joint International Workshop on Trans-national Southeast Asia: Paradigms, Histories, Vectors	2013.1.11	京都大学
久志本裕子 (研究協力者)	「変容するイスラームの学びの文化—マレーシア・ムスリム社会における人類学的考察—」	日本文化人類学会	2012.6.24	広島大学
	「アズハルの名の下に：マレーシアにおけるウラマー養成の国家管理」	WIAS 共催研究会「東南アジアにおけるアズハル留学：インドネシアとマレーシアの比較」	2012.9.29	早稲田大学
	「マレーシアの預言者生誕祝い（マウリド）：民衆のイスラーム実践において詠まれるもの」	第2回映像イスラーム研究会	2012.10.8	国立民族学博物館
KUSHIMOTO Hiroko (研究協力者)	“The Transformation of Culture of Islamic Learning: Anthropological Analysis in the Malay Muslim Society”	CASIS Scholar Dialogue	2013. 3.27	Center for Advanced Studies of Islam, Science and Civilization, Universiti Teknologi MALAYSIA
塩崎 悠輝 (研究協力者)	「アフマド・ファターニーのファトワー集—19世紀末から20世紀初めにかけてのマッカと東南アジアの関係—」	日本中東学会 第28回年次大会	2012.5.13	東洋大学
SHIOZAKI Yuki (研究協力者)	“Overview of the Japanese Muslim Society: Past and Future”	Workshop of International Institute of Islamic Thought	2012.6.9	東京都多摩市多摩スポーツセンター
	“The Transition of Islamic Learning Centre and Official Fatwas in Southeast Asian Muslim Countries”	International Conference on Centres of learning and changes in Muslim societies	2012.8.27	The University of Oxford, Oxford, UK
	“The Impact of Islam on the Japanese Wartime Policy during the Second World War: The Interaction in Southeast Asia”	International Conference “Values in Religions”	2013.2.21	Cairo University, Cairo, EGYPT
	“How to Categorize Non-Muslims in the Context of Islamic Jurisprudence?: Fatwas on Non-Muslims in Malaysian Society”	Workshop “Shariah, Governance and Interreligious Relations”	2013.3.1	Doshisha University, Kyoto
	“Integration of Non-Muslims into the Islamic Public Sphere: Islamization and Repulsion in Malaysia after 1990s”	International Conference “Religion, Secularity, and the Public Sphere in East and Southeast Asia”	2013.3.7	National University of Singapore, SINGAPORE

鎌田 繁 (研究協力者)	「聖典解釈と哲学 - イスラーム 神秘思想の営み」	比較思想学会研究例会	2012.4.28	大正大学
	「スーフィズムにおける心身変 容技法について」	身心変容技法研究会	2012.7.12	京都大学稲 盛財団記念 館
	「他者との共生とイスラーム」	東洋大学国際哲学研究 センター	2012.11.6	東洋大学
SAWAI Makoto (研究協力者)	“Evolution of Islam in Japan”	Professional Learning Circle of the International Islamic University Malaysia	2013.4.8	Taman Setapa Indah MALAYSIA
	“Toshihiko Izutsu’s Weltanschauung (Worldview) of the Qur’an”	Intellectual Youth Club of the International Islamic University Malaysia	2013.5.5	The International Islamic University Malaysia MALAYSIA

〔講演〕計（２）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
赤堀 雅幸 (研究分担者)	「心を磨き、教えを楽しむ— スーフィズムの広まり」	宗教情報センター 世界宗教セミナー 第２回	2012.7.28	応現院
貫井 万里 (研究協力者)	「イランの歴史と文化」	Iran Air GSA for Japan Opening Ceremony	2012.11	東京、在京イラ ン・イスラム共和 国大使館

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 イスラーム地域研究センター

代表：小杉泰（京都大学イスラーム地域研究センター・センター長、
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）

中心テーマ 『イスラーム世界の国際組織』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
小杉 泰	京都大学イスラーム地域研究センター・センター長、アジア・アフリカ地域研究研究科教授	研究拠点代表 研究総括・中東コーディネーター・「イスラーム経済とイスラーム法」研究班責任者 (イスラーム法、イスラーム学、現代中東政治)
東長 靖	イスラーム地域研究センター・副センター長、アジア・アフリカ地域研究研究科教授	「広域タリカ」研究班責任者 (スーフィズム思想研究)
岡本 正明	イスラーム地域研究センター研究員、東南アジア研究所准教授	東南アジアコーディネーター
帯谷 知可	イスラーム地域研究センター研究員、地域研究統合情報センター准教授	中央アジアコーディネーター
黒田 賢治	イスラーム地域研究センター研究員、広島大学大学院総合科学研究科所属日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者 (シーア派(イスラーム地域研究))
未近 浩太	イスラーム地域研究センター研究員、立命館大学国際関係学部准教授	「国際関係」研究班研究分担者 (中東地域研究、国際政治学、比較政治学)
竹田 敏之	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科非常勤講師	「国際関係」研究班研究協力者 (アラビア語文法学、現代アラブ文化論)
飛奈 裕美	イスラーム地域研究センター研究員、人間・環境学研究科所属日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者 (パレスチナ研究)
長岡 慎介	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科准教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究分担者 (イスラーム金融、イスラーム経済学)

仁子 寿晴	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科特任准教授	「広域タリカ」研究班研究協力者 (イスラーム哲学、論理学)
子島 進	イスラーム地域研究センター研究員、東洋大学国際地域学部准教授	南アジアコーディネーター
平野 淳一	イスラーム地域研究センター研究員、千葉大学大学院社会文化研究科所属日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者 (近代イスラーム政治思想)
藤井 千晶	イスラーム地域研究センター研究員、大阪大学大学院言語文化研究科所属日本学術振興会特別研究員(PD)	「広域タリカ」研究班研究協力者 (東アフリカにおけるイスラーム知識人)
堀抜 功二	イスラーム地域研究センター研究員、財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究員 (東京大学拠点研究協力者)	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者 (中東地域研究、湾岸アラブ諸国の政治と社会)
安田 慎	イスラーム地域研究センター研究員、甲南大学非常勤講師	「広域タリカ」研究班研究協力者 (中東地域研究、イスラミック・ツーリズム)
山尾 大	イスラーム地域研究センター研究員、九州大学大学院社会文化研究院講師	「国際関係」研究班研究協力者 (現代イラク政治、中東地域研究)
山尾 博子	イスラーム地域研究センター研究員	「広域タリカ」研究班研究協力者 (東南アジアと中東のネットワーク)
山根 聡	イスラーム地域研究センター研究員、大阪大学大学院言語文化研究科教授、京都大学非常勤講師	南アジア・コーディネーター・「国際関係」研究班責任者 (ウルドゥー語学、文学、南アジアにおけるイスラーム文化)
イディリス・ダニシマズ	イスラーム地域研究センター研究員、同志社大学グローバル・スタディーズ研究科助教	「広域タリカ」研究班研究協力者 (トルコ・イスラーム文化、イスラーム学、スーフィズム)
ピエール＝ジャン・リュイザール	イスラーム地域研究センター研究員、フランス国立科学研究センター主任研究員	「広域タリカ」研究班研究協力者 (イラク研究、スーフィズム)
ムハンマド・ハーキミー	イスラーム地域研究センター研究員、マレーシア国民大学経済学部講師	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者 (イスラーム農業経済)
メフブーブ・ウル＝ハッサン	イスラーム地域研究センター研究員、国際イスラーム大学客員教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者 (イスラーム経済・金融、開発経済)
今松 泰	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科客員准教授	「広域タリカ」研究班研究分担者 (オスマン朝史/宗教史・文化史)

研究グループ：「イスラーム世界の国際組織とグローバル・ネットワーク」

(研究グループメンバー)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
小杉 泰	京都大学イスラーム地域研究センター・センター長、アジア・アフリカ地域研究研究科教授	研究グループ代表 研究総括・中東コーディネーター・「イスラーム経済とイスラーム法」研究班責任者 (イスラーム法、イスラーム学、現代中東政治)
東長 靖	イスラーム地域研究センター・副センター長、アジア・アフリカ地域研究研究科教授	「広域タリーカ」研究班責任者 (スーフィズム思想研究)
末近 浩太	立命館大学国際関係学部准教授	「国際関係」研究班の研究分担者 (中東地域研究、国際政治学、比較政治学)
長岡 慎介	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科准教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班の研究分担者 (イスラーム金融論、イスラーム経済学)
濱田 正美	龍谷大学文学部教授	「広域タリーカ」研究班の研究分担者 (東洋史)
保坂 修司	財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター副センター長・研究理事	「国際関係」研究班の研究分担者 (湾岸地域近現代史)
森 伸生	拓殖大学海外事情研究所教授、同大イスラーム研究所所長	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班の研究分担者 (イスラーム法)
山根 聡	大阪大学世界言語研究センター教授、京都大学非常勤講師	南アジア・コーディネーター・「国際関係」研究班責任者 (ウルドゥー語学、文学、南アジアにおけるイスラーム文化)
今松 泰	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科客員准教授	「広域タリーカ」研究班の研究分担者 (オスマン朝史/宗教史・文化史)

(研究グループ海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
ティエリ・ザルコンヌ	フランス国立科学研究センター主任研究員	海外協力者、「広域タリーカ」研究班の研究分担者
トゥリア・ガイベス	ブレーズパスカル大学准教授	海外協力者、「国際関係」研究班の研究分担者
メフメット・アシュタイ	英ダラム大学上級講師	海外協力者、「イスラーム経済とイスラーム法」研究班の研究分担者

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
石黒 大岳	九州大学大学院人文科学研究院 助教 (東京大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「国際関係」研究班研究協力者、 湾岸産油国の政治改革、イスラーム 政党の活動
伊藤 寛了	東京外国語大学 非常勤講師	「国際関係」研究班研究協力者、 トルコ近現代史、トルコ地域研究
今井 静	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究 科 博士課程	「国際関係」研究班研究協力者、 パレスチナ研究
小倉 智史	京都大学文学研究科西南アジア史学研究室 博 士課程	「国際関係」研究班研究協力者、 カシミール史、中央アジア・イン ド関係史
吉川 卓郎	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部 准 教授 (東京大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「国際関係」研究班研究協力者、 比較政治学、国際政治学、中東地 域研究
黒田 景子	鹿児島大学法文学部 教授	「国際関係」研究班研究協力者、 南タイ・北部マレーシアにおける タイ語話者ムスリム居住地域の歴 史研究
黒田 賢治	広島大学総合科学研究科 日本学術振興会特別 研究員 (PD)	「国際関係」研究班研究協力者、 シーア派 (イスラーム地域研究)
幸加木 文	東京外国語大学大学院地域文化研究科 博士後 期課程	「国際関係」研究班研究協力者、 現代トルコ政治思想
佐々木拓雄	久留米大学法学部 准教授	「国際関係」研究班研究協力者、 インドネシア・イスラーム研究
澤江 史子	東北大学大学院国際文化研究科 准教授 (東京大学拠点研究協力者)	「国際関係」研究班研究協力者、 トルコ現代政治
須永恵美子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究 科 博士課程	「国際関係」研究班研究協力者、 パキスタン政治研究
竹田 敏之	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究 科 非常勤講師	「国際関係」研究班研究協力者、 アラビア語文学・現代アラブ文 化論
多和田裕司	大阪市立大学大学院文学研究科 教授	「国際関係」研究班研究協力者、 文化人類学、マレーシア地域研究、 東南アジア研究

千葉 悠志	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程	「国際関係」研究班研究協力者、中東メディア研究
飛奈 裕美	京都大学大学院人間・環境学研究科 日本学術振興会特別研究員（PD）	「国際関係」研究班研究協力者、パレスチナ研究
西野 正巳	防衛省防衛研究所研究部 主任研究官	「国際関係」研究班研究協力者、近現代政治思想
野中 葉	慶応義塾大学 SFC 研究所 上席所員（訪問） （上智大学拠点研究協力者）	「国際関係」研究班研究協力者、現代インドネシア研究
平野 淳一	千葉大学大学院社会文化研究科 日本学術振興会特別研究員（PD） （早稲田大学拠点研究協力者）	「国際関係」研究班研究協力者、近代イスラーム政治思想
樋口 征治	中東調査会 嘱託	「国際関係」研究班研究協力者、中東の政治と社会
松村 耕光	大阪大学言語文化研究科 教授	「国際関係」研究班研究協力者、ウルドゥー文学、イクバル研究
萬宮 健策	東京外国語大学大学院総合国際学研究院 准教授	「国際関係」研究班研究協力者、スィンディー語、パキスタン・アフガニスタン情勢
宮坂 直史	防衛大学校国際関係学科 教授	「国際関係」研究班研究協力者、安全保障政策論
山尾 大	九州大学大学院比較社会文化研究院 専任講師	「国際関係」研究班研究協力者、現代イラク政治、中東地域研究
イディリス・ダニシマズ	同志社大学グローバルスタディーズ研究科 助教 （上智大学拠点研究協力者）	「広域タリカ」研究班研究協力者、スーフィズム、スーフィーによるクルアーン解釈
外川 昌彦	広島大学大学院国際関係協力研究科 准教授 （上智大学拠点研究協力者）	「広域タリカ」研究班研究協力者、文化人類学（南アジアのイスラーム研究）
石田 友梨	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程 （上智大学拠点研究協力者）	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム思想史
内山 明子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程 （上智大学拠点研究協力者）	「広域タリカ」研究班研究協力者、イラン・イマームザーデ研究
遠藤 春香	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程 （上智大学拠点研究協力者）	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム思想史
岡戸 真幸	上智大学グローバルスタディーズ研究科 日本学術振興会特別研究員（PD） （上智大学拠点研究協力者）	「広域タリカ」研究班研究協力者、地域研究、文化人類学、社会的ネットワーク論、移動

加藤 瑞絵	国土館大学 非常勤講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム思想史
鎌田 繁	東京大学東洋文化研究所 教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、シーア派イスラーム思想
荻谷 康太	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 助教 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、西アフリカのイスラーム
川本 正知	奈良産業大学地域公共総合研究所 教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、中央アジア史
木下 博子	京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科イスラーム地域研究センター 研究員 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、東南アジアと中東のネットワーク
後藤 明	東京大学 名誉教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、前近代聖者信仰
小牧 幸代	高崎経済大学地域政策学部 教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、社会人類学(南アジア・ムスリム社会)
斎藤 剛	神戸大学大学院国際文化学研究科 准教授 (東京大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、近現代における政治・社会思想の形成と動態
坂井 信三	南山大学人文学部 教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、西アフリカのイスラーム
澤井 真	東北大学大学院文学研究科 博士後期課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、宗教学・初期スーフィズム、神秘主義方法論
塩崎(久志本) 裕子	上智大学外国語学部 日本学術振興会特別研究員 (PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、文化人類学・マレー世界におけるイスラーム的知の伝達
篠田 知曉	京都大学文学研究科西南アジア史研究室 聴講生 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、シャリーフ王朝期モロッコにおける諸社会集団の形成と変容
高尾賢一郎	同志社大学神学研究科 博士課程 在サウジアラビア日本大使館 専門調査員 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、現代シリアにおけるシャイフ・アフマド・クフターローのイスラーム理解、スーフィズム思想
所(柄掘) 木綿子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、マグレブにおける近代とスーフィズム
飛内 悠子	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻 博士課程 日本学術振興会特別研究員 (DC) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、人類学・スーダン国内避難民北部スーダンの教育人類学

中西 竜也	京都大学白眉センター 特定助教 (早稲田大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、中国イスラーム史
仁子 寿晴	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 特任准教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム哲学、倫理学
西山 愛美	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、トルコ・タリカ研究
二宮 文子	京都大学人文科学研究所 日本学術振興会特別研究員 (PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、中世インド文化史
藤井 千晶	大阪大学大学院言語文化研究科 日本学術振興会特別研究員 (PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、東アフリカにおけるイスラーム知識人
二ツ山達朗	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、北アフリカ聖者・タリカ研究
丸山 大介	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラームの聖者論と聖者信仰
守川 知子	北海道大学大学院文学研究科 准教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イラン・イスラーム史
森山 央朗	日本国際問題研究所 研究員 (早稲田大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、歴史 (10～12 世紀マシュリク地域におけるハディース学者の社会的・文化的活動)
矢島 洋一	京都外国語大学国際言語平和研究所 嘱託研究員 (早稲田大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、スーフィズム史
安田 慎	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 科学研究員 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、現代シーア派と聖者廟参詣
吉田 京子	東京大学大学院人文社会系研究科 助教 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、初期シーア派思想
若松 大樹	日本大学文学部 日本学術振興会特別研究員 (PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、現代トルコにおけるアレヴィー集団のオジャク (タリカ)・聖者

大橋 一寛	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、アラビア半島におけるイスラーム法と社会
大道 峻	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、イスラーム経済
川畑亜瑠真	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、イスラーム法、ハラール研究
川村 藍	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、イスラーム法学、イスラーム金融論
佐藤麻理絵	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、現代中東における国家と超域性：難民ホスト国ヨルダンを事例として
萩原 淳	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、湾岸アラブ諸国の政治と社会
堀抜 功二	財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター 研究員 (東京大学拠点研究協力者)	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、中東地域研究、湾岸アラブ諸国の政治と社会
メフブーブ・ウル＝ハサン	国際イスラーム大学（イスラマバード）教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、イスラーム経済

【2012 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

本年度も、アジア・アフリカ地域研究研究科が入る京都大学本部構内総合研究 2 号館東に隣接する同 2 号館別館 2 階東側のイスラーム地域研究センターに、事務局、データ解析室および編集制作室を設置して、学術誌およびブックレットの編集、データベースの維持・更新・作成などを行った。また総合研究 1 号館 3 階 304 号室、北部構内北部総合教育研究棟 3 階 309 号室の二部屋を京都大学より供与された。これら二部屋は、今年度購入された、2 万 6 千点を数えるウルドゥー語文献大型コレクションであるアキールコレクションの整理のため主に使用された。また上述コレクションの調査・分類のため、昨年度に引き続き海外調査を行った。アキールコレクションは一か所に集められたものとしては世界第 2 の規模を有するウルドゥー語コレクションであり、本拠点のみならず、連携事業そのほかの研究に大いに裨益するものと考えられる。

学術資料の整理保管・利用はアジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て行った。

KIAS 運営委員会を例年通り 2 回、2012 年 6 月 1 日および 2013 年 2 月 13 日に開催した。

(東長靖)

2. 研究・教育活動

(1) 拠点全体としての活動

① 京都大学拠点 3 班合同研究会「イスラーム世界の国際組織とグローバル・ネットワークⅡ」

日時：2012 年 11 月 9 日(金) 14:00～18:30

場所：京都大学吉田キャンパス総合研究 2 号館 4 階大会議室(AA447)

題目：プログラムを参照。

概要：本研究会は、京都大学拠点の三つの研究班がそれぞれに発表者を立てて日頃の研究活動の成果を報告することで、拠点の研究課題を追究するための問題点を見つけ、総括するためのものとして位置づけられている。第 1 班では保坂氏が、2012 年に駐リビア米国領事館、駐エジプト米国大使館周辺で起こった事件の引き金となったと考えられている「預言者冒涇映画」に焦点を当て、メディアの解析を行うことで、サラフィー主義とメディアの関係を分析した。第 2 班の久志本氏は、東南アジアにおけるタサウフ教育・イスラーム学習の特色を、マレーシア・インドネシアの伝統的イスラーム教育の場で幅広く使用されているアブドゥ・サマド・アル＝パレンバーニーのテキスト『ヒダーヤトゥ・サーリキーン』を通じて明らかにしていくものであった。第 3 班の発表者である長岡氏はイスラーム金融における知的インフラの系譜と 2000 年代以降の新たな展開について述べ、KIAS ユニット 3 の位置づけとあり方について報告した。

(大橋一寛、安田慎、川村藍)

プログラム

第1班「国際関係(国際組織・情報ネットワークを含む)」研究班

発表者： 保坂修司（日本エネルギー経済研究所中東研究センター副センター長・研究理事）

「共鳴する暴力——預言者冒とく映画事件にみるサラフィー主義とメディア」

コメント： 山根聡（大阪大学言語文化研究科教授）

第2班「広域タリーカ」研究班

発表者： 久志本裕子（日本学術振興会特別研究員（上智大学））

「東南アジアにおける伝統的タサウフ学習の構造—『ヒダーヤトゥ・サーリキーン』を中心とするマッピングの試み」

コメント： 東長靖（京都大学教授）

第3班「イスラーム経済とイスラーム法」研究班

発表者： 長岡慎介（京都大学准教授）

「イスラーム金融の実践を支える知的インフラ：その系譜とグローバル化時代における新展開」

コメント： 吉田悦章（国際協力銀行参事役、早稲田大学ファイナンス研究センター客員主任研究員）

②国際ワークショップ “Japanese and Iraqi Studies in two Perspectives”

日時： 2012 年 5 月 18 日（金） 10:30～18:00

場所：京都大学本部構内総合研究2号館4階大会議室(AA447)

共催：バイトル・ヒクマ（イラク）、（独）国際交流基金、ITP：地域研究のためのフィールド活用型現地語教育、科学研究費補助金基盤研究（A）「現代中東・アジア諸国の体制維持における軍の役割」（研究代表者：酒井啓子）

概要：第1、第2セッションにおいてアラビア語による6本の発表、第3セッションにおいて英語による4本の発表が行われた。アラビア語で発表された6本の概要は以下の通り。第1セッションにおけるサルマーン氏の発表は、イラクの女性解放運動のパイオニアとして活動したサービハ・シェイフ・ダーウッド(1912-1975)の人生を紹介するものであり、竹田氏の発表は、近代アラブ世界におけるアラビア語文化運動の概要とその意義を論じたものである。第2セッションでは、ナジア・フセイン氏が、イラクにおける日本研究はイラクの戦後復興に重要な位置を占めることを述べ、カドゥム・ムフスィン氏が、日本の戦後復興とイラクの戦後復興を比較し、それぞれの復興状況が異なっていることはアメリカの政策の違いに起因することを指摘した。またアラー・アフメド氏は日本の戦後復興における自由民主党の重要性について言及した。ライス・マフムード氏の発表は、アラビア語に翻訳された日本語についてのものであった。第3セッションにおける英語発表の概要は以下の通りである。安田氏は、拡大を続ける宗教ツーリズムの存在を指摘し、その可能性に言及した。今井氏の発表は、ヨルダンの対イラク貿易に

についての歴史的変遷とその特徴を説明し、今後の展望について考察したものである。須永氏は、ウルドゥー語によるタフスィールを利用して南アジアでのイスラーム解釈について考察し、千葉氏はアラブメディア市場の現状とその政治的・経済的立ち位置について言及した。

(黒田彩加、川村藍、佐藤麻理絵)

プログラム

10:30-10:40 Opening Remarks

10:40-11:10 Ceremony for the Souvenir Presentation

11:10-12:00 Presentations (Session 1, Arabic Part 1)

Chair: Prof. KOSUGI Yasushi (Kyoto University)

- “Sabiha al-Shikh Dawood - The Women Movement Pioneer in Iraq”
Dr.In'am Mahdi Ali al-Salman (Baghdad University)
- “Arabic Language and Cultural Movements in the Modern Arab World: A Survey of Linguistic and Social Aspects of Lexical Development” Dr. TAKEDA Toshiyuki (Kyoto University)

13:00-15:00 Presentations (Session 2, Arabic Part 2)

Chair: Prof. Mahmoud Abdulwahid MAHMOUD al-QAYSI (Baghdad University)

- “Japanese Studies in Iraq Historical Survey” Dr.Nadheer J.HUSSEIN (Baghdad University)
- “United States, Japan and Iraq: Historical Survey of Two Periods”
Dr.Kadum Hilan MUHSIN (Basra University)
- “Liberal Democratic Party and rebuilding of Japan Iraqi Historical Perspective”
Mr. Ala' Fadhil AHMED (PhD Student, Baghdad University)
- “Reading of Japanese Translated Contributions into Arabic”
Dr.Laith Shaker MAHMOUD (Baghdad University):

15:20-16:40 Presentations (Session 3, English Part)

Chair: Prof. NAGAOKA Shinsuke (Kyoto University)

- “The Development of Global Islamic Tourism: Its Perspective and Prospect”
Dr. YASUDA Shin (Kyoto University)
- “Jordan's Trade with Iraq: Historical Development and Future Prospects”
IMAI Shizuka (PhD. Student, Kyoto University)
- “The Arabic or Vernacular?: Interpreting Islamic Bible in Indian Subcontinent”
SUNAGA Emiko (PhD. Student, Kyoto University)
- “Competition or Complementation?: An Overview of Contemporary Arab Broadcasting Market”
CHIBA Yushi (PhD. Student, Kyoto University)

16:50-17:50 Comments and Discussion

- Prof. SAKAI Keiko (Tokyo University of Foreign Studies)
- Prof. YAMAO Dai (Kyushu University)

17:50-18:00 Closing Remarks

③KIAS 講演会「知の先達たちに聞く—永田雄三先生をお迎えして」

日時：2012 年 7 月 20 日(金) 15:00～17:00

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階第 1 講義室(AA401)

概要：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所および明治大学文学部で長年研究・教育活動に従事してきた、オスマン朝史研究の世界的権威のひとり永田雄三氏を講演者として迎えた。永田氏は、大学入学以前から、大学・大学院時代、イスタンブール留学、帰国後の研究生生活について、当時の歴史学の動向、トルコにおける歴史学研究の状況、現地での研究活動の実際などを交えながら、自身の研究生生活を振り返る講演を行った。

(今松泰)

プログラム

講演

「私のトルコ研究をふりかえって」永田雄三(元明治大学文学部教授)

司会：江川ひかり(明治大学文学教授)

④第 1 回 KIAS-EKONIS イスラーム経済国際ワークショップ “Islamic Economics and Finance: Revitalization and Organic Integration of Islamic Economic Institutions”

日時：2012 年 9 月 25 日(火) 10:00～18:00

場所：京都大学本部構内総合 2 号館 4 階会議室 (AA447)

共催：科学研究費補助金基盤研究 (A) 「環インド洋地域における宗教復興・テクノロジー・生命倫理」
(研究代表者：小杉泰)

マレーシア国民大学イスラーム経済金融研究センター (UKM-EKONIS)

概要：本ワークショップは、近年、新たな展開を見せ始めているイスラーム経済、イスラーム金融の新動向に焦点を当て、新動向の動態およびそれを支えている理論的・思想的・歴史的背景を議論するために開催された。ワークショップは、大きく 4 つのセッションに分けて行われ、1 つめの小杉氏の基調講演では、イスラーム文明論の観点から、現在のイスラーム金融の実践の問題点および克服すべき課題が検討された。2 つめのセッションでは、2000 年以降のイスラーム金融の急成長を支えてきたスクーク（イスラーム型証券）の批判的検討が主に取り上げられ、3 つめのセッションでは、イスラーム経済、イスラーム金融の新動向が取り上げられた。4 つめのセッションは、これまでのイスラーム金融研究ではあまり注目されてこなかった民事紛争解決制度や貨幣的側面を取り上げて議論するものであった。

(長岡慎介)

プログラム

10:00-10:15: Opening Remarks

10:15-11:00: Keynote Session

Keynote Speech 1

“The Scope and Tasks of Islamic Economics: An Civilizational Approach” Yasushi Kosugi (Kyoto University)

11:15-12:45: Session I Frontier of Studies in Islamic Economics and Finance

- “Are Sukuk Debt or Equity? Revisiting Theory in Islamic Economics and Finance” Shahida Shahimi

(Universiti Kebangsaan Malaysia, Kyoto University)

- “Sukuk Fundamentals” Mohd Badrul Hakimi Daud (Universiti Kebangsaan Malaysia)
- “Agency Problem in Islamic Partnership Contracts” Mohd Adib Ismail (Universiti Kebangsaan Malaysia)

12:45-14:00 Lunch

14:00-15:30: Session II Theory and Practice of the Revitalization and Organic Integration of Islamic Economic Institutions

- “Dynamics of Islamic Economics after the Boom of Islamic Finance: A Vision for Neo-Capitalism or New Universal System?” Shinsuke Nagaoka (Kyoto University)

- “The Application of Hibah in Takaful and Insurance Policy: A Comparison Study between Malaysia and Singapore” Suhaili Alma'amun (Universiti Kebangsaan Malaysia)

- “The Applicability of Waqf Instruments in Activating Idle Agricultural Land in Malaysia” Muhammad Hakimi Mohd Shafiai (Universiti Kebangsaan Malaysia)

16:00-17:30: Session III Emergence and Challenges of the New Fields in Islamic Economics

- “Innovation of Dispute Resolution for Islamic Finance in Dubai: Ad hoc Approach or Products-Oriented Approach?” Ai Kawamura (Kyoto University)

- “The Prospect of Gold Dinar as a Currency: Physical or Gold Backed?” Salmy Edawati Mohd Yaakob (Universiti Kebangsaan Malaysia)

- “Prospect, Challenges and Shariah Issues of Gold Investment in Malaysia” Hafizi Ab Majid (Universiti Kebangsaan Malaysia)

17:30-18:00: Closing Remarks & Photo Session

⑤KIAS 講演会「知の先達たちに聞く—松本耿郎先生をお迎えして」

日時：2012 年 9 月 28 日(金) 16:30～18:30

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階大会議室(AA447)

概要：本講演会はイスラーム思想研究、とくにイブン・アラビー系の神秘哲学と中国ムスリム思想の分野における先駆的研究者の一人、松本耿郎教授を迎えて行われたものである。50年にわたる研究生活を振り返る中で、研究を始めたきっかけ、井筒俊彦との出会い、イラン留学、アシュティヤーニーの印象、アシュティヤーニーとホメイニーとの関係、イブン・シーナーや神名論、存在一性論の問題、さらに中国ムスリムの研究についてなど、様々なエピソード、思想研究にまつわる問題に言及して講演を行った。

(今松泰)

プログラム

講演

「50年イスラーム思想を研究して…」松本耿郎(聖トマス大学教授)

司会：東長靖(京都大学教授)

⑥KIAS / IMS 合同セミナー

日時：2012年10月5日(金) 15:30～18:00、6日(土) 9:00～21:00

場所：

1日目会場：Busan University of Foreign Studies(BUFS)

2日目会場：BEXCO(Busan Exhibition & Convention Center)

共催：Institute for Mediterranean Studies, BUFS(IMS)

概要：昨年度京都大学で開催された釜山外国語大学地中海研究所(IMS)と京都大学イスラーム地域研究センターの合同シンポジウムが、今年度は韓国の釜山で、第21回韓国中東学会・第9回アジア中東学会連合国際会議(AFMA)の各セッションに含まれる形で行われた。大会においては、KIASから派遣されたダニシマズ・イディリス、今松泰、平野淳一、および遠藤春香(旅費はSIASが負担)が、それぞれのセッションで報告を行った。なお川村藍、二ツ山達朗、安田慎の3名はAFMA枠で発表を行った。大会は日本、韓国そのほかの国から参加した研究者、大学院生など多数の参加者を得て、2日にわたって多くの発表が行われた。

(今松泰)

プログラム：省略

⑦合同シンポジウム「エジプト7月革命(1952年)をめぐる：新たな変革期における『革命』再論」

日時：2012年12月8日(土)12:45～18:40

場所：京都大学本部構内総合研究2号館4階 大会議室(AA447)

共催：「人間文化研究機構(NIHU)プログラム・イスラーム地域研究」東京大学拠点(TIAS)、科学研究費補助金基盤研究(A)「アラブ革命と中東政治の構造変動に関する基礎研究」(代表：長澤榮治)

概要：反仏占領闘争、オラービー革命、1919 年革命、7 月革命、2011 年革命という 5 つの革命（サウラ）を経験してきた近現代エジプトの歴史的経験と現代の問題を、エジプト 7 月革命 60 周年の節目に広く論じるために、本合同シンポジウムは開催された。第 1 部では、過去の 4 つの革命の歴史的意義、およびこれらの革命が直近の 2011 年革命に対して持つ意味を論じる 2 本の発表が行われた。長沢氏の発表は、エジプト近代史における「革命」の内実について論じるものであり、栗田氏の発表は、過去のエジプト革命が世界史の中でもつ意味について、革命運動の同時性・広域性に着目しつつ論じるものであった。第 2 部では「エジプト政治の変容をめぐる」をテーマに 3 名の報告が行われた。池田氏は 7 月革命で主体的な役割を担った自由将校団がどのような過程で革命後に権力を掌握していったのかについて報告を行い、鈴木氏はナセル、サダト、ムバラク政権下におけるエジプトのエリート層の変容過程を報告した。横田氏の報告はムスリム同胞団の内部状況と新政権との関係に着目し、なぜ 7 月革命と 1 月 25 日革命でムスリム同胞団を取り巻く状況が大きく異なるのかについて論じたものである。

（黒田彩加、大道峻）

プログラム

司会：平野淳一（千葉大学大学院社会文化研究科日本学術振興会特別研究員）

12：45 - 13：00 開会の辞：小杉泰（京都大学教授）

13：00 - 15：00 第 1 部：エジプト 7 月革命再論：歴史的奥行きと地域的広がりの中で

- ・「エジプト 7 月革命の歴史的位置づけ」長澤榮治（東京大学東洋文化研究所教授）
- ・「中東における革命と反革命の系譜を考える」栗田禎子（千葉大学文学部教授）

ディスカッサント：臼杵陽（日本女子大学文学部史学科教授）

15：15 - 17：45 第 2 部：エジプト政治の変容をめぐる

- ・「立憲王制期の政治的社会的変容と自由将校団」池田美佐子（名古屋商科大学コミュニケーション学部教授）
- ・「共和制下におけるエリートの変容」鈴木恵美（早稲田大学イスラーム地域研究機構研究院准教授）
- ・「革命後のエジプト政治とムスリム同胞団」横田貴之（日本大学国際関係学部准教授）

ディスカッサント：松本弘（大東文化大学教授）

18：00 - 18：30 総合討論

18：30 - 18：40 閉会の辞：長澤榮治

⑧日本・パキスタン国交樹立 60 周年記念講演会, 「日本・パキスタン文化交流とウルドゥー語出版研究の発展と眺望」

日時：2012 年 12 月 14 日（金） 16:00～18:00

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階 大会議室（AA447）

共催：科学研究費補助金基盤研究（B）「9.11 後のパキスタンにおける権力構造の変化に関する複合的研究」（研究代表者：山根聡）、科学研究費補助金基盤研究（B）「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

概要：本講演会は日本とパキスタンの国交樹立 60 周年を記念して開催されたものである。パキスタンから在大阪パキスタン・イスラム共和国領事館総領事イクバル・タヒーム氏と元カラチ大学教授モイヌッディーン・アキール氏を迎え、日本からは第 1 班の研究代表者山根聡氏が代表して、講演が行われた。イクバル・タヒーム氏は、日本とパキスタンの間の外交関係の歴史を概観するとともに、文学・文化交流の重要性を説いた。続けてモイヌッディーン・アキール氏は、民間レベルの文化交流、学術交流について、カラチにおける 2 つの協会の文化活動を紹介し、日本におけるウルドゥー語教育の歴史、ウルドゥー文学の翻訳について言及した。山根氏は、日本の大学におけるウルドゥー語講座の成立を歴史的コンテクストから述べ、ウルドゥー語教育の歴史について、さまざまなテキストおよび辞書を紹介しながら詳説した。

（今松泰）

プログラム

開会の辞：小杉泰 （京都大学教授）

日本・パキスタン国交樹立 60 周年記念スピーチ：ムハンマド・イクバル・タヒーム （在大阪パキスタン・イスラム共和国領事館総領事）

講演

・“New Horizon of South Asian and Pakistan Studies in Japan” モイヌッディーン・アキール（元カラチ大学教授）

・「わが国におけるウルドゥー語・文学研究の歴史」 山根聡 （大阪大学教授）

閉会の辞：東長靖 （京都大学教授）

⑨TIAS / KIAS 国際シンポジウム『「穏健イスラーム主義」の倫理と経済発展と民主化』

日時：2013 年 2 月 16 日（土） 9:50～17:30

場所：東京大学武田先端知ビル 5 階 武田ホール（本郷キャンパス・浅野地区）

共催：日本国際問題研究所、「人間文化研究機構（NIHU）プログラム・イスラーム地域研究」東京大学拠点、文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」東京大学拠点

概要：詳細は、東京大学拠点の報告を参照

⑩KIAS / WIAS 研究会「イスラームの社会的実践とその理念」

日時：2013 年 3 月 7 日（土） 16:00～18:00

場所：早稲田大学 22 号館 617 教室

概要：詳細は、早稲田大学拠点の報告を参照

⑪KIAS 講演会「知の先達たちに聞く―堀内勝先生をお迎えして」

日時：2013 年 3 月 8 日(金) 16:00～18:00

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階大会議室(AA447)

概要：西アジア言語文化を専門とし、とくにアラブ遊牧民文化について際立った業績を残してきた堀内勝氏を迎え開催された講演会である。「もの」「こと」の意味を問うことの重要性を主張し、自らと沙漠とのかかわりから、沙漠そして沙漠を有効利用した動物であるラクダの話に進み、アラビア語の特徴、乳香の話、鷹や狩猟の話、天体の話などを交え、多くのスライドを用いつつ写真や絵画に見える事物を説明しながら、ラクダ遊牧民とその生活・文化についての解説を行った。また講演会中に乳香が焚かれるなど、実際の具体的体験を重視した講演でもあった。

(今松泰)

プログラム

講演

「意味を問えば文化がわかる」堀内勝(中部大学国際関係学部教授)

司会：小杉泰(京都大学教授)

⑫国際セミナー “Islam in Asia: Engaging the Community”

日時：2013 年 3 月 19 日(火) 14:00～17:30

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階 大会議室 (AA447)

共催：UBD-SOASCIS(ブルネイ大学)

概要：本セミナーは、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科とブルネイ・ダールッサラーム大学 (UBD) スルターン・オマル・サイフッディーン・センター (SOASCIS) との MOU 締結を記念して開催された。SOASCIS からは、センター長のオスマン・バカル教授、UBD 副総長補のアズマン・アフマド准教授を招き、講演が行われた。両氏の講演では、現代イスラーム世界におけるブルネイの特色とその役割の将来的展望が議論された。京都大学側からは、小杉泰教授、長岡慎介准教授がそれぞれ講演を行い、日本におけるイスラーム研究およびイスラーム的实践(特にイスラーム金融)の歴史的変遷、現状、将来的可能性が論じられた。

(長岡慎介)

プログラム

14:00 Welcome Speech Yasushi Kosugi, (Director of KIAS)

14:15-15:45 Session I

・ “Brunei Darussalam as a Traditional-Modern Malay-Islamic State”

Osman Bakar (SOASCIS, UBD, Chair Professor and Director, Emeritus Professor)

- ・ “Environmental Issues among the Muslim Community in Brunei Darussalam”

Azman bin Ahmad (UBD, Associate Professor, Deputy Vice Chancellor (Academic))

15:45-16:00 Coffee Break

16:00-17:15 Session II

- ・ “Islam and Japan: Historical Backgrounds and Current Issues” Yasushi Kosugi (ASAFAS, KU)
- ・ “Islamic Finance and Japan: Recent Developments” Shinsuke Nagaoka (ASAFAS, KU)

17:15-17:30 Closing Speeches

the Guests from Universiti Brunei Darussalam

⑬講演会「パキスタンにおけるイスラーム・エスニシティ・政治戦略 (Islam, Ethnicity and Political Strategy in Pakistan)」

日時： 2013 年 3 月 22 日 (金) 15:00～18:00

場所：京都大学本部構内総合 2 号館 4 階会議室 (AA447)

共催：「人間文化研究機構 (NIHU) プログラム・イスラーム地域研究」早稲田大学拠点、NIHU「地域間連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」、科学研究費補助金基盤研究 (B) 「9.11 後のパキスタンにおける権力構造の変化に関する複合的研究」 (研究代表者：山根聡)、科学研究費補助金基盤研究 (B) 「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」 (研究代表者：東長靖)

概要：本講演会は、パキスタンのラホール経営大学から研究者 2 名を招聘し行われたものである。カスミー氏は、現在パキスタン政府によって違法化されているアフマディーヤ教団についての発表を行い、彼らがスンナ派のムスリムと基本的には変わらないこと、それにもかかわらず政府によって弾圧・違法化されていることを報告し、誰がムスリムかという問題が、教義や信仰実践によらず、政治的コンテクストによって決められていることを指摘した。ハーン氏は、パキスタンにおけるパンジャーブ文化・パンジャービー語の状況を概観したのち、パンジャービー語映画「マウラー・ジャット」を題材に、ハイ・カルチャーとロー・カルチャーの問題、スーフィー詩の影響などを交えながら、映画の特徴を指摘し、彼らが自らをどのように描いているかについての考察を行った。

(今松泰)

プログラム

presentations

- ・ “Who is a Muslim? The “Ahmadi Question” and an Islamic Citizenry in Pakistan” Qasmi, Ali Usman

(Assistant Professor, Lahore University of Management Sciences)

・ “Apocalyptic Love Letter: Punjabi Culture, Self-Articulation and Subverting the Dominant Discourse in Maula Jatt” Khan, Furrukh Abbas (Associate Professor, Lahore University of Management Sciences)

⑭連続特別講義

- ・ 5 月 11 日 (金)、25 日 (金)、6 月 1 日 (金)、22 日 (金)、29 日 (金)

「南アジア・イスラーム論」(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科との連動講義)

講師：山根聡(大阪大学教授)

- ・ 8 月 6 日 (月)、7 日 (火)、8 日 (水)、9 日 (木)

「中東地域研究論」(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科との連動講義)

講師：臼杵陽(日本女子大学教授)

- ・ 2 月 18 日 (月)、19 日 (火)、20 日 (水)、21 日 (木)

「国際機構・国際 NGO 論」(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科との連動講義)

講師：子島進(東洋大学准教授)

⑮大学院講義(前期)

- ・ 月曜 2 限 地域研究論(小杉泰、長岡慎介)
- ・ 月曜 3・4 限 アジア・アフリカ地域研究演習(小杉泰、東長靖)
- ・ 月曜 5 限 イスラーム世界論Ⅶ/スーフィズム・タリーカ論Ⅰ(東長靖)
- ・ 月曜 6 限 トルコ語(今松泰)
- ・ 火曜 3 限 イスラーム社会経済論Ⅱ(小杉泰、長岡慎介、竹田敏之)
- ・ 火曜 4 限 熱帯乾燥域生存基盤論(小杉泰、長岡慎介)
- ・ 火曜 5 限 イスラーム世界論Ⅰ/イスラーム世界論研究(小杉泰、東長靖)
- ・ 水曜 3～6 限 グローバル地域研究演習Ⅰ・Ⅲ(小杉泰、東長靖、長岡慎介)
- ・ 木曜 4 限 アラビア語Ⅰ(竹田敏之)
- ・ 木曜 5 限 アラビア語Ⅲ(福田義昭)
- ・ 金曜 3 限 持続型生存基盤研究の方法Ⅰ(小杉泰、長岡慎介)
- ・ 金曜 6 限 アラビア語Ⅴ(仁子寿晴)

⑯大学院講義(後期)

- ・ 月曜 5 限 イスラーム世界論Ⅷ/スーフィズム・タリーカ論Ⅱ(東長靖)
- ・ 火曜 2 限 ペルシア語Ⅰ(東長靖)
- ・ 火曜 3 限 国際エネルギー論(小杉泰、長岡慎介)
- ・ 火曜 4 限 イスラーム社会経済論Ⅰ(小杉泰、長岡慎介)
- ・ 火曜 5 限 イスラーム世界論Ⅸ/イスラーム国際関係論(小杉泰)
- ・ 水曜 2 限 イスラーム世界論/イスラーム思想研究(小杉泰、東長靖)
- ・ 水曜 3～6 限 グローバル地域研究演習Ⅱ・Ⅳ(小杉泰、東長靖、長岡慎介)

- ・木曜 4 限 アラビア語Ⅱ(竹田敏之)
- ・木曜 5 限 アラビア語Ⅳ(福田義昭)
- ・金曜 6 限 アラビア語Ⅵ(仁子寿晴)

(2)研究グループの活動

①第 1 回スーフィズム・聖者信仰研究会(KIAS / SIAS 連携研究会)

日時： 2012 年 6 月 2 日(土) 12:00～18:00

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 6 階 630a 会議室

共催：科学研究費補助金基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」（研究代表者：赤堀雅幸）、科学研究費補助金基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

概要：詳細は、上智大学拠点の報告を参照

②第 1 回「国際関係(国際組織・情報ネットワークを含む)」研究班研究会

日時： 2012 年 6 月 9 日(土) 14:00～17:00

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階第 1 講義室(AA401)

概要：「アラブの春」においてフェイスブックなどの新しいソーシャルメディアが担った役割の重要性は従来より指摘されているが、サルヴァトーレ氏は、中東の地域コミュニティやそれまでの人間関係が、メディアなどを通して、いかにして政治的動員を支えるに至るまで変容したかという根本的な問題に答えるべく、社会理論の視点からソーシャルメディアの役割を「アラブの春」以前に遡って歴史化するための試みを行った。その結果、公共圏において、90 年代に登場した衛星放送のアル・ジャズィーラがもちろん大きな役割を果たしたことは言うまでもないが、同時に、またそれ以前からみられる、文学、映画、テレビシリーズの役割も無視することができないことを明らかにした。またプリントメディアが与える影響を考慮に入れていく必要性も示唆した。

(今松泰)

プログラム

"Rereading the Role of New Media in the 'Arab Spring'" Armando Salvatore(ナポリ東洋大学教授)

コメンテーター：保坂 修司(日本エネルギー経済研究所中東研究センター副センター長・研究理事)

③KIAS / SIAS ワークショップ “TRADITION IN MODERNISM: REFORMATION AND REVIVAL ”

日時： 2012 年 7 月 7 日(土) 13:00～18:30、7 月 8 日(日) 9:00～12:15

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階大会議室(AA447)

共催：科学研究費補助金基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」（研究代表者：赤堀雅幸）、科学研究費補助金基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

Centre national de la recherche scientifique, France (CNRS)

概要：リュイザール教授のキーノート・スピーチでは、偶像崇拝を禁止する理念的イスラームに対する実際の葛藤の歴史、すなわちスンニ派・シーア派双方において聖画像が描かれてきた歴史的背景と経緯が述べられるとともに、19 世紀半ば以降の現代に至る状況の変化と、それでも変化しない伝統が指摘された。第一セッションでは、丸山氏がスーダンの預言者生誕祭でのスーフィーとサラフィーの衝突に関する報告を行ない、サラフィーとの論争を通じたスーフィーの主張を検証し、石田氏がシャー・ワリーウッラーの社会学理論についての先行研究を概観して、各研究者のもつ傾向と影響を指摘し、これらの解釈と彼の著作を結びつけて分析することが重要だと論じた。遠藤氏は、シャアラニーとイブン・アラビーの「完全人間」の理論を比較分析し、さらにシャアラニーの「完全なる者」との関係性を検証して、「完全なる者」の概念に新しい意義が与えられていることを指摘した。第二セッションでは、三代川氏が、19 世紀末ごろに、コプトが古代エジプトに起源をもつナイルズ祭の復興を通して真の土着のエジプト人としてのアイデンティティーを確立させようとする運動があったことを指摘した。また、ファラオ主義はムスリムとキリスト教徒に共通のエジプト人アイデンティティーを示す有効性がなおあることも論じた。第三セッションでは、Yu 氏が 19 世紀末エジプト教育の近代化におけるタフターウィーとアブドゥフの役割に関する報告を行い、リーム・アフマド氏が日本と中東で双方のイメージ形成する際のメディアの役割についての研究計画案を述べた。第四セッションでは、内山氏が現代イラン人女性による聖地エマームザード参詣という事例を取り上げ、宗教実践の実態と社会における意味合いを解説し、現代イラン社会における女性の在り方を今後はソーシャルネットワーク等から明らかにしていく旨を述べた。ウスマヌ・アダマ氏はナイジェリア北部のカノ州におけるイスラームの政治的な宗教実践に関して、イスラーム過激派組織であるマイタツィンと Mohammed Marwa という人物に焦点をあて、同政治組織における信条や 1980 年代に起きた宗教暴動について報告をおこなった。第五セッションでは、フランシスコ・アント氏が民主化時代（Era Reformasi）におけるナフダトゥルウラマーの役割について明らかにし、NU は依然として市民社会の支持を維持していると結論づけた。久志本裕子氏は、近代的教育制度が導入されることによってイスラームの学びの文化が大きく変化したマレーシアにおいて、この変化に抵抗する動きがあることを論じ、先行研究ではイスラーム学習が近代的学校に近似して行く過程のみを論じてきたことを批判した。

（澤井真、高橋雅英、北川あゆ）

プログラム

【Day1 (7 July, Sat) 】

13:00-13:30 Opening Session

13:30-14:30 Keynote Speech

“Saints Veneration and Holy Portraits in Shia-Sunni Contexts” Pierre-Jean LUIZARD (CNRS)

14:45-16:15 First Session

“Tolerance or Intolerance?: The Confrontation between Şūfī and Salafīs during Mawlid al-Nabī in Sudan”
MARUYAMA Daisuke (Kyoto Univ.)

“Research Review on Shāh Walī Allāh’s Sociology (irtifāqāt)” ISHIDA Yuri (Kyoto Univ.)

“The “Perfect Man” according to ‘Abd al-Wahhāb al-Sha‘rānī: From an Ontological Point of View” ENDO
Haruka (Kyoto Univ.)

16:30-17:20 Second Session

“The Revival of Nayruz Festival in Modern Egypt” MIYOKAWA Hiroko (Sophia Univ.)

17:30-18:30 Third Session

“The Role of ‘Ulama in the Modernization of Education in Egypt Late in the 19th Century: Focusing on Rifa‘a
al-Tahtawi and Muhammad ‘Abduh” YU Weixing (Sophia Univ.)

“My Doctoral Research Plan: The Role of the Media in the Formation of the Image of the Middle East and Islam in
Japan and of Japan’s Image in the Middle East” Reem Ahmad (Sophia Univ.)

【Day2 (8 July, Sun)】

9:00-10:30 Fourth Session

“Reviews of Former Studies on Sexuality of Iranian Women: From the Perspective of ‘Strategy’ in Everyday Life”
UCHIYAMA Akiko (Kyoto Univ.)

“The Maitatsine Group: “Islamic Brotherhood” in Northern Nigeria” Ousmanou ADAMA (Nagoya Univ.)

“A Preliminary Consideration of “Rif Nationalism”: In Relation to the Resistance of ‘Abd al-Karīm al-Khattābī”
SEKI Kanako (Sophia Univ.)

10:45-11:45 Fifth Session

“Indonesian NU and Khittah 1926: Questioning the Role of NU in the Era Reformasi (1998-present)” Francisco
ANTO (Sophia Univ.)

“The Culture of Learning Islam in Contemporary Malaysia: the Role of Traditional Elements” KUSHIMOTO
Hiroko (Sophia Univ.)

11:45-12:05 General Comments by Pierre-Jean LUIZARD & Larisa USMANOVA

12:05-12:15 Concluding Session

④6th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance (New Horizons in Islamic Economics) “Islamic Finance & Economy and Finance in the Muslim World: Theories and Realities”

日時：2012 年 7 月 17 日(火) 9:30～19:15、7 月 18 日(水) 9:00～18:15

場所：Durham Islamic Finance Doctoral Training Centre, Van Mildert College, Durham University, UK

共催：Durham Islamic Finance Doctoral Training Centre (SGIA&DBS) Durham University, UK

概要：毎年京都と英国ダラム大学で交互に開催されているイスラーム経済を主題とするワークショップであり、通算 6 回目となる今回は、双方の大学の研究者・大学院生だけでなく、ダラム大学に滞在中の各国研究者（トルコ、マレーシア、インドネシア）や英国内の他大学でイスラーム経済を専攻している大学院生も参加し、合計 29 本もの発表が 2 日間の期間中に報告された。イスラーム金融の商業実践の現状が、イスラーム経済学（Islamic economics）が本来想定してきた理念と著しく乖離した形で発展してきているという問題点の改善に対してアカデミズムがいかに貢献しうるかが多くの発表で議論された。また実証研究（イスラーム金融機関の年次報告書や質問票データを利用した計量分析）も多く報告されるとともに、狭義のイスラーム経済研究、イスラーム金融研究には収まりきらないトピックも扱われた。

（長岡慎介）

プログラム：省略

⑤第 2 回「国際関係(国際組織・情報ネットワークを含む)」研究班研究会(Masooda Bano 氏講演会)

日時：2012 年 7 月 28 日(土) 15:00～17:00

場所：千里朝日阪急ビル 14 階 3 号会議室

共催：NIHU プログラム・地域間連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」

科研費新学術領域研究「国家の輪郭と越境」プロジェクト（「ユーラシア地域大国の比較研究」第 5 班）（研究代表者：山根聡）

科学研究費補助金基盤研究(B)「中東・アジアのイスラーム系宗教大学の留学生獲得戦略：知のグローバル化とローカル化」（研究代表者：桜井啓子）

概要：本発表は、パキスタンにおけるイスラーム系ジハード組織参加者の参加動機と動員方法を、インタビュー調査のデータなどを駆使し、実証的なアプローチによって検証するものであった。その結果、マドラサとジハード組織の関連性を示唆する従来の言説の根拠は薄弱であり、実際のジハード組織への参加者は都市中間層が中心であること、また「不義」を感受させる社会背景とジハード組織による「不義」観念の利用がジハード組織の拡大に繋がっていることが指摘された。

（黒田賢治）

プログラム

講演：“Madrasas and Militancy?: Understanding recruitment for Jihad in Pakistan” Masooda Bano

（Oxford 大学国際開発学部・ESRC 研究員）

司会：山根聡（大阪大学言語文化研究科教授）

⑥スーフィズム・聖者信仰研究会(KIAS / SIAS 連携研究会)2012 年度合宿研究会

日時：2012 年 9 月 29 日(土)13:00～9 月 30 日(日)12:00

場所：上智軽井沢セミナーハウス

共催：科学研究費補助金基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」（研究代表者：赤堀雅幸）、科学研究費補助金基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

概要：詳細は、上智大学拠点の報告を参照

⑦意見交換会“Kyoto International Dialogue on Democratization, Law and Women in the Arab Countries”

日時：2012 年 10 月 26 日(金) 10:00～12:00

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階会議室（AA447）

共催：公益財団法人世界人権問題研究センター

日本女性法律家協会大阪支部

概要：ヨルダンのヌール弁護士、エジプトのネフェルティティ弁護士、チュニジアのラミア弁護士が、(1)法律家からみた女性の政治参加の現状と課題、(2)シャリーア法廷における女性の関わり、(3)国内法とイスラーム法が抵触する議論に対する実務家の見解、という三つの論点について、自国の状況を述べた。(1)について、ヨルダンでは女性の政治や司法への参加が制限されている状況が、エジプトでは女性の政治活動は年々増加傾向にあるが裁判所において女性の裁判官がいない現状が、チュニジアでは革命後に女性の権利と自由が制限される危惧が示された。(2)については、ヨルダンでは女性がシャリーア法廷にアクセスしやすい状況にあることが、エジプトではムスリムの相続や婚姻などがシャリーア法廷で判断されることが、チュニジアには司法機関が一つしかなくシャリーア法廷は存在しないことが明らかにされた。(3)については、各国の現状が述べられるとともに、三者ともイスラーム法に拘泥することは現代の法律に不利益をもたらすという批判的な見解で一致した。

(川村藍)

プログラム

10:00-10:20 Opening Remarks Yasushi Kosugi (Kyoto University, Professor)

10:20-10:50 Short Talks

・ Nour Mouhamed Shaher Abdallah Al Emam (Council member of the Jordanian Bar Association(JBA), and Chair person of the Woman committee at JBA, Lawyer)

・Neffertiti Ahmed Tosson Hussien (Egypt and Vice President of the Administrative Prosecution and Coordinator of the Training Programs, Councilor Technical Office member at the National Center for Judicial Studies-Ministry of Justice)

・ Lamia Debbabi Kouka (President of Tunisian Association of Women Jurist, Lawyer)

10:50-11:50 Discussion

11:50-12:00 Closing Remarks Nisuke Ando (Kyoto Human Rights Research Institute, Director)

⑧KIAS / TUFS / Chiba Univ.国際ワークショップ “The Society, Economy, and Politics of Eurasia and the Middle East: Global and Regional Dimensions”

日時：2012 年 10 月 27 日(土)～10 月 28 日(日)

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階会議室 (AA447)

共催：東京外国語大学、科学研究費補助金基盤研究 (A) 「現代中東・アジア諸国の体制維持における軍の役割」 (研究代表者：酒井啓子)

概要：第 1 セッションでは、インドネシアの事例が報告された。グルシंगा氏は、アチェにおける民主化と分離主義の紛争の和解について、カヤハント氏はインドネシアの外交政策に対する軍の改革の影響を国連平和維持活動への軍の参加に注目して発表した。第 2 セッションでは中東・北アフリカにおけるアラブの春と民主化に関連して、佐藤氏がヨルダンにおける難民の問題を軸に、南部氏がパレスティナのインティファダとの比較を軸に、発表を行った。シャヒーダ・シャーヒミー氏による基調講演の後、第 3 セッションでは、イスラーム金融における議論解決の例としてドバイのアプローチを川村氏が報告し、アフメド氏が経済制裁期間中のイラクプレスと意見表明の自由について発表した。大道氏の発表は、クウェート経済における商人階層の役割を報告するものであった。第 4 セッションでは、黒田氏が植民地期と革命後のエジプトにおける宗教的マイノリティの言説を通して、エジプトにおける宗教の多様性を明らかにし、モハメド氏が紛争後のスーダンにおける国内政治におけるアクターの活動を分析した。

(今松 泰)

プログラム

【Day1 (27 Oct, Sat)】

14:00-14:10 Opening remarks KOSUGI Yasushi (Kyoto University)

14:10-15:40 Session 1

・ “Democratization and Separatist Conflict Settlement in Aceh, Indonesia” Ascana Luisa Gurusinga(Tokyo University of Foreign Studies)

・ “The Influence of Military Reform on Indonesian Foreign Policy: A Case Study of the Participation of Indonesian Military in United Nations Peace Keeping Operations” Edi Kahayanto(Tokyo University of Foreign Studies)

15:40-15:50 Break

15:50-18:05 Session 2

- “The 2011 Arab Uprising and the Prospects for Democracy in the Middle East and North Africa: The Case of the Arab Republic of Egypt” Daniel F. da Costa(Tokyo University of Foreign Studies)
- “Historical Circumstances and Sustainability of Life in Greater Amman: Its Development into a Modern Metropolis with Refugee” SATO Marie(Kyoto University)
- “Relational Approach to Palestinian Intifadas: “Violence” and “Nonviolence” in Contentious Actions” NAMBU Makiko(Tokyo University of Foreign Studies)

【Day2 (28 Oct, Sun)】

11:00-12:30 Keynote lecture

- “Research on a Changing World of the Middle East: The Way Forward”
Shahida Shahimi (Universiti Kebangsaan Malaysia, Kyoto University)

12:30-13:30 Lunch

13:30 -15:45 Session 3

- “Dubai Approach as a Frontier of Dispute Resolution for Islamic Finance” KAWAMURA Ai(Kyoto University)
- “The Iraqi Press and Opinion Freedom during the Economic Sanctions”
Ahmed Amir Ismail(Tokyo University of Foreign Studies)
- “Contemporary Role of the Merchant Class in the Kuwaiti Economy” OHMACHI Shun(Kyoto University)

15:45 - 16:00 Break

16:00 - 17:30 Session 4

- “The Politics of Religious Diversity in Egypt: Discourses on Religious Minorities in the Colonial and Post-Revolutionary Periods” KURODA Ayaka(Kyoto University)
 - “Who Lost the Game?: The Democratic Transformation: a Battlefield of Internal Political Actors in Post-Conflict Sudan” Mohamed Abdin(Tokyo University of Foreign Studies)
- 17:30 - 17:40 Closing Remarks SAKAI Keiko (Chiba University)

⑨第 1 回 SIAS/KIAS - CNRS 合同セミナー"Narrating the Narratives of Sufis"

日時：2012 年 11 月 3 日(土) 14:00～18:45

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階大会議室(AA447)

共催：Centre national de la recherche scientifique, France (CNRS)、科学研究費補助金基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」(研究代表者：赤堀雅幸)、科学研究費補助金基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」(研究代表者：東長靖)

概要：本セミナーは、イスラーム地域研究上智大学拠点、京都大学拠点、フランス国立科学研究センター (CNRS) が合同で開催する国際セミナーである。本セミナーでは“Narrating the Narratives of Sufis”（「スーフィーたちの語りを語る」）と題し、斉藤剛氏（神戸大学）、Thierry Zarccone 氏（CNRS）、外川昌彦氏（広島大学）の3名による研究発表が行われた。なお当初 Jean-Pierre Luizard 氏（CNRS）の発表も予定されていたが、本人の都合により欠席となったため、Luizard 氏の発表については事前に原稿が配布され、それをもとに議論がなされた。各発表では、それぞれモロッコ、バングラデシュ、トルコ・ヨーロッパ、イラクにおけるスーフィーや聖者の語りや表象が取り上げられ、そうした語りや表象が持つ政治的・社会的意味について考察がなされた。また会場からは他の地域を専門とする研究者たちから質問やコメントが寄せられ、活発な議論がなされた。

（高橋圭）

プログラム

Speakers and Titles:

14:00-14:15 Opening Session

14:15-15:15 “Narrating the Life of a Man Known as Shaykh: Narratives on al-Hajj‘Ali al-Darqawi by Mukhtar al-Susi and Others” SAITO Tsuyoshi (Kobe University)

Discussant: KISAICHI Masatoshi (SIAS)

15:15-16:15 “Western Visual Representations of Sufism and Dervishes from the 14th century to early 20th Century” Thierry ZARCONE (CNRS)

Discussant: IMAMATSU Yasushi (KIAS)

16:15-16:30 Coffee Break

16:30-17:30 “Local Society and Participant Observation: The Mausoleum of Fakir Lalon Shah in contemporary Bangladesh” TOGAWA Masahiko (Hiroshima University)

Discussant: NINOMIYA Ayako (KIAS)

17:30-18:30 “A Secularized Hagiography of a Muslim Saint: (Batal al-Islam), Hero of Islam, or How Political Commitment Leads to Sainthood for an Iraqi Shia Religious Leader” Pierre-Jean LUIZARD (CNRS)

Discussant: YASUDA Shin (KIAS)

18:30-18:45 Closing Session

⑩第3回「国際関係(国際組織・情報ネットワークを含む)」研究班研究会（Yakov Rabkin 氏講演会）

日時：2013 年 1 月 17 日（木） 16:00～18:00

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階大会議室(AA447)

共催：科学研究費補助金基盤研究（A）「アラブ革命と中東政治の構造変動に関する基礎研究」（研究代表者：長澤榮治）

概要：本講演でラブキン教授は、イスラエルと右翼との親和性の高さについて、主に歴史的側面と経済的側面の二点からアプローチした。歴史的側面については、シオニズム運動萌芽期の指導者たちの出身地であったドイツおよびオーストリアで隆盛した全体主義の影響が受け継がれてきたことが指摘された。経済的側面については、パレスチナへの植民地主義的な入植を続けるイスラエル国家の在り方が、資本主義国家としてのアメリカからの共感とイスラエルの防衛への協力を得る根拠となっていることが述べられた。また、これらの二点に基づく複合的なエピソードとして、イスラエルに対するヨーロッパのエスノ・ナショナリストからの支持が挙げられた。さらに、近年のイスラエルでは、建国以来の社会主義的な経済政策からの脱却のみならず、社会や国家の中心的イデオロギーといった様々な側面で右傾化が進んでいることも併せて指摘された。

(今井静)

プログラム

講演

“How Has Israel Become the Darling of the Right-Wingers?” Yakov Rabkin (モントリオール大学歴史学部教授)

司会：岡真理 (京都大学教授)

⑩Simposium Antarabangsa Ke 4 UKM-Kyoto Universiti 2013 Islam, Peradaban dan Sains (ISIMCAS 2013)

日時：2013年2月19日(火) 8:00～19:00、2月20日(水) 8:00～19:00

場所：Puri Pujangga, UKM

共催：Institut Islam Hadhari, UKM、Institut Alam dan Tamadun Melayu (ATMA), UKM、Jabatan Kemajuan Islam Malaysia, (JAKIM)、Kumpulan Projek Penyelidikan Arus Perdana Sains Dalam Al-Quran, UKM

概要：京都大学とマレーシア国民大学イスラーム文明研究所との間で毎年交互に開催されてきた国際シンポジウムであり、本年度はマレーシアで2日間開催された。双方の大学からの研究者や大学院生に加え、マレーシア国内の他大学やブルネイ等の東南アジア諸国からの参加者も見られ、50本以上の報告がなされた。イスラームにおける文明と科学を主題とし、関連する様々な学問領域からの報告を前に活発な議論が交わされた。「グローバル化時代にあって我々はどうのような発展を模索すべきか」という問いが本シンポジウムに通底するテーマのひとつであり、近年イスラーム復興の流れが指摘される中でその表出が顕著なイスラーム金融の分野は今回のセッションの中でも代表的なテーマであった。またイスラームに内在する価値やイスラーム科学の歴史的役割を論じた上で、現代においてイスラーム科学の構築を目指す発表も多く見られた。

(佐藤麻理絵、黒田彩加)

プログラム：省略

⑫KIAS / SIAS 国際ワークショップ “Continuity and Innovation of Ideas, Practices, and Communities in Muslim Societies”

日時： 2013 年 2 月 23 日(土) 13:00～18:30

場所：上智大学四谷キャンパス 11 号館 3 階 305 号室

共催：科学研究費補助金基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」（研究代表者：赤堀雅幸）、科学研究費補助金基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

プログラム及び概要：詳細は、上智大学拠点の報告を参照

⑬「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究会

日時： 2013 年 3 月 15 日(金) 15:00～17:00

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階第一講義室（AA401）

概要：今回の研究会では、日本におけるイスラーム金融実務の第一人者である国際協力銀行の吉田悦章氏を迎え、イスラーム金融の実践の国際比較とその分析枠組みについて報告、および議論を行った。吉田氏は、世界各国のイスラーム金融の実践の現状を概観した上で、それをムスリム人口割合と GDP 当たりの預金残高という 2 つの指標を用いて、4 つのタイプに分類をした。その上で、それぞれのタイプにおけるイスラーム金融の実践が抱える問題と将来的な展望が議論された。また、2) 近接地域型の事例として、近年、イスラーム金融の実践が活発化しているサブサハラ・アフリカについての現状が紹介された。

(長岡慎介)

プログラム

「イスラーム金融の国別発展形態と環境要因」

吉田悦章（国際協力銀行参事役、早稲田大学ファイナンス研究センター客員主任研究員）

⑭第 2 回スーフィズム・聖者信仰研究会（KIAS / SIAS 連携研究会）

日時： 2013 年 3 月 23 日(土) 13:30～18:00

場所：上智大学四谷キャンパス 11 号館 3 階 305 号室

共催：科学研究費補助金基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」（研究代表者：赤堀雅幸）、科学研究費補助金基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

概要：詳細は、上智大学拠点の報告を参照。

3. 海外派遣・調査

(1) 拠点全体としての活動

① パキスタンにおける調査

出張期間：2012 年 8 月 21 日(火)～2012 年 8 月 29 日(水)

出張先(国名)：カラチ(パキスタン)

出張者：今松泰(NIHU 地域研究推進センター研究員/京都大学イスラーム地域研究センター客員准教授)

概要：京都大学が2012年度に購入したウルドゥー語コレクション「アキールコレクション」の調査。カラチにおいて、購入前にコレクションの内容を最終確認し、日本へ輸送するための手続きを完了、搬出作業を行った。

② The 21th KAMES & The 9th AFMA 国際シンポジウムへの参加

出張期間：2012 年 10 月 5 日(金)～2012 年 10 月 7 日(日)

出張先(国名)：釜山外国語大学(韓国)

出張者：東長靖(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授)、今松泰(NIHU 地域研究推進センター研究員/京都大学イスラーム地域研究センター客員准教授)、イディリス・ダニシマズ(同志社大学グローバルスタディーズ研究科助教)、平野淳一(千葉大学大学院社会文化研究科、日本学術振興会特別研究員)、安田慎(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科研究員)、川村藍(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科日本学術振興会特別研究員)、二ツ山達朗(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程)

概要：研究会((1)拠点全体の活動 ⑥KIAS/IMS 合同セミナー)の概要を参照

4. 外国人研究者の招聘

(1) 拠点全体としての活動

① In'am Mahdi Ali al-Salman

所属(国籍)：Baghdad University(イラク)

期間：2012 年 5 月 18 日(金)

活動概要：The Iraqi - Japanese International Workshop “Japanese and Iraqi Studies in two Perspectives”において、発表を行なった。

② Mahmoud Abdulwahid MAHMOUD al-QAYSI

所属(国籍)：Baghdad University(イラク)

期間：2012 年 5 月 18 日(金)

活動概要： The Iraqi - Japanese International Workshop “Japanese and Iraqi Studies in two Perspectives” において、発表を行なった。

③Nadheer J.HUSSEIN

所属（国籍）： Baghdad University（イラク）

期間：2012 年 5 月 18 日（金）

活動概要： The Iraqi - Japanese International Workshop “Japanese and Iraqi Studies in two Perspectives” において、発表を行なった。

④Kadum Hilan MUHSIN

所属（国籍）： Baghdad University（イラク）

期間：2012 年 5 月 18 日（金）

活動概要： The Iraqi - Japanese International Workshop “Japanese and Iraqi Studies in two Perspectives” において、発表を行なった。

⑤Ala' Fadhil AHMED

所属（国籍）： Baghdad University（イラク）

期間：2012 年 5 月 18 日（金）

活動概要： The Iraqi - Japanese International Workshop “Japanese and Iraqi Studies in two Perspectives” において、発表を行なった。

⑥Laith Shaker MAHMOUD

所属（国籍）： Baghdad University（イラク）

期間：2012 年 5 月 18 日（金）

活動概要： The Iraqi - Japanese International Workshop “Japanese and Iraqi Studies in two Perspectives” において、発表を行なった。

⑦Nour Mouhamed Shaher Abdallah Al Emam

所属（国籍）： Jordanian Bar Association（ヨルダン）

期間：2012 年 10 月 26 日（金）

活動概要：“Kyoto International Dialogue on Democratization, Law and Women in the Arab Countries” 意見交換会において、発表を行なった。

⑧Neffertiti Ahmed Tosson Hussien

所属（国籍）：The National Center for Judicial Studies-Ministry of Justice, Egypt（エジプト）

期間：2012 年 10 月 26 日（金）

活動概要：“Kyoto International Dialogue on Democratization, Law and Women in the Arab Countries” 意見交換会において、発表を行なった。

⑨Lamia Debbabi Kouka

所属（国籍）：Tunisian Association of Women Jurist（チュニジア）

期間：2012 年 10 月 26 日（金）

活動概要：“Kyoto International Dialogue on Democratization, Law and Women in the Arab Countries” 意見交換会において、発表を行なった。

⑩Muhammad Iqbal THAHEEM

所属（国籍）：Consulate General of Pakistan in Osaka（パキスタン）

期間：2012 年 12 月 14 日（金）

活動概要：「日本・パキスタン国交樹立 60 周年記念講演会, 『日本・パキスタン文化交流とウルドゥー語出版研究の発展と眺望』」において、発表を行なった。

⑪Moinuddin AQEEL

所属（国籍）：Karachi University（パキスタン）

期間：2012 年 12 月 14 日（金）

活動概要：「日本・パキスタン国交樹立 60 周年記念講演会, 『日本・パキスタン文化交流とウルドゥー語出版研究の発展と眺望』」において、発表を行なった。

⑫Osman Bakar

所属（国籍）：Universiti Brunei Darussalam（ブルネイ）

期間：2013 年 3 月 19 日（火）

活動概要：International Seminar “Islam in Asia: Engaging the Community” において、講演を行なった。

⑬Azman bin Ahmad

所属（国籍）：Universiti Brunei Darussalam（ブルネイ）

期間：2013 年 3 月 19 日（火）

活動概要：International Seminar “Islam in Asia: Engaging the Community” において、講演を行なった。

⑭Ali Usman Qasmi

所属（国籍）：Lahore University of Management Sciencies（パキスタン）

期間：2013 年 3 月 22 日（金）

活動概要：講演会「パキスタンにおけるイスラーム・エスニシティ・政治戦略（Islam, Ethnicity and Political Strategy in Pakistan）」において、講演を行なった。

⑮Furrukh Abbas Khan

所属（国籍）：Lahore University of Management Sciencies（パキスタン）

期間：2013 年 3 月 22 日（金）

活動概要：講演会「パキスタンにおけるイスラーム・エスニシティ・政治戦略（Islam, Ethnicity and Political Strategy in Pakistan）」において、講演を行なった。

(2)研究グループの活動

①Armando Salvatore

所属（国籍）：University of Naples “L’Orientale”（イタリア）

期間：2012 年 6 月 9 日（土）

活動概要：KIAS「国際関係（国際組織・情報ネットワークを含む）」研究班の研究会において、発表を行なった。

②Pierre-Jean LUIZARD

所属（国籍）：Centre National de la Recherche Scientifique, Kyoto Unverisity（フランス）

期間：2012 年 7 月 7 日（土）～2012 年 7 月 8 日（日）

活動概要：SIAS-KIAS JOINT WORKSHOP, TRADITION IN MODERNISM: REFORMATION AND REVIVAL において、基調講演を行なった。

③Masooda Bano

所属（国籍）：University of Oxford（パキスタン）

期間：2012 年 7 月 28 日（土）

活動概要：KIAS「国際関係（国際組織・情報ネットワークを含む）」研究班研究会（Masooda Bano 氏 来日講演会）において、講演会を行なった。

④Shahida Shahimi

所属（国籍）：Universiti Kebangsaan Malaysia, Kyoto Unverisity（マレーシア）

期間：2012 年 9 月 25 日（火）

活動概要：第 1 回 KIAS-EKONIS イスラーム経済国際ワークショップにおいて、発表を行なった。

⑤Mohd Badrul Hakimi Daud

所属（国籍）：Universiti Kebangsaan Malaysia（マレーシア）

期間：2012 年 9 月 25 日（火）

活動概要：第 1 回 KIAS-EKONIS イスラーム経済国際ワークショップにおいて、発表を行なった。

⑥Mohd Adib Ismail

所属（国籍）：Universiti Kebangsaan Malaysia（マレーシア）

期間：2012 年 9 月 25 日（火）

活動概要：第 1 回 KIAS-EKONIS イスラーム経済国際ワークショップにおいて、発表を行なった。

⑦Suhaili Alma'amun

所属（国籍）：Universiti Kebangsaan Malaysia（マレーシア）

期間：2012 年 9 月 25 日（火）

活動概要：第 1 回 KIAS-EKONIS イスラーム経済国際ワークショップにおいて、発表を行なった。

⑧Muhammad Hakimi Mohd Shafiai

所属（国籍）：Universiti Kebangsaan Malaysia（マレーシア）

期間：2012 年 9 月 25 日（火）

活動概要：第 1 回 KIAS-EKONIS イスラーム経済国際ワークショップにおいて、発表を行なった。

⑨Salmy Edawati Mohd Yaakob

所属（国籍）：Universiti Kebangsaan Malaysia（マレーシア）

期間：2012 年 9 月 25 日（火）

活動概要：第 1 回 KIAS-EKONIS イスラーム経済国際ワークショップにおいて、発表を行なった。

⑩Hafizi Ab Majid

所属（国籍）：Universiti Kebangsaan Malaysia（マレーシア）

期間：2012 年 9 月 25 日（火）

活動概要： 第1回 KIAS-EKONIS イスラーム経済国際ワークショップにおいて、発表を行なった。

⑪Shahida Shahimi

所属（国籍）：Universiti Kebangsaan Malaysia, Kyoto University（マレーシア）

期間：2012年10月27日（土）～2012年10月28日（日）

活動概要： KIAS/TUFS/Chiba Univ. Joint Workshop において、発表を行なった。

⑫Thierry ZARCONÉ

所属（国籍）：Centre National de la Recherche Scientifique（フランス）

期間：2012年11月3日（土）

活動概要： THE FIRST SIAS/KIAS - CNRS JOINT SEMINAR “Narrating the Narratives of Sufis” において、発表を行なった。

⑬Yakov Rabkin

所属（国籍）：University of Montréal（カナダ）

期間：2013年1月17日（木）

活動概要： IAS 京都大学拠点「ヤコブ・ラブキン教授講演会」において、講演を行なった。

5. 資料収集

アラビア語資料を中心に、欧米諸語資料、及び日本語資料を収集した。アラビア語資料については、現代の政治・経済、国際関係から思想関係に至る図書を、欧米諸語資料は雑誌と図書を収集した。主要な資料は次のとおり。

①資料名 アラビア語資料

- ・形態：図書
- ・冊数：32
- ・資料内容：al-Dasatir al-Misriyah `abra al-Tarikh, 1838-2011 ほか
- ・収集目的：イスラーム地域研究京都大学拠点の研究活動のため
- ・所蔵場所：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て、整理および NICSIS Webcat に登録後、上記図書室、KIAS 事務室あるいは京都大学附属図書館において所蔵
- ・収集方法：Leila Books（エジプト・カイロ）を通して購入
- ・収集期間：2012年6月

②資料名 欧米諸語資料

- ・形態：図書・雑誌
- ・冊数：21
- ・資料内容：Islam, Science, and the Challenge of History (The Terry Lectures) PAP ほか
- ・収集目的：イスラーム地域研究京都大学拠点の研究活動のため
- ・所蔵場所：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て、整理および NICSIS Webcat に登録後、上記図書室、KIAS 事務室あるいは京都大学附属図書館において所蔵
- ・収集方法：紀伊國屋書店、藤井洋書、丸善
- ・収集期間：2012 年 5 月～12 月

③資料名 日本語資料

- ・形態：図書
- ・冊数：8
- ・資料内容：『中東・北アフリカにおけるジェンダーイスラーム社会のダイナミズムと多様性 世界人権問題叢書』ほか
- ・収集目的：イスラーム地域研究京都大学拠点の研究活動のため
- ・所蔵場所：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て、整理および NICSIS Webcat に登録後、上記図書室、KIAS 事務室あるいは京都大学附属図書館において所蔵
- ・収集方法：京都大学生協同組合、紀伊國屋書店
- ・収集期間：2012 年 6 月～2013 年 3 月

6. 研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔論文〕計（26）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
石井 啓一郎 (三菱電機株式会社)	「獄中からの恋歌—— ナーズム・ヒクメットとイスラーム神秘主義」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	160-172
	「ヤシヤル・ケマル、土着的「チュクロワ人」作家に関する簡潔な考察」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	186-194
EGAWA Hikari (明治大学)	“Residents and Society of the Düzce Region in the First Half of the 19th Century”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	65-76

KAKUMOTO Shigeru (東京工業大 学)	“The Importance of Interdisciplinary Research Connecting Historical, Anthropological, Information, and Engineering Science on the Case Study of ST-GIS Application: Experience from the East-Japan Earthquake and Tsunami and Duzce Earthquake” (共著)	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	77-82
勝田 茂 (大阪大学)	「現代トルコ文学概要」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	145-151
	「トルコ農村文学の系譜—— ア ナトリアの生活者からの叫び」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	152-159
SAITO Tsuyoshi (研究協力者)	“Narrating the Life of a Man Known as a Sufi: An Anthropological Reflection on Narratives on al-Hājj ‘Alī al-Darqāwī by His Son al-Mukhtār al-Sūsī and Others”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	4-20
佐藤麻理絵 (研究協力者)	「現代中東における難民研究の 新地平——イラク人離散民の事例 から——」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	293-304
İlhan ŞAHİN (CIEPO)	“Residents and Society of the Düzce Region in the First Half of the 19th Century”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	65-76
SUNAGA Emiko (研究協力者)	“A Study of the Urdu Print Culture of South Asia since the Late Eighteenth Century”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	136-144
Thierry ZARCONÉ (海外共同研究 者)	“Western Visual Representations of Dervishes from the 14th Century to Early 20th”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	43-58
東長 靖 (研究分担者)	「ハキーム・ティルミズイー『聖 者伝』 解題・翻訳ならびに訳注」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	571-577
TOGAWA Masahiko (研究協力者)	“Sharing the Narratives: An Anthropologist among the Local People at the Mausoleum of Fakir Lalon Shah in Bangladesh”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	21-36
所 (柝堀) 木綿子 (研究協力者)	「アブドゥルカーデイルのキリ スト教徒認識」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	257-273
TOMITA Takahiro (立命館大学)	“Spatial Temporal GIS Based Analysis of the Pastoral Environment: A Preliminary Approach to the Transformation of Pastoral Sedentarization in a Suburban Area of Mongolia”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	95-106
永田雄三	「知の先達たちに聞く(6) ——わ たしのトルコ研究を振り返って ——」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	208-222
萩原 淳 (研究協力者)	「サウディアラビアの近代化 —— 非石油民間企業の分析と消 費社会化——」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	231-256

HAGIHARA Jun (研究協力者)	“Saudi Arabia’s Domestic Energy Situation and Policy: Focusing on Its Power Sector”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	107-135
Pierre-Jean LUIZARD (拠点構成員)	“Héros de l’islam, A Secularized Hagiography of a Muslim Saint or How Political Commitment Leads to Sainthood for an Iraqi Shia Religious Leader”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	37-42
二ツ山 達朗 (研究協力者)	「イスラームにおける樹木をめぐる信仰の再考察——チュニジアにおけるオリーブの事例から——」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	274-292
堀内 勝 (中部大学)	「アル・ハマザーニー著『マカーマート』(2) 付説:『マカーマート』の文体サジュウについて」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	305-466
松村 耕光 (研究協力者)	「「不満への回答」——イクバルのウルドゥー詩 (6) ——」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	540-548
宮下 遼 (東京大学)	「トルコのポスト・モダニズム文学——オルハン・パムクとその周辺——」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	173-185
守川 知子・ペ ルシア語百科 全書研究会 (研究協力者)	「ムハンマド・ブン・マフムード・トゥーシー著 『被造物の驚異と万物の珍奇』 (6)」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	549-570
山本 啓二 (京都産業大 学) ・矢野 道雄 (京都産業大 学)	「アブー・ライハーン・ムハンマド・イブン・アフマド・アル＝ビールニー著 『占星術教程の書』(2)」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	467-539
YOSHIKAWA Koji (大阪産業大 学)	“An Introduction to the Spatial-Temporal GIS ‘DiMSIS-Ex’ and Its Application for the Recovery and Restoration Process after Large Disasters in Düzce City: Construction of the New Residential Area and Traffic Network” (共著)	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	6	2013	83-94

〔図書〕計(3)件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行 年	ページ
加賀谷 寛	『南アジアとイスラームー加賀谷寛著作集1ー』 (<i>Kyoto Series of Islamic Area Studies</i>)	共同利用・共同研究拠点イスラーム地域研究拠点京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター	8	2013	viii, 527

山根 聡 (研究分担者) 松村 耕光 (研究協力者) 仁子 寿晴 (研究協力者) (編)	『南アジアとイスラーム—加賀 谷寛著作集 1—』 (<i>Kyoto Series of Islamic Area Studies</i>)	共同利用・共同研究拠点 イスラーム地域研究拠点 京都大学大学院アジア・ア フリカ地域研究研究科附属 イスラーム地域研究センタ ー	8	2013	viii, 527
小杉 泰・ (拠点代表) 岡本 多平・ 竹田 敏之 (研究協力者) (共著)	『京大式 実践基礎単語 1300』 《KIAS 地域言語シリーズ》	京都大学アジア・アフリカ 地域研究研究科・グローバ ル地域研究専攻 附属イス ラーム地域研究センター (KIAS), 若手研究者インタ ーナショナル・トレーニング ・プログラム (ITP)	1	2012	60

〔学会発表〕計 (36) 件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
DANISMAZ Idiris (研究協力者)	“Arab Muslims’ Increasing Interest in the Civil Society Activities in Turkey: The “Hizmet” Movement and Hira Magazine of Turkey”	The 21st KAMES and The 9th AFMA International Conference	2012.10.6	BEXCO, Busan (KOREA)
IMAMATSU Yasushi (研究分担者)	“Some Dimentions of Saint Veneration from the time of the Ottoman Empire to the Present Day”	The 21st KAMES and The 9th AFMA International Conference	2012.10.6	BEXCO, Busan (KOREA)
内山 明子 (研究協力者)	「現代イランにおける宗教的多 様性—エマームザーデ参詣女性 の語りから」	スーフィズム・聖者信仰研 究会	2012.6.2	上智大学
UCHIYAMA Akiko (研究協力者)	“A Research Review on the Ethnography of Women: Focusing on Their Everyday Life”	KIAS/SOIAS Joint International Workshop	2012.7.8	Kyoto University
遠藤 春香 (研究協力者)	「統合的な完全なる者—シャリ ーアの源に着目して—」	スーフィズム・聖者信仰研 究会	2012.6.2	上智大学
ENDO Haruka (研究協力者)	“The Argument over <i>Tanzīh</i> and <i>Tashbīh</i> according to al-Sha‘rānī.”	The KIAS/ SIAS Joint International Workshop	2013.2.23	Sophia University
	“Sha‘rānī’s Reconciliation of Jurists and Sufis: The Perfect One with Two Eyes.”	The 21st KAMES and The 9th AFMA International Conference	2012.10.5	Busan University of Foreign Studies, Busan (Korea)
	“The ‘Perfect Man’ according to ‘Abd al-Wahhāb al-Sha‘rānī: From an Ontological Point of View.”	The KIAS/ SIAS Joint International Workshop	2012.7.7	Kyoto University
OHMICH Syun (研究協力者)	“Contemporary Role of the Merchant Class in the Kuwaiti Economy”	KIAS/TUFS/Chiba Univ. Joint International Workshop	2012.10.28	Kyoto University

KAWAMURA Ai (研究協力者)	“An Emerging Mode of Dispute Resolution in Islamic Finance: A Case Study in the UAE”	6 th Kyoto-Durham International Workshop	2012.7.17	Durham University (Great Britain)
	“Innovation of Dispute Resolution for Islamic Finance in Dubai: Ad hoc Approach or Products-Oriented Approach?”	the 1 st KIAS-EKONIS International Workshop	2012.9.25	Kyoto University
	“Dawn of Institutional Practice of Dispute Resolution in Islamic Finance: A Case Study of Dubai”	The 21st KAMES and The 9th AFMA International Conference	2012.10.6	BEXCO, Busan (KOREA)
	“Dubai Approach as a Brake Through of Hybrid Resolution for Islamic Finance”	4 th International Symposium on Islam, Civilization and Science	2013.2.19	Universiti Kebangsaan Malaysia (Malaysia)
小杉 泰 (拠点代表)	「南アジアとイスラーム: 知的ネットワークと民衆運動——イスラーム世界論から見た研究の射程と課題——」	アジア政経学会 2012 年度全国大会 分科会 3	2012.10.13	関西学院大学 (西宮上ヶ原キャンパス)
KOSUGI Yasushi (拠点代表)	“What is the significance of "Islamic" in Islamic Economics? The Technology of Social Management and its Re-institution”	6th Kyoto-Durham International Workshop	2012.7.17	Durham University (Great Britain)
	“The Scope and Tasks of Islamic Economics: An Civilizational Approach”	1st KIAS-EKONIS International Workshop	2012.9.25	Kyoto University
	“Islamic Civilization in a Global Perspective: With Special Reference to Japan’s Modernization and Malaysia’s Future”	4th International Symposium on Islam, Civilization & Science	2013.2.20	Universiti Kebangsaan Malaysia (Malaysia)
	“Islam and Japan: Historical Backgrounds and Current Issues”	Joint International Seminar "Islam in Asia: Engaging the Community"	2013.3.19	Kyoto University
	“Islamic Values and the Modern Territorial State: Refugees and Trans-border Mobility”	6 th Kyoto-Durham International Workshop	2012.7.17-18	Durham University (Great Britain)
	“Historical Circumstances and Sustainability of Life in Greater Amman: A Modern Metropolis and Refugees”	KIAS/TUFS/Chiba Univ. Joint International Workshop	2012.10.27-28	Kyoto University
	“Transnational Islamic Space and Refugee Problems in the Middle East”	4 th International Symposium on Islam, Civilization and Science	2013.2.19-20	Universiti Kebangsaan Malaysia (Malaysia)
SUNAGA Emiko (研究協力者)	“The Arabic or Vernacular?: Interpreting Islamic Sacred Scripture in Indian Subcontinent”	The Iraqi-Japanese International Workshop	2012.5.18	Kyoto University
竹田 敏之 (研究協力者)	“Arabic Language and Cultural Movements in the Modern Arab World: A Survey of Linguistic and Social Aspects of Lexical Development”	The Iraqi-Japanese International Workshop	2012.5.18	Kyoto University

CHIBA Yushi (研究協力者)	“Competition or Complementation?: An Overview of Contemporary Arab Broadcasting Market”	The Iraqi-Japanese International Workshop	2012.5.18	Kyoto University
長岡 慎介 (研究分担者)	「イスラーム金融の実践を支える知的インフラその系譜とグローバル化時代における新展開」	京都大学拠点3班合同研究会「イスラーム世界の国際組織とグローバルネットワーク II」	2012.11.9	京都大学
NAGAOKA Shinsuke (研究分担者)	“Dynamics of Islamic Economics after the Boom of Islamic Finance: A Vision for Neo-Capitalism or New Universal System?”	1st KIAS-EKONIS International Workshop	2012.9.25	Kyoto University
NAGAOKA Shinsuke (研究分担者)	“Islamic Finance and Japan: Recent Developments”	Joint International Seminar “Islam in Asia: Engaging the Community”	2013.3.19	Kyoto University
HIRANO Junichi (研究協力者)	“Islam and Modernity: Jamal al-Din al-Afghani and his Re-explanation of the Heritage”	The 21st KAMES and The 9th AFMA International Conference	2012.10.6	BEXCO, Busan (KOREA)
二ツ山 達朗 (研究協力者)	「モノから考察する民衆のイスラーム—チュニジアにおけるオリーブとバラカの関係性から」	スーフイズム・聖者信仰研究会 2012 年第 1 回研究会	2012.6.2	上智大学
FUTATSUYAMA Tatsuro (研究協力者)	“What Becomes a Transmitter of Allāh’s Blessing (baraka): The Case Study of Olive in Tunisia”	The 21st KAMES and The 9th AFMA International Conference	2012.10.5	Busan University of Foreign Studies, Busan (Korea)
	“How to Sell and Use ‘Religious Commodities’: Focus on the Display of Shops in Tunisia”	KIAS/SIAS Joint International Workshop	2013.2.23	Sophia University
	「現代シリアにおけるシーア派参詣—イスラームとツーリズムをめぐる伝統と革新」	スーフイズム・聖者信仰研究会	2012.9.29-30	上智大学 軽井沢セミナーハウス
YASUDA Shin (研究協力者)	“The Development of Global Islamic Tourism: Its Perspective and Prospect”	The Iraqi-Japanese International Workshop	2012.5.18	Kyoto University
	“The Development of Islamic Tourism in the MENA region: Its Perspective and Prospect”	The 21st KAMES and The 9th AFMA International Conference	2012.10.6	BEXCO, Busan (KOREA)
	“From Ethic to Sharia-compliance: The Development of Islamic Tourism in MENA Region”	2012 Middle East and Islamic Studies in Japan: The State of the Art	2012.12.1	Japan Center for Middle Eastern Studies, Beirut (Lebanon)
山根 聡 (研究分担者)	「わが国におけるウルドゥー語・文学研究の歴史」	日本・パキスタン国交樹立 60 周年記念講演会	2012.12.13	京都大学

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（50）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
ISHIDA Yuri (研究協力者)	“The Concept of the Soul (Nafs) in the Early Sufism according to al-Qushayrī’s <i>al-Risāla al-Qushayrīya</i> and al-Hujwīrī’s <i>Kashf al-mahjūb</i> ”	<i>Journal of Intercultural and Religious Studies</i>	2	2012	45-57
イディリス・ダニシマズ (研究協力者)	子島進、ダニシマズ・イディリス「ムスリム NGO の理念と活動—パキスタンとトルコの事例から」	『東洋大学アジア文化研究研究年報』	47	2013.2	116-124
今井 静 (研究協力者)	「ヨルダンの対イラク貿易と社会経済開発—1970～80年代を中心に—」	『日本中東学会年報』	28 (1)	2012	125-148
遠藤 春香 (研究協力者)	「シャアラーニーの完全人間論:形而上学から社会的側面への展開」	『オリエント』	55 (2)	2013	17-32
川本正知 (研究協力者)	「中央アジアにおける聖者崇拜の実態」	『朝倉世界地理講座 第5巻 中央アジア』		2012	112-142
木下博子 (研究協力者)	「イラクと日本の学術交流」	『イラクを知る 66 章』		2013	342-344
小杉 泰 (拠点代表)	「現代中東・イスラーム世界の生存基盤—石油依存の帰結と属人性原理の復興—」	『歴史のなかの熱帯生存圏—温帯パラダイムを超えて—』		2012	439-470
澤江史子 (研究協力者)	「ナーズム・ヒクメット」	『世界史史料 二十世紀の世界 II: 第二次世界大戦後冷戦と開発』		2012	180-181
末近浩太 (研究分担者)	「『恐怖の均衡』がもたらす安定と不安定: 国際政治とレバノン・イスラエル紛争」	『中東の予防外交』		2012	215-239
	「レバノンにおける多極共存型民主主義: 2005 年「杉の木革命」による民主化とその停滞」	『中東政治学』		2012	81-94
	「シリア問題の背景とイスラーム」	『宗教と現代がわかる本 2013』		2013	109-111
	「『新しい地域研究』の 10 年へ: 総特集「地域研究方法論」(『地域研究』 Vol. 12, No. 2) を読んで」	『地域研究』	13 (2)	2013	467-471

SUECHIKA Kouta (研究分担者)	“Social Services and the ‘Resistance Society’ of Lebanon’s Hizballah,”	平成 22 年度～24 年度科学 研究費補助金（基盤研究 （A）一般）研究成果の公 開としてのイスタンブール 国際会議報告書 Hisae Nakanishi and Elisa Motiel Welti eds., <i>International Conference on Conflict Prevention in the Middle East: Searching for Alternative Ways</i> (8-9 November 2012, Old Japanese Consulate Building in Istanbul).		2013.3	35-37
	“Undemocratic Lebanon?: The Power-Sharing Arrangements after the 2005 Independence intifada,”	<i>Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities</i> , Vol. 4		2012	103-132
須永恵美子 (研究協力者)	「イスラーム国家としてのパキ スタンにおける歴史言説」	『アジア・アフリカ地域研 究』	12 (2)	2013	157-191
	「バザールの服飾文化」	『パーキスターン』	242	2012.7	
千葉悠志 (研究協力者)	「衛星放送こそが「アラブの春」 の仕掛け人」	『季刊アラブ』	141	2012	20-21
	「「アラブの春」と衛星放送—— チュニジア・エジプト・リビアの 事例から」	『中東研究』	514	2012	21-29
CHIBA Yushi (研究協力者)	“The Geographical Transformation of Arab Media: The Decline of Offshore Media and the Rise of the Media City”	『アジア・アフリカ地域研 究』	12(1)	2012	79-103
東長靖 (研究分担者)	「研究案内：中東（政治経済社会 文化）」	『生存基盤論ハンドブッ ク』		2012	42-43
長岡慎介 (研究分担者)	「中東湾岸諸国における銀行業 の国際展開の歴史と現在」	『中東アラブ企業の海外 進出』		2013	79-116
西野正巳 (研究協力者)	「イスラーム主義急進派のイデ オロギーの変遷についての一考 察—1990 年代以降の急進派内の 意見対立を中心に—」	『防衛研究所紀要』	15(2)	2013.2	83-98
	「アラブ諸国最大級の軍隊— エジプト軍」、千年の歴史を持つ 宗教・教育機構—イスラーム諸学 の権威・アズハル機構、「エジプ トで最も著名なイスラーム教説 教師—ムハンマド・シャアラウ イー」、イスラーム主義急進派組 織—ジハード団とイスラーム団」	『現代エジプトを知るた めの 60 章』		2012	151-154、 160-164、 165-167、 177-181
二宮文子 (研究協力者)	「シンクレティズム論超克の試 み—南アジアのイスラーム研究 を中心に—」	『コンタクト・ゾーンの人 文学』	3	2012	48-61
NINOMIYA Ayako (研究協力者)	“Tanvir Anjum, Chishī Sufis in the Sultanate of Delhi 1190-1400: From Restrained Indifference to Calculated Defiance,”	<i>International Journal of South Asian Studies</i>	5	2012	163-167
平野淳一 (研究協力者)	「現代イランにおけるイスラーム 連帯運動の新局面—「イスラーム 諸学派近接世界アカデミー」と 『接近の使信』の事例から—」	『アジア史研究』	37	2013	41-76

藤井千晶 (研究協力者)	「マカメ・ワ・マカメの民話」	『スワヒリ&アフリカ研究』	24	2013	16-31
FUJII Chiaki (研究協力者)	“New” Traditional Medicine on the East African Coast: The Practice of Prophetic Medicine in Zanzibar	『日本中東学会年報』	28 (2)	2012	1-25
二ツ山達朗 (研究協力者)	“What Becomes a Transmitter of Allāh’s Blessing (baraka): The Case Study of Olive in Tunisia”	The Middle East in Change: New Attempts for the Future		2012.10	57-64
保坂修司 (研究分担者)	「薬ミイラ再考」	『永遠に生きるー吉村作治先生古稀記念論文集』		2013	487-505
	「捕虜になった日本人」「国家に支配されたメディア」「インターネットとSNS」	『現代イラクを知るための60章』		2013	73-75、 187-192
	「ジハード主義は拡散しているのか」	『季刊アラブ』	144	2013	5-7
	「外国新聞の概況 中東」	『日本新聞年鑑 2013』		2012	98-99
堀抜功二 (研究協力者)	「UAEにおける政治改革運動と体制の危機認識——2011年の建白書事件を事例に——」	『アラブの春とアラビア半島の将来』		2012	1-14
松村耕光 (研究協力者)	『生命の水』におけるアーザードのダビール・アニース比較論	『言語文化研究』	39	2013.3. 31	117-124
森 伸生 (研究分担者)	「イジュマーの検証」	『拓殖大学シャリーア研究』	9	2012	21-58
	「クルアーン解釈 第7章高壁 第1節～32節」	『拓殖大学シャリーア研究』	9	2012	119-137
	『アラブの春』後のサウジ情勢	『拓殖大学 海外事情』	12 月号	2012	2-15
安田 慎 (研究協力者)	「倫理からシャリーア・コンプライアンスへーオルタナティブ・ツーリズムとしてのイスラミック・ツーリズム」	『観光学評論』	1 (1)	2013	51-67
	「シリアの聖者廟ーザイナブ廟とカルバラーの物語」	『聖地巡礼ツーリズム』		2012	220-223
山尾 大 (研究協力者)	「外部介入によるイラクの民主化——戦後民主体制の運営」	『中東政治学』		2012	95-108
	「米軍撤退後イラクの政治対立と合従連衡」	『中東研究』	515	2012	55-68
	「政権を安定させた亡命——1990年代イラクの体制内抗争と支配の制度」	『アジ研ワールド・トレンド』	209	2013	13-16
	「10年目のイラク国家建設のゆくえ」	『歴史地理教育』	801	2013	10-17

Yamamoto Dai (研究協力者)	“Iraqi Islamist Parties in International Politics: The Impact of Historical and International Politics on Political Conflict in Post-War Iraq”	<i>International Journal of Contemporary Iraqi Studies</i>	6(1)	2012	27-52
山根 聡 (研究分担者)	「総選挙実施に向け流動化するパキスタン」	『国際情勢紀要』	83	2013	211-221
	「英領インドにおけるウルドゥー語出版とムスリム知識層の台頭」	『アジアのムスリムと近代—1930年代出版物から考える—』		2013	3-26
	「南アジア—国際関係に揺れる印パ関係」	『現代国際関係入門』		2012	202-218
	「アフガニスタン—ソ連軍侵攻から9・11へ、そしてその後—」	『朝倉世界地理講座 5 中央アジア』		2012	274-285
YAMANE So (研究分担者)	“Faqr Muhammad Khan Goya”	<i>The Encyclopedia of Islam</i>		2013	139-140

〔図書〕計（8）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
新井政美 (編著)・ 伊藤寛子 (研究協力者)	『イスラムと近代化:共和国トルコの苦闘』 担当箇所: pp.99-127	講談社 (選書メチエ)	541	2013	264
新井政美 (編著)・ 幸加木文 (研究協力者)	『イスラムと近代化—共和国トルコの苦闘』 担当箇所: pp. 193-236	講談社 (選書メチエ)	541	2013	264
東長 靖 (研究分担者)	『イスラームとスーフィズム—神秘主義・聖者信仰・道徳』	名古屋大学出版会		2013	301+vii
東長靖、 石坂晋哉 (編) (研究分担者)	『持続型生存基盤論ハンドブック』	京都大学学術出版会		2012	534+xiii
中西竜也 (研究協力者)	『中華と対話するイスラーム—17-19世紀中国ムスリムの思想的営為』	京都大学学術出版会		2013	xvi+426
保坂修司 (研究分担者)	『イラク戦争と変貌する中東世界』	山川出版社		2012	98
山尾 大 (研究協力者)	『紛争と国家建設—戦後イラクの再建をめぐるポリティクス』	明石書店		2013	304
酒井啓子 吉岡明子 山尾大 (編著) (研究協力者)	『イラクを知る 60 章』	明石書店		2013	368

〔学会発表〕計（ 49 ）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
石田友梨 (研究協力者)	「18 世紀インド・ムスリムの理想社会—シャー・ワリーウッラー『神の究極の明証 (Ḥujja Allāh al-Bāligha)』より—」	日本南アジア学会	2012.10.6	東京外国語大学
	「シャー・ワリーウッラーの靈魂論」	日本オリエント学会	2012.11.25	東海大学湘南キャンパス
ISHIDA Yuri (研究協力者)	“The Muslim Intellectual Network in Eighteenth Century: Focusing on Academic Genealogies in Shāh Walī Allāh's Autobiography”	2012 Middle East and Islamic Studies in Japan	2012.12.1	Japan Center for Middle Eastern Studies, Beirut (Lebanon)
イディリス・ダニシマズ (研究協力者)	「現代トルコにおけるスーフィズム—タリーカのなかの『スーフィー』から社会のなかの『奉仕者』への展開」	日本オリエント学会第 54 回年次大会	2012.11.24-25	東海大学湘南キャンパス
	「トルコの国際 NGO—キムセ・ヨク・ムによる東日本大震災支援活動—」	日本中東学会第 28 回年次大会（一般公開イベント）	2012.5.12	東洋大学白山キャンパス
伊藤寛了 (研究協力者)	「1940 年代のトルコにおける宗教的言論活動と政府の統制」	日本中東学会第 28 回年次大会	2012.5.13	東洋大学
今井 静 (研究協力者)	「ヨルダンにおける自由化政策と地方経済の変容」	日本中東学会第 28 回年次大会	2012.5.13	東洋大学
IMAI Shizuka (研究協力者)	“Jordan's Trade with Iraq: Historical Development and Future Prospects”	Japanese and Iraqi Studies in two Perspectives	2012.5.18	京都大学
内山明子 (研究協力者)	「現代イランにおける宗教実践の多様性—エマームザーデ参詣女性の語りから」	イスラーム地域研究・若手研究者の会	2012.7.21	東京大学本郷キャンパス
遠藤春香 (研究協力者)	「シャアラーニーの聖者論—「完全なる者」の理論を中心に—」	日本中東学会第 28 回年次大会	2012.5.13	東洋大学
小倉智史 (研究協力者)	「スリナガル市、及び周辺地域の史跡について」	人文科学研究所共同研究班「イスラムの東・中華の西—前近代中央ユーラシアにおける文化交流の諸相」研究会	2013.2.8	京都大学人文科学研究所四階 406 号室
川村 藍 (研究協力者)	アラブ首長国連邦 (UAE) におけるイスラーム銀行の展開と法制度の実態	日本中東学会第 28 回年次大会	2012.5.13	東洋大学
篠田知暁 (研究協力者)	「ワッタース朝期のジハードについて再検討する」	九州史学会	2012.12.9	九州大学
末近浩太 (研究分担者)	「グローバル不況と中東の政治変動」	日本国際政治学会	2012.10.20	名古屋国際会議場
SUECHIKA Kouta (研究分担者)	“Social Services and ‘Resistance Society’ of Lebanon’s Hizballah”	Consulate General of Japan in Istanbul and Doshisha University Graduate School of Global Studies/CISMOR “International Conference on Conflict Prevention in the Middle East: Searching for Alternative Ways”	2012.11.9	Consulate-General of Japan in Istanbul (Turkey)

須永恵美子 (研究協力者)	「多民族国家パキスタンの歴史観と国民像—学校教育において共有される言説の事例を通して」	NIHU プログラム現代インド地域研究若手研究者セミナー	2012.4.28	東京外国語大学本郷サテライト
竹田敏之 (研究協力者)	「現代アラブ世界におけるアラビア語辞典の展開—辞書編纂の伝統と革新—」	日本中東学会第 28 回年次大会	2012.5.13	東洋大学
千葉悠志 (研究協力者)	「アラブ諸国におけるメディアシティの競合・補完関係—衛星放送の立地に着目して—」	日本中東学会第 28 回年次大会	2012.5.13	東洋大学
	「アラブ革命におけるマス・メディアとソーシャル・メディア」	アジア太平洋資料センター・自由学校「もうマスコミは信じない—メディアを選ぶ・創る」	2012.12.7	アジア太平洋資料センター
TONAGA Yasushi (研究分担者)	“Personal and Impersonal God in Islamic Mysticism”	Co-conference organized by 3HK (Humanities Korea) Project Centers, Cultural Geography: Mediterranean, Latin America, Southeast Asia	2012.5.18	Busan University for Foreign Studies, (Korea) (招待講演)
TOCHIBORI Yuko (研究協力者)	“L’Emir Abdelkader: reconsideration de nos jours,”	Projet Abd el-Kader	2012.12.12	L’atelier de CLAP, Lyon, France
長岡慎介 (研究分担者)	「理念と激震する世界経済の狭間でイスラーム経済は何を目指すのか？」	PARC 自由学校連続ゼミ 16: もうだまされない! 知識ゼロからの経済学入門	2012.9.10	PARC 自由学校 (東京)
	「サイバー空間が創り出す 新たなグローバル/ローカル経済のかたち—現代に再興するイスラーム経済ネットワークからの探究」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (AA 研) 基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の探求」 2012 年度公開シンポジウム	2012.12.15	東京外国語大学
	「ハラール・ビジネスの将来展望」	Japan Halal Forum & Expo 2013 in Fukuoka	2013.2.25	アクロス福岡
NAGAOKA Shinsuke (研究分担者)	“Financial Crisis and its Macroeconomic Impact to the Islamic Economic System: A Theoretical Inquiry”	6th International Conference of the School of Economics and Business	2012.10.12	University of Sarajevo (Bosnia and Herzegovin)
	“Global History and Islamic Finance: Towards a Critical Analysis of Modern Capitalism”	2nd Kazan International Scientific Forum: Islam in a Multicultural World	2012.10.30	Kazan Federal University (Tatarstan, Rusia)
	“Islamic Finance in the Second Decade of the 21st Century: Challenge and Struggle between Aspiration and Reality”	Workshop on Mutual Influences between Economic Development and ‘Moderate Islamism’ in the Non-Oil-Producing Middle Eastern Countries	2013.2.15	東京大学
	“Resuscitation or Novel System? Emergence of the Integrated Islamic Economic System in the Twenty-First Century”	4th International Symposium on Islam, Civilization & Science	2013.2.20	Universiti Kebangsaan Malaysia (Malaysia)

NAGAOKA Shinsuke (研究分担者)	“New Horizon of Islamic Economics in Second Decade of the 21st Century: Towards a New Universal Economic System”	Bank Indonesia Knowledge Sharing Session on Islamic Banking Series #2	2013.3.8	Indonesia Central Bank (Indonesia)
二宮文子 (研究協力者)	「インドにおけるイスラーム「聖地」の創造—シャムスの貯水池 Haud-i Shamsī と『求道者の鍵 Miftāh al-Tālibīn』—」	龍谷大学史学大会	2012.10.19	龍谷大学大宮キャンパス
HAMADA Masami (研究分担者)	“Gisant aux pieds des saints: les souverains et leurs intercesseurs en Asie centrale médiévale”	Mythes, rites et emotions	2013.3.9	Université de Paris Diderot (France)
平野淳一 (研究協力者)	「想像のイスラーム共同体—アラビア語出版メディアとイスラーム改革思想」	「近代・イスラームの比較教育社会史」第2回研究会	2012.6.16	東洋文庫
二ツ山達朗 (研究協力者)	「モノを通して具現されるバラカの一考察—チュニジアにおけるオリブの事例から」	日本中東学会	2012.5.13	東洋大学
保坂修司 (研究分担者)	「イスラームの怪異」	日本中東学会第28回年次大会	2012.5.12	東洋大学
堀一成、竹原新、石島悌、片桐真子、平松初珠、 <u>萬宣健策</u> (研究協力者)	「災害救援者教育のための言語資源構築」	言語処理学会	2013.3.15	名古屋大学
安田 慎 (研究協力者)	「シリア・シーア派参詣地におけるシーア派法学者の活動と役割」	日本中東学会	2012.5.12	東洋大学
	「イスラミック・ツーリズムにおける理論と市場—概念的枠組をめぐる議論のダイナミズム」	観光学術学会	2012.7.7	和歌山大学
安田 慎 (研究協力者)	「マッカにおける巡礼ツーリズム—グローバル・イスラームを支えるシステムの形成」	2012年度第一回「イスラーム世界における伝統継承に関する研究会」	2012.8.4	京都大学
YASUDA Shin (研究協力者)	“From Ethic to Sharia-compliance: The Development of Islamic Tourism in MENA Region”	2012 Middle East and Islamic Studies in Japan	2012.12.1	Japan Center for Middle Eastern Studies, Beirut (Lebanon)
山尾 大 (研究協力者)	「外部介入がもたらした民主化—イラク戦争と残存する権威主義体制の遺産」	九州史学会	2012.12.9	九州大学
<u>山尾 大・浜中 新吾</u> (研究協力者)	「イラクにおける政党支持構造とその変容—中東諸国とイラクにおける世論調査の計量分析から」	日本政治学会	2012.10.6	九州大学

山根 聡 (研究分担者)	「ウルドゥー語と都市文化—食文化を通して語彙の洗練とトポフィリア」	日本南アジア学会	2012.10.7	東京外国語大学
	「国家とウンマのすり合わせ—パキスタンとアフガニスタンをめぐるムスリムの議論—」	アジア政経学会	2012.10.13	関西学院大学
	「総選挙実施に向け流動化するパキスタン」	中東情勢調査会	2012.10.19	世界情勢調査会
	「パンジャーブの食文化について」	シンポジウム・パーキスターン 2012	2012.12.8	日本大学文理学部講堂
	「国家の輪郭と越境プロジェクトについて」	新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」総括シンポジウム「ユーラシア地域大国の比較から見える新しい世界像」	2013.1.27	早稲田大学井深大記念講堂
YAMANE So (研究分担者)	Mardud Logon kii Be-bas Awazen Manto's kii “Toba Tek Singh”	International Manto Seminar (Bangalore, India)	2012.11.22	Bangalore Auditorium (India)
YAMANE So (研究分担者)	Dual Trend of Urdu and Punjabi Prosody	International Seminar of Pakistani Studies in Japan	2013.2.22	Lahore University of Management Science (Pakistan)
	Think Umma, Use the Modern-Networks of Modern Muslim Intellectuals in South Asia, 1900-1930	Central Asia Studies and Inter-Asia Research Networks: Integrated Study of Dynamism in the Central Asian Regional Sphere	2013.3.3	東洋文庫

〔公開講演〕計（ 9 ）件

講演者名	発 表 標 題	主催・講演名	発表年月日	発表場所
イディリス・ダニシマズ (研究協力者)	「世界につながるイスラーム」	明治学院大学国際学部付属研究所	2012.11.27	明治学院大学横浜キャンパス 9 号館 1 階 912 教室
DANISMAZ Idiris (研究協力者)	“Civil Society Organizations in Turkey and Their Contribution to a More Livable World”	Dialogue for the Future Between Japan and the Islamic World	2012.12.6	Mita Kaigisho, Tokyo, Japan
幸加木 文 (研究協力者)	「変容する現代トルコ：世俗主義、イスラーム、民主化への道程」	NPO 法人日本トルコ文化交流会	2012.9.21	同会セミナー室（新宿）
KOSUGI Yasushi (拠点代表)	“Technology of Social Management and Its Knowledge Basis: An Inquiry into Islamic Civilization”	SOASCIS 2nd International Conference: Transmitting Spiritual and Moral Values Across Generations in the 21st Century	2012.11.5	Sultan Omar ‘Ali Saifuddien Centre for Islamic Studies, Universiti Brunei Darussalam (Brunei・招待講演)

末近 浩太 (研究分担者)	「ヒズブッラーの現状と最近の動向」	財団法人世界政経調査会・国際情勢研究所・研究会	2012.12.7	国際情勢研究所（招待講演）
	「最近のシリア情勢」	経済産業省平成 24 年度石油産業体制等調査研究（中東・北アフリカ地域の動向と我が国のエネルギー情勢への影響に関する調査）第 2 回有識者委員会	2013.1.18	一般財団法人日本エネルギー経済研究所（招待講演）
	「激動の中東を読む：『アラブの春』と原油価格の行方」	第 27 回 HIRAKIN 環座の会	2012.4.12	岡山プラザホテル（招待講演）
	「今中東で何が起きているのか：民主化とイスラーム主義」	立命館大学無料公開講座「土曜講座」「激動の中東政治を読み解く：『アラブの春』から 1 年」	2012.6.9	立命館大学末川記念館（招待講演）
	「中東の民主化の行方とイスラーム主義」	兵庫県阪神シニアカレッジ	2013.1.11	尼崎市中小企業センター（招待講演）
末近 浩太 (研究分担者)	「アサド政権を取り巻く国際関係：多重化・多層化する紛争構図」	朝日カルチャーセンター横浜教室講座「シリア・混乱の真相：加害者と被害者はだれか」	2013.3.16	朝日カルチャーセンター横浜教室（招待講演）
東長 靖 (研究分担者)	「神の選んだアラビア語－イスラーム世界の統一性と多様性－」	ゴールデン・エイジ・アカデミー「言語からみたアジアの社会」	2012.6.22	京都市生涯学習総合センター京都アスニー
TONAGA Yasushi (研究分担者)	“Research Trends on Islamic and Middle Eastern Studies in Japan”		2012.5.17	Busan University for Foreign Studies, (Korea)（招待講演）
HAMADA Masami (研究分担者)	“Mythes et rites des peuples de l’Asie centrale—religion et pouvoir”		2013.3.2	La maison de la culture du Japon, Paris (France)
森 伸生 (研究分担者)	「クルアーン解釈 第 8 章 1 節～31 節」	拓殖大学イスラーム研究所公開研究会	2012.5.26	文京キャンパス
	「イスラーム社会におけるシャリーア（イスラーム法）の実効性」	拓殖大学国際開発事業研究会報告	2012.7.25	日本記者クラブ
	「イスラーム社会から見た 2013 年の世界」	拓殖大学国際講座	2013.1.26	文京キャンパス

〔その他〕計（４）件

著者名	項目名	書名	出版社	発行年
今松泰 (研究分担者)	「トルコのイスラーム」	『世界宗教学百科』	丸善出版	2012

末近浩太 (研究分担者)	「レバノン共和国」のうち,「アドニス川」(p. 34) 他 24 項目	加藤博・島田周平編『世界地名大事典 3 (中東・アフリカ)』	朝倉書店	2012
東長靖 (研究分担者)	「スーフィズム」	『世界宗教学百科』	丸善出版	2012
山根 聡 (研究分担者)	「アフガニスタン:第二次世界大戦後」「ターリバーン」	『南アジアを知る事典』	平凡社	2012

〔受賞〕 計 (1) 件

受賞者名	受 賞 内 容	受賞年月日
小杉 泰 (拠点代表)	紫綬褒章	2012.6.6

財団法人東洋文庫研究部・イスラーム地域研究資料室

代表：三浦 徹（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室・室長、
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・教授）

中心テーマ 『イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
三浦 徹	東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室室長・お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授	拠点代表 (総括、アラブ史資料の収集・研究)
堀川 徹	東洋文庫研究員、京都外国語大学外国語学部教授	研究分担者 (文書史料の比較制度研究)
磯貝 健一	東洋文庫研究員、追手門学院大学国際教養学部准教授	研究分担者 (中央アジア史資料の収集・研究)
大河原知樹	東洋文庫研究員、東北大学大学院国際文化研究科准教授	研究分担者 (アラブ史資料の収集・研究)
近藤 信彰	東洋文庫研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授	研究分担者 (イラン史資料の収集・研究)
秋葉 淳	東洋文庫研究員、千葉大学大学院人文社会科学研究科准教授	研究分担者 (トルコ史資料の収集・研究)
徳原 靖浩	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、東洋文庫研究員	研究分担者 (イラン史資料の収集・文献情報ネットワーク形成)

研究グループ：「イスラーム地域研究史資料ネットワークの構築」

(研究グループメンバー)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
三浦 徹	東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室室長、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授	研究グループ代表 (アラブ史資料の収集・研究)
堀川 徹	東洋文庫研究員、京都外国語大学外国語学部教授	研究分担者 (文書史料の比較制度研究)
磯貝 健一	東洋文庫研究員、追手門学院大学国際教養学部准教授	研究分担者 (中央アジア史資料の収集・研究)
大河原知樹	東洋文庫研究員、東北大学大学院国際文化研究科准教授	研究分担者 (アラブ史資料の収集・研究)
近藤 信彰	東洋文庫研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授	研究分担者 (イラン史資料の収集・研究)
秋葉 淳	東洋文庫研究員、千葉大学大学院人文社会科学研究科准教授	研究分担者 (トルコ史資料の収集・研究)
渡辺 浩一	国文学研究資料館教授	研究分担者 (文書史料の比較制度研究)
柳谷あゆみ	東洋文庫研究員	研究分担者 (アラブ史資料の収集・文献情報ネットワーク形成)
徳原 靖浩	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、東洋文庫研究員	研究分担者 (イラン史資料の収集・文献情報ネットワーク形成)

(研究グループ海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
ランディ・ドゥギエム	フランス国立科学研究センター教授	文書史料の比較制度研究
シュテファン・クノスト	バイルート東洋学研究所研究員	文書史料の比較制度研究
ネッリー・ハンナ	カイロ・アメリカン大学教授	文書史料の比較制度研究

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
伊藤 知義	中央大学法科大学院教授	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
上野雅由樹	東京外国語大学・日本学術振興会特別研究員 SPD	オスマン帝国史料の総合的研究
江川ひかり	明治大学文学部教授	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
小笠原弘幸	財団法人政治経済研究所所員	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究、オスマン帝国史料の総合的研究
奥田 敦	慶應義塾大学総合政策学部教授	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
桑原 尚子	高知短期大学社会科学科教授	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
澤井 一彰	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ジュニアフェロー	オスマン帝国史料の総合的研究
中田 考	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
長谷部圭彦	東京大学大学院人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター・客員研究員	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究・オスマン帝国史料の総合的研究
浜本 一典	同志社大学神学研究科博士後期課程・日本学術振興会特別研究員	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
藤波 伸嘉	東京大学大学院総合文化研究科特任助教	オスマン帝国史料の総合的研究
堀井 聡江	桜美林大学リベラルアーツ学群准教授 (早稲田大学拠点研究協力者)	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
前野 直樹	日本サウディアラビア協会事務局長補佐	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
松尾有里子	上智大学外国語学部非常勤講師	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究・オスマン帝国史料の総合的研究
松山 洋平	東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士後期課程・日本学術振興会特別研究員	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
黛 秋津	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部准教授	オスマン帝国史料の総合的研究
宮下 修一	静岡大学大学院法務研究科准教授	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
吉田 達矢	名古屋学院大学経済学部講師	オスマン帝国史料の総合的研究

【2012 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

①現地語史資料の収集・整理：エジプト・イラン・トルコの書店から購入した現地語史料を整理し、共同利用を促進するため NACSIS-CAT への登録を継続している。2012 年度は新規受入・遡及を含め、1,500 タイトルの資料を整理し、書誌データは拠点ホームページ上のデータベースでも公開している。蔵書検索システムをリニューアルし、検索結果から Webcat Plus にリンクするなど、より使いやすいものにした。

②研究文献情報の整備と普及：日本中東学会および文部科学省委託事業「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」拠点強化事業との連携でデータを整備・公開している「日本における中東研究文献データベース 1868～」は、2013 年 3 月現在で 45,700 件の書誌データを収録しており、中東イスラーム研究の専門の研究文献目録としては他に類のない網羅的な書誌データベースとなっている。ウェブ上でここにしか書誌情報がないものもあり、研究文献の検索に必須のツールとなっている。毎月平均 1,000 以上の訪問者数（ページビューは 3,000 以上）があり、アクセス数は着実に上がっている。

③「オスマン帝国史料の総合的研究」研究会によるウェブ資料「オスマン帝国史料解題」を更新した。8 月に「総論」及び「官報」「年鑑」の項目を作成、既存コンテンツを更新したほか、2013 年 3 月に「人口調査台帳」「履歴文書」「オスマン詩」を新たに追加した。

④拠点の活動を広く図書館関係者にも知ってもらうことで、上記データベースやコンテンツをレファレンス等に役立てられるよう、11 月に横浜で開催された図書館総合展のポスターセッションに出展し、拠点の活動について広報を行った。

2. 研究・教育活動

(1)拠点全体としての活動

①論文を書く学生のための情報検索リテラシーセミナー

日時：2012 年 8 月 3 日（金） 13:00～16:30

場所：東洋文庫 2 階講演室

概要：アラビア文字資料を用いて卒業論文・修士論文を執筆する学生を対象に、論文の組み立て方、NACSIS Webcat における資料の検索と利用の方法、中東・イスラーム研究文献の検索方法について講習を行った。東京近郊の大学生・大学院生のほか、京都や徳島からも参加者があった。アンケートの結果では、セミナーの内容は今まで知らなかったことが多かったと答えた参加者が 8 割を占め、特定の言語や分野に特化した検索リテラシーセミナーの存在意義の大きさが分かった。

（徳原靖浩）

②共催特別講演会

日時：2012 年 11 月 20 日(火) 15:00～18:00

場所：東洋文庫 2 階講演室

プログラム：

バハードウル・J・ハシモフ氏（ウズベキスタン共和国フェルガナ州立郷土博物館長）

「フェルガナ盆地に保存されるカーディー文書の研究史について」

マルスイリ・N・ファルフシャートフ氏（ロシア科学アカデミー・ウファ学術センター歴史言語文学研究所バシコルトスタン歴史・文化史部主任）

「ザキ・ヴァリディ・トガン：亡命期前半の生活と著作（1923～1948 年）」

③共催講演会「もっと知ろう、もっと北の国Ⅱ：中央アジアからのまなざし」

日時：2013 年 2 月 16 日（土）

場所：東洋文庫 2 階講演室

概要：東洋文庫、北海道大学スラブ研究センターとの共催により、東洋文庫ミュージアム企画展にちなんだ連続講演会の第 2 回を行った。50 名の事前申し込みがあり、当日も追加で 12 名参加者があった。野田氏はカザフ＝ハン国の歴史的イメージや、同国に対するロシア側、清朝側からの視線を整理し、二つの帝国の間でバランスを取ろうとするカザフ＝ハン国の姿を、史料の映像も用いながら解説を行った。宇山氏は、近代のカザフ知識人たちの精神活動を、ロシアに対する態度とムスリムとしてのアイデンティティとの関わりから論じた。ディスカッションでは会場から様々な質問が寄せられるとともに、終了後も質問者が絶えないなど、参加者の中央アジアやカザフスタンに対する関心の高さが窺われた。

（徳原靖浩）

プログラム：

① 14 時 00 分—15 時 00 分：

野田仁（早稲田大学イスラーム地域研究機構次席研究員）「中央アジアと東西の帝国：ロシアからの視線と中国からの視線」

② 15 時 00 分—16 時 00 分：

宇山智彦（北海道大学スラブ研究センター教授）「中央アジアから「北の国」へのまなざし：近代知識人のロシア観を手がかりに」

③ 16 時 00 分—17 時 00 分：

ディスカッション

④共催国際ワークショップ「中央ユーラシアにおける古文書の保存と研究」

日時： 2012 年 11 月 18 日(日) 14:00～17:50 (懇親会 18:00～19:30)

場所：京都大学大学院文学研究科ユーラシア文化研究センター (羽田記念館)

プログラム：

14:00-15:30 基調報告 Bohodir J. HOSHIMOV 氏 (ウズベキスタン共和国フェルガナ州立郷土博物館長)

「フェルガナ盆地の諸博物館におけるカーディー文書の保存状況 (過去と現在)」

通訳：磯貝健一氏 (追手門学院大学)

15:30-15:40 休憩

15:40-17:50 コメント 1 矢島洋一氏 (京都外国語大学)

コメント 2 Marsil N. FARKHSHATOV 氏 (ロシア科学アカデミー・ウファ学術センター
歴史言語文学研究所バシコルトスタン歴史・文化史部主任)

通訳：磯貝真澄氏 (京都外国語大学)

総合討論

18:00-19:30 懇親会

⑤第 11 回中央アジア古文書研究セミナー

日時： 2013 年 3 月 21 日(木)～22 日(金)

場所：京都外国語大学国際交流会館 4 階会議室 (No.941)

概要：学部生やイラン人研究者を含む合計 37 人が参加し、参加者数は過去最多となった。1 日目は、矢島氏がブハラ・アミール国で作成されたペルシア語 (タジク語) の上奏書について文体上の特徴、史料的重要性に関する解説と講読を行った。講読後の質疑では、史料の書式・文体や上奏書の作成・受領に関する他地域との違い、ロシア統治期におけるブハラの文書行政の変化の可能性についても議論がおよんだ。2 日目は、磯貝氏により、イスラーム法による裁判制度とロシア統治期の中央アジアの司法制度について詳しく解説がなされた後、ロシア統治期のサマルカンド周辺で記されたファトワー文書の解説・講読が行われた。講読後の質疑では、上訴審の意義や飲酒に関わる刑のあり方について、また、大清および東トルキスタンにおける訴訟制度との比較に関しても議論がなされた。

(阿部尚史)

プログラム：

■3 月 21 日(木)

13:30～13:45 開会挨拶 (堀川)、参加者自己紹介

13:45～15:25 矢島洋一「上奏書」(文書解説・講読)

15:45～17:30 矢島洋一「上奏書」(文書講読)

18:00～ 懇親会

■3月22日(金)

10:30～12:30 磯貝健一「ロシア領トルキスタン地方における上訴関連のファトワー文書」(文書解説・講読)

12:30～13:30 昼食

13:30～15:00 磯貝健一「ロシア領トルキスタン地方における上訴関連のファトワー文書」(文書講読)

15:20～16:00 総合討論

⑥第5回オスマン文書セミナー

日時：2012年12月22日(土)～23日(日)

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階大会議室(303号室)

概要：講師含めて初日は23名、2日目は25名が参加した。今回は、手書きの法廷記録簿の様式や用語に慣れるための導入として、第1日目に、高松氏が「法廷関係文書書式集」の概要を説明した後、第2日目で講読する証書の文例を、同書式集の刊本から選んで講読することで、手書き文字読解への橋渡しを行った。続いて秋葉氏は18世紀後半を中心にシャリーア法廷台帳の特徴を概説し、制度理解の手がかりとして、任命等に関するカーディーへの下達文書である *mürasele* の実例数点を講読した。2日目は、秋葉氏が婚姻関係、和解(スルフ)、殺人といったトピックをとりあげ、法廷記録簿の実例を講読、高松氏が法廷記録簿に記録されたカーディーの上申文書であるイーラーム(*ilam*)の講読を行った。

(秋葉淳)

プログラム：

■12月22日(土)

14:00-14:15 趣旨説明 講師紹介

14:20-16:00 解説・講読Ⅰ：「法廷関係文書書式集 (*sak mecmuaları*)」(高松洋一)

16:20-18:00 解説「18世紀の制度、法廷台帳の特徴」、講読Ⅱ：「*mürasele*」(秋葉淳)

■12月23日(日)

10:30-12:10 講読Ⅲ：「法廷記録簿・婚姻関係」(秋葉淳)

13:00-14:40 講読Ⅳ：「法廷記録簿・スルフと殺人」(秋葉淳)

15:00-16:40 講読Ⅴ：「法廷記録簿の *ilam*」(高松洋一)

17:00-18:00 総合討論

⑦アラビア文字資料司書連絡会

日時：2013 年 3 月 4 日(月)

場所：東洋文庫

参加機関：アジア経済研究所図書館、大阪大学外国学図書館、慶應義塾大学三田メディアセンター、国立国会図書館関西館、国立情報学研究所、東京外国語大学附属図書館、東京大学文学部・大学院人文科学研究科図書室、東京大学東洋文化研究所図書室、東北大学附属図書館、NPO 法人大学図書館支援機構、早稲田大学図書館、東洋文庫イスラーム地域研究資料室

概要：アラビア文字資料を扱う 12 機関の職員 21 名が参加し、アラビア文字資料の目録作成の手引き案、英米目録規則第 2 版 (AACR2) に代わる目録方式 RDA への移行によって想定される問題点、現地語雑誌を中心とした分担収集の可能性について情報共有と話し合いを行った。分担収集に関しては、利用頻度の少ない雑誌などは分担による費用削減のメリットがあるが、原典史料や参考図書などは利用者側にとって必ずしも便利ではないとの意見がでたが、研究者にも他館との重複購入をできるだけ避けることを奨めることとし、雑誌に関しては、利用を促進するため各機関別の検索方法を解説する手引きを作ることが肝要であるとの意見が出た。

(2)研究グループの活動

①「シャリーアと近代」研究会

日時：24 年度第 1 回 (通算第 31 回) 2012 年 4 月 14 日 (土)

24 年度第 2 回 (通算第 32 回) 2012 年 5 月 13 日 (日)

24 年度第 3 回 (通算第 33 回) 2012 年 6 月 10 日 (日)

24 年度第 4 回 (通算第 34 回) 2012 年 7 月 29 日 (日)

24 年度第 5 回 (通算第 35 回) 2012 年 10 月 21 日 (日)

24 年度第 6 回 (通算第 36 回) 2012 年 11 月 24 日 (土)

24 年度第 7 回 (通算第 37 回) 2012 年 12 月 24 日 (月)

24 年度第 8 回 (通算第 38 回) 2013 年 1 月 26 日 (土)

24 年度第 9 回 (通算第 39 回) 2013 年 2 月 17 日 (日)

場所：東洋文庫 (第 1 回～第 7 回)、中央大学法科大学院市ヶ谷キャンパス (第 8 回、第 9 回)

概要：オスマン民法典 (メジェッレ) の講読と、翻訳作成を目標に、計 9 回の研究会を行った。アラビア語テキスト第 396 条から 537 条までの検討を行った。ほぼすべての研究会で「第 2 篇 賃約の書」を検討し、まず、賃約とは「一定の対価と引き換えに一定の用益を売却すること」という大原則を確認した。実際の契約において、賃約と売買がどのように異同があるのかを確認することが要点となった。たとえば、「売買の書」が定める各種の選択権は、賃約にも準用されることが各所で明記されるが、これは両契約の同質性の最たるものであろう。

今年度は、さらに多彩な分野からの参加者も増え、各種翻訳の対照作業が可能になったため、より詳細に条文を検討することが可能となったが、反面、一回あたりの検討条文が減った。基本用語として用いられる語（たとえば、「拘束」「適正」「不適正」など）は、日本民法との違いを改めて確認しつつ訳語の検討を進めた。

アラビア語、オスマン・トルコ語、英語、フランス語を駆使して判明した内容の相違は重大なものから些細なものまで多岐にわたるが、たとえば、439条のアラビア語は「〔賃約の両当事者が、〕契約後、対価の変更または増減を約して合意解除した場合には、〔約定を変更した〕新たな契約〔を締結したもの〕とみなす。」と解釈されるが、民法専門家からは、なぜ合意解除の必要があるのか疑問が上がり、オスマン・トルコ語正文他と照合したところ、この文言がないことが判明した。

また、447条「無権限者による賃約」の箇所、「〔処分権者の〕後見人または遺言指定管財人の追認」が「適正」であるための要件「4つの存続」が条文中のどの4つを指すかについて、アラビア語、オスマン・トルコ語はもとより、英語、フランス語の解釈も相違し、各国語訳の摺合せの難しさを露呈した。あくまで翻訳の底本がアラビア語版であるため、そのニュアンスを活かしつつ、正文や各種訳の意図を可能な限り盛り込む難しさが浮き彫りとなった。ただし、このような相違はアラビア語版のオスマン民法典がオスマン帝国崩壊後のアラブ諸国やイスラエルにどのように継受されていったかを研究する上で必要欠くべからざる作業であると考えられる。

なお、第6回研究会においては、通常の研究会に加えて、近藤信彰氏（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授）が「19世紀アフガニスタンにおける法廷制度をめぐって—『カーディー達の基礎』の位置—」と題して、オスマン帝国が司法改革を実施していたのと同時期のアフガニスタンにおける法廷制度のあり方について興味深い事例を報告し、報告の後、オスマン帝国や中央アジアとの比較の観点から活発な議論が交わされた。

（大河原知樹）

②「オスマン帝国史料の総合的研究」研究会

共催・連携による計4回の研究会を行った。

- i. 「近代・イスラームの比較教育社会史」（科研費基盤C「オスマン帝国における教育の連続性と変化（19世紀～20世紀初頭）」（代表：秋葉淳）との共催）

日時：2012年6月16日（土） 12:55～17:15

場所：東洋文庫7階会議室

概要：オスマン帝国とそれに関係する地域の近代史に関心を持つ研究者が、大学院生を含む若手を中心として15名参加し、活発に議論を行なった。

平野氏による第1報告は、パン・イスラーム主義を標榜するアラビア語出版メディア『固き絆』（1884

年、パリ)を分析の中心に据え、その内容におけるイスラーム改革論を、同紙を取り巻く知的状況との関係から論じた。米岡氏による第2報告は、1878年以降の、ハプスブルク統治下ボスニアにおけるムスリム知識人の教育改革論を分析し、近代のムスリムが民族・国民理念を追求する過程で反帝国やナショナリズムを希求するようになるという従来の歴史観・歴史的構図の相対化を試みた。小笠原氏による第3報告は、タンズィマート期以降の歴史(オスマン史)教科書や歴史教育の性格を分析することで、単純な近代化論や、「近代の歴史教科書＝国民史」というステレオタイプを見直す必要があることを示した。

(磯貝真澄)

プログラム：

12:55 趣旨説明

13:00 報告1 平野淳一(日本学術振興会)「想像のイスラーム共同体—出版メディアとイスラーム改革思想」

14:00 報告2 米岡大輔(日本学術振興会)「ハプスブルクとオスマンの間で—ボスニア・ムスリム知識人の教育改革論」

15:00 休憩

15:15 報告3 小笠原弘幸((財)政治経済研究所)「教科・学問としての歴史—オスマン帝国の場合」

16:15 総合討論

17:15 閉会

ii. 第1回オスマン史研究会

日時：2012年7月7日(土) 14:30～17:30

場所：東洋文庫2階講演室

プログラム：

司会 Tadashi Suzuki (Prof. Emeritus, the University of Tokyo)

14:30 Jun Akiba (Chiba University), Ertuğrul Fırkateyni ve Japonya'da Neşr-i İslamiyet

15:30 İlhan Şahin (Manas University, Kyrgyzstan), Osmanlı İmparatorluğunda Yönetim ve Yönetim Anlayışı

概要：報告、討論ともトルコ語で行われたにも拘わらず17名の参加者があった。第1報告は、イスタンブル・ムフティー局附属文書館に所蔵される史料から、オスマン帝国スルタンが日本にエルトゥールル号を派遣する際に、日本でイスラームを広めるためにウラマーを数名派遣しようと試みたという新事実を紹介した。「オスマン帝国における統治と統治の観念」と題する第2報告は、価格統制、分配のメカニズム、自給単位としてのカザー、市場経済の重視、成果主義にもとづく効率的な官僚制などに着目しつつ、オスマン帝国の統治システム及び経済システムが、ヨーロッパとパラレルな発展を妨げた一方で、同時にオスマン帝国の永続性の要因になっていたことを強調した。

(秋葉淳)

iii. 比較教育社会史研究会 2012 年春季例会「イスラームと教育」部会

(科研費基盤 C「オスマン帝国における教育の連続性と変化(19 世紀～20 世紀初頭)」及び比較教育社会史研究会との共催)

日時：2012 年 10 月 28 日(日) 11:00～14:00

場所：青山学院大学渋谷キャンパス 総研ビル (14 号館) 9 階 第 16 会議室

プログラム：

司会：秋葉淳 (千葉大学)

報告 1：上野雅由樹 (東京外国語大学)「帝国末期オスマン・アルメニア人の学校選択」

報告 2：藤波伸嘉 (東京大学大学院)「アラブ人とトルコ人—青年トルコ革命のメディア、政治、ナショナリズム」

概要：上野氏による第 1 報告は、多宗教多宗派帝国であった 19 世紀のオスマン帝国におけるアルメニア人官僚の教育的背景の特徴を、膨大な数に上るオスマン官僚の履歴簿の読み込みから明らかにした。このようなアルメニア人官僚の登場とその教育的背景を分析することで、オスマン帝国におけるアルメニア宗派共同体の具体的実態や、彼らに対するオスマン中央政府の統治政策の一端が垣間見えると論じた。

藤波氏による第 2 報告は、青年トルコ革命後の第二次立憲政期に焦点を当て、専制から立憲制への移行に伴う公開の言論空間の登場及びアブデュルハミト二世治世下の検閲からの解放に伴う出版状況の変化を踏まえ、トルコ語紙・アラビア語紙・ギリシア語紙・フランス語紙など多言語から構成される公共圏における政治社会上の議論を分析し、オスマン帝国支配下のアラブをめぐる複雑な行為主体の関係性を明らかにした。

(平野淳一)

iv. 「近代・イスラームの比較教育社会史」第 3 回研究会

(科研費基盤 C「オスマン帝国における教育の連続性と変化(19 世紀～20 世紀初頭)」(代表：秋葉淳)との共催)

日時：2012 年 12 月 9 日(日) 11:00～16:10

場所：東洋文庫 2 階講演室 (東京都文京区本駒込 2-28-21)

プログラム：

11:00 趣旨説明

11:05 報告 1 高橋圭 (上智大学)「スーフィズムの知と実践の変容—エジプトの事例から」

12:05 休憩

13:20 報告 2 磯貝真澄 (京都外国語大学)「ロシア帝国ヴォルガ・ウラル地域の『新方式』教育」

14:10 報告3 島田志津夫（東京外国語大学）「ブハラおよびロシア領トルキスタンにおけるムスリム教育改革運動：その起源と展開」

15:00 休憩

15:20 総合討論

16:10 閉会

概要：他地域の研究者を含む13名の参加者があった。高橋氏の第1報告は、19世紀においてタリーカに対する国家の管理統制が及んでバクリー家シャイフを中心とする管理制度が成立する一方で、アズハル学院の改革が学生数の増大を契機に行われた結果としてスーフィズム科目が排除されたことによって、ウラマーの担う学知を排除したスーフィズムという「領域」が形成されたと論じた。また、スーフィズムに対するラシード・リーダーらウラマーの批判を紹介しつつ、彼らがスーフィズムの知と学知（イルム）とを対立的に捉える視点を内在化していたことを指摘した。

磯貝氏による第2報告は、1880年代から1910年代までを対象とし、ヴォルガ・ウラル地域のムスリムの間で広まった「新方式」教育に関し、新方式教育を提唱したイスマーイール・ガスプリンスキーとオスマン帝国のセリム・サービト・エフェンディの著作を比較しつつ、両者における学級・学年制の導入と発音方式を用いた新しい文字の読み書き教授法の重視されていたこと、ガスプリンスキーがオスマン帝国の初等教育改革を参照したことを確認した。更に、同地域のいくつかの新方式マドラサ、マクタブの教育内容から、新方式教育における宗教・道徳教育に関し、イスラーム教育が新たな教材によって積極的に導入される一方で、内容的には道徳の教科書のようにマドラサの伝統を継承するものも存在していたと論じた。

島田氏による第3報告は、ブハラとサマルカンドに焦点を当て、新方式の流入の契機として、ガスプリンスキー本人の来訪よりも、在住タタール人の役割と、日露戦争期以降の新聞の普及が重要であったことを指摘した。続いて、同地における新方式学校の実態、保守派による抵抗、およびロシア当局の対応について検討した。また、新方式学校のカリキュラムの事例から、世俗科目の割合が比較的少なく、読み書きと宗教教育に重点が置かれていたことを指摘した。

（秋葉淳）

③中央アジアの法制度研究会

（京都外国語大学国際言語平和研究所との共催）

日時：第11回 2012年6月23日（土）、第12回 2012年12月15日（土）～16日（日）

場所：（プログラム参照）

概要：アジア諸地域を研究対象とする法学、歴史学の研究者ならびに法律の実務家を含む参加者が集まり2回の研究会を行った。参加者数は第11回が20名、第12回が17名であった。

（第11回）：堀川徹氏は、テュルク化、イスラーム化、近代化という三つの画期をなす要素を切り口に、

最新の研究成果を織り交ぜつつ、中央アジア史の全体像を提示する報告を行い、これまでの研究会の歩みを振り返るとともに、遊牧民地域と南部定住地域の差異、ロシア領トルキスタンとブハラ、ヒヴァの二つの保護国との違い、ロシア内地の改革（司法改革を含む）との連動性という三つの視座から、ロシアの統治下における法と社会を読み解く方向性を確認した。

磯貝真澄氏の報告は、16 世紀中葉以降ロシア帝国の統治下に組み込まれたヴォルガ・ウラル地域のムスリムたちのイスラーム法実践を、遺産分割に注目して、オレンブルグ・ムスリム宗務協議会の文書の丹念な検討により明らかにしたものである。本報告は、19 世紀後半に初めてロシアの統治に組み込まれた、ないし接することとなった中央アジア南部定住地域のムスリムの法実践との比較の視点を提供するのみならず、ロシア農民の法実践のあり方との比較の視点も提供するものであり、さらにロシア帝国の多文化的な法制度のあり方を、「下から」の視点で逆照射するものとなる。

磯貝健一氏の報告は、中央アジアの伝統的なイスラーム法廷における裁判の進行および和解のあり方を総合的に分析し、ファトワーが裁判の判決にどの程度影響を与えたのか、という点がより多くの事例によりさらに考察されるべきという今後の課題を示しつつ、オスマン朝や他のイスラーム法施行地域における裁判のあり方との比較による中央アジアの裁判のあり方の位置づけの可能性を示した。

（第 12 回）：中山氏の報告は、これまでボリシェヴィキ内の議論を軸に検討されてきたロシア革命期の司法制度の再編過程における、エスエル左派の議論とその人民裁判所設立に対する影響を、エスエル左派がボリシェヴィキと連立政権を組んだ時期に行われた、帝政期の旧法適用と革命的法意識、裁判官の選挙、人民陪席判事制度という三点をめぐる議論の展開とエスエル左派代表たちの見解の詳細な検討から、実証的に明らかにするものであった。

木村氏の報告は、18 世紀から 20 世紀初頭まで現在のウズベキスタン共和国ブハラ市を中心に成立したブハラ・アミール国における司法制度、行政制度の展開を包括的に議論する試みであった。同国の行政制度に関する先行研究の状況を踏まえた上で、行政と裁判制度の関係、司法にかかわる人材供給と昇進のシステム、裁判官、法学者たちの日常業務に至る議論を展開し、同国において司法が国家の統制下にあり、行政機構を支える機能を持っていた、と結論した。

額定其勞氏は、清代モンゴルの旗ごとの裁判制度の多様性とその社会的背景（とりわけ農耕社会と遊牧社会の別）を、旗衙門で行われた旗内の裁判、そして国家裁判制度の具体相を明らかにしつつ論じた。質疑では、大清律令の適用をめぐる清朝本土との裁判の原理的な違いの有無、清朝の版図に組み込まれたチベットにおける裁判制度との比較の必要性、禁止されていた私的裁定が行われていた実態をどう解釈するか、といった問題について議論が行われるとともに、「上申」は「告発」と解釈できるなど、用語をめぐる討論が行われた。

（塩谷哲史）

プログラム：

第 11 回研究会 於 京都外国語大学国際交流会館 4 階会議室 (No.941)

13：00－13：10 あいさつ（堀川）、参加者自己紹介

13：10－14：00 報告 1：堀川徹

※「中央アジア史研究のパースペクティヴ——イスラーム化と近代化——」

14：00－14：10 休憩

14：10－15：40 報告 2：磯貝真澄

※「19 世紀後半ロシア帝国ヴォルガ・ウラル地域のムスリム遺産分割」

15：40－16：00 コーヒーブレイク

16：00－17：30 報告 3：磯貝健一

※「20 世紀初頭の中央アジア・イスラーム法廷における紛争解決過程について」

17：30－18：30 総合討議

18：30－19：00 コーヒーブレイク

19：00－20：30 研究成果論集のための打ちあわせ会議

20：30－ 懇親会

第 12 回研究会 於 静岡労政会館第 2 会議室 (5 階)

12 月 15 日(土)

13:00-13:20 開会挨拶 堀川徹

参加者自己紹介

13:20-15:20 中山顕（名古屋大学法学研究科博士課程）

「ロシア 10 月革命後の人民裁判所成立に至る議論の諸相」

15:20-15:40 休憩

15:40-17:40 木村暁（筑波大学人文社会系特任研究員）

「ブハラ・アミール国の司法行政：その機構面を中心に」

19:00- 懇親会

12 月 16 日(日)

10:00-12:00 額定其勞（エルデンチロ）（京都大学法学研究科博士後期課程）

「清代モンゴルの『旗』統治と裁判」

④ワクフの国際共同研究（フランス CNRS との国際共同研究事業）

本研究は、フランス国立科学研究院（CNRS）の国際共同研究事業（研究代表者 Randi Deguilhem マルセイユ＝エクサンプロヴァンス大学地中海人文科学研究学部教授、東洋文庫拠点共同研究者、2012-15 年）であり、アラブ諸国を中心とする 10 機関が参画している。2012 年度は 7 月 12-13 日にエクサンプロヴァンスにおいて参加機関代表が集まり研究計画を決定し、12 月 7-8 日にチュニス大学マグリブ研究センターにおいて、ワクフ関係資料のデータベース化のためのセミナーを開催した（いずれも三浦徹が参加）。

3. 海外派遣・調査

トルコ及びブルガリアにおける資料収集および調査

出張期間：2013 年 2 月 5 日（火）～2013 年 2 月 17 日（日）

出張先（国名）：ブルガリア国立図書館（ブルガリア共和国）、首相府オスマン文書館、スレイマニエ図書館、アタテュルク図書館、イスラーム研究センター（トルコ共和国）

出張者：長谷部圭彦（東洋文庫拠点研究協力者、東京大学大学院人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター・客員研究員）

概要：ブルガリア国立図書館（通称キリル・メトディ図書館）東洋部門において、オスマン期の文書群の調査を行い、やや断片的ではあるが貴重な史料を見出すことができた。また、タンズィマート初期のシャリーア法廷に関する帳簿をいくつか閲覧・収集した。加えて、かつて同部門にアーキビストとして勤務していた Margarita Dobрева 氏と面会し、タンズィマート期の教育政策について意見交換を行ったほか、同館独自の分類方式などについて貴重な情報を得ることができた。イスタンブルでは、首相府オスマン文書館、スレイマニエ図書館、アタテュルク図書館、イスラーム研究センターにおいて資料を収集し、首相府オスマン文書館の移転情報を確認した。また、スレイマニエ図書館とアタテュルク図書館においては、トゥナ州およびボスナ州の年鑑を、可能な限り収集した。

（長谷部圭彦）

4. 資料収集

エジプト・トルコ・イランの書店より、アラビア語・ペルシア語・オスマン語・トルコ語の歴史関係資料を中心に合計 570 冊を購入した。主要な資料は次のとおり。

①資料名 アラビア語資料

・形態：図書

・冊数：194 冊

・資料内容：モロッコで出版された研究書 *al-Wathāiq wa-al-aḥkām bi-al-Maghrib wa-al-Andalus*（ヒジュラ暦 4～5 世紀におけるマグリブとアンダルスの資料と判例）や、*al-Ikhtiyārāt al-fiqhīyah lil-Imām al-Khaṭṭābī*（ハッタービー師の法学上の選択）など、歴史学、法学、イスラーム学、政治学関係資料

- ・収集目的：アラビア語史資料の収集・研究と研究者の共同利用に資するため
- ・所蔵場所：東洋文庫書庫
- ・収集方法：エジプトの書店 Leilabooks より直接購入
- ・収集期間：2012 年 4 月～2013 年 2 月

②資料名 オスマン語・トルコ語資料

- ・形態：図書および雑誌
- ・冊数：274 冊（オスマン語 199 冊、現代トルコ語 75 冊）
- ・資料内容：医学・薬学の基礎を記した欧州の医学書の翻訳であり、19 世紀頃のオスマン帝国における西洋医療受容の一端を示す史料である *Müfredat-i tıbb*、オスマン帝国とドイツ帝国の間に締結された領事および司法に関する条約をフランス語およびオスマン語で記した、*Conventions juridiques conclues entre le Gouvernement Imperial Ottoman et le Gouvernement Imperial Allemand*～など
- ・収集目的：オスマン語史資料の収集・研究と研究者の共同利用に資するため
- ・所蔵場所：東洋文庫書庫
- ・収集方法：トルコの書店より購入
- ・収集期間：2012 年 4 月～2013 年 2 月

③資料名 ペルシア語資料

- ・形態：図書および雑誌
- ・冊数：82 冊
- ・資料内容：17 世紀オスマン朝の文人キャーティブ・チェレビーによる *Kashf al-ẓunūn* に、シーア派の著名な法学者・書誌学者であるアーガー・ボゾルグ・テヘラーニーが施した補遺（本文はアラビア語）*Zayl-i Kashf al-ẓunūn* の校訂本の他、*Asnād-i mawqūfāt-i Āstān-i Quds-i Razavī dar Harāt*（ヘラートのアースターネ・ゴドス寄進文書）、雑誌 *Du faṣṣnāmah-i adabīyāt-i Pārsi-i mu'āṣir*（現代ペルシア文学）、*Dunyā-yi Chāp*（印刷の世界）など
- ・収集目的：イランで盛んに出版されている古典文献の校訂本や写本学関係資料目録、また国内で所蔵のない雑誌等の体系的収集と共同利用のため
- ・所蔵場所：東洋文庫書庫
- ・収集方法：イランの書店およびナガラ図書より購入
- ・収集期間：2012 年 4 月～2013 年 2 月

④資料名 洋書（欧文）

- ・形態：図書
- ・冊数：20 冊
- ・資料内容： *Encyclopaedia of Islam, Three* (2012: 1-4)などの参考図書、*Catalogue des Manuscrits orientaux du Musée Régional de Qarshi* などの写本目録、また *Inside Immaculate Portal: A History from the Fatimid Archives* のように、欧米で刊行されるがアラビア語校訂テキストを収録するものなど
- ・収集目的：イスラーム地域研究史資料の研究および資料情報の整理に役立て、共同利用に資するため
- ・所蔵場所：東洋文庫書庫
- ・収集方法：ナガラ図書、極東書店、紀伊国屋書店などから購入
- ・収集期間：2012 年 4 月～2013 年 2 月

5. 研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔オンライン資料公開〕計（ 7 ）件

著 者 名	論 文 標 題	発表年月日	URL
秋葉 淳 (研究分担者)	「オスマン帝国史料解題 総論」	2012.8	http://www.tbias.jp/ottomandocuments/general.html
	「年鑑」(オスマン帝国史料解題 12)	2012.8	http://www.tbias.jp/ottomandocuments/salname.html
	「履歴文書」(オスマン帝国史料解題 14)	2013.3	http://www.tbias.jp/ottomandocuments/sicill-i_ahval.html
吉田 達矢 (研究協力者) 秋葉 淳 (研究分担者)	「人口調査台帳」(オスマン帝国史料解題 13)	2013.3	http://www.tbias.jp/ottomandocuments/nufus_defteri.html
長谷部 圭彦 (研究協力者)	「官報」(オスマン帝国史料解題 11)	2012.8	http://www.tbias.jp/ottomandocuments/official_gazette.html
	「ブルガリアの文書館・資料館」 (イスラーム地域資料館・研究機関ガイド)	2013.2	http://tbias.jp/php/guide_detail.php?year=bulgaria#bulgaria
徳原 靖浩 (研究分担者)	「コンピュータでアラビア文字を入力するための設定方法」	2013.7	http://tbias.jp/text/literacy/setting.html

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（15）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
MIURA Toru (拠点代表)	“The Middle East in Studying and Teaching World History in Japan”	Annals of Japan Association for Middle East Studies	28(2)	2012	173-197
三浦 徹 (拠点代表)	「サーリヒーヤ物語：ダマスクスのある街区から」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	5	2013.3	3-18
堀川 徹 (研究分担者)	「イスラームの展開（中央アジア）」	『世界宗教百科事典』丸善出版		2012	638-639
磯貝 健一 (研究分担者)	「近代中央アジア・イスラーム法廷文書の世界」	『地理と歴史 世界史の研究』	661	2013	21-30
近藤 信彰 (研究分担者)	「19 世紀テヘランのマドラサとワクフ」	『アジア・アフリカ言語文化研究』	84	2012	67-104
柳谷 あゆみ (研究分担者)	「政権形成におけるヒドゥマの成立・解消・維持：ザンギー朝の事例を中心に」	『史学』	81 (4)	2013	43-65
黛 秋津 (研究協力者)	書評「尾高晋己著『オスマン外交のヨーロッパ化―片務的外交から双務的外交への轉換―』」	『東洋史研究』	71 (1)	2012.6	115-123
EGAWA Hikari (研究協力者) & İlhan ŞAHİN	“Residents and Society of the Düzce Region in the first half of the 19th Century”	Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies	6	2013.3	65-76
江川 ひかり (研究協力者)	学会動向「20th Symopium of the International Committee for Pre-Ottoman and Ottoman Studies(CIÉPO)に参加して」	『西南アジア研究』	77	2012.9	86-93
堀井 聡江 (研究協力者)	「イスラームにおける法の概念―中東を中心に―」	『国際哲学研究 別冊 2 〈法〉概念の時間と空間』(東洋大学国際哲学研究センター)		2013.3. 31	31-40
長谷部 圭彦 (研究協力者)	「臣民から国民へ―オスマン帝国の二重のナショナリズム―」	『西洋史論叢』(早稲田大学西洋史研究会)	34	2012.1 2	39-46
HASEBE Kiyohiko (研究協力者)	“The Process of Political Decision Making in the Ottoman Empire during the Tanzimat Period (1839-1876)”	大阪大学歴史教育研究会成果報告書シリーズ	8	2012.1 2	126-130
UENO Masayuki (研究協力者)	“For the Fatherland and the State: Armenians Negotiate the Tanzimat Reforms”	International Journal of Middle East Studies	45 (1)	2013	93-109
澤井 一彰 (研究協力者)	「1509 年のイスタンブール大地震とその後の復興―「この世の終わり」と呼ばれた大震災―」	『歴史学研究』	898	2012	154-162
	「『征服 1453』に見るトルコにおける「オスマン帝国イメージ」の変化」	『地域研究』	13 (2)	2013.3	404-413

〔図書〕計（４）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
柳谷 あゆみ (研究分担者)	『ダマスカスへ行く：前・後・途中』	六花書林		2012.12	134
黛 秋津 (研究協力者)	『三つの世界の狭間で―西欧・ロシア・オスマンとワラキア・モルドヴァ問題』	名古屋大学出版会		2013	276
Masatake MATSUBARA 著, Kiyotaka Sugihara, Hikari EGAWA (研究協力者) / İlhan ŞAHİN 監修	<i>Göçebeliğin Dünyası: Türk Göçebelerinden Çoşlu Yörüklerinin Etnografyası</i>	Atatürk Kültür Merkezi		2012	322
塩崎 悠輝監、 赤瀬イマン 中田 考 (研究協力者) 松山 洋平 (研究協力者) 山本 直輝 ユースフ・アル ＝カラダーウ イー（共著）	『マイノリティ・ムスリムのイスラーム法学』	日本サウディアラビア協会		2012.6	271

〔学会発表〕計（１７）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
MIURA Toru (拠点代表)	“Agricultural Properties of Waqf and Milk Ownership in Damascus Province from the Mamluk into the Ottoman Period: Preliminary Survey using the Waqf Survey Registers and the Land Survey Registers of the Sixteenth Century”	The 9th International Conference on the History of Bilād al-Shām: Agriculture in Bilād al-Shām from the Late Byzantine Times to the End of the Ottoman Period	2012.4.1-5	University of Jordan, Amman (Jordan)
	“Waqf Activity of Grass-Roots Level in 16th Century Damascus”	The 46th Annual Meeting of Middle East Studies Association of North America	2012.11.17-20	Denver, Colorado (USA)
堀川 徹 (研究分担者)	「モンゴルの襲来とサマルカンドの復興」	京都外国語大学大学院公開講座「異文化圏における”復興”を読み解く」	2012.11.23	京都外国語大学

OKAWARA Tomoki (研究分担者)	“Migration movements and British Ottoman diplomatic relations”	International Committee of Pre-Ottoman and Ottoman Studies (CIEPO, Comité International d’Études Pré-Ottomanes et Ottomanes), 20th Symposium, New Trends in Ottoman Studies	2012.6.27	University of Crete, Rethimno, Greece
KONDO Nobuaki (研究分担者)	“Shari’a Court Records from Nineteenth Century Tehran”	The Ninth Biannual Iranian Studies Conference	2012.8.2	Hotel Conrad Istanbul
秋葉 淳 (研究分担者)	「タンズィマート改革以前のオスマン朝イスタンブールにおける女子学校と女性教師」	日本オリエント学会第 54 回大会	2012.11.25	東海大学湘南キャンパス
柳谷 あゆみ (研究分担者)	「資料の補綴：イブン・アルアスィール『アターベク史』再考」	イスラーム初期史研究会	2013.3.16	早稲田大学 120-1 号室
黛 秋津 (研究協力者)	中東イスラーム世界における宗主国と付庸国—オスマン帝国とワラキア・モルドヴァ公国	『宗主権』概念與近代東亞」工作坊	2012.6.30	國立政治大學（台北市）
EGAWA Hikari (研究協力者)	“The Importance of Interdisciplinary Research Connecting Historical, Anthropological, Information, and Engineering Sciences of Based on the Case Study of Spatial-Temporal GIS (DiMSIS-EX) Application”	20th Symposium of the International Committee for Pre-Ottoman and Ottoman Studies(CIEPO)	2012.6.27	Rethymno, Greece
EGAWA Hikari (研究協力者) & İlhan ŞAHİN	“Residents and Society of the Düzce Region in the first half of the 19th Century”	20th Symposium of the International Committee for Pre-Ottoman and Ottoman Studies(CIEPO)	2012.6.27	Rethymno, Greece
桑原 尚子 (研究協力者)	「イスラーム法における債権譲渡をめぐる諸問題とイスラーム債券：マレーシアを事例として」	「社会体制と法」研究会・2012 年度研究総会	2012.6.1	立命館大学
堀井 聡江 (研究協力者)	「オスマン民法典（マジャッラ）翻訳プロジェクト—イスラーム法研究におけるその意義」	2012 年度アジア法学会春季研究大会	2012.6.17	関西大学
小笠原 弘幸 (研究協力者)	「オスマン帝国タンズィマート期における歴史教育と歴史教科書」	第 54 回日本オリエント学会	2012.11.25	東海大学
長谷部 圭彦 (研究協力者)	「帝国の中の女性と学校—19 世紀オスマン帝国の場合—」	科学研究費基盤研究(S)「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」	2012.10.27	東京大学
上野 雅由樹 (研究協力者)	「帝国末期オスマン・アルメニア人の学校選択」	比較教育社会史研究会 2012 年秋季例会	2012.10.28	青山学院大学

松山 洋平 (研究協力者)	「マイノリティ法学とは何か？ ―日本におけるイスラームの法的実践に向けて」	International Institute of Islamic Thought 主催ワークショップ 「ムスリムの日本社会への定着―アキーダ、フィクフ、社会関係―」	2012.6.9	東京
	“Possibility of “Theology in a Land of Infidelity” in Islam: Focusing on Māturīdism”	Workshop “Shariah, Governance and Interreligious Relations”	2013.3.1	同志社大学